高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第55集

高崎情報団地遺跡

発掘調査報告書

《本文編》

1997

高崎市遺跡調査会

高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第55集

高崎情報団地遺跡

発掘調査報告書

《本文編》

1997

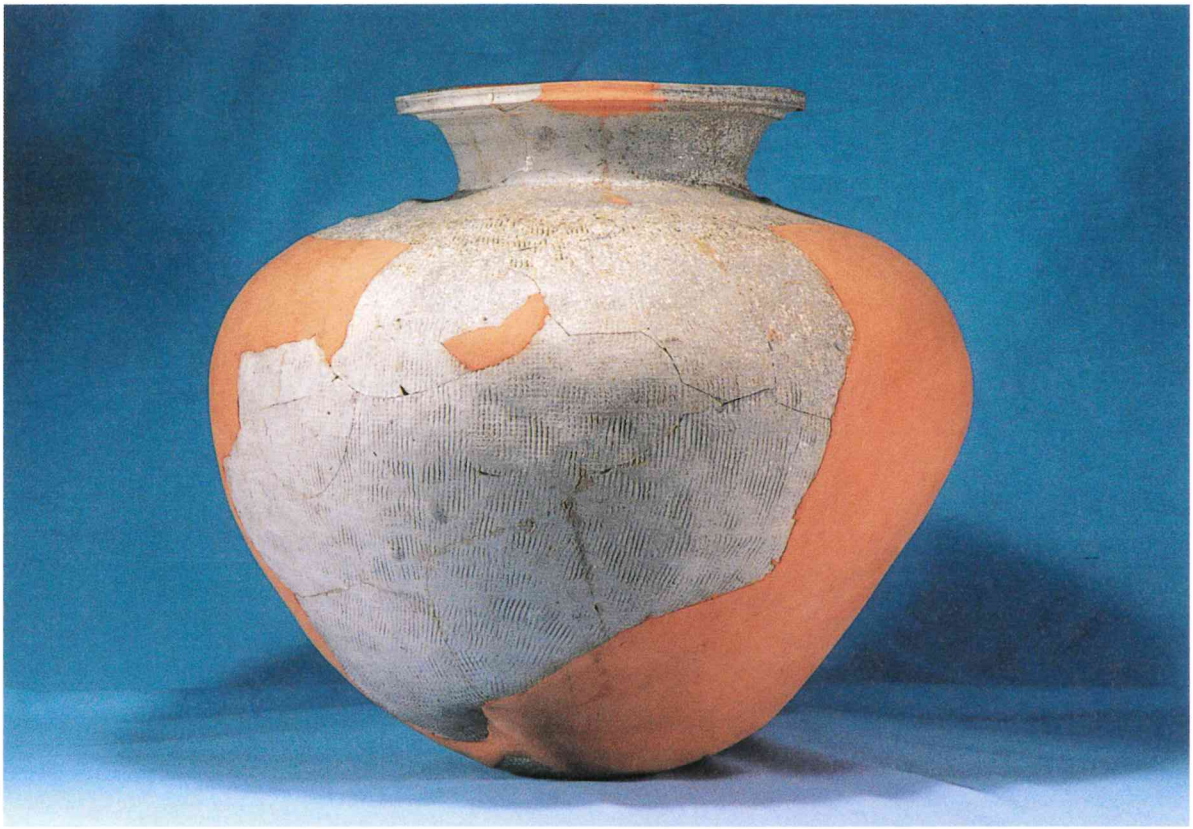
高崎市遺跡調査会

巻頭写真１

13号古墳・鳥付き円筒埴輪（100）

21号古墳・人物小像付き円筒埴輪（70）

巻頭写真 2



15号古墳・須恵器甕（9）

32号土坑・滑石製鍋破片（1）

序

高崎市は、古来より交通の拠点として栄え、福祉の充実、文化の向上の街づくりを目指しています。このような中で、市街地東部において情報団地建設の計画が提出され、記録保存という方法ではありましたが、文化財保護の精神にのっとり、発掘調査を実施することになりました。

今回発掘調査を実施しました高崎情報団地遺跡は、市街地東部の近年開発の進んでいる地域の遺跡であります。この地域では、弥生時代から中世の遺跡とともに、平安時代後期の浅間山噴火に伴う降下軽石で覆われた水田遺跡の検出例が多地区であります。このような遺跡は開発に伴う発掘調査ではありますが、着実にその成果をあげております。さらに今回本遺跡の調査が実施出来ましたことは、調査会といたしましても誠に意義深いものがあり、多くの関係者の深い御理解とご協力の賜物であると感謝しております。

ここに、本調査報告書が刊行できましたことは、調査会として大きな責務を果たしたことと安堵しております。また、本書が多くの方々に活用され、本地域の歴史解明に少しでも役立てば幸いと思います。

最後になりましたが、発掘調査の担当者をはじめ、調査にたずさわった方々の労をねぎらうとともに、文化財保護思想の一層の普及高揚を祈念して序と致します。

平成９年３月

高崎市遺跡調査会

会長　砂　田　威　夫

例　　言

1．本書は、群馬県高崎市中大類町字御所の宮・字稲荷、宿大類町字塚ノ越・字万相寺に所在する高崎情報団地遺跡（市遺跡番号：217）の発掘調査報告書である。

2．本報告書は、本文編・写真図版編・遺物図版編及び付図から構成される。

3．本遺跡は、本来、町名・字名から中大類御所の宮遺跡・中大類稲荷遺跡・宿大類塚ノ越遺跡・宿大類万相寺Ⅱ遺跡とすべきであるが、明確な区分ができないことから、これらの総称として「高崎情報団地遺跡」と呼称することとした。

4．調査は、高崎情報団地建設に伴う発掘調査として実施した。調査面積は78,468㎡である。

5．調査は、高崎市教育委員会内に組織された高崎市遺跡調査会から委託を受けて山武考古学研究所が実施した。調査の指導には高崎市教育委員会があたった。

6．発掘調査は平成４年12月７日～平成６年６月15日までの期間で実施した。調査担当者は下記の通り。

近江屋成陽（山武考古学研究所所員）　平成４年12月７日～平成５年４月17日
長井正欣　（山武考古学研究所所員）　平成５年４月５日～平成６年３月31日
大越直樹　（山武考古学研究所所員）　平成５年４月５日～平成６年６月15日

7．遺構写真は各担当者が撮影した。

8．基準点測量・全体測量・遺構測量の一部・空中写真撮影は開成測量に、１区水田跡の写真測量はシン技術コンサルに、表土掘削は東日本重機に、自然科学分析は古環境研究所にそれぞれ委託した。

9．本書の編集は、高崎市遺跡調査会の指導のもとに山武考古学研究所が行い長井正欣が担当した。また、遺物写真撮影は長井が行った。本文執筆分担・整理調査従事者は下記の通り。

執　筆　分　担　　第１章・第２章：神戸聖語（高崎市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係長）
第３章・第４章・第６章、観察表編：長井　第５章：古環境研究所

整理調査従事者　　石坂純江　石田利子　石田満理　磯洋子　今成勝子　梅山淳　小川悦子　小林教人　小野沢昌子　小林ちか子　小林やよい　奈良雄策　萩原真理子　半澤利江

10．調査に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。

11．発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏にご指導・ご教示・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。（敬称略・五十音順）

江戸川女子短期大学　開成測量　群馬県教育委員会　群馬県古墳時代研究会　群馬県西毛建設総合事務所　古環境研究所　シン技術コンサル　新成田総合社　高崎市史編さん室　高崎市立大類中学校　高崎市立大類南小学校　高崎市大類歴史研究会　高崎市観音塚考古資料館　富沢建材　埴輪研究会　東日本重機　文化総合企画

浅野晴樹　荒木勇次　飯田充晴　五十嵐信　石川正之助　石橋充　稲垣圭子　井上裕一　犬木努　岩田明広　宇田敦司　梅沢重明　大木紳一郎　大澤伸啓　太田博之　大谷徹　大橋泰夫　小野和之　鬼形芳夫　折舘伸二　柿沼恵介　風間栄一　金井塚良一　加部二生　神谷佳明　川野邦彦　神戸肇　木下良　木本雅康　栗原彩江子　車崎正彦　黒田晃　小池雅典　小宮俊久　近藤義雄　斎藤玲子　坂口一　坂爪久純　桜岡正信　鷺谷亨信　新後閑雅太郎　静野勝信　志田登　島田孝雄　清水豊　志村哲　白石真理　末木啓介　杉山晋作　杉山秀宏　鈴木敏則　鈴木仲秋　須藤宏　関口修　早田勉　高橋克壽　武井洋一　田口一郎　田中広明　田村孝　大工原豊　辻葩学　土屋喜英　角田真也　徳江秀夫　外山政子　中里正

憲　中島郁夫　中村貢　南雲芳昭　能登健　萩野谷悟　橋本裕子　橋本博文　日高慎　深沢敦仁　藤沢敦　古谷毅　星野守弘　堀口修　三浦京子　右島和夫　水野敏則　村井田雅明　森田秀策　森田悌　諸墨知義　諸田康成　山川守男　若狭徹　若松良一

12. 発掘調査従事者は下記の通り。

浅川栄次郎　天田シヅノ　有坂秀信　有坂実　飯野清美　飯野誠　飯島幸一　五十嵐陽子　石井君代　石井シマ　伊丹松子　今井康久　今井幸子　岩井はる子　岩井ひで　岩崎行雄　岩田ハヤ子　岩間由美子　牛込かね代　打越進　梅山淳　浦辺重代　大河原初枝　大越暁美　太田裕美　大塚虎雄　大濱秀子　大森由美　大山浩子　小柏きみ子　岡田清　小川悦子　落合和子　恩幣和子　金井澄子　金沢カオル　金谷清一郎　岸由郎　木部和子　木村真由美　工藤真理　工藤めぐみ　久保原明男　黒崎芳彦　黒沢章一郎　黒沢とき　小暮照子　後藤昇二　後藤ふじ子　小山清江　斉藤幸次　斉藤八重子　斉藤吉江　坂井清子　榊原あい　佐藤輝子　桜井きん　桜井敬一　桜井貞子　桜井貞子　桜井慎三　桜井幸江　桜井れい　島岡清作　清水とき子　清水沓治　白石智章　白石ふさゑ　神宮政江　杉木はま子　鈴木宏　須藤綾子　関口治郎　関口信子　高木甚三郎　高田ウタ子　高橋かん　高橋げん　高橋しげる　高橋達三郎　高橋トク子　高橋ともえ　田中米一　田村きみ　田村さよ子　田村たか子　田村よし　土屋キミ江　土屋ケサミ　角田トリ　勅使河原酉造　手島栄治　寺島洋子　富岡邑治　富田静江　寅本隆之　長井幾代　永井ツヤ　永井寛子　長岡祐治　中沢信次　中曽根明子　成田美和　中西節江　中野つる　中野利一　中村めぐみ　中山寅雄　野口利子　長谷川貴香　畑村美由紀　林敏江　広岡チエ子　広岡徳治　布瀬川はつ子　星名さだ　本田裕二　松井明子　武藤光子　森田たか子　矢島博文　安井トミエ　柳沢きぬ　山越梅子　山崎梅子　山崎章子　山崎和子　山崎甲子郎　山崎悟　山田けさ　山田隆　山田長治　山田利文　山田文子　吉井まさ代　吉田さく　吉田新一郎　吉田節子　吉田とみ子　吉田初江　吉田ハル子　吉田芳江　吉本キクノ　吉本律子　横山フサ　渡辺武江

凡　　例

1．本書で使用した地形図の縮尺・発行者は、各図下に記した。

2．本書で使用している用語（術語）については、基本的に下記の辞典・事典及び文献に準じている。帆立貝形古墳については文献５）に従い『帆立貝形古墳』としたが、各部の名称については文献７）により、「円丘部」「方形部」「括れ部」の用語を使用した。

１）大塚初重・戸沢充則編　1996　『日本考古学用語辞典』柏書房

２）大川清・鈴木公雄・工楽善通編　1996　『日本土器辞典』雄山閣

３）戸沢充則編　1994　『縄文時代研究事典』東京堂出版

４）佐原真　1981　「縄文施文法入門」『縄文土器大成３後期』講談社

５）大塚初重・小林三郎編『古墳辞典』東京堂出版

６）川西宏幸　1978・1979　「円筒埴輪総論」『考古学雑誌64-2,64-4』日本考古学会

７）遊佐和敏　1988　『帆立貝式古墳』同成社

８）田辺昭三　1966　『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

９）田辺昭三　1981　『須恵器大成』角川書店

3．遺構の掲載について。

①挿図・付図中の方位は座標北である。国家座標値（第Ⅸ系）は第６図及び付図に示した。また、土層図・断面図の数値及び等高線の数値は標高を示す。遺構の面積は原図をもとにデジタルプラニメータを用いた３回計測平均値である。また住居跡平面図の柱穴・ピット脇数値は床面からの深さ（単位㎝）である。

②各遺構の縮尺は下記を基本とし、それぞれ図中にスケールを付した。

〈平面図〉方形周溝墓：1/100　古墳：1/150・1/200・1/300　住居跡：1/60　住居跡掘方図：1/120
掘立柱建物跡：1/60　土坑・配石墓・集石・井戸：1/30・1/60　溝：1/120
道路状遺構：1/200　館跡堀：1/300　畝状遺構・竪穴：1/120　水田跡：1/750

〈土層図・断面図〉1/60・1/100・1/120

③埋没土層図及びその説明において、各テフラは次のような略称を適宜使用している。また、各テフラの降下時期については、通例となっている括弧内の年代観に従った。なお、埋没土層の色調は調査担当者の主観による。

浅間Ｃ軽石（４世紀中葉）……As－Ｃ　榛名二ツ岳渋川テフラ（６世紀初頭）……ＦＡ
榛名二ツ岳伊香保テフラ（６世紀中葉）……ＦＰ　浅間Ｂ軽石（1108年）……As－Ｂ
浅間Ａ軽石（1783年）……As－Ａ

④遺構挿図中に使用したスクリーントーンは次のような意味を示す。

……As－Ｃ、柱痕　……ＦＡ、粘土　……灰・炭

……As－Ｂ、焼土　……As－Ａ

4．遺物の掲載について。

①各遺物の縮尺は下記を基本とし、それぞれ図中にスケールを付した。なお、円筒埴輪のハケ目・ヘラ記号については第6章に縮尺1/2で集成してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

縄文土器：1/3・1/4　弥生土器・土師器・須恵器・瓦：1/4　石器：1/4・1/3・1/1

埴輪：1/5　石製品・土製品：1/2・1/1　陶磁器類：1/4

②遺物観察表の記載は、次のような方法で行った。

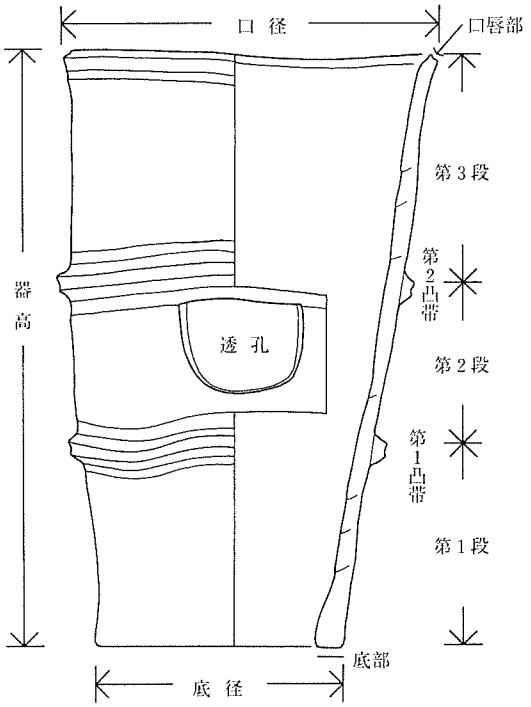
〈器　種〉前記の準拠文献によるほか、基本的に通例に従っている。ただし、S字状口縁台付甕については「S字台付甕」、朝顔形円筒埴輪については「朝顔円筒」と略した。

〈計測値〉基本的に通例に従っている。円筒埴輪については、右図のような部位名称を用いている。括弧内数値は推定値である。

〈胎　土〉土器・埴輪等の胎土は、ルーペ（×12）を用い、執筆担当者が観察・判断した。胎土の略称については、観察表編目次末に示した。

〈色　調〉『新版標準土色帖』（16版，1995，（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を用いて実測担当者が観察し、色名及びJIS notationを記した。

〈石　材〉石器及び石製品の石材については、土屋芳男氏製作の『岩石標本50種』及び『標準原色図鑑6岩石鉱物』（木下亀城・小川留太郎1967保育社）を参考に、執筆担当者が判断した。



円筒埴輪の部位名称

③遺物実測図に使用したスクリーントーンは次のような意味を示す。

……赤彩
黒色処理

……煤、火襷

……灰釉

……石器の磨られている範囲

目　　次

巻頭写真図版
序
例　言
凡　例
目　次・挿図目次・表目次

第１章　調査に至る経緯 …… 1

第２章　遺跡の環境
第１節　地理的環境 …… 3
第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　調査の方法と経過
第１節　発掘調査 …… 7
第２節　整理調査 …… 13

第４章　遺構と遺物
第１節　概要と基本土層
（１）遺構・遺物の概要 …… 15
（２）基本土層 …… 17
第２節　縄文時代
（１）遺構外出土遺物 …… 18
第３節　弥生時代・古墳時代（１）
（１）方形周溝墓 …… 27
（２）住居跡 …… 35
（３）掘立柱建物跡 …… 117
（４）土坑 …… 124
（５）溝 …… 130
（６）遺構外出土遺物 …… 146
第４節　古墳時代（２）
（１）古墳 …… 148
（２）住居跡 …… 289
（３）土坑 …… 338
（４）溝 …… 341
（５）遺構外出土遺物 …… 349

第５節　奈良・平安時代
（１）住居跡 …… 352
（２）道路状遺構 …… 382
（３）掘立柱建物跡 …… 385
（４）土坑 …… 389
（５）配石墓 …… 393
（６）溝 …… 395
（７）水田跡 …… 402
（８）遺構外出土遺物 …… 406
第６節　中・近世
（１）館跡 …… 408
（２）集石 …… 413
（３）井戸・土坑 …… 413
（４）畝状遺構 …… 413
（５）ピット群 …… 426
（６）溝 …… 426
（７）河川跡 …… 430
（８）遺構外出土遺物 …… 430
第７節　時期不明
（１）住居跡・竪穴 …… 432
（２）掘立柱建物跡 …… 433
（３）土坑 …… 433
（４）溝 …… 434

第５章　自然科学分析
第１節　高崎情報団地遺跡のテフラ分析 …… 435
第２節　高崎情報団地遺跡の種実同定 …… 440

第６章　まとめ
第１節　古墳時代前期の遺構と遺物 …… 444
第２節　古墳と出土遺物
（１）高崎情報団地遺跡の古墳群と井野川流域の古墳 …… 447
（２）円筒埴輪・形象埴輪・埴輪棺 …… 448
（３）古地図にみる高崎情報団地遺跡の古墳 …… 485
第３節　道路状遺構について …… 486
第４節　補足 …… 486

抄録・英文抄録

挿　図　目　次

第１図　調査区の位置……1
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡……2
第３図　遺跡の位置と周辺の遺跡（迅速図）……4
第４図　遺跡全体予想図……7
第５図　グリッド地区分割……8
第６図　遺跡全体図……15
第７図　基本土層概念図……17
第８図　土器分布図……18
第９図　石器分布図……19
第10図　縄文時代遺構外出土遺物①……20
第11図　縄文時代遺構外出土遺物②……21
第12図　縄文時代遺構外出土遺物③……22
第13図　縄文時代遺構外出土遺物④……23
第14図　縄文時代遺構外出土遺物⑤……24
第15図　縄文時代遺構外出土遺物⑥……25
第16図　弥生時代・古墳時代(1)の遺構位置図……26
第17図　１号方形周溝墓……29
第18図　３号方形周溝墓……29
第19図　２号方形周溝墓……30
第20図　４号方形周溝墓……31
第21図　５号方形周溝墓……31
第22図　６号方形周溝墓……32
第23図　７号方形周溝墓……32
第24図　１号・２号方形周溝墓出土遺物……33
第25図　３号・５号・６号方形周溝墓出土遺物……34
第26図　１号住居跡……54
第27図　２号住居跡……55
第28図　５号住居跡・６号住居跡……56
第29図　７号住居跡・16号住居跡……57
第30図　８号住居跡……58
第31図　９号住居跡・17号住居跡……59
第32図　18号住居跡・21号住居跡……60
第33図　23号住居跡①……61
第34図　23号住居跡②・30号住居跡……62
第35図　24号住居跡……63
第36図　25号住居跡……64
第37図　34号住居跡・37号住居跡……65
第38図　45号住居跡①……66
第39図　45号住居跡②・22号住居跡……67
第40図　51号住居跡①……68
第41図　51号住居跡②・40号・41号住居跡……69
第42図　53号住居跡・54号住居跡……70
第43図　55号住居跡……71
第44図　58号住居跡①……72
第45図　58号住居跡②・61号住居跡……73
第46図　59号住居跡……74
第47図　62号住居跡……75
第48図　63号住居跡……76
第49図　64号住居跡①……77
第50図　64号住居跡②・60号住居跡……78
第51図　65号住居跡①……79
第52図　65号住居跡②・70号住居跡……80
第53図　66号住居跡……81
第54図　67号住居跡……82
第55図　68号住居跡……83
第56図　69号住居跡……84
第57図　73号住居跡……85
第58図　74号住居跡……86
第59図　75号住居跡・88号住居跡……87
第60図　76号住居跡……88
第61図　78号住居跡……89
第62図　79号住居跡・99号住居跡……90
第63図　80号住居跡・138号住居跡……91
第64図　81号住居跡……92
第65図　82号住居跡……93
第66図　83号住居跡……94
第67図　84号住居跡・132号住居跡……95
第68図　85号住居跡……96
第69図　86号住居跡・101号住居跡……97
第70図　87号住居跡……98
第71図　94号住居跡……99
第72図　106号住居跡・125号住居跡……100
第73図　130号住居跡・140号住居跡……101
第74図　133号住居跡……102
第75図　１号・２号・４号・５号住居跡出土遺物……103
第76図　５号・６号・７号・８号・16号・17号・18号・21号住居跡出土遺物……104
第77図　23号・24号・37号住居跡出土遺物……105
第78図　45号・51号住居跡出土遺物……106
第79図　51号・55号・58号・59号住居跡出土遺物……107
第80図　59号・60号住居跡出土遺物……108
第81図　61号・62号・63号・64号住居跡出土遺物……109
第82図　64号・65号・66号住居跡出土遺物……110
第83図　67号住居跡出土遺物……111
第84図　67号・68号住居跡出土遺物……112
第85図　68号・69号・70号・73号住居跡出土遺物……113
第86図　74号・75号・76号・78号・81号住居跡出土遺物……114
第87図　82号・83号住居跡出土遺物……115
第88図　85号・86号・87号・94号・99号・101号・125号・140号住居跡出土遺物……116
第89図　２号掘立柱建物跡・12号掘立柱建物跡……118
第90図　３号掘立柱建物跡・13号掘立柱建物跡……119
第91図　14号掘立柱建物跡・15号掘立柱建物跡……120
第92図　16号掘立柱建物跡・17号・19号掘立柱建物跡……121
第93図　18号掘立柱建物跡・20号掘立柱建物跡……122
第94図　21号掘立柱建物跡・22号掘立柱建物跡……123
第95図　３号・10号・44号・53号・54号・59号・60号土坑……126
第96図　65号・67号・83号・91号土坑……127
第97図　３号・10号・44号・53号土坑出土遺物……128
第98図　53号・59号・60号・65号・67号・83号・91号土坑出土遺物……129
第99図　59号・68号・72号・74号・103号溝土層図・断面図……131
第100図　58号溝①……132
第101図　58号溝②……133
第102図　58号溝③……134

第103図　58号溝④…… 135
第104図　58号溝Y29グリッド遺物出土状態、36号・49号・85号溝…… 136
第105図　58号溝出土遺物①…… 137
第106図　58号溝出土遺物②…… 138
第107図　58号溝出土遺物③…… 139
第108図　58号溝出土遺物④…… 140
第109図　58号溝出土遺物⑤…… 141
第110図　58号溝出土遺物⑥…… 142
第111図　58号溝出土遺物⑦…… 143
第112図　58号溝出土遺物⑧…… 144
第113図　36号・49号・74号・103号溝出土遺物 …… 145
第114図　弥生時代・古墳時代(1)遺構外出土遺物…… 146
第115図　古墳時代(2)の遺構位置図…… 147
第116図　1号古墳と出土遺物…… 148
第117図　2号古墳…… 149
第118図　2号古墳出土遺物①…… 150
第119図　2号古墳出土遺物②…… 151
第120図　3号古墳…… 152
第121図　3号古墳出土遺物①…… 153
第122図　3号古墳出土遺物②…… 154
第123図　3号古墳出土遺物③…… 155
第124図　4号古墳遺物出土状態図…… 156
第125図　4号古墳…… 157
第126図　4号古墳出土遺物①…… 158
第127図　4号古墳出土遺物②…… 159
第128図　4号古墳出土遺物③…… 160
第129図　5号古墳…… 161
第130図　5号古墳出土遺物①…… 162
第131図　5号古墳出土遺物②…… 163
第132図　5号古墳出土遺物③…… 164
第133図　5号古墳出土遺物④…… 165
第134図　5号古墳出土遺物⑤…… 166
第135図　6号古墳…… 167
第136図　6号古墳出土遺物…… 168
第137図　7号古墳…… 169
第138図　7号古墳出土遺物①…… 170
第139図　7号古墳出土遺物②…… 171
第140図　8号古墳遺物出土状態図…… 172
第141図　8号古墳…… 173
第142図　8号古墳周溝土層図…… 174
第143図　8号古墳出土遺物①…… 175
第144図　8号古墳出土遺物②…… 176
第145図　8号古墳出土遺物③…… 177
第146図　8号古墳出土遺物④…… 178
第147図　8号古墳出土遺物⑤…… 179
第148図　9号古墳と出土遺物…… 180
第149図　10号古墳と出土遺物…… 181
第150図　11号古墳…… 182
第151図　11号古墳出土遺物…… 183
第152図　12号古墳…… 184
第153図　12号古墳出土遺物…… 185
第154図　13号古墳…… 187
第155図　13号古墳出土遺物①…… 190
第156図　13号古墳出土遺物②…… 191
第157図　13号古墳出土遺物③…… 192
第158図　13号古墳出土遺物④…… 193
第159図　13号古墳出土遺物⑤…… 194
第160図　13号古墳出土遺物⑥…… 195
第161図　13号古墳出土遺物⑦…… 196
第162図　13号古墳出土遺物⑧…… 197
第163図　13号古墳出土遺物⑨…… 198
第164図　13号古墳出土遺物⑩…… 199
第165図　13号古墳出土遺物⑪…… 200
第166図　13号古墳出土遺物⑫…… 201
第167図　13号古墳出土遺物⑬…… 202
第168図　13号古墳出土遺物⑭…… 203
第169図　13号古墳出土遺物⑮…… 204
第170図　13号古墳出土遺物⑯…… 205
第171図　13号古墳出土遺物⑰…… 206
第172図　13号古墳出土遺物⑱…… 207
第173図　13号古墳出土遺物⑲…… 208
第174図　13号古墳出土遺物⑳…… 209
第175図　13号古墳出土遺物㉑…… 210
第176図　14号古墳…… 211
第177図　14号古墳出土遺物…… 212
第178図　15号古墳…… 213
第179図　15号古墳出土遺物…… 214
第180図　16号古墳遺物出土状態図…… 216
第181図　16号古墳…… 217
第182図　16号古墳出土遺物①…… 219
第183図　16号古墳出土遺物②…… 220
第184図　16号古墳出土遺物③…… 221
第185図　16号古墳出土遺物④…… 222
第186図　16号古墳出土遺物⑤…… 223
第187図　16号古墳出土遺物⑥…… 224
第188図　16号古墳出土遺物⑦…… 225
第189図　16号古墳出土遺物⑧…… 226
第190図　16号古墳出土遺物⑨…… 227
第191図　16号古墳出土遺物⑩…… 228
第192図　16号古墳出土遺物⑪…… 229
第193図　16号古墳出土遺物⑫…… 230
第194図　16号古墳出土遺物⑬…… 231
第195図　16号古墳出土遺物⑭…… 232
第196図　16号古墳出土遺物⑮…… 233
第197図　16号古墳出土遺物⑯…… 234
第198図　17号古墳と出土遺物…… 235
第199図　18号古墳…… 236
第200図　18号古墳出土遺物①…… 237
第201図　18号古墳出土遺物②…… 238
第202図　18号古墳出土遺物③…… 239
第203図　19号古墳…… 240
第204図　19号古墳出土遺物…… 241
第205図　20号古墳周溝土層図…… 242
第206図　20号古墳…… 243
第207図　20号古墳出土遺物①…… 244
第208図　20号古墳出土遺物②…… 245
第209図　20号古墳出土遺物③…… 246
第210図　20号古墳出土遺物④…… 247
第211図　21号古墳…… 249
第212図　21号古墳出土遺物①…… 251
第213図　21号古墳出土遺物②…… 252

第214図　21号古墳出土遺物③…… 253
第215図　21号古墳出土遺物④…… 254
第216図　21号古墳出土遺物⑤…… 255
第217図　21号古墳出土遺物⑥…… 256
第218図　21号古墳出土遺物⑦…… 257
第219図　21号古墳出土遺物⑧…… 258
第220図　21号古墳出土遺物⑨…… 259
第221図　21号古墳出土遺物⑩…… 260
第222図　21号古墳出土遺物⑪…… 261
第223図　22号古墳…… 262
第224図　22号古墳出土遺物…… 263
第225図　23号古墳…… 265
第226図　23号古墳出土遺物①…… 267
第227図　23号古墳出土遺物②…… 268
第228図　23号古墳出土遺物③…… 269
第229図　23号古墳出土遺物④…… 270
第230図　23号古墳出土遺物⑤…… 271
第231図　23号古墳出土遺物⑥…… 272
第232図　23号古墳出土遺物⑦…… 273
第233図　24号古墳…… 274
第234図　24号古墳出土遺物①…… 275
第235図　24号古墳出土遺物②…… 276
第236図　25号古墳と出土遺物…… 277
第237図　26号古墳と出土遺物…… 278
第238図　27号古墳…… 278
第239図　28号古墳…… 279
第240図　28号古墳出土遺物…… 280
第241図　29号古墳…… 281
第242図　30号古墳…… 282
第243図　31号古墳…… 283
第244図　32号古墳…… 284
第245図　33号古墳…… 285
第246図　30号古墳出土遺物…… 286
第247図　31号古墳出土遺物…… 286
第248図　32号古墳出土遺物①…… 287
第249図　32号古墳出土遺物②…… 288
第250図　33号古墳出土遺物…… 288
第251図　28号住居跡…… 301
第252図　29号住居跡…… 302
第253図　31号住居跡・32号住居跡…… 303
第254図　33号住居跡①…… 304
第255図　33号住居跡②・35号住居跡…… 305
第256図　36号住居跡・38号住居跡…… 306
第257図　39号住居跡…… 307
第258図　42号住居跡・43号住居跡…… 308
第259図　44号住居跡・57号・46号住居跡…… 309
第260図　47号住居跡・50号住居跡…… 310
第261図　52号住居跡・56号住居跡…… 311
第262図　95号住居跡・96号住居跡…… 312
第263図　97号住居跡・98号住居跡…… 313
第264図　100号住居跡 …… 314
第265図　103号住居跡・104号住居跡…… 315
第266図　105号住居跡・107号住居跡…… 316
第267図　109号住居跡・110号住居跡…… 317
第268図　111号住居跡 …… 318
第269図　112号住居跡・114号住居跡…… 319
第270図　113号住居跡・124号住居跡…… 320
第271図　122号住居跡・128号住居跡…… 321
第272図　131号住居跡・134号住居跡…… 322
第273図　136号住居跡・137号住居跡…… 323
第274図　28号・29号・32号住居跡出土遺物…… 324
第275図　33号・35号・36号住居跡出土遺物…… 325
第276図　36号・38号・39号住居跡出土遺物…… 326
第277図　39号・42号・43号住居跡出土遺物…… 327
第278図　44号・46号・47号・50号・52号住居跡出土遺物… 328
第279図　52号・56号・57号・96号・98号住居跡出土遺物… 329
第280図　97号・100号・103号住居跡出土遺物…… 330
第281図　105号・107号住居跡出土遺物…… 331
第282図　109号・110号住居跡出土遺物…… 332
第283図　111号住居跡出土遺物 …… 333
第284図　113号・114号住居跡出土遺物…… 334
第285図　114号・122号・124号住居跡出土遺物 …… 335
第286図　128号・131号住居跡出土遺物…… 336
第287図　134号・136号住居跡出土遺物…… 337
第288図　古墳時代(2)土坑…… 339
第289図　古墳時代(2)土坑出土遺物…… 340
第290図　古墳時代(2)溝土層図・断面図…… 342
第291図　78号溝…… 343
第292図　63号溝①…… 344
第293図　63号溝②…… 345
第294図　63号溝③…… 346
第295図　古墳時代(2)溝出土遺物①…… 347
第296図　古墳時代(2)溝出土遺物②…… 348
第297図　古墳時代(2)遺構外出土遺物①…… 349
第298図　古墳時代(2)遺構外出土遺物②…… 350
第299図　奈良・平安時代遺構位置図…… 351
第300図　10号住居跡・126号住居跡 …… 360
第301図　11号・19号住居跡…… 361
第302図　12号住居跡…… 362
第303図　13号住居跡・14号住居跡…… 363
第304図　15号住居跡…… 364
第305図　26号住居跡・90号住居跡…… 365
第306図　27号住居跡・115号住居跡 …… 366
第307図　48号住居跡・49号住居跡・71号住居跡…… 367
第308図　72号住居跡…… 368
第309図　77号住居跡・91号住居跡…… 369
第310図　89号住居跡…… 370
第311図　92号住居跡・93号住居跡…… 371
第312図　108号住居跡 …… 372
第313図　116号住居跡・117号住居跡…… 373
第314図　118号住居跡 …… 374
第315図　123号住居跡・127号住居跡…… 375
第316図　10号・11号・12号・13号・14号住居跡出土遺物… 376
第317図　15号・26号・27号・49号住居跡出土遺物…… 377
第318図　71号・72号住居跡出土遺物…… 378
第319図　89号・90号・91号・92号・108号住居跡出土遺物　379
第320図　108号・115号・116号・118号住居跡出土遺物…… 380
第321図　123号・126号・127号住居跡出土遺物 …… 381
第322図　道路状遺構（52号・53号溝）…… 383
第323図　道路状遺構（96号・108号・111号溝）
　　土層図・断面図…… 385
第324図　4号掘立柱建物跡・5号掘立柱建物跡…… 386

第325図　6号掘立柱建物跡・7号掘立柱建物跡…… 387
第326図　8号掘立柱建物跡・9号掘立柱建物跡…… 388
第327図　10号掘立柱建物跡…… 389
第328図　17号・23号・50号・56号・72号・73号・77号土坑…… 390
第329図　17号・50号・56号・72号土坑出土遺物…… 391
第330図　72号・73号・77号土坑出土遺物…… 392
第331図　1号配石と出土遺物…… 393
第332図　1号・5号・6号・7号・11号溝土層図…… 395
第333図　22号・24号・26号・29号・30号・31号溝土層図、41号溝…… 396
第334図　32号・33号・37号・40号・42号・47号・67号・104号・107号・109号溝土層図・断面図 …… 397
第335図　64号溝…… 398
第336図　奈良・平安時代溝出土遺物①…… 399
第337図　奈良・平安時代溝出土遺物②…… 400
第338図　奈良・平安時代溝出土遺物③…… 401
第339図　南側水田跡土層図…… 402
第340図　南側水田跡…… 403
第341図　北側水田跡①…… 404
第342図　北側水田跡②・土層図…… 405
第343図　奈良・平安時代遺構外出土遺物①…… 406
第344図　奈良・平安時代遺構外出土遺物②…… 407
第345図　中・近世遺構位置図…… 408
第346図　館跡（14号溝）出土遺物①…… 409
第347図　館跡（14号溝）出土遺物②…… 410
第348図　館跡（14号溝）…… 411
第349図　集石…… 416
第350図　2号畝状遺構、1号～3号井戸…… 417
第351図　中・近世土坑①…… 418
第352図　中・近世土坑②…… 419
第353図　中・近世土坑③…… 420
第354図　中・近世土坑④…… 421
第355図　中・近世土坑⑤…… 422
第356図　中・近世土坑⑥…… 423
第357図　中・近世土坑⑦…… 424
第358図　29号・32号・41号・62号・97号土坑出土遺物…… 425
第359図　中・近世溝　断面図・土層図、27号溝…… 426
第360図　中・近世　集石・溝出土遺物…… 428
第361図　1号・2号河川跡出土遺物…… 429
第362図　中・近世遺構外出土遺物…… 430
第363図　時期不明の遺構位置図…… 431
第364図　1号竪穴・2号竪穴…… 432
第365図　1号竪穴・2号竪穴出土遺物…… 434
第366図　土層層序…… 436
第367図　住居跡・溝出土のS字状口縁台付甕…… 444
第368図　井野川流域の5世紀後半～6世紀初頭の主要古墳分布図…… 447
第369図　坊主山古墳・女子人物小像…… 448
第370図　各古墳出土の円筒埴輪①…… 450
第371図　各古墳出土の円筒埴輪②…… 451
第372図　ヘラ記号集成①…… 454
第373図　ヘラ記号集成②…… 455
第374図　ヘラ記号集成③…… 456
第375図　ヘラ記号集成④…… 457
第376図　ヘラ記号集成⑤…… 458
第377図　ヘラ記号集成⑥…… 459
第378図　ヘラ記号集成⑦…… 460
第379図　ヘラ記号集成⑧…… 461
第380図　ヘラ記号集成⑨…… 462
第381図　ヘラ記号集成⑩…… 463
第382図　ヘラ記号集成⑪…… 464
第383図　ヘラ記号集成⑫…… 465
第384図　ヘラ記号集成⑬…… 466
第385図　ヘラ記号集成⑭…… 467
第386図　ヘラ記号集成⑮…… 468
第387図　ヘラ記号集成⑯…… 469
第388図　ヘラ記号集成⑰…… 470
第389図　ヘラ記号集成⑱…… 471
第390図　円筒埴輪ハケ目集成①…… 472
第391図　円筒埴輪ハケ目集成②…… 473
第392図　円筒埴輪ハケ目集成③…… 474
第393図　円筒埴輪ハケ目集成④…… 475
第394図　円筒埴輪ハケ目集成⑤…… 476
第395図　円筒埴輪ハケ目集成⑥…… 477
第396図　円筒埴輪ハケ目集成⑦…… 478
第397図　円筒埴輪ハケ目集成⑧…… 479
第398図　円筒埴輪ハケ目集成⑨…… 480
第399図　円筒埴輪ハケ目集成⑩…… 481
第400図　円筒埴輪ハケ目集成⑪…… 482
第401図　円筒埴輪ハケ目集成⑫…… 483
第402図　円筒埴輪ハケ目集成⑬…… 484
第403図　中大類村絵図…… 485
第404図　遺跡の位置と周辺の道路遺構関連遺跡…… 487

表　目　次

表1　周辺の遺跡…… 5
表2　古墳時代前期掘立柱建物跡一覧…… 117
表3　奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧…… 385
表4　奈良・平安時代土坑一覧…… 389
表5　奈良・平安時代溝一覧…… 394
表6　中・近世集石一覧…… 414
表7　中・近世井戸一覧…… 414
表8　中・近世土坑一覧①…… 414
表9　中・近世土坑一覧②…… 415
表10　中・近世溝一覧…… 427
表11　時期不明の住居跡・竪穴一覧…… 433
表12　時期不明の掘立柱建物跡一覧…… 433
表13　時期不明の土坑一覧…… 433
表14　高崎情報団地遺跡のテフラ検出分析結果…… 438
表15　高崎情報団地遺跡の屈折率測定結果…… 438
表16　同定結果…… 440
表17　3号掘立出土炭化米（籾）の形態…… 440
表18　古墳時代前期住居跡一覧…… 445
表19　調査古墳一覧…… 446
表20　各古墳出土円筒埴輪の特徴…… 449
表21　ヘラ記号一覧①…… 452
表22　ヘラ記号一覧②…… 453

第１章　調査に至る経緯

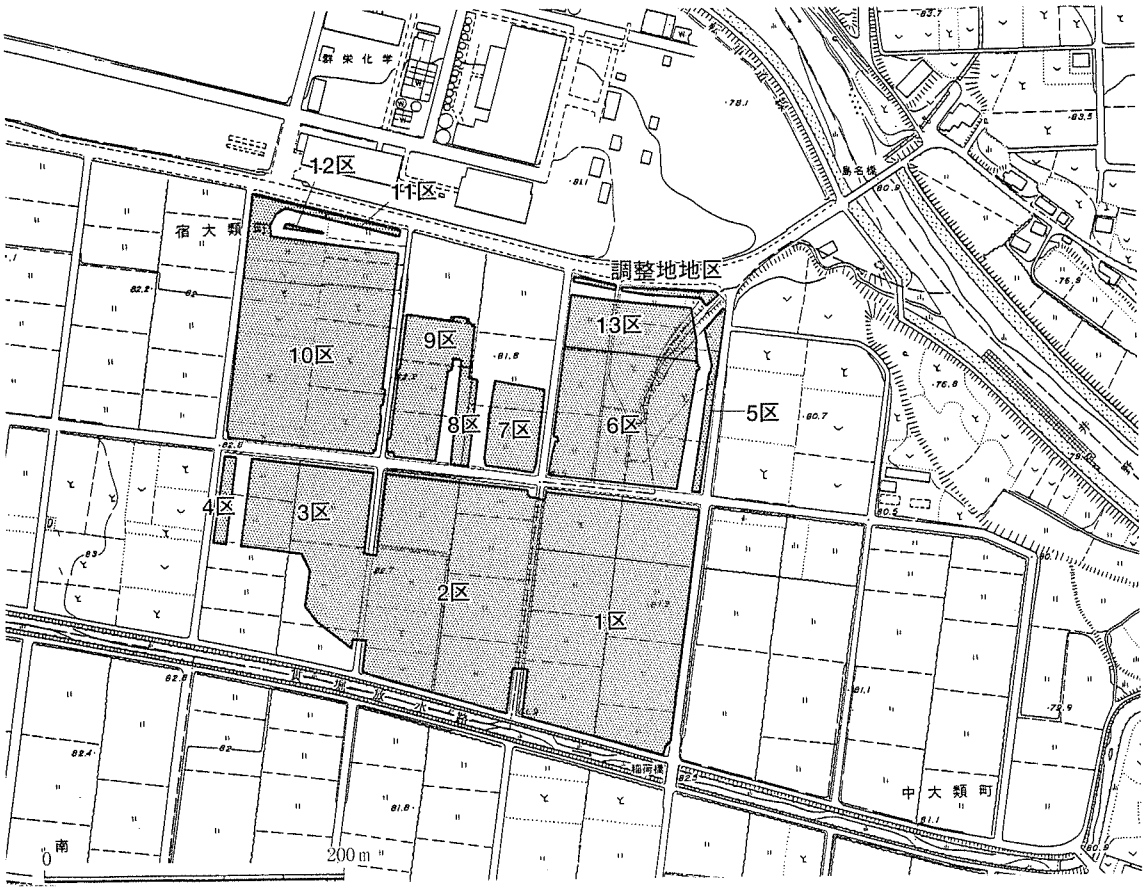
今回発掘調査の実施された高崎市宿大類・中大類町地内は、本市市街地東部の井野川右岸台地上に位置する。本遺跡地周辺部では、近年の開発に伴う発掘調査により、古代の集落跡や水田跡をはじめ、中世居館跡が各所で確認されている。

このような宿大類・中大類地内で広範囲にわたる情報団地建設計画が群馬県企業局でなされた。この時点で、市の教育委員会に開発者である群馬県企業局より埋蔵文化財の有無についての問い合わせがあった。市教育委員会では、開発地周辺には、各所に遺跡が存在することを説明し試掘調査を実施し、その結果を開発者に知らせるという方法をとった。

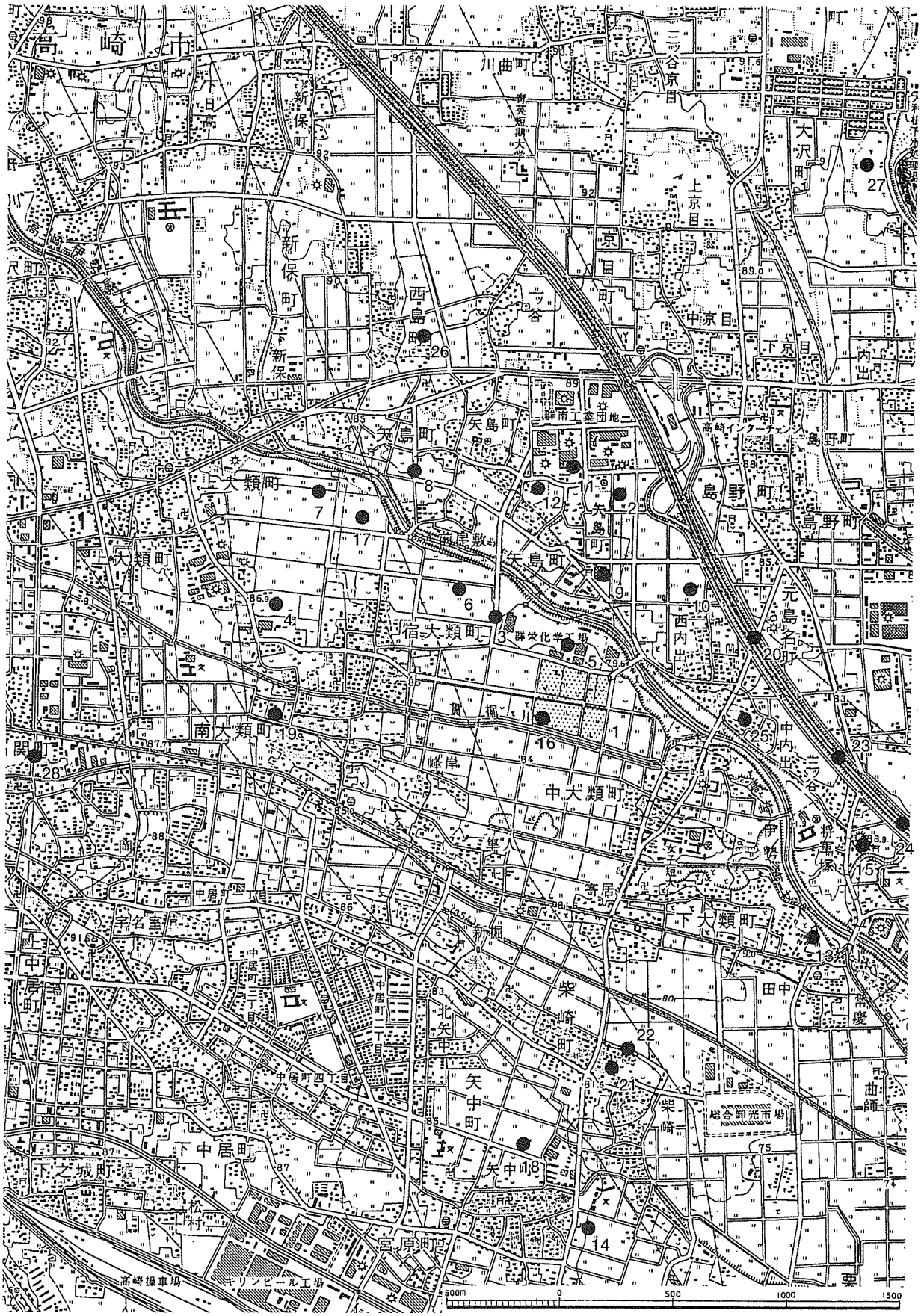
試掘調査は、対象地が約10haと広範囲であるため数日を要したが、その結果、現在の地表面より50～60cm下にて弥生時代から奈良・平安時代の住居跡や古墳跡・平安時代水田跡等が約８haにおいて確認されるとともに、土器類が多数出土した。このため再度開発者と協議をかさね、開発により遺跡の破壊が予想される場所については本調査を実施し記録保存を図ることになった。

なお、市教育委員会では担当職員の配分が困難なことから、本調査については市教育委員会に事務局のある、高崎市遺跡調査会から民間の考古学研究機関である山武考古学研究所に委託し実施することになった。

また、本調査にかかわる経費については、開発者である原因者が負担し、調査についての指導、助言については市職員をあて、緊急に対応することとなった。



第１図　調査区の位置　（Ｓ＝１：5,000 高崎市役所No.26を縮小）



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡　（国土地理院２万５千分の１「前橋」「高崎」）

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

本遺跡[1]は、高崎市街地より東方約４㎞に位置し、つい最近までは初夏は麦、秋には稲穂がそよぐ水田地帯とわずかな微高地上は桑園として活用されていた。地味肥沃な土地であり、市内でも有数の穀倉地であるとともに養蚕業の盛んな地域であったが、近年の急激な都市化の中で、周辺部のあちこちで工業団地や住宅地が造成され、市内各地で見られる開発の波が及んでいる地域でもある。今回調査が実施された高崎情報団地遺跡は、行政的には宿大類町と中大類町にあたり、高崎市内の東部を東南流する井野川右岸の、通称高崎台地と言われる低台地上に存在する。遺跡地付近の標高は81ｍ前後であり、僅かに東方向及び北方向へと低くなっている。

第２節　歴史的環境

遺跡地周辺は以前より遺跡の宝庫といわれており、縄文時代より中世にいたる遺跡地が各所に見られる。特に井野川沿いについては、濃密であり発掘調査の実施された遺跡も数多く存在する。

縄文時代

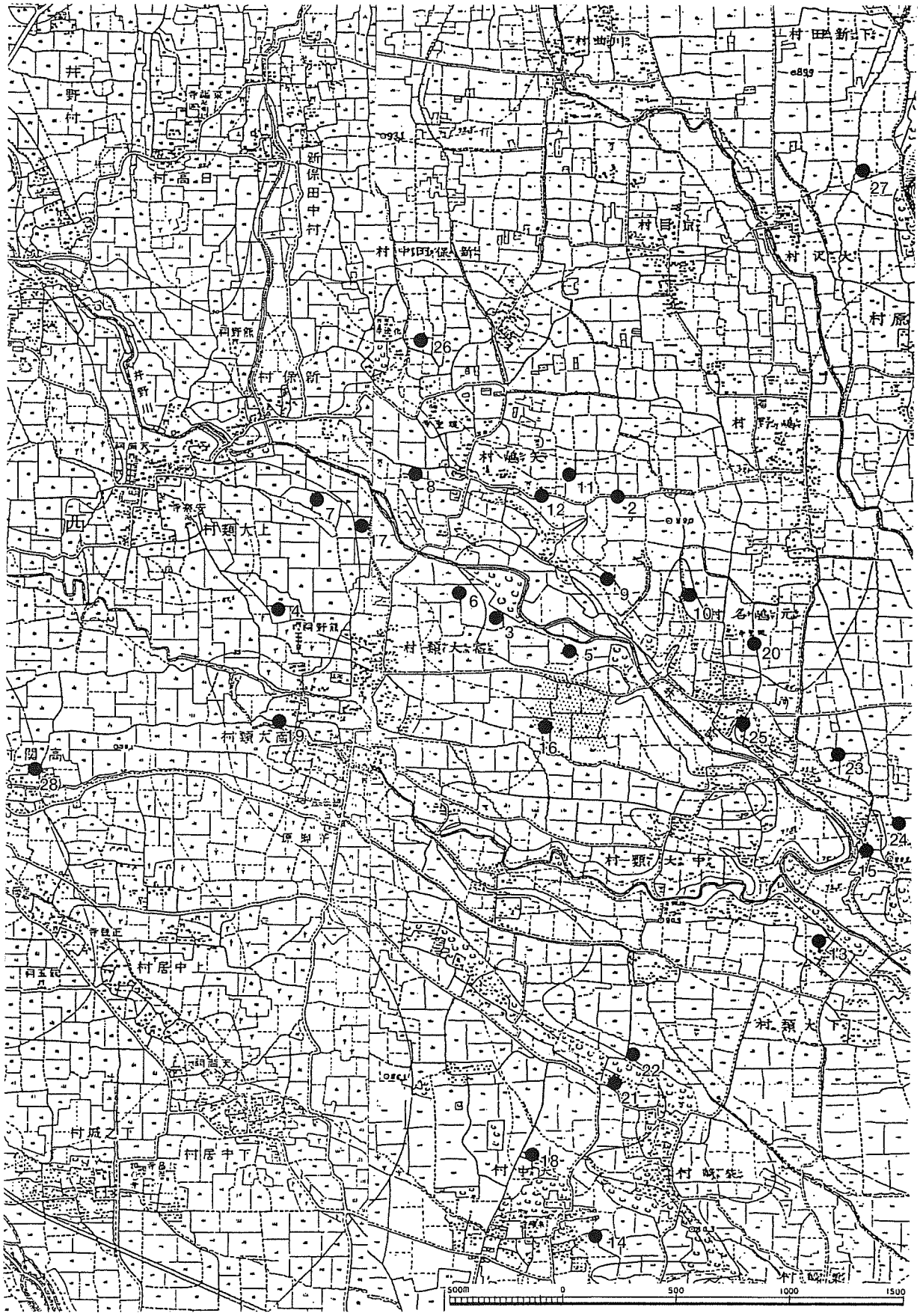
まず、本遺跡の存在する周辺の遺跡について、時代順に見てみると、井野川左岸ではあるが、元島名瓦井遺跡[2]で単独出土ではあるが、縄文時代草創期と考えられる尖頭器１点が発見され、天神久保遺跡[3]や宿大類村西遺跡[4]では、縄文前期に該当する土器類が出土し、特に天神久保遺跡では、遺構の残存状態は悪かったものの住居跡と考えられる遺構が検出されており、本遺跡周辺部で、すでに人々の生活の営みが始まっていたことを物語っている。

縄文時代中期になると、万相寺遺跡[5]・山鳥遺跡[6]・天田遺跡[7]・増殿遺跡[8]・鈴ノ宮遺跡[9]・元島名遺跡[10]などが知られており、増殿遺跡では５軒の住居跡が検出され、多量の土器類も出土している。なお、万相寺遺跡・増殿遺跡・鈴ノ宮遺跡・元島名遺跡などでは後期にあたる遺構・遺物も検出されており、連続的に生活が営まれていたようである。特に、万相寺遺跡では後期前半と思われる敷石住居１軒が確認され、この住居の炉内埋設土器と住居外約５ｍ程離れた土坑内より出土した土器とが接合するという事実もあり、興味深い資料を提供している。本遺跡地周辺部では、縄文晩期にあたる遺構・遺物は認められておらず、遺跡地周辺部での縄文の時代は、後期の時期を持って終わりを告げているようである。

弥生時代

弥生時代の遺構・遺物では、本市市街地周辺部で認められている中期に該当する竜見町式系の土器を出土する遺跡は非常に少なく、僅かに矢島竹之内遺跡[11]や鈴の宮遺跡で少量の土器片を検出しているのみである。しかし、後期の時期になると、遺跡数は飛躍的に増大し、本遺跡をはじめ、万相寺遺跡・宿大類村西遺跡・鈴ノ宮遺跡・矢島薬師遺跡等[12]で集落跡が確認されている。

この時期の一般的住居形態は隅丸長方形で、柱穴は住居の形態に合わせた形で４基、炉は、柱穴間のほぼ中央部に配置され、住居内側方向に縦長の自然河原石を１～２石配置するものが多い。また、出入り口と考えられるピットが短辺壁のほぼ中央部より住居内50～60㎝程の位置で２基並んだ形で検出され、貯蔵穴と考えられるピットがその周辺の壁寄りで確認される例が多い。出土品としては、壺・甕・蓋・高坏・台付甕・鉢・甑・片口等がセット関係にあり、壺・甕・台付甕等には、波状文や簾状文が施されている。本地域でいわれている樽式土器の範疇に入るものである。また、磨製石斧や磨製石鏃もわずかではあるが出土する。な



第３図　遺跡の位置と周辺の遺跡（明治21年陸地測量部発行、地方迅速測図を80%縮小）

表１　周辺の遺跡

No.	遺　跡　名	概　　要	文　　献
1	高崎情報団地遺跡		本書所収遺跡
2	元島名瓦井遺跡	浅間Ｂ下水田跡、草創期の尖頭器出土	1995『元島名瓦井遺跡』高崎市遺跡調査会
3	天神久保遺跡	縄文住居跡、平安集落、浅間Ｂ下水田跡	1985『天神久保遺跡』高崎市教育委員会
4	宿大類村西遺跡	縄文～奈良・平安、中世大類城	1987『宿大類町村西遺跡』高崎市教育委員会
5	万相寺遺跡	縄文～中世、浅間Ｂ下水田跡	1985『万相寺遺跡』高崎市教育委員会
6	山鳥遺跡	縄文、奈良・平安、中世、浅間Ｂ下水田跡	1984『山鳥・天神遺跡』高崎市教育委員会
7	天田・川押遺跡	縄文、奈良・平安、中世、浅間Ｂ下水田跡 銅製八稜鏡・石帯等出土	1983『天田・川押遺跡』高崎市教育委員会
8	矢島町村西・増殿遺跡	縄文・古墳～奈良・平安、中世村西城	1986『矢島町村西・増殿遺跡』 高崎市教育委員会
9	鈴ノ宮遺跡	弥生～平安、方形周溝墓（前方後方形周溝墓）・古墳、中世	1978『鈴ノ宮遺跡』高崎市教育委員会
10	元島名遺跡	縄文～古墳、方形周溝墓、中世元島名城	1979『元島名遺跡』高崎市教育委員会
11	矢島竹之内遺跡	弥生時代中期土器出土	高崎市教育委員会調査
12	矢島薬師遺跡	弥生～古墳、中世	1994『矢島町薬師遺跡』高崎市遺跡調査会
13	下大類蟹沢遺跡	古墳～平安集落、古墳	1993『下大類蟹沢遺跡』高崎市遺跡調査会
14	矢中村東Ｂ遺跡	方形周溝墓（前方後方形周溝墓）、中世	1985『矢中村東Ｂ遺跡』高崎市教育委員会
15	元島名将軍塚古墳	前方後方墳	1981『元島名将軍塚古墳』高崎市教育委員会
16	塚ノ越屋敷	中世館跡、元弘三年（1333）板碑	高崎情報団地遺跡内、本書所収 1996『新編高崎市史資料編３中世１』高崎市
17	村北館跡	中世館跡	1985『村北・矢島前・村東遺跡』 高崎市教育委員会
18	矢中下村北館跡	中世館跡	1986『下村北・砂内遺跡』高崎市教育委員会
19	大類館	中世館跡	1996『新編高崎市史資料編３中世１』高崎市
20	元島名Ｂ遺跡	元島名城	1982『元島名Ｂ・吹屋遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
21	蟹沢古墳	「□始元年陳是作」銘鏡、鉄斧等出土	1981『群馬県史資料編３原始・古代３古墳』 群馬県
22	浅間山古墳	蟹沢古墳に隣接、径30ｍ程度の円墳	1981『元島名将軍塚古墳』高崎市教育委員会
23	元島名Ａ遺跡	古墳	1981『八幡原Ａ・Ｂ、上滝、元島名Ａ』 ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
24	上滝遺跡	古墳～中・近世	前掲書
25	元島名内出	16世紀代砦	1996『新編高崎市史資料編３中世１』高崎市
26	諏訪遺跡	浅間Ｃ下水田跡、浅間Ｂ下水田跡	1987『西島遺跡群』高崎市教育委員会
27	萩原団地遺跡	古墳前期水路、ＦＡ・ＦＰ・浅間Ｂ下水田	1993『萩原団地遺跡』高崎市遺跡調査会
28	高関堰村遺跡	弥生中期環濠	1992『高関堰村遺跡』高崎市教育委員会

お、宿大類村西遺跡の住居跡から少破片ではあるが、銅製品１点が確認されている。さらに、本時代の遺構として、方形周溝墓についても本遺跡や鈴ノ宮遺跡で数基検出されている。

古墳時代

古墳時代の遺構・遺物になると、本遺跡を含めいたる所で散見することが出来る。古墳時代前期の土器として本県で著名な土器として知られる石田川式土器を伴う住居跡は本遺跡をはじめとし、万相寺遺跡・宿大類村西遺跡・鈴ノ宮遺跡・下大類蟹沢遺跡[13]等で確認され、特に本遺跡においては、掘立柱建物跡も古墳時代前期のものが確認されている。また、方形周溝墓についても、宿大類村西遺跡・鈴ノ宮遺跡・矢中村東Ｂ遺跡[14]で検出されている。鈴ノ宮遺跡や矢中村東Ｂ遺跡では前方後方形の周溝墓も発見され、興味深い資料を提供している。

さらに、本時代の名称ともなっている古墳については本遺跡の帆立貝形古墳や円墳群をはじめ、万相寺遺跡や鈴ノ宮遺跡等で小円墳の調査がなされている。なお、本市内では一番古い古墳とされている、前方後方墳の元島名将軍塚古墳[15]も本遺跡の東方に存在している。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構・遺物の本遺跡地周辺でのあり方となると、非常に多くの遺跡地が展開するようになり、当時の住居区域か水田区域かを考えなければ、すべて遺跡地といっても過言ではないほどである。住居区域は、井野川両岸台地上の微高地状の部分では、集落が営まれ、この微高地に続く低地では、広範囲にわたり水田耕作がなされていたようである。集落内では竪穴住居はもとより、井戸跡や掘立柱建物跡等も検出されており、当時の人々の生活の一端をうかがわせている。

遺構中より検出される遺物類については、土師器・須恵器・灰釉陶器等はもとより、特殊な出土品として銅製八稜鏡・銅製帯金具・石帯・木製椀片・炭化米・炭化豆・墨書土器等も本遺跡周辺の遺跡地より発見されている。

本遺跡地周辺で検出されている水田跡については、本遺跡で確認されたものも同様であるが、すべて平安時代後期の1108年に起こったといわれている浅間山の大噴火により降下した大量の軽石により埋もれたものである。当然のことであるが水田跡は、この堆積した軽石を取り除くことにより検出されるものであり、本市内の広範囲にわたり確認されている。検出される遺構としては、大畦畔・小畦畔・水路・水口・足跡等であり、特に大畦畔は、東西・南北にのびるものが検出され、互いに105～110ｍ程の間隔を持って走行しており、碁盤目状を呈しているものが平坦地形から検出されるものでは多い。

中世

中世の遺構としては、本遺跡でも館跡の一部[16]が検出されているが、周辺部においても天田遺跡・村北館跡[17]・矢島町村西城跡・大類城跡・矢中下村北館跡[18]・元島名城跡遺跡の城館跡についても、全面的あるいは部分的に調査がなされ多大な成果を上げている。これらの中で特に、村北館跡については小規模な館跡ではあったが、遺構の遺存状況がよく廓内より５棟の掘立柱建物跡・竪穴状掘立柱建物跡１棟・井戸跡６基・柵列跡３基が検出され、それぞれの遺構の配置状況が明らかにされた。また、館跡の東側に接して掘立柱建物跡や井戸跡・墓地等も多数確認され、館との関連を考えるうえで貴重な発見となった。

なお、中世の掘立柱建物跡群も山鳥遺跡や万相寺遺跡等で検出されており、当時の集落の一端を知ることができた。これらの遺構中より発見される遺物類については、陶磁器・石製品・渡来銭等の他、大類城跡では小形銅鋺や小形仏像が発見されている。

第３章　調査の方法と経過

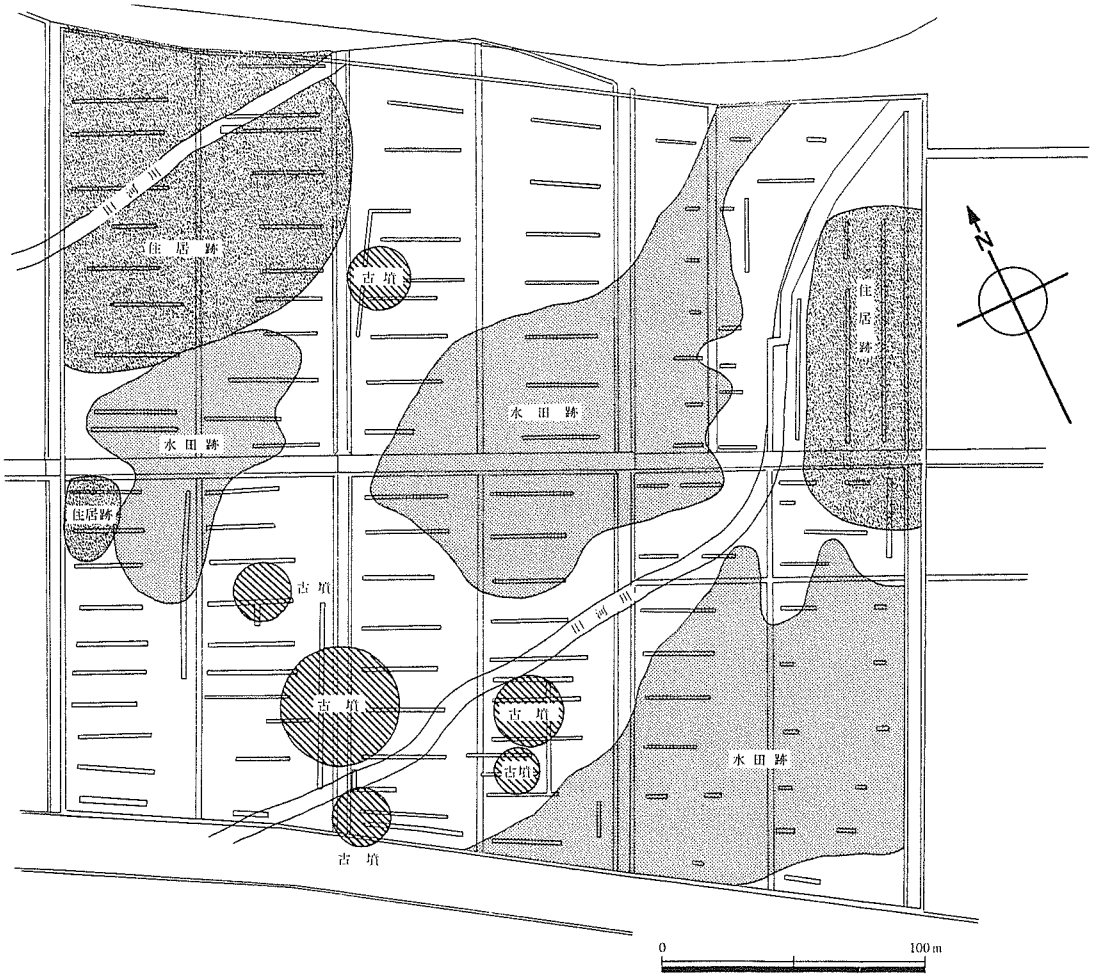
第１節　発掘調査

本遺跡は、平成４年７月13日から同30日にかけて高崎市教育委員会が実施した試掘調査により、第４図のように遺構の分布状況が推定されていた。遺構の内容は古墳・集落・水田跡等と多岐にわたり、時代的にも古墳時代前期～平安時代、さらに縄文時代・弥生時代・中世をも含む複合遺跡と予想されていた。また、調査面積も約80,000㎡と広範であり、限られた期間内に発掘調査の工程を終了するためには効率的な調査の方法が求められた。

調査区は、開発工事工程に合わせて設定し、第１図のように１～13区・調整地地区のように仮称した。空撮等を各調査区ごとに実施している関係もあり、この調査区名は本報告書においても適宜使用する。また、遺跡中央部を東西に走る道路の南側を南側調査区、同じく北側を北側調査区と便宜上呼称することにした。

各遺構は、確認面までの表土層を機械力で除去した後に掘り下げた。遺構埋没土の運搬には適宜ダンプキャリアを利用し、その際排土場はなるべく調査中の遺構に近い地点に設け、一部で調査終了後の溝等にも排土した。

遺構の測量は、公共座標（第Ⅸ系）を基準に10ｍ×10ｍのグリッドを設定して行った。座標値は全体図中



第４図　遺跡全体予想図　（高崎市文化財調査報告第127集より）

に示してある。グリッド名は、遺跡南東端から調査を進めた関係上、南東角を基点に南から北に大文字アルファベット・小文字アルファベットの順に、東から西にアラビア数字を付し、「Ｇ13グリッド」のように表記した。なお、小文字「ｃ」は文字下にアンダーラインを入れ「c」と示し、大文字Ｃと区別した。水準点は公共水準を用いた。遺跡全体図は1/200縮尺、各遺構図の縮尺は後述の通りで作成した。

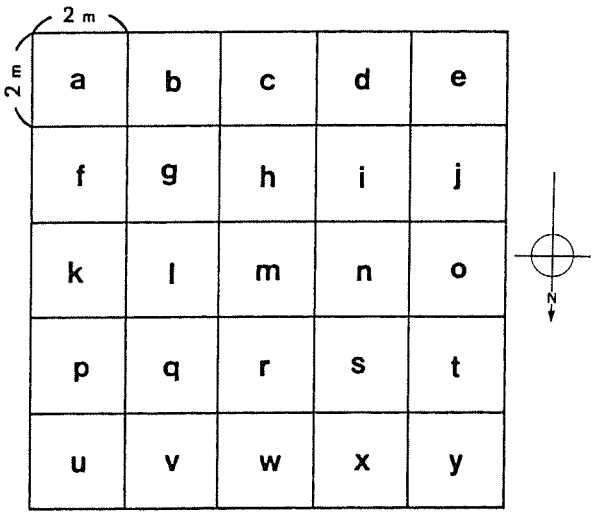
写真は調査の過程で随時撮影し、全景写真はローリングタワー上から、細部写真は三脚を用いて行い、白黒35㎜・カラースライド35㎜・白黒６×７判の３種類のフィルムを使用した。遺跡全景・調査区全景・帆立貝形古墳全景・水田跡等は気球空撮で行い、カラースライド35㎜・白黒６×６判の２種類を使用した。

各遺構は、次のような方法で調査を実施し、所見等は遺構カードに記録した。

（１）古墳

墳丘は昭和40年代の区画整理時あるいはそれ以前にすべて削平されており、埋葬施設も遺存している可能性は低いと考えられた。調査対象は周溝部分が中心であり、周溝の土層埋没状態・遺物の出土状態や古墳の規模・形状等の観察・記録を行った。

基本的に周溝部に４か所のサブトレンチを設定して掘り下げ、周溝の形状・埋没土層の状態を把握した後、全体を掘り下げた。16号古墳のように周溝をそのまま浅間Ｂ軽石下水田跡に利用しているものについては、水田跡の調査を先行させた。



第５図　グリッド地区分割図

当初、出土遺物は平板・レベルを用いて全点の出土位置を記録していたが、大量の出土遺物を記録するのに多大な日数を要し、調査工程に遅れが生じていた。調査期間の関係もあり、効率性を重視した調査方法を取らざるを得なかったため、効率的でなおかつ遺物出土状態を把握できる方法としてブロック採集を取り入れることにした。ブロック採集は10ｍ×10ｍの公共座標に基づいて設定したグリッドを、２ｍ×２ｍ・25地区（ａ～ｙ）に分割（第５図）して行い、出土地点は「Ｋ13ａ」のように記した。ただし、形象埴輪・土製品・須恵器・土師器等や原位置をとどめていると判断された遺物は、出土地点を記録した。

遺構図面は、基本的に土層図・断面図・遺物分布図を1/20縮尺、平面図を1/40・1/50縮尺で作成した。数基の古墳については墳丘部にサブトレンチを入れ埋葬施設の検出に努めたが、いずれの古墳からも埋葬施設は検出されなかった。なお、周溝内のＦＡ層についてはテフラ分析を行った（第５章第１節）。

（２）方形周溝墓

７基検出されたが、いずれも埋葬施設は遺存していなかった。調査は、古墳と同様に周溝の土層埋没状態・遺物の出土状態、規模・形状等の観察・記録を行うこととした。

遺構図面は、基本的に土層図・断面図・遺物分布図を1/20縮尺、平面図を1/40縮尺で作成した。

（３）住居跡

遺構の埋没状態・構築状態、遺物出土状態、内部施設の状態を観察・記録した。

遺構の掘り下げは、遺構中軸線に埋没土層観察用ベルトを十字に設定し、ベルトに沿ってサブトレンチを掘り下げ、埋没土層の状態・床面までの深さをある程度把握した上で行った。また、貼り床を施している住

居跡については掘り方調査を行った。遺構は基本的に縦・横４地区の16分割（ａ～ｐ）して掘り下げた。遺物出土状態の記録は、原位置をとどめていると判断されるもの・完形品に近いもの・石製品等は、図上記録・写真撮影を行い、埋没土中の小破片については上記16分割地区によりブロック採集した。

炉は、焼土・炭化材・灰層の分布及び堆積状態に注意しながら４分割して掘り下げた。

カマドは、掛け口の状態に注意して調査したが、カマド天井部はすべて崩落しており、明確にすることはできなかった。基本的には焼土・炭化材・灰層の分布及び堆積状態に注意しながら４分割して掘り下げ、焚き口・燃焼部・煙道等の状態が把握できるように調査を行った。カマド袖が遺存しているものについては断ち割りを行い、カマド構築状態の把握に努めた。

貯蔵穴は半截して掘り下げた。柱穴は柱痕検出のため床面から数cm掘り下げ、柱痕の確認できたものは記録し、確認できなかったものは丸掘りした。

遺構図面は、土層図・断面図・遺物分布図・平面図・掘り方図を1/20縮尺、炉・カマドを1/10縮尺で作成した。

（４）掘立柱建物跡

柱痕検出のため確認面から数cm掘り下げ、柱痕の確認できたものは記録し、確認できなかったものは丸掘りした。

時期判断が困難な遺構であるが、住居跡等の遺構分布状況との比較・埋没土層の特徴（含まれている火山軽石等）などから可能性が高いと思われる時期を判断し、判断できないものについては時期不明とした。

遺構図面は、土層図・断面図・平面図・掘り方平面図を1/20縮尺で作成した。

なお、３号掘立柱建物跡から出土した炭化稲については種実同定を行った（第５章第２節）。

（５）土坑・井戸

土坑は、基本的に半截して掘り下げ、埋没土層の状態を観察した後に完掘した。井戸は、湧水するため埋没土層の特徴に注意し、適宜ポンプ排水しながら丸掘りした。

時期決定に有効な遺物が出土していない遺構については、他の遺構との切合い関係・埋没土層の特徴などから可能性が高いと思われる時期を判断し、判断できないものについては時期不明とした。

遺構図面は、土層図・断面図・遺物分布図・平面図を1/20縮尺で作成した。

（６）道路状遺構

10区で検出された道路状遺構は、遺構との切合い関係から構築時期・廃絶時期が捉えられるように調査を進めた。また、硬化面やその他の痕跡があるかどうか調査したが、確認できなかった。

遺構図面は、土層図・断面図を1/20縮尺、平面図を1/40縮尺で作成した。

（７）溝・館跡堀

掘り下げは基本的に人力で行ったが、一部機械力を用いている。

時期決定に有効な遺物が出土していない遺構については、他の遺構との切合い関係・埋没土層の特徴などから可能性が高いと思われる時期を判断し、判断できないものについては時期不明とした。

遺構図面は、土層図・断面図を1/20縮尺、平面図を1/40縮尺で作成した。

なお、古墳時代前期の溝に堆積した浅間Ｃ軽石についてはテフラ分析を行った（第５章第１節）。

（８）浅間Ｂ軽石下水田跡

人力にて浅間Ｂ軽石層を除去し、畦畔・水口・足跡・水路等の検出に努めた。

遺構図面は、１区は写真測量で作成したが、その他の地区は平板測量で行い、５cmコンタラインを入れた。

平面図は1/40縮尺、土層図は調査区壁面を利用し1/20縮尺とした。

なお、部分的にサブトレンチを設定し、下層の水田跡の有無を調査したが、ＦＰ・ＦＡ・浅間Ｃ軽石下等の水田面は確認されなかった。

（９）その他の遺構

上記の他に、配石墓・集石・畝状遺構・ピット群・河川跡・竪穴等の遺構を調査している。各遺構は人力で掘り下げたが、河川跡の掘り下げには機械力を用いた。

遺構図面は、各遺構の性格・規模に応じた縮尺で作成した。

また、縄文土器・石器等の遺構外出土遺物は、グリッドを明記して取り上げた。

発掘調査の経過概要は下記の通り。

平成４年（1992）

12月　上旬：７日、調査開始。南側調査区表土除去。

中旬：２区の表土除去。１・２号古墳の調査を進める。

下旬：２区の表土除去。古墳・方形周溝墓数基を確認する。

平成５年（1993）

１月　中旬：３号古墳、１号溝の調査。１区表土除去、浅間Ｂ軽石下水田跡（以下Ｂ下水田跡）が広範に展開する。

下旬：方形周溝墓の調査。１区表土除去。２号方形周溝墓より弥生時代後期の壺が出土した。

２月　上旬：４号古墳等の調査。１区表土除去。

中旬：12号・13号古墳の調査。３区表土除去。

下旬：13号古墳調査。３区表土除去を行う。

３月　上旬：１区Ｂ下水田跡調査を行う。

中旬：１区Ｂ下水田跡調査を行う。

下旬：13号古墳等の調査。24日、16号古墳が道路にかかっているため、道路を取り壊して調査することになった。

４月　上旬：９日、１区南側のＢ下水田跡下層の状態をトレンチを入れて調査するが、遺構は検出されなかった。

中旬：13・16・20・21号古墳及び２区Ｂ下水田跡の調査。並行して５区の表土除去。

下旬：帆立貝形古墳の16号古墳周溝はＢ下水田に利用されていることが判明。

1992年12月16日　１号古墳の調査

1993年３月９日　１区Ｂ下水田跡の調査

1993年４月７日　13号古墳の調査

5月　上旬：16・21号古墳の調査。並行して11区の表土除去を行うが遺構は確認されず。

中旬：16・21号古墳及び14号溝の調査。14号溝は中世館の堀と想定されるもので、14日に溝底面から板碑片（元弘３年銘）が出土した。

下旬：16・25号古墳及び２区水田跡の調査。29日に１・２・３区の空撮を行う。

6月　上旬：10・11・12・17・23・24・26号古墳の調査。

中旬：古墳・溝・３区平安時代住居跡・８号住居跡の調査。８号住居跡は16号古墳墳丘下に位置する古墳時代前期の遺構で火災に遭っている。

下旬：古墳・溝・８号住居跡の調査。28日より７・８区の表土除去を開始する。

7月　上旬：5・7・8・9・15・22号古墳・８号住居跡・１号溝の調査。雨天が多かった。

中旬：5・7・8・9・15・22号古墳・溝・掘立柱建物跡の調査。雨天が多く溝の調査に苦労する。

下旬：溝・住居跡・方形周溝墓・８区水田跡の調査を進める。

8月　上旬：２～４区及び７・８区の遺構調査。２日より９区の表土除去。４日に空撮。

中旬：11日に古墳時代前期と推測される３号掘立柱建物跡柱穴から炭化稲大量出土。

下旬：2・3・4・5・7・8区の遺構調査を進める。

9月　上旬：2・3区の遺構及び７区Ｂ下水田跡の調査を進める。並行して10区の表土除去。

中旬：2・3・4・5・9区の遺構調査を進める。

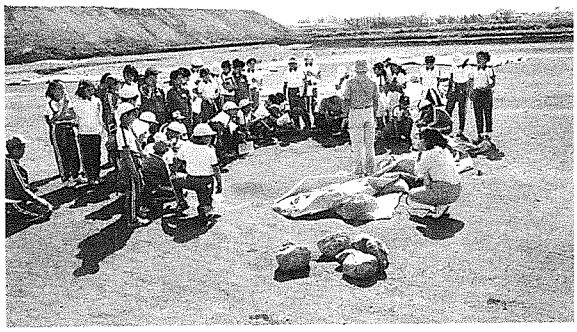
下旬：2・3・4・5・7・9区の遺構調査を進め、22日に２区の調査終了。並行して６・10区の表土除去を行う。

10月　上旬：3・5・7・9区遺構調査。6・10区表土除去。

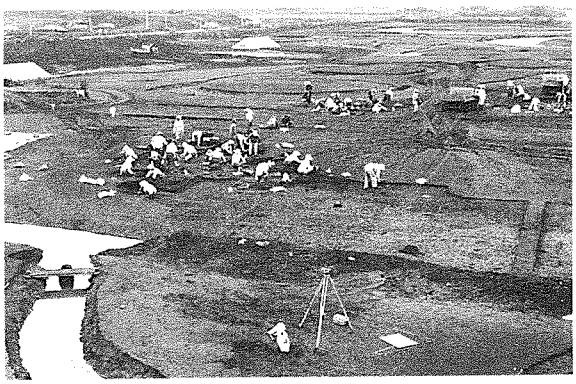
中旬：３・５・９区の遺構調査。６・10区表土除去。13日に３区の調査を終了する。

下旬：5・6・9・10区の遺構調査及び6・10区の表土除去。28日に5～10区の空撮を行う。

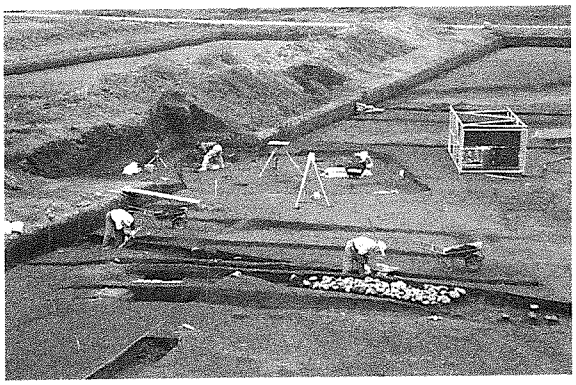
1993年５月８日　16号古墳の調査



1993年５月21日　大類南小学校遺跡見学会



1993年７月８日　８号古墳の調査



1993年10月16日　９区の遺構調査

11月　上旬：10区58号溝を中心に調査を進める。同溝からは、古墳時代前期の遺物が大量に出土している。５日に５区の調査を10日に７区の調査を終了する。

中旬：10区の住居跡を中心に調査を進める。

下旬：６区21号古墳及び９・10区住居跡を中心に調査を進める。

12月　上旬：９・10区の住居跡・溝等の調査。10区北西部に位置する63号溝から古墳時代中期の遺物が多量に出土している。

中旬：９・10区の住居跡・溝等の調査。11日木下良先生が来跡し、10区の道路状遺構について指導していただく。20日に９区の調査を終了する。

下旬：６・10区の住居跡・溝・掘立柱建物跡を中心に調査を進める。21日より６区北側部分の表土除去を開始する。

平成６年（1994）

１月　上旬：６区21号古墳及び10区住居跡を中心に調査を進める。６日より21号墳墳丘部にトレンチを設定して調査したが埋葬施設は検出されなかった。

中旬：6区21号古墳・Ｂ下水田跡及び10区住居跡・調整地地区の調査。20日に6・10区空撮。同日、調整地地区の調査終了。

下旬：６区Ｂ下水田跡・住居跡及び10区住居跡・溝、５・11区拡張部分の調査。

２月　上旬：6・10区及び5・11区拡張部分の調査を進める。10区南側から縄文時代中期後半の深鉢が出土し、周囲を調査したが、明瞭な遺構範囲は捉えられなかった。

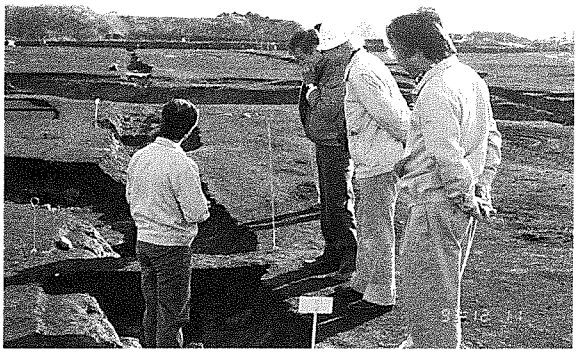
中旬：6・10区及び5・11区拡張部分の調査。

下旬：6・10区及び5・11区拡張部分の調査。

３月　上旬：6・10区及び5・11区拡張部分の調査を進め、10区・11区拡張部分の調査終了。

中旬：17日に５区拡張部分と12区の調査を終了する。

下旬：６区の遺構調査。同地区は、古墳時代前期～後期の遺構が濃密に分布している。25日に同地区の調査を終了する。



1993年12月11日　木下先生来跡

1994年２月23日　13区の遺構調査

４月　上旬：先月期まで現地事務所が建っていた地区（13区）を調査するため、事務所を移動する。

中旬：14日より13区の表土除去、20日より遺構調査を開始する。

下旬：Ｂ下水田跡・土坑・溝等の調査。

５月　上旬：住居跡・土坑等の調査を進める。

中旬：18日にc10グリッドから樽式土器片と磨製石鏃が出土したが、遺構は確認されなかった。

下旬：トレンチ調査により、Ｂ下水田跡の下層に10区道路状遺構に連続する溝を確認した。30日に空撮を行う。

６月　上旬：掘立柱建物跡等の調査。７日に高崎市教育委員会の調査終了確認。

中旬：残務整理を行い、15日をもって現地における発掘調査の全工程を終了する。

また、発掘調査中に下記の説明会・見学会・展示会を開催している。

①平成５年４月15日　大類歴史研究会遺跡見学会
②　　５月21日　高崎市立大類南小学校児童遺跡見学会（６年生・53人）
③　　５月25日　高崎市立大類南小学教職員遺跡見学会
④　　６月17日　高崎市立大類中学校生徒遺跡見学会（３年生・30人）
⑤　　７月31日　第１回現地説明会（～８月１日：南側調査区・参加者395人）
⑥　　12月18日　第２回現地説明会（～12月19日：北側調査区・参加者244人）
⑦　　12月20日　江戸川女子短期大学考古学実習
⑧平成６年３月12日　高崎市観音塚考古資料館　－春のミニ企画展－
『高崎市話題の遺跡展　－大類情報団地遺跡の調査から－』（～３月27日）

第２節　整理調査

本遺跡は、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中・近世の複合遺跡であり、遺構の内容も多岐にわたっている。整理調査は、調査時の所見・出土遺物の再検討などを通して遺構の時期を判断し、各時代ごとに遺跡の全体像を明らかにすることを主眼に行った。

時期区分は、便宜上①縄文時代②弥生時代・古墳時代(1)　③古墳時代(2)　④奈良・平安時代⑤中・近世に大別し、本書ではこの順に掲載してある。古墳時代(1)は主に前期を、同じく古墳時代(2)は中期・後期・終末期を対象としているが、明確な基準を設けての区分ではない。また、７世紀代の古墳は古墳時代(2)で扱っているのに、７世紀代の遺物を奈良・平安時代に掲載するなどやや曖昧な部分がある。近代の遺構・遺物は中・近世に含めている。時期判断できなかった遺構は時期不明の遺構として掲載した。

調査資料は次のように整理した。

遺物　①水洗い・注記

すべての出土遺物について水洗い・注記を行った。注記には下記の略号を使用し、遺跡番号－遺構略号－遺構番号－遺物番号の順に記した。注記にはインクジェットプリンタを用いた。

高崎情報団地遺跡……217　　古墳……ＳＺ　　周溝墓……ＳＹ　　住居跡……ＳＩ
土坑……ＳＫ　　溝……ＳＤ　　河川跡……ＳＲ　　掘立柱建物跡……ＳＢ　　畝状遺構……ＳＮ
竪穴……ＳＶ　　水田……ＳＬ　　大畦畔……ＳＦ　　畦畔……ＳＪ　　井戸……ＳＥ
ピット……ＳＣ　　集石……ＳＧ　　配石……ＳＨ　　攪乱……ＳＳ　　グリッド……Ｇ

②接合・復元

接合は基本的にセメダインＣを用い、可能な限り復元を行った。復元には、必要に応じてエポキシ樹脂を用いた。

③写真撮影

報告書掲載遺物すべてを写真撮影した。基本的に大型カメラで撮影し、白黒６×７判のフィルムを用いた。また、一部の遺物はカラー35㎜・白黒35㎜でも撮影してある。

遺物写真アルバムは36冊にのぼったため、検索の便宜を図る目的で遺物写真台帳を作成した。

④実測・トレース

報告書掲載遺物について実測・トレースを行った。

実測は、基本的に原寸で行い、大形壺１点のみ1/2で行った。実測の表現方法・展開方法は慣例

によった。また、縄文土器片、円筒埴輪の内・外面及び底部、甕底部の木葉痕、坏底部の糸切り痕及びヘラ切り痕などは拓本で表現した。図面は、時期別・遺構別にアルタートケースに収納した。

⑤遺物の観察

報告書掲載遺物について観察表を作成し、器種、計測値、成・整形の特徴、色調、焼成、胎土や石器石材などを記した。

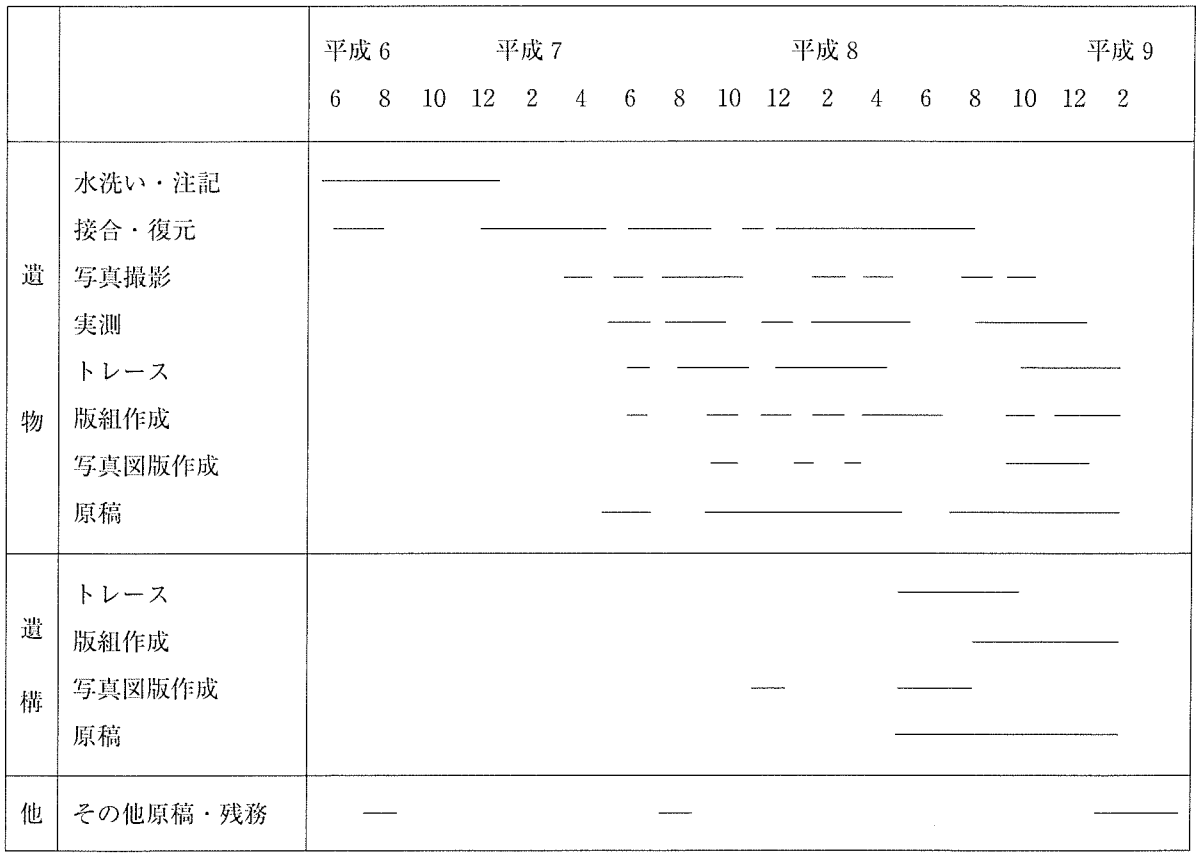
⑥遺物の梱包・収納

上記の整理過程を終了した遺物は随時、梱包・収納をしていった。個々の遺物をミナパックなどを用いて梱包し、遺物の大小に応じて遺物収納箱・遺物収納用ダンボール箱に収納した。それぞれの箱には、遺跡名・遺構名を明記し、報告書掲載遺物を収納した箱には赤ラインを引いて区別してある。また、大形壺・朝顔形円筒埴輪の２点については木製箱を製作して収納した。

遺構　①図面・写真

各遺構図面を再検討した上で、報告書に掲載するものについてトレースを行った。図面は時期別・遺構別に区分しアルタートケースに収納した。また、全体図をもとに時期別全体図を作成した。なお、発掘調査時に３号住居跡・３号・51号・80号・81号溝・11号掘立柱建物跡・55号土坑としたものを欠番とし、その他は、遺構名の変更は行っていない。遺構写真は台帳を作成した。

整理調査は、平成６年（1994）６月６日から平成９年３月31日にかけて実施した。整理調査工程の概要は下記の通りである。



第４章　遺構と遺物

第１節　概要と基本土層

（１）遺構・遺物の概要

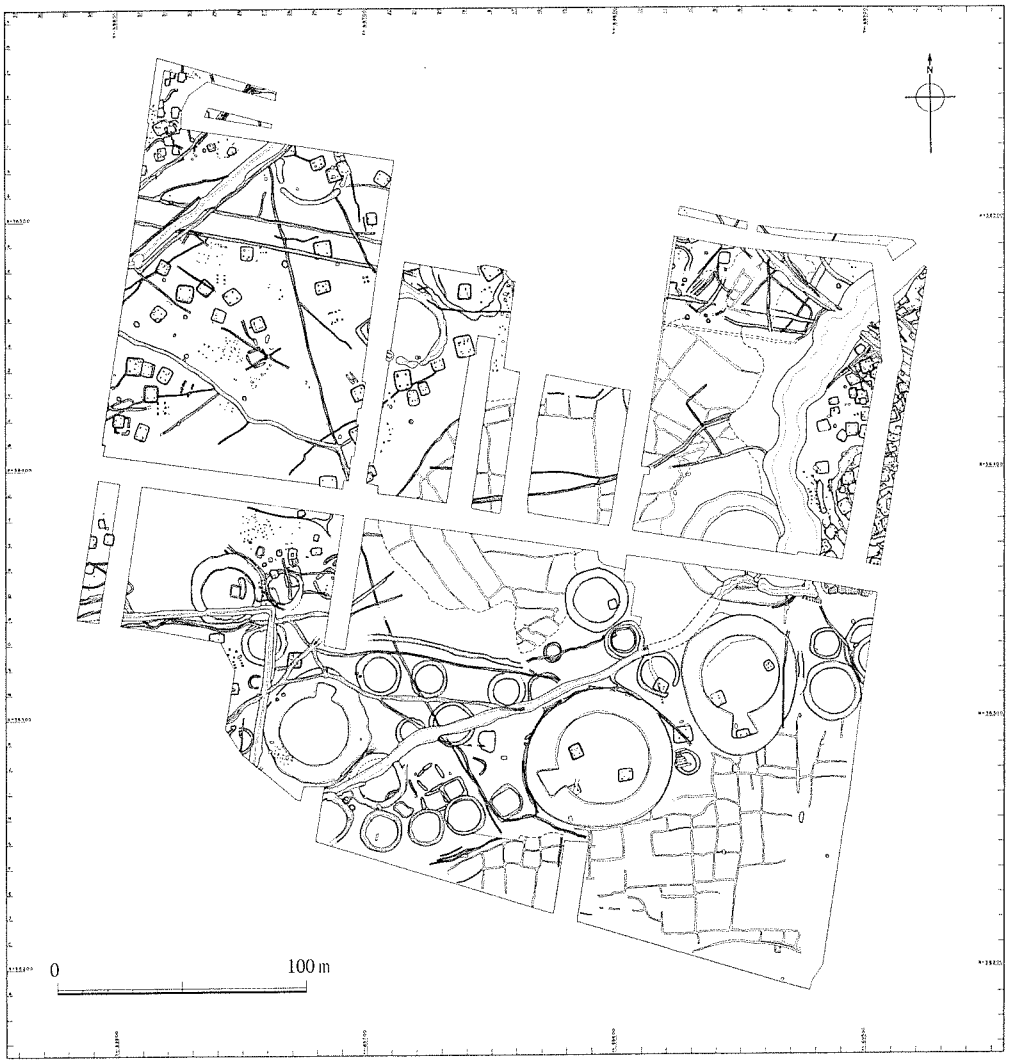
今回の調査では、縄文時代から中・近世（近代）にかけての遺構・遺物が検出されている。本遺跡地の地形は、微高地と低湿地に大別され、基本的に微高地上は方形周溝墓・古墳などの墓域や集落等の生活域として、低湿地は水田跡（生産域）として利用されていた状況がうかがえる。

縄文時代

遺物の集中する地点が数か所で確認されているが遺構は確認できなかった。遺物は、前期から晩期にかけての土器片と石器（石鏃・打製石斧・スクレイパー・磨石等）がみられる。これらの遺物の大半は、古墳の周溝や古墳時代以降の住居跡・溝などから出土したものである。

弥生時代・古墳時代(1)

弥生時代後期の方形周溝墓が７基検出されている。２区南側のＩ20グリッド周辺には４基が集中する。周



第６図　遺跡全体図（Ｓ＝１：3,000）

溝の四隅が切れるタイプ、全周するタイプ、３区Ｐ24グリッドに位置する６号方形周溝墓のように周溝の１か所（もしくは２か所）が切れるタイプがある。出土遺物は壺類が中心である。

この他、本時期と判断した遺構は住居跡64軒、掘立柱建物跡13棟、土坑11基、溝10条である。

古墳時代前期の住居跡（弥生時代後期の住居跡数軒を含む）は、遺跡地中央部の低湿地を取り巻くように大きな環状を呈して分布している。16号古墳の墳丘下にあたる位置で検出された８号住居跡は焼失住居で、床面の状態・屋根材の状態が推定できた。また、掘立柱建物跡がこれら住居跡と同様の分布状況を示している。この内、３号掘立柱建物跡の柱穴からは炭化した稲が大量に出土している。

土坑も住居跡とほぼ同様の分布状況にあり、比較的まとまって遺物が出土する傾向がみられる。Ｙ３グリッドに位置する83号土坑からは弥生時代後期頃の棺と思われる大形壺が出土している。

58号溝は10区南側を蛇行して南東流する大規模な溝で、溝内に堆積した浅間Ｃ軽石層の上層から古墳時代前期の土器が大量に出土している。同溝は２区北西端部の36号溝と同一の溝と考えられ、低湿地に流れ込むようである。流路等から判断して灌漑水路と考えられ、水田面は確認されなかったものの本時期においても水田経営が行われていた蓋然性は高いと思われる。

古墳時代(2)

古墳時代中・後期の遺構及び終末期の古墳を本時期とし、古墳33基、住居跡40軒、土坑10基、溝11条を調査している。

古墳は、南側調査区の微高地上に帆立貝形古墳４基を中核とする古墳群が帯状に展開している。古墳群は帆立貝形の16号古墳（全長44.9ｍ）を最大規模とし、全長32.9～40.0ｍの帆立貝形古墳、20ｍ規模の円墳及び10ｍ規模の小円墳で構成され、周溝内に堆積したＦＡ層や出土遺物（埴輪・須恵器・土師器）などから５世紀後半代～６世紀初頭に形成されたものと想定される。帆立貝形古墳からは土馬や鳥付円筒埴輪・人物付円筒埴輪などの特徴的な遺物も出土している。また、この古墳群の周縁部には６世紀中葉と考えられる古墳（18・23・28号古墳）も散在する。さらに、北側調査区には７世紀代と考えられる古墳４基（30～33号古墳）が造られている。なお、各古墳の埋葬主体部はすべて削平されていた。

本時期の住居跡は古墳群の北東方向、６区東側及び５区で検出されている。かなり濃密な遺構分布状況にあり、しかも同地区以外では本時期の住居跡は確認されていない。同時期の集落は、さらに調査区外東方へ広く展開しているものと思われる。

土坑は、土坑墓と思われるものもあるが、ほとんどが性格不明である。遺物は５世紀前半代と思われる坩等が後述する63号溝周辺の土坑から出土している。

溝のうち、２号溝－57号溝は調査区を縦断するように南東流している。同溝からは古墳時代後期の遺物が出土している。また、10区北西部に位置する63号溝は南西から北東方向へ直線的に走る溝で、溝内からは古墳時代中期（５世紀前半代）を中心とする遺物が出土している。周囲には数基の土坑の他、溝と同時期の遺構は確認されなかった。

奈良・平安時代

住居跡27軒、道路状遺構、掘立柱建物跡７棟、土坑７基、配石墓１基、溝33条、浅間Ｂ軽石下水田跡を調査している。

住居跡の分布は３か所に限定され、10区北西部・３区北東部に10数軒程度のまとまりがあり、５区で平面形状不明瞭ながら１軒を確認している。掘立柱建物跡は、３区で検出している。

道路状遺構は、10区北側で東西方向に平行して走る２条の溝を検出し、道路面の幅が９ｍ前後あることか

ら、古代の官道（東山道駅路）と判断した。他の遺構との切り合い関係から、８世紀後半代には廃絶していたと思われる。また、13区において浅間Ｂ軽石下水田跡の下層において検出した96・108号溝及び111号溝もこの道路状遺構の延長部分と考えられる。

土坑としたものの内、数基は井戸の可能性がある。

配石墓は、１区南東端のＢ６グリッドにおいて１基を確認している。同配石墓からはロクロ円柱技法による埦が出土している。

本時期の溝は、水田経営と有機的に関連するものと思われ、走行方向は低湿地部分へ向かうものが多い。これらは、古墳墳丘部を避けて構築されており、逆にいえば少なくとも本時期まで古墳の墳丘は残存していたと考えられる。

浅間Ｂ軽石下水田跡は、大別して古墳群（微高地）の北側と南側に展開している。畦畔は水田を営んだ低湿地の地形に応じてつくられているが、南側水田跡の畦畔は南北及び東西方向につくられている傾向が認められる。また、帆立貝形古墳の16号古墳周溝はそのまま水田跡に利用され、周溝外周に沿うように水路も確認されている。

中・近世

館跡、集石５基、井戸３基、土坑49基、畝状遺構２基、ピット群１、溝26条、河川跡２を調査している。

館跡は、３区において北側・東側堀を調査し、東側堀の底面から元弘３（1333）年の刻字のある板碑片を検出している。この時期には、館跡周囲の古墳墳丘は削平されていたと考えられる。

土坑の内、数基は井戸の可能性がある。また、Ｈ23グリッドに位置する41号土坑は形状からみて地下式壙の可能性が高い。また、同じくＨ23グリッドに位置する32号土坑からは滑石製鍋片が出土している。

時期不明

住居跡10軒、竪穴３基、掘立柱建物跡２棟、土坑23基、溝25条を時期不明の遺構とした。

（２）基本土層

本遺跡における基本土層の概略は第７図の通りであるが、各層は本遺跡内で一様に観察されるわけではない。全体的に、厚く堆積したＸ層が基盤となり、各遺構は同層を掘り込んでいるものが多い。また、低湿地では下層にシルト層が観察される。

Ⅱ層は、近世～近代の溝埋没土や畝状遺構を覆う状態で確認される。なお、調査区の数地点に同層の堆積が認められた。

Ⅳ層は、水田跡の上面や古墳の周溝上部に堆積しているほか、平安時代末から中世にかけての溝や井戸の埋没土として観察される。

水田面を覆う浅間Ｂ軽石は、標高80.00～80.70ｍの位置から５～10㎝程度の厚さで堆積している。

Ⅵ層は、古墳周溝や住居跡の埋没土として観察され、遺構の時期を示す一資料となっている。

Ⅷ層は、古墳時代前期の遺物が大量に出土した溝内に堆積している。

Ⅰ層：表　　土
Ⅱ層：浅 間 Ａ 軽 石 層
Ⅲ層：暗 灰 褐 色 土
Ⅳ層：浅 間 Ｂ 軽 石 層
Ⅴ層：黒 褐 色 土
Ⅵ層：Ｆ　Ａ　層
Ⅶ層：黒 褐 色 土
Ⅷ層：浅 間 Ｃ 軽 石 層
Ⅸ層：シ ル ト 層
Ⅹ層：井野川泥流堆積物層
Ⅺ層：黒 褐 色 土

第７図　基本土層概念図

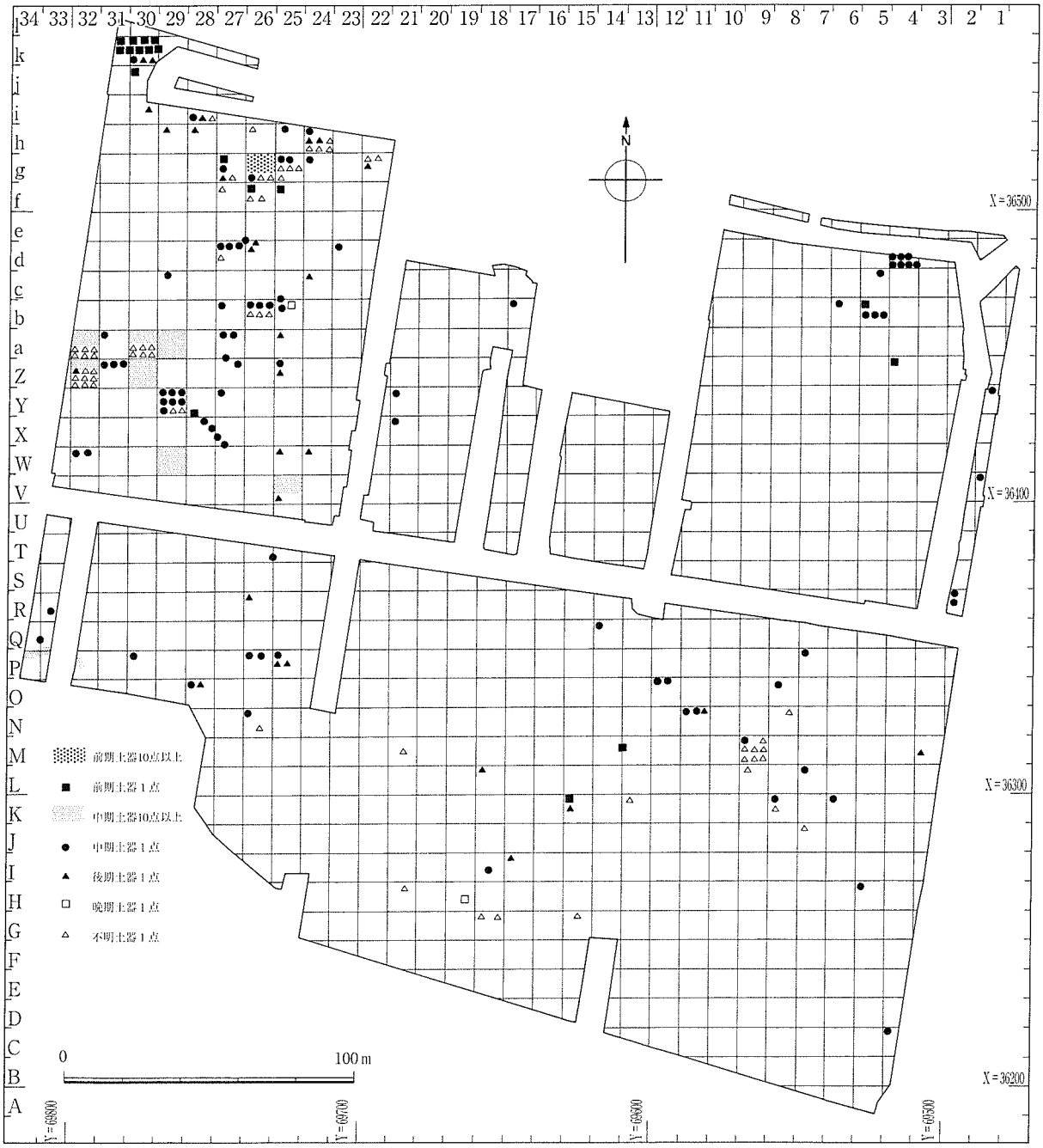
第２節　縄文時代

（１）遺構外出土遺物　（第10～15図、ＰＬ７～９、観察表Ｐ１～４）

縄文時代の遺構は先述したように確認できなかったが、住居跡・古墳の周溝・溝などの遺構に紛れ込むような状態で土器・石器が出土している。したがって、土器の分布状況（第８図）・石器の分布状況（第９図）はこれらの遺構の分布とほぼ一致している。

土器

土器は、前期中葉から晩期末葉までの342点を確認しており、前期31点・中期213点・後期29点・晩期２点・時期不明67点で圧倒的に中期に属するものが多い。なお、摩滅の激しいもの・文様の不明瞭なもの・小片等を時期不明としたが、これらも中期後半から後期前半の土器が多いようである。

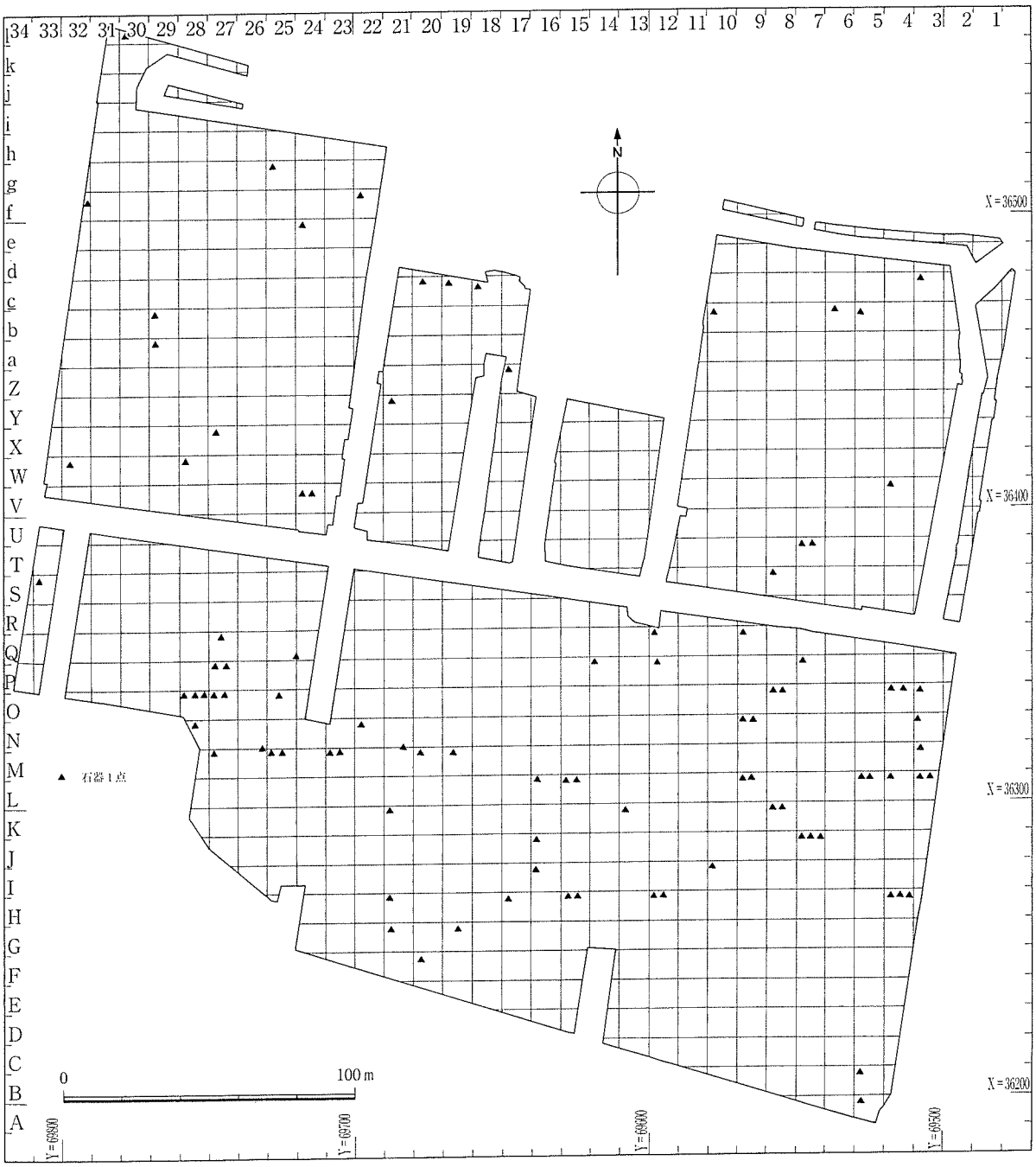


第８図　土器分布図

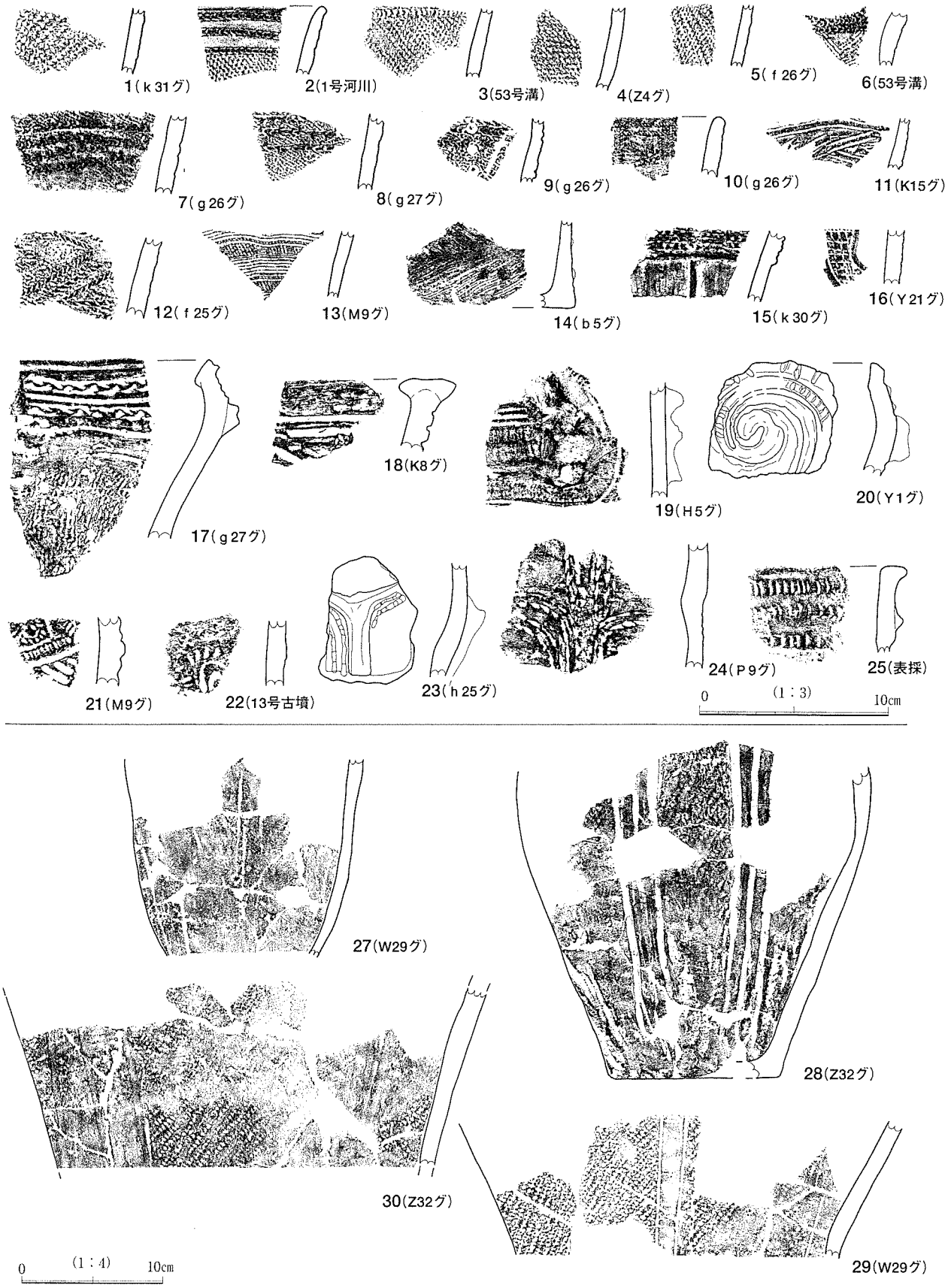
土器片10点以上が確認されたのは、Ｖ25・W29・Ｚ30・Ｚ32・ａ29・ａ30・ａ32・ｇ26・ｋ３グリッドの９地点で、10区に多く分布する傾向が認められる。この内、W29・Ｚ32グリッド（ＰＬ６）は遺物の出土状態から中期後半の遺構が存在していた可能性がある。また、晩期末葉の土器片がH19グリッド及びｂ25グリッドから出土している。

石器

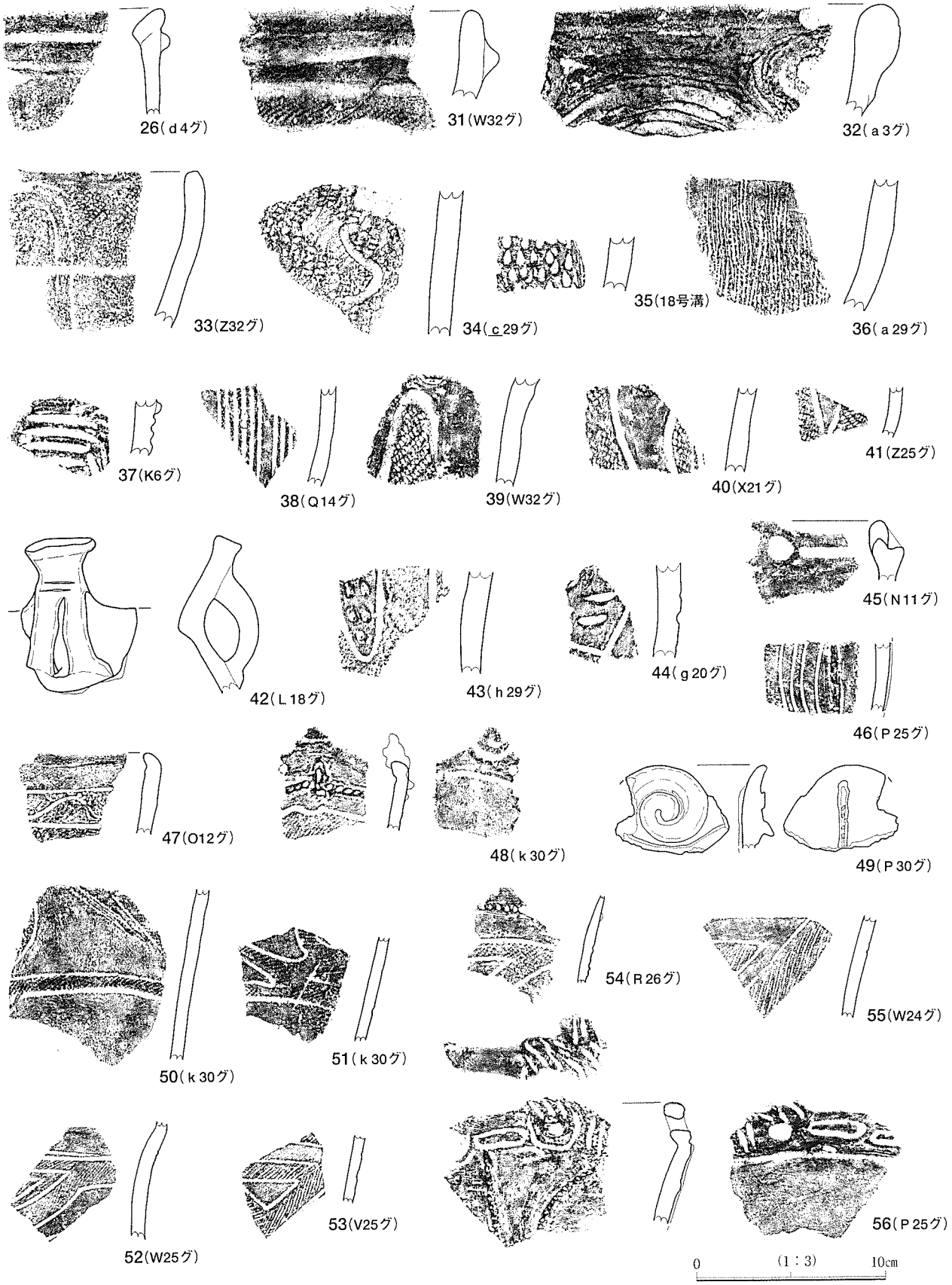
石鏃18点・打製石斧23点・スクレイパー30点・磨石３点・敲石１点・台石１点・棒状礫１点・礫器１点・残核１点・フレイク22点の計101点を確認している。石材は、頁岩58点・黒曜石17点・チャート７点・泥岩７点・安山岩６点・砂岩２点・凝灰岩２点・粘板岩２点である。石鏃は黒曜石及びチャート製、打製石斧・スクレイパーは頁岩製のものが多い。



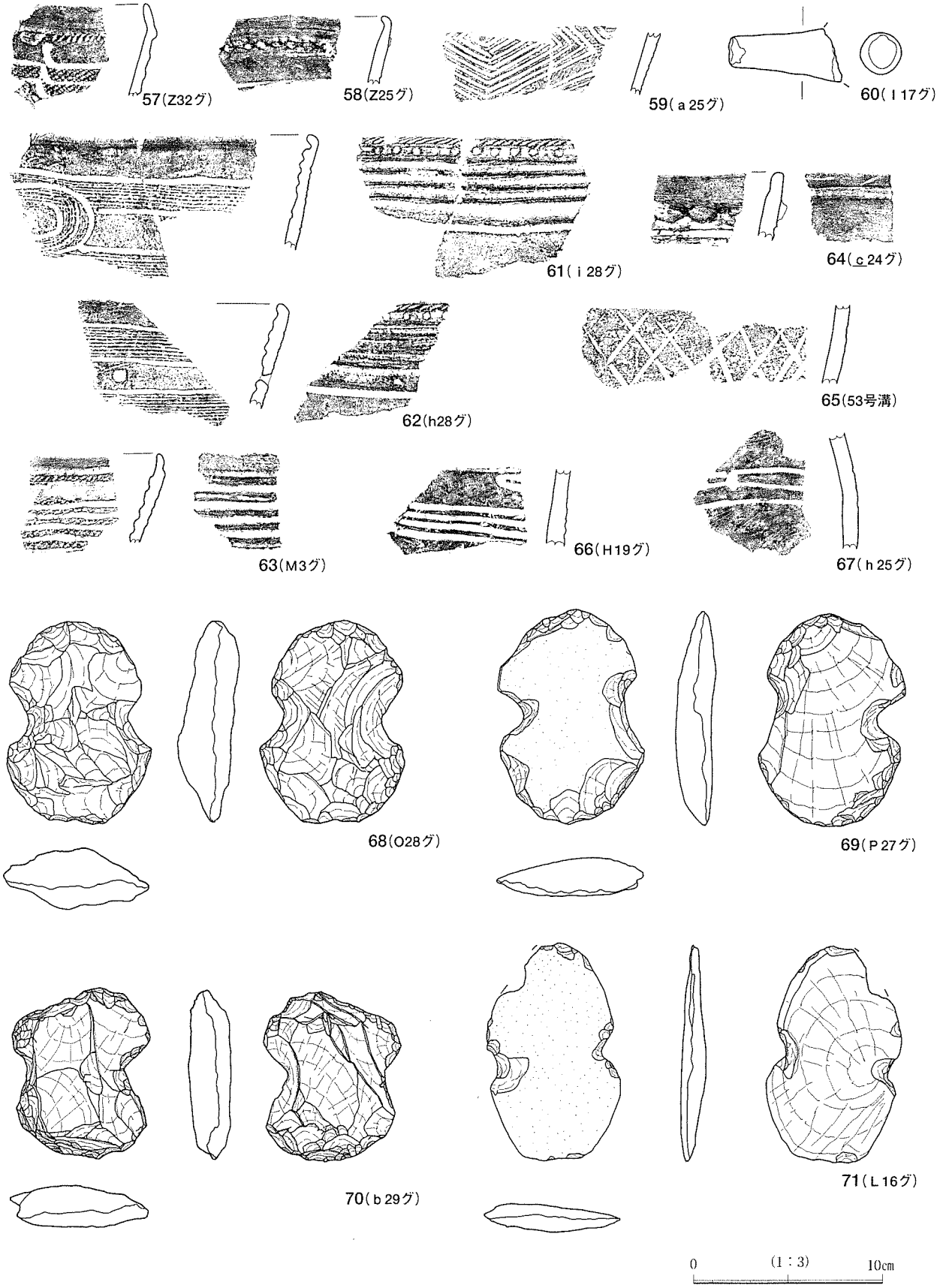
第９図　石器分布図



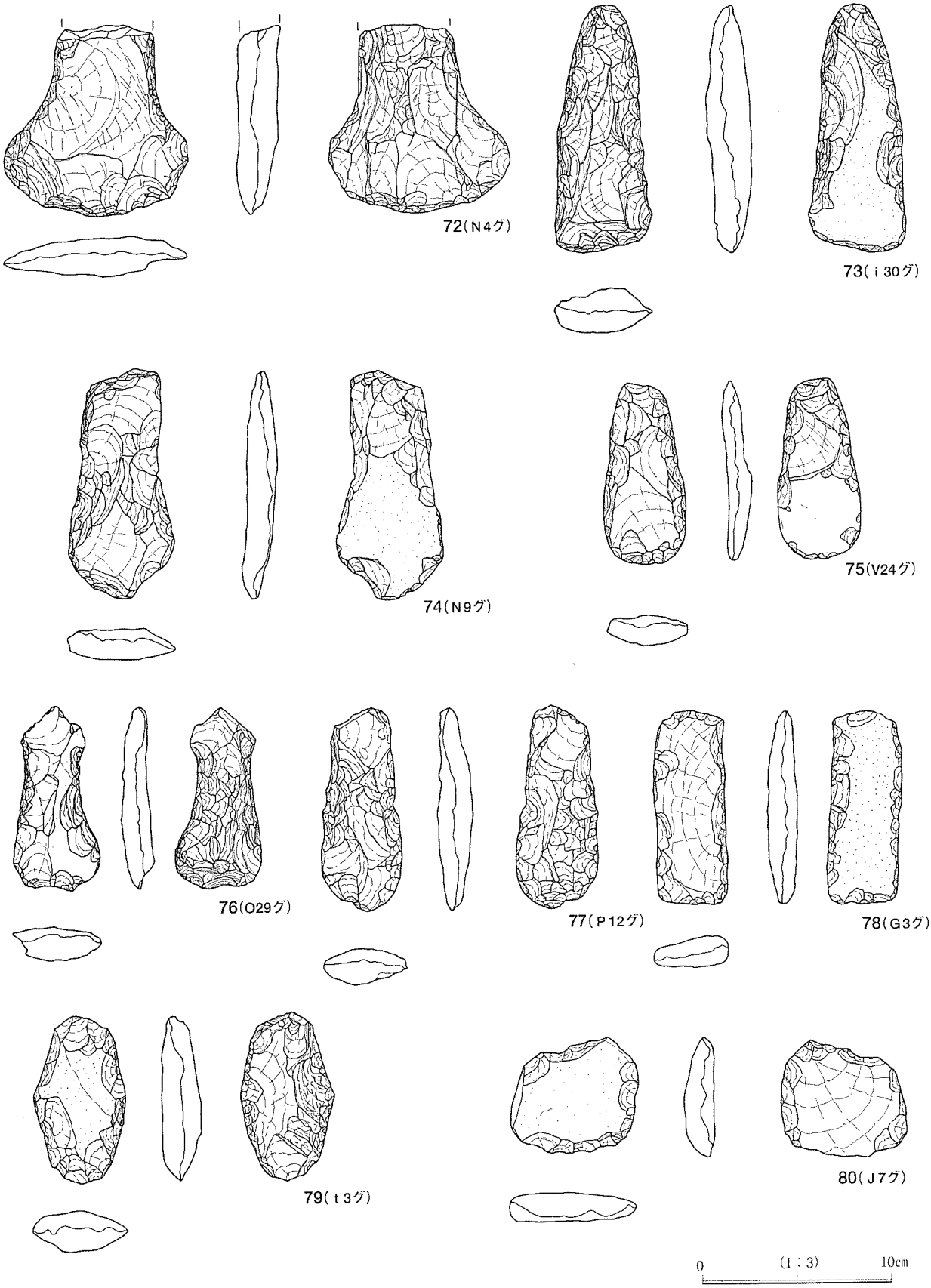
第10図　縄文時代遺構外出土遺物①



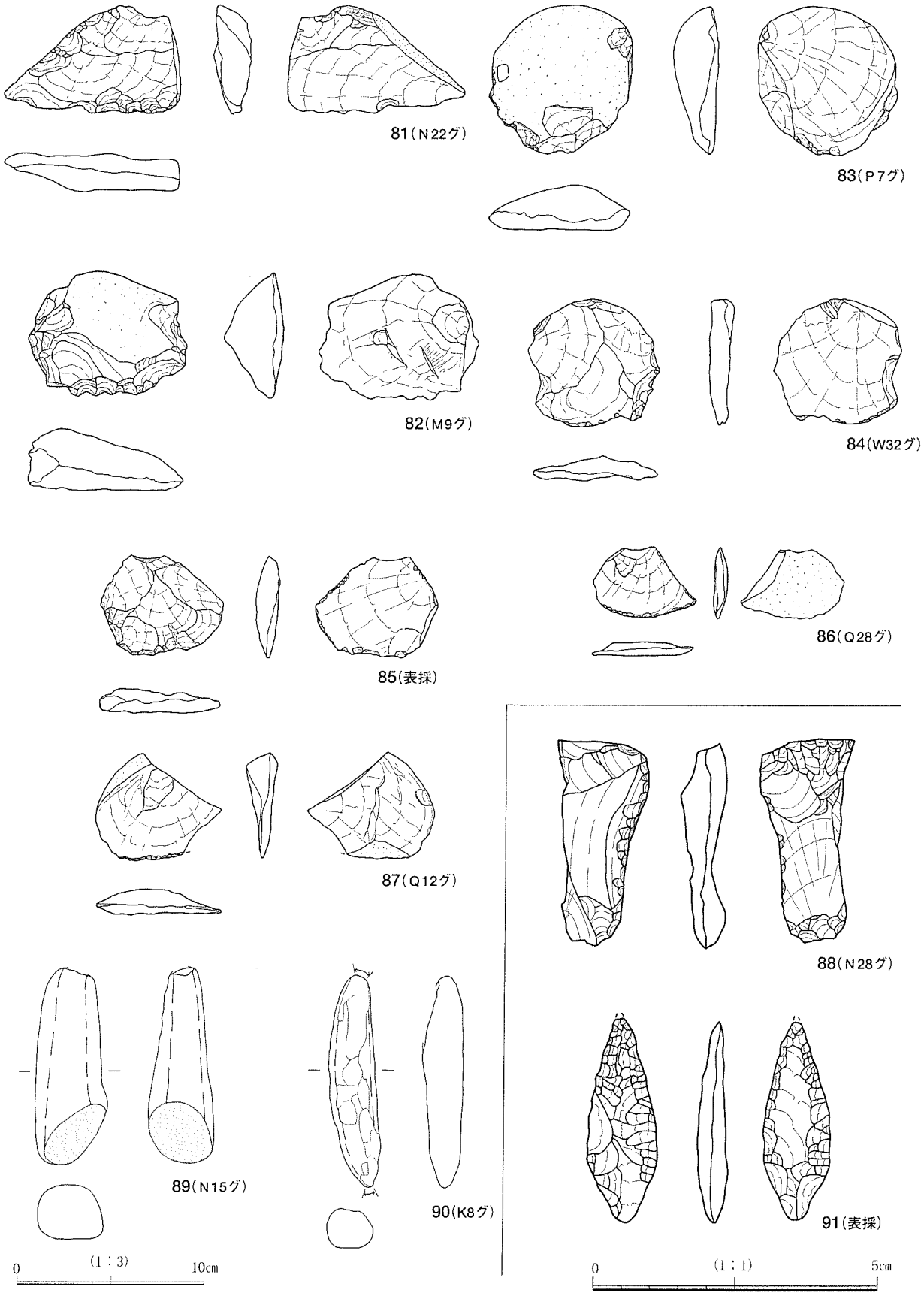
第11図　縄文時代遺構外出土遺物②



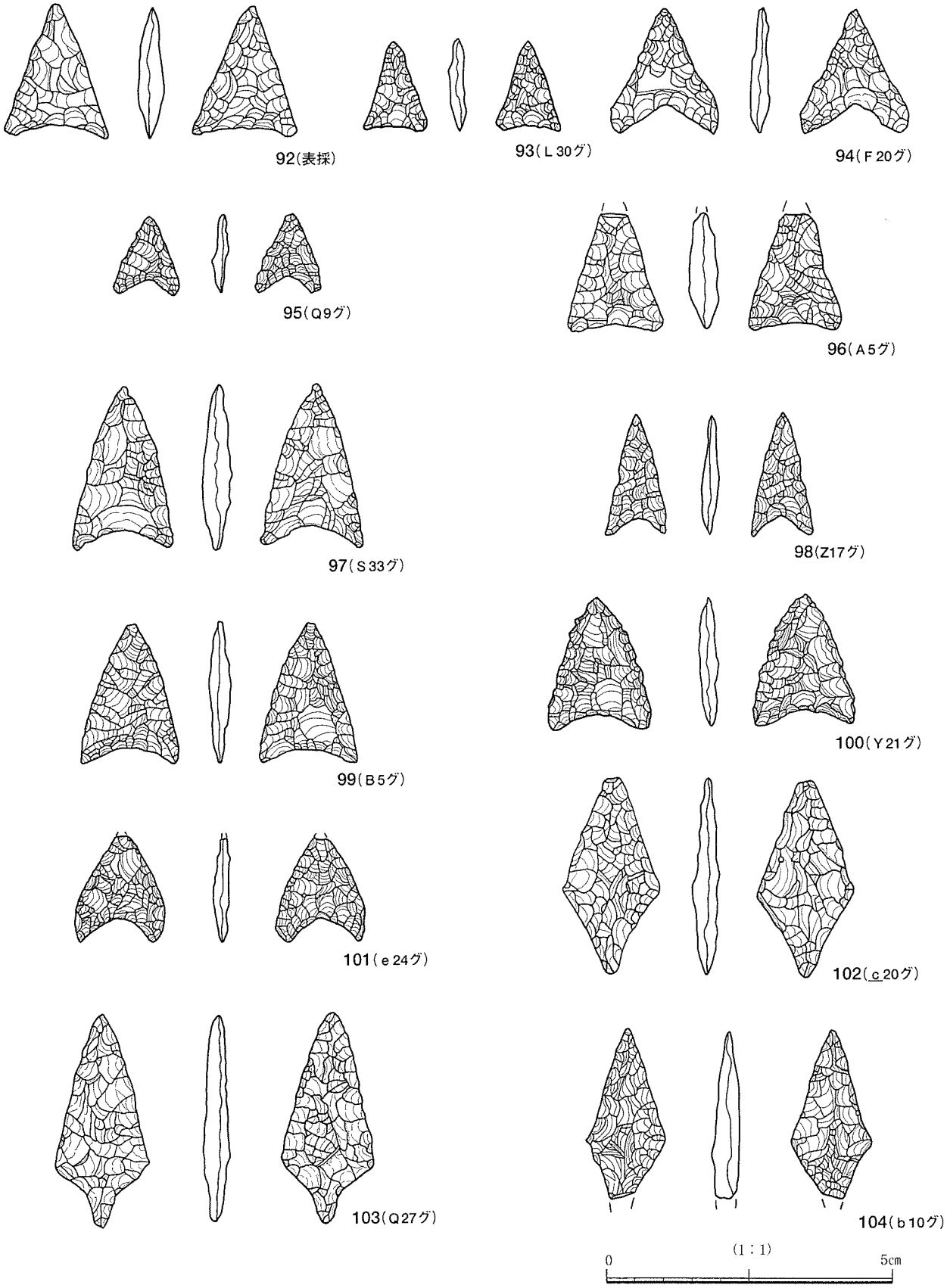
第12図　縄文時代遺構外出土遺物③



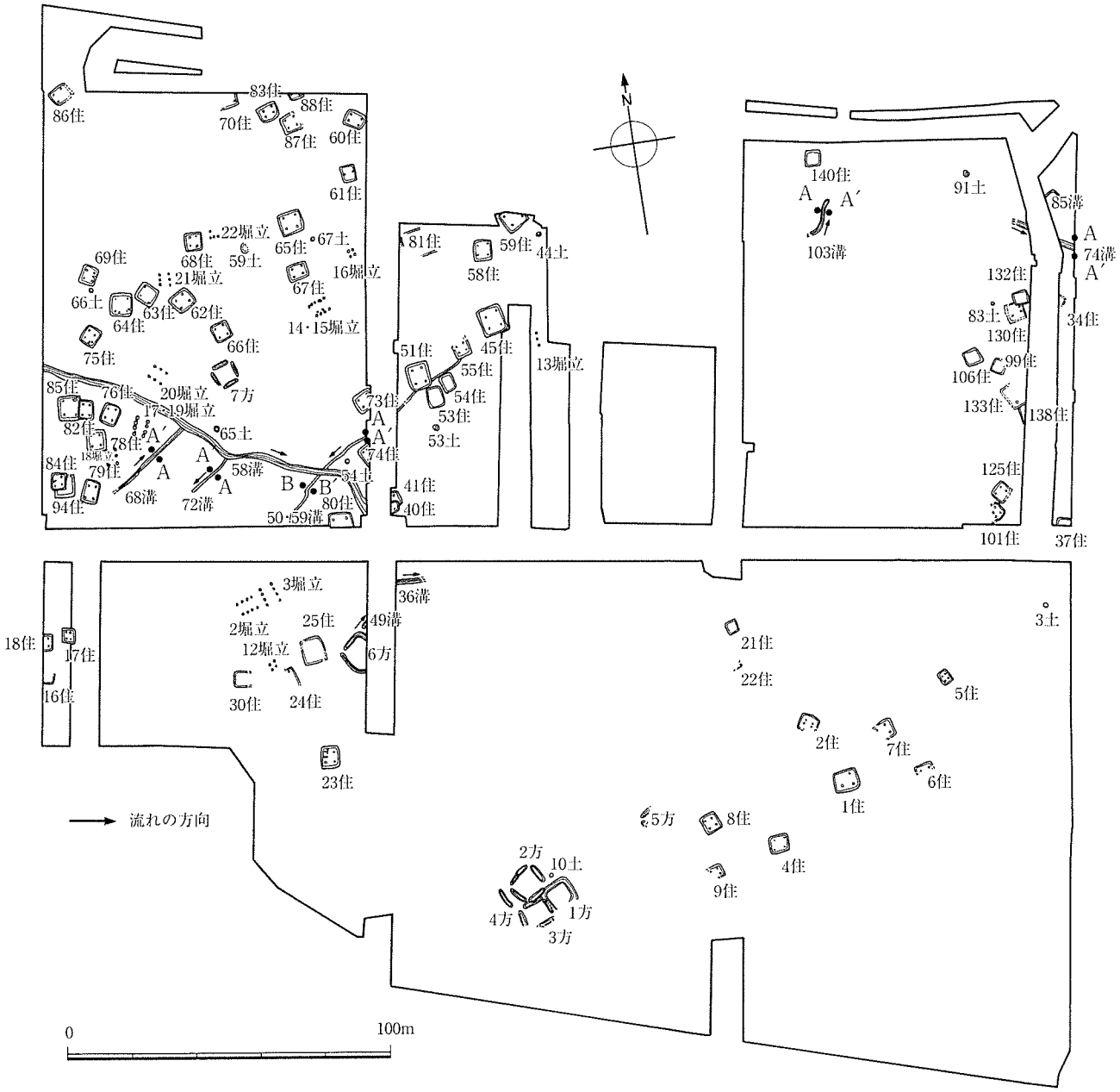
第13図　縄文時代遺構外出土遺物④



第14図　縄文時代遺構外出土遺物⑤



第15図　縄文時代遺構外出土遺物⑥



第16図　弥生時代・古墳時代(1)の遺構位置図

第３節　弥生時代・古墳時代（１）

（１）方形周溝墓

１号方形周溝墓　（遺構：第17図、ＰＬ10　遺物：第24図、ＰＬ13、観察表Ｐ５）

位置：Ｈ18～Ｉ19グリッド。重複：南側周溝を２号古墳に切られる。２号方形周溝墓の南側周溝を一部切る。形状：南側周溝を切られるが、周溝は方形状に全周するかブリッジ１か所と思われる。方向：南北軸はＮ－27°－Ｗを指向。規模：方台部・東西7.10ｍ×南北不明、周溝外側・東西9.25ｍ×南北不明。埋葬施設：方台部・周溝部ともに確認されなかった。周溝：断面Ｕ字～逆台形状。上端最大幅1.12ｍ・下端最大幅0.92ｍ。残存深度は20㎝程度で、コーナー部分がやや浅くなる。埋没土の特徴：灰白色軽石・ローム粒を含む黒褐色土。

遺物出土状態：北側周溝の中央西寄りから北西角部に集中して出土している。

遺物：いずれも弥生時代後期・樽式の壺で、胴部中位が張り頸部に櫛描簾状文と波状文、口縁端部にも波状文が施される。口縁端部は内湾する。掲載遺物２点。

２号方形周溝墓　（遺構：第19図、ＰＬ10　遺物：第24図、ＰＬ13、観察表Ｐ５）

位置：Ｉ20～Ｊ20グリッド。重複：１号方形周溝墓に切られ、３号方形周溝墓を切る。形状：四辺に溝を巡らせ、四隅が切れる。方向：南北軸はＮ－39°－Ｗを指向。規模：方台部・東西7.95ｍ×南北7.80ｍ、周溝外側・東西10.55ｍ×南北10.20ｍ。埋葬施設：方台部・周溝部ともに確認されなかった。周溝：断面Ｕ字～逆台形状。上端最大幅1.53ｍ・下端最大幅1.13ｍ。残存深度は40㎝程度で、部分的に段差がみられる。埋没土の特徴：灰白色軽石・ローム粒を含む黒褐色土。

遺物出土状態：北側周溝の北東端部及び東側周溝の北西端部に集中し、底面からやや浮いた状態で出土している。

遺物：いずれも弥生時代後期・樽式の壺で、４個体を確認している。頸部に櫛描簾状文・波状文を施すものと、ハケ目状の条痕のみのものとがある。３には胴部上半に赤色塗彩がみられる。掲載遺物３点。

３号方形周溝墓　（遺構：第18図、ＰＬ11　遺物：第25図、ＰＬ14、観察表Ｐ５）

位置：Ｈ19～Ｉ20グリッド。重複：１号・21号土坑、２号・４号古墳、１号・２号方形周溝墓に切られる。形状：四辺に溝を巡らせ、各隅は切れるが、北側周溝と東側周溝は接している。方向：南北軸はＮ－22°－Ｗを指向。規模：方台部・東西7.20ｍ×南北6.70ｍ、周溝外側・東西9.70ｍ以上×推定8.90ｍ。埋葬施設：方台部・周溝部ともに確認されなかった。周溝：断面Ｕ字状。上端最大幅1.96ｍ・下端最大幅0.90ｍ。残存深度は70㎝で、一部に段差がみられる。埋没土の特徴：ローム粒を含む黒褐色土。

遺物出土状態：東側周溝の１号方形周溝墓西側周溝と接する地点から壺が出土している。

遺物：弥生時代後期・樽式の壺で、頸部に櫛描簾状文・波状文を施している。掲載遺物１点。

４号方形周溝墓　（遺構：第20図、ＰＬ11）

位置：Ｉ21グリッド。重複：６号古墳に切られる。形状：全容は不明であり、また、南側周溝は確認されなかった。周溝は３辺の可能性があり、各隅は切れる。方向：南北軸はＮ－27°－Ｗを指向。規模：方台部・東西推定4.40ｍ×南北不明、周溝外側・東西5.80ｍ以上×南北不明。埋葬施設：確認されなかったが

東側周溝の西側に隣接して楕円形の土坑がある。同土坑は、規模1.20ｍ×0.70ｍ・深さ45㎝で底面に向かってすぼまる。土坑からは弥生時代後期の土器片及び礫が少量出土しており、数点の礫に被熱痕がみられた。**周溝**：断面Ｕ字状。上端最大幅0.83ｍ・下端最大幅0.45ｍ。残存深度は45㎝程度で、中央部が深い。**埋没土の特徴**：灰白色軽石・ローム粒を含む黒褐色土。

遺物出土状態：先述の土坑から土器片・礫が出土しているのみで、周溝部に遺物はみられなかった。

５号方形周溝墓　（遺構：第21図、ＰＬ11　遺物：第25図、ＰＬ14、観察表Ｐ５）

位置：Ｋ16グリッド。**重複**：16号古墳に切られる。**形状**：全容は不明であるが、北側周溝と西側周溝の隅にブリッジを有する。**方向**：南北軸はＮ－32°－Ｗを指向すると推定される。**規模**：不明。**埋葬施設**：確認されなかった。**周溝**：断面逆台形状。上端最大幅0.91ｍ・下端最大幅0.67ｍ。残存深度は55㎝程度で、多少の凹凸と部分的に段差がみられ、北側周溝の西寄りが低くなっている。**埋没土の特徴**：灰白色軽石・ローム粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：一段低い北側周溝の西寄りに遺物が集中する。また、西側周溝の16号古墳に切られる地点に長径40㎝及び25㎝の礫２点が出土している。

遺物：いずれも弥生時代後期・樽式の壺で、２個体以上が存在する。１・３は同一個体である。頸部に櫛描簾状文・波状文、口唇部に刻み目を施す。２の口縁部は短い。掲載遺物３点。

６号方形周溝墓　（遺構：第22図、ＰＬ11・12　遺物：第25図、ＰＬ14、観察表Ｐ５）

位置：Ｑ24グリッド。**重複**：平安時代の30号・33号溝に切られる。**形状**：全容は不明であるが、調査した部分においては周溝の北西角１か所のみが切れる。**方向**：南北軸はＮ－30°－Ｗ前後を指向。**規模**：方台部・東西8.00ｍ以上×南北不明、周溝外側東西10.00ｍ以上×南北不明。**埋葬施設**：方台部・周溝部ともに確認されなかった。**周溝**：断面Ｕ字～逆台形状。上端最大幅1.30ｍ・下端最大幅0.60ｍ。残存深度は50㎝前後で、北側周溝・西側周溝ともブリッジに向かって段差を持って浅くなる。**埋没土の特徴**：灰白色軽石・ローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土。**備考**：方台部にピットがあるが、本周溝墓との関連はないものと思われる。

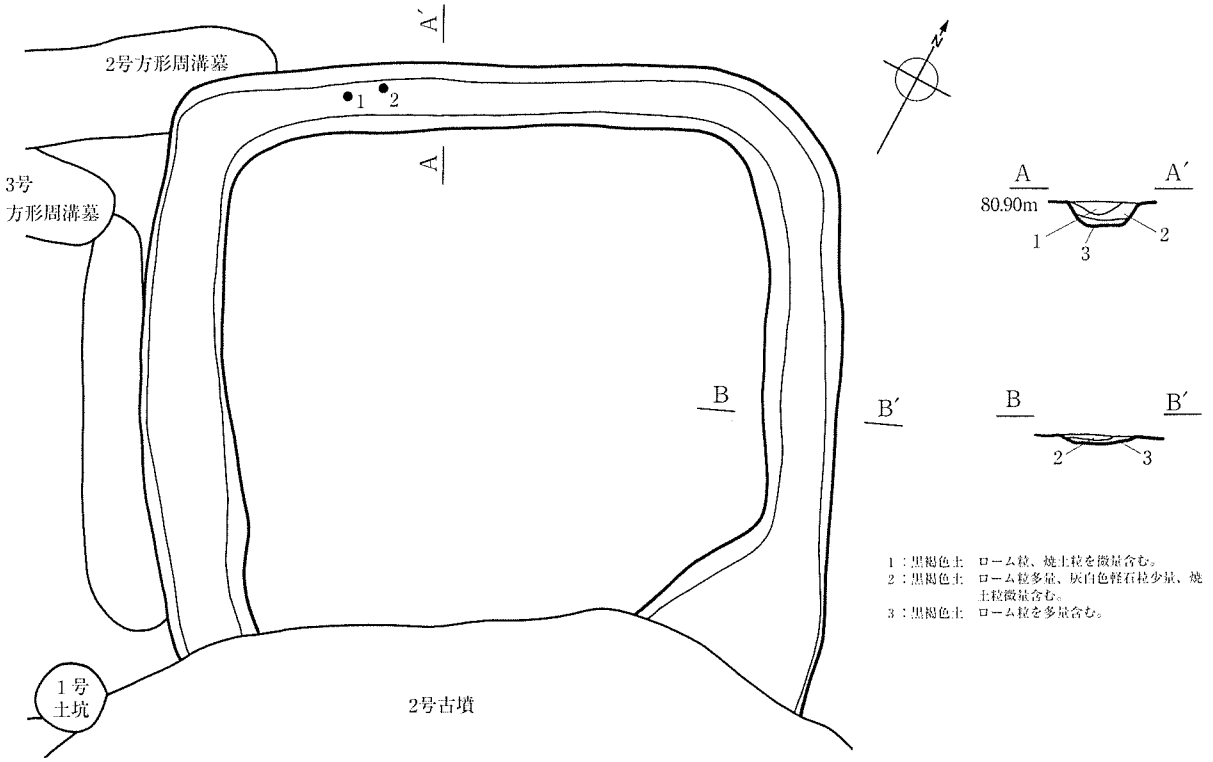
遺物出土状態：南西角部から壺が出土している。

遺物：弥生時代後期・樽式の壺で、調査区内で確認したのは１個体のみである。頸部に櫛描簾状文・波状文を施している。掲載遺物１点。

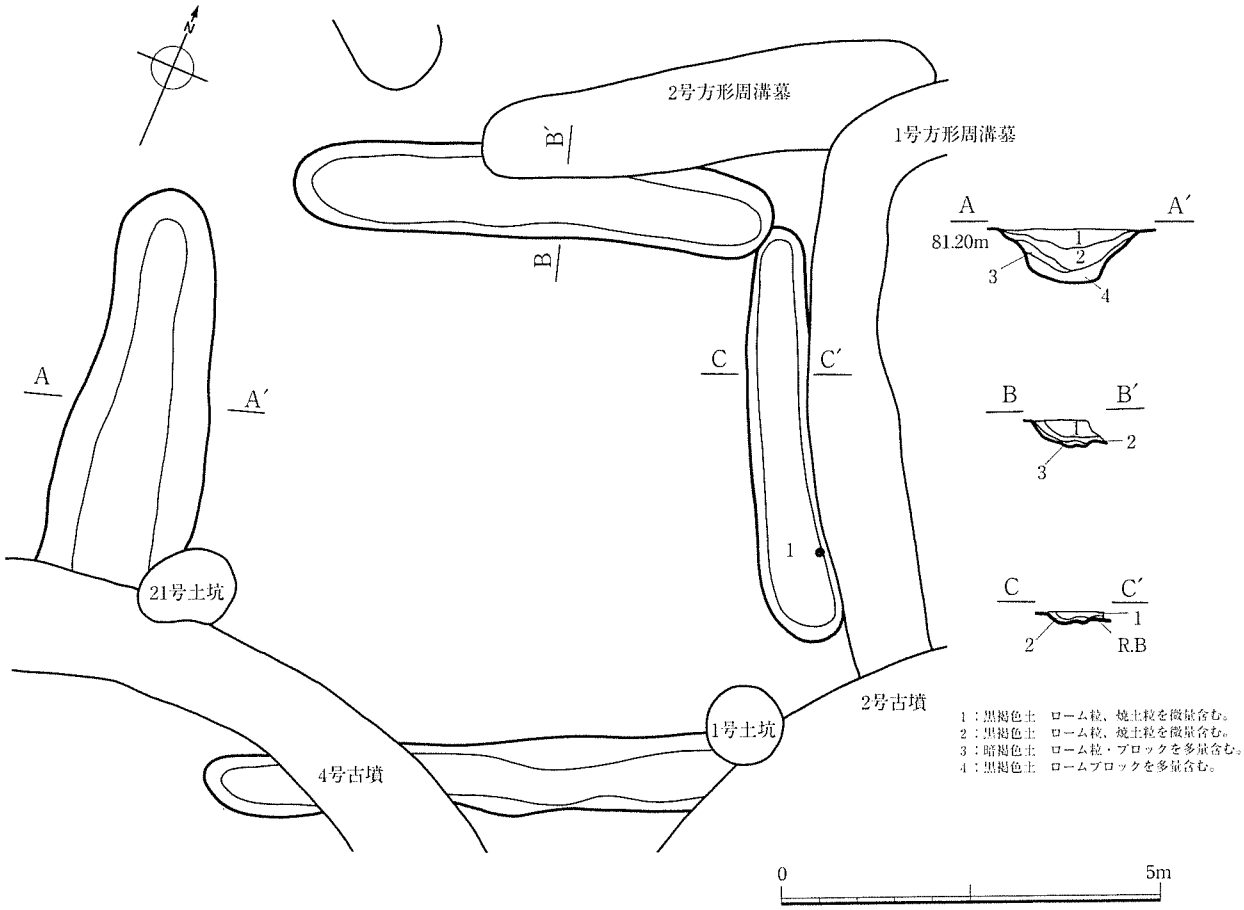
７号方形周溝墓　（遺構：第23図、ＰＬ12）

位置：Ｚ27グリッド。**重複**：61号・62号溝に切られる。**形状**：四辺に溝を巡らせ、四隅が切れる。**方向**：南北軸はＮ－23°－Ｗを指向する。**規模**：方台部・東西6.00ｍ×南北5.55ｍ、周溝外側・東西7.45ｍ×南北7.10ｍ。**埋葬施設**：方台部・周溝部とも確認されなかった。**周溝**：断面Ｕ字状。上端最大幅0.86ｍ・下端最大幅0.59ｍ。残存深度は20㎝程度。**埋没土の特徴**：ローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土。

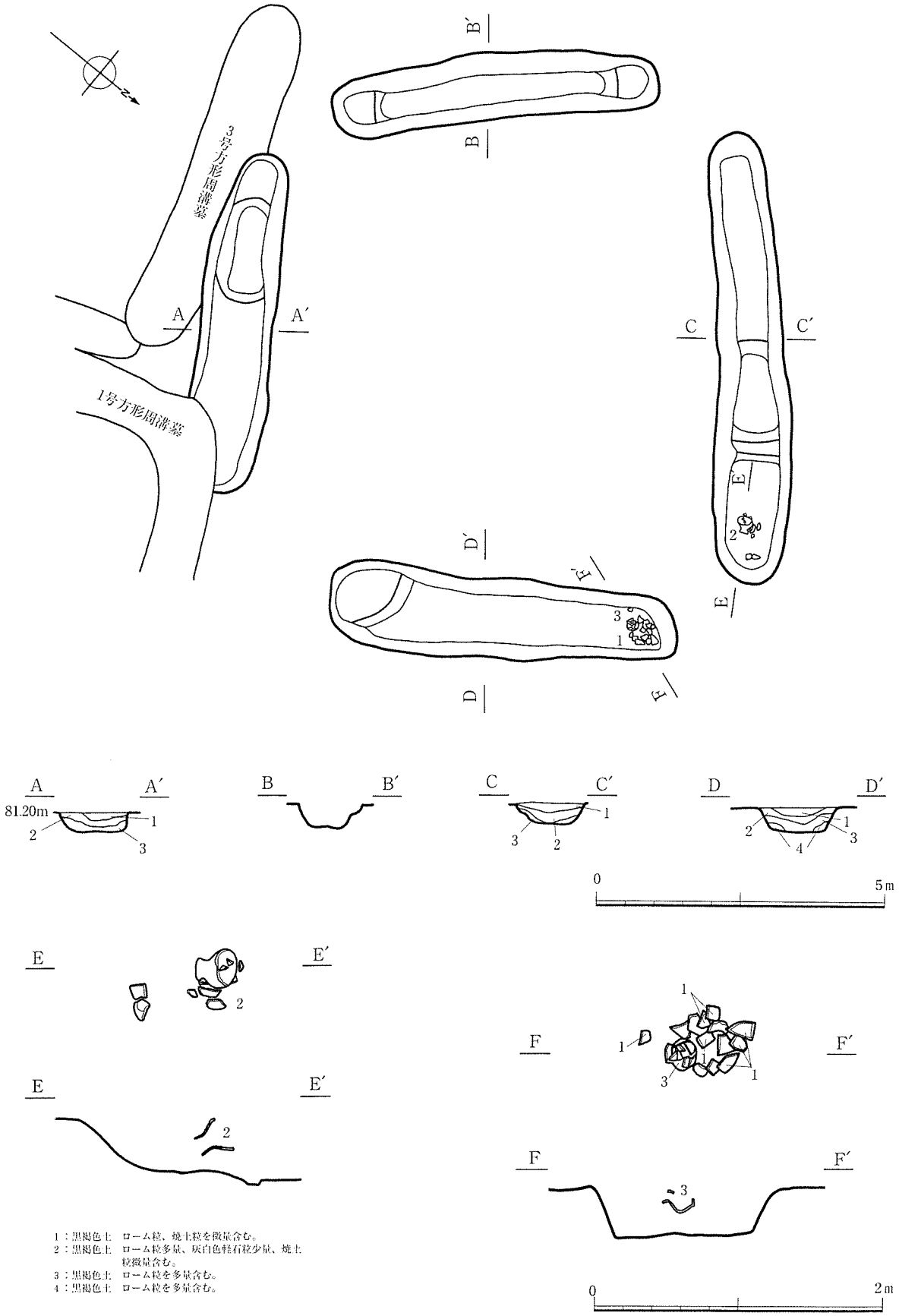
遺物出土状態：出土遺物は皆無であった。



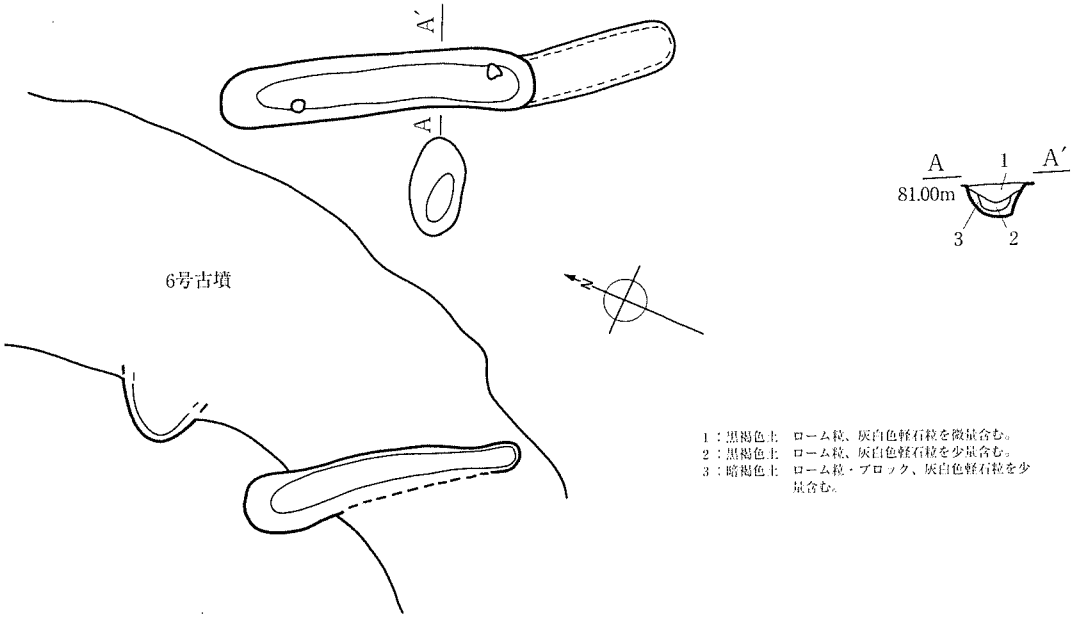
第17図　１号方形周溝墓



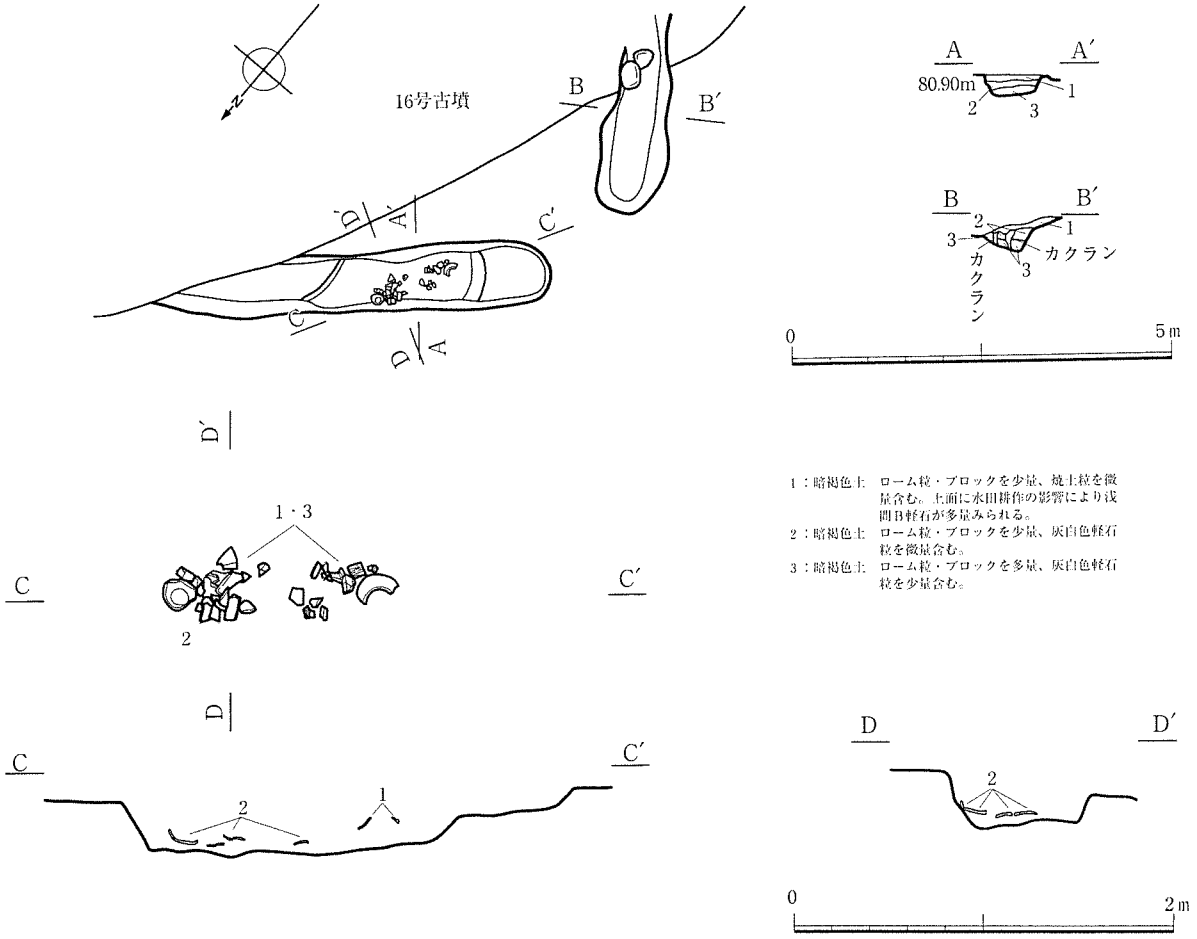
第18図　３号方形周溝墓



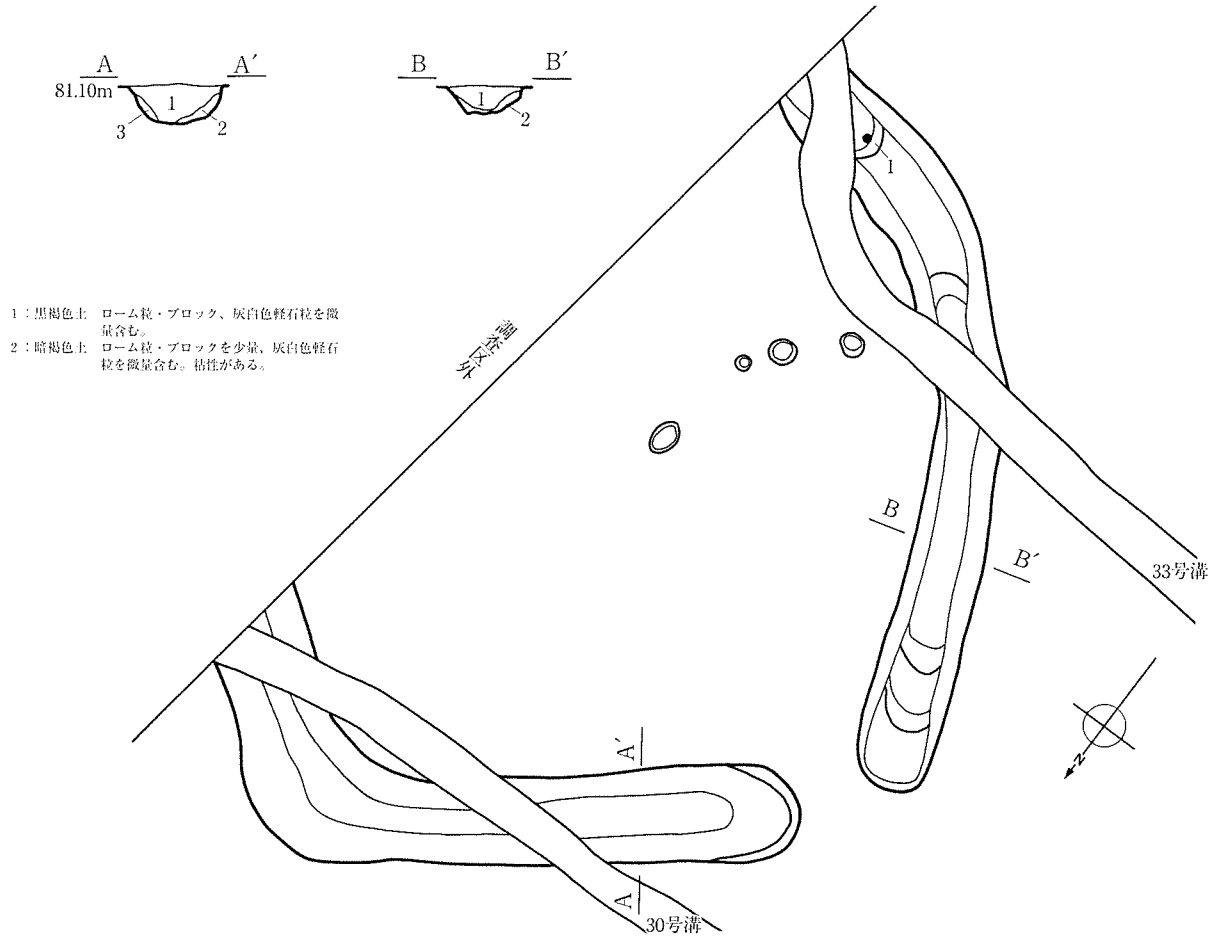
第19図　２号方形周溝墓



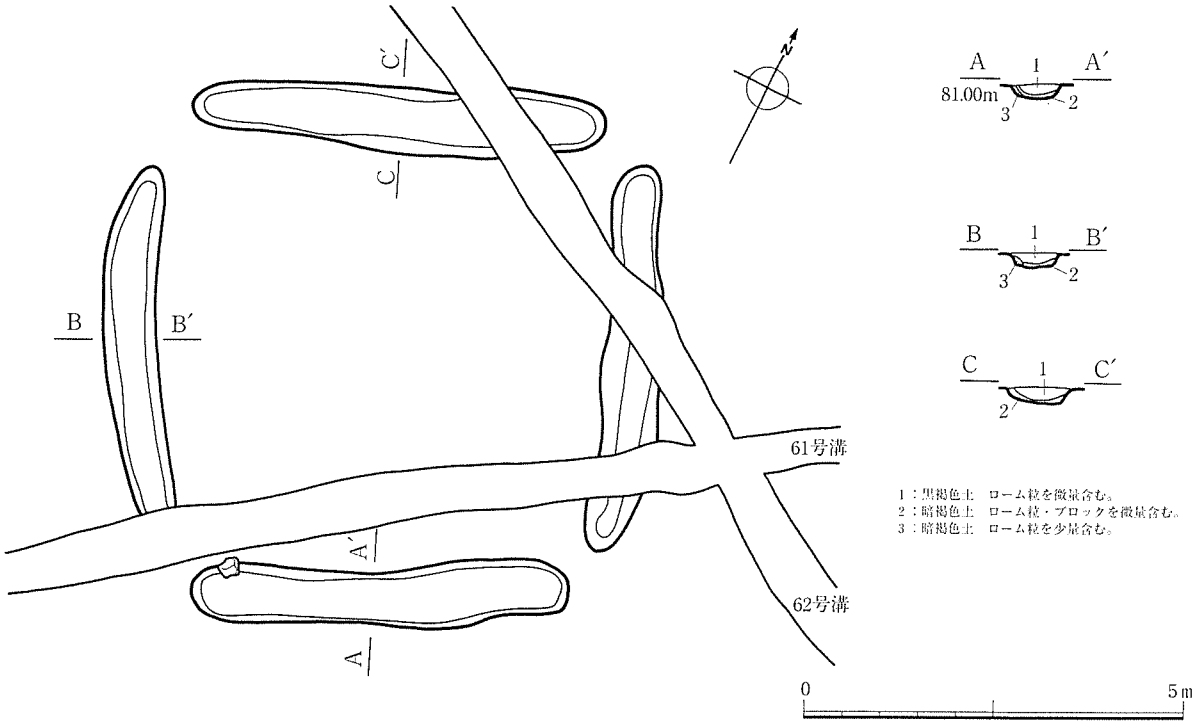
第20図　４号方形周溝墓



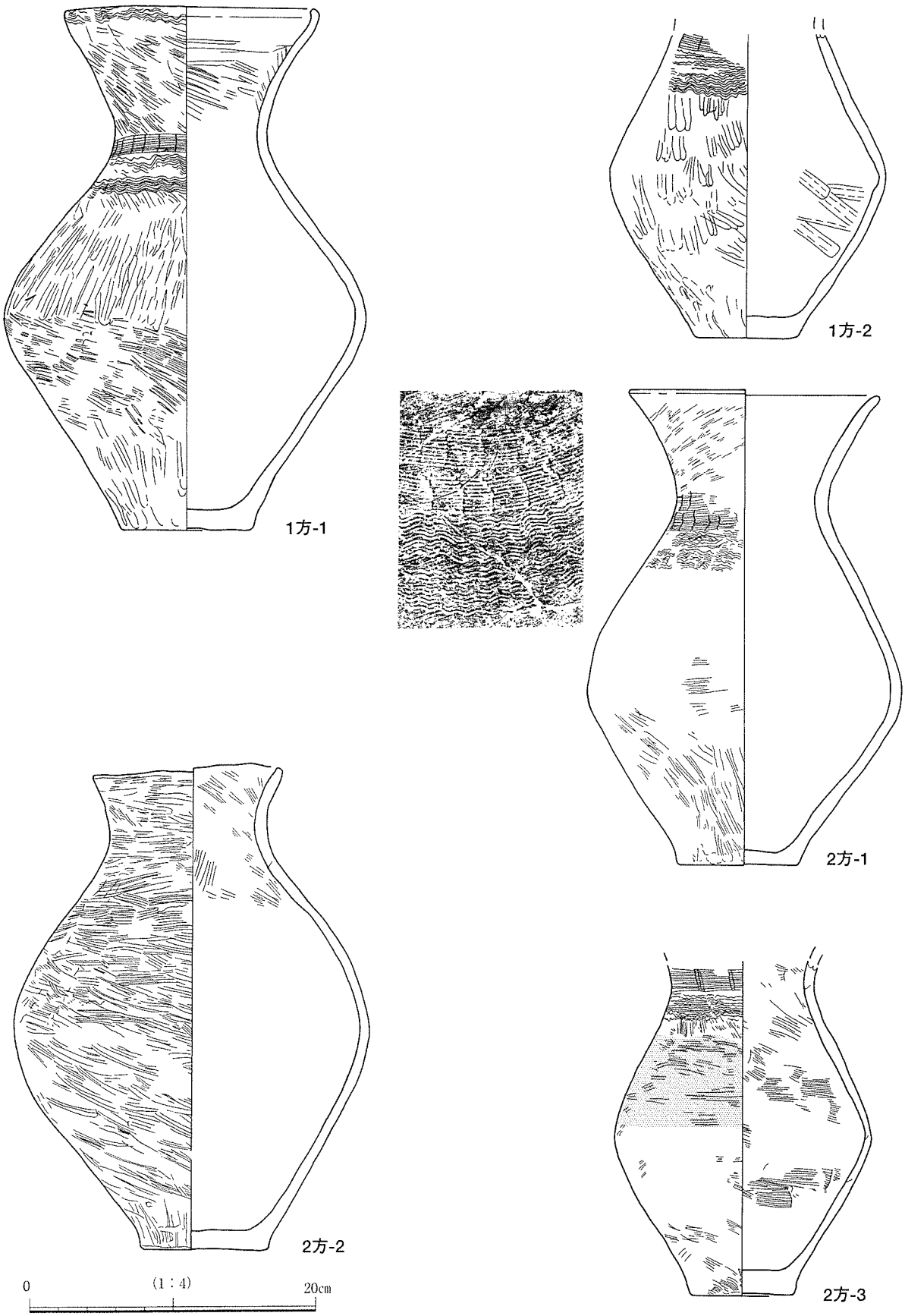
第21図　５号方形周溝墓



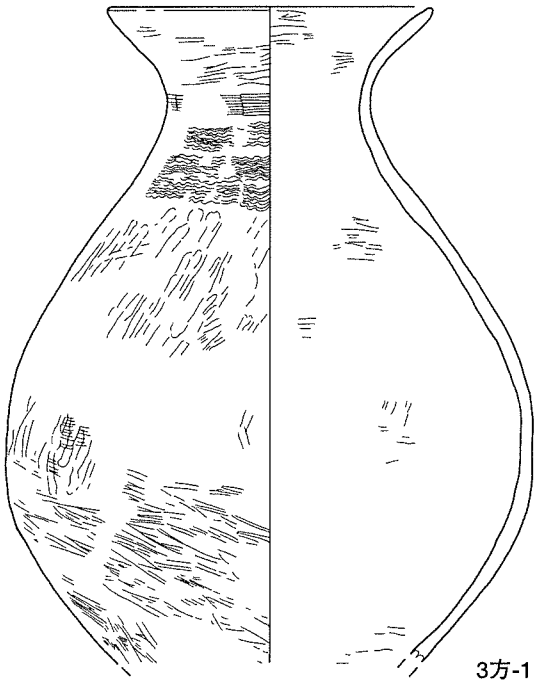
第22図　６号方形周溝墓

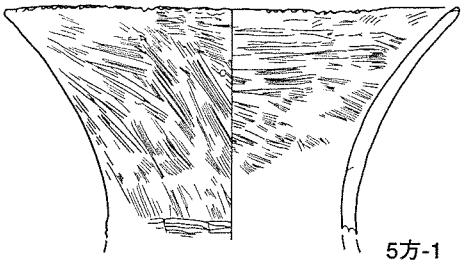


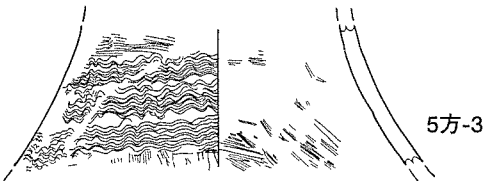
第23図　７号方形周溝墓

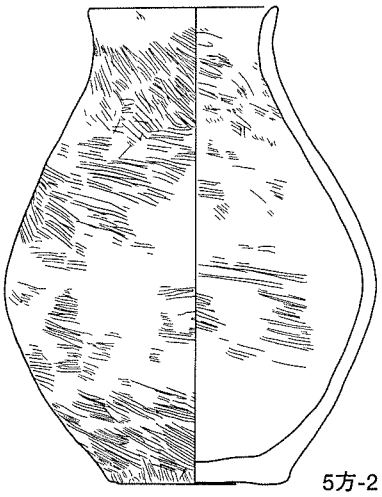


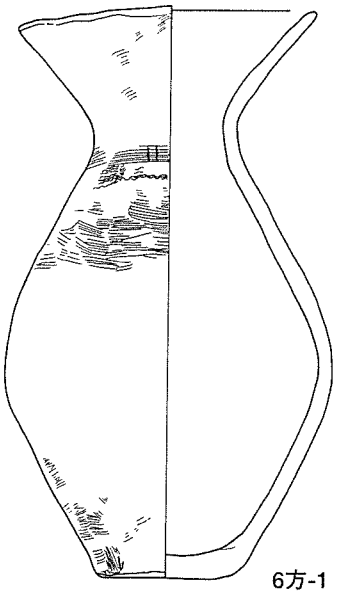
第24図　１号・２号方形周溝墓出土遺物

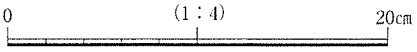












第25図　３号・５号・６号方形周溝墓出土遺物

（２）住居跡

１号住居跡　（遺構：第26図、ＰＬ15　遺物：第75図、ＰＬ38、観察表Ｐ６）

位置：Ｋ10グリッド。重複：４号溝に切られる。長軸方位：Ｎ－83°－Ｅ。平面形態：隅丸長方形。規模：7.08ｍ×6.15ｍ。床面積：推定43.6㎡。残存深度：９㎝。壁の状態：不明。床面：ほぼ平坦で中央部に硬化面がみられる。壁周溝：幅15㎝前後で、ほぼ全周するが、北東角部は途切れる。柱穴：主柱穴４本。炉跡：４号溝によって壊されていると思われる。貯蔵穴：南壁沿い東側に位置していたと思われるが、４号溝によって壊されているようである。掘り方：「回」の字状に縁辺部を10㎝弱ほど掘り込む。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土。

遺物出土状態：埋没土中から出土しているほか、貯蔵穴が存在していたと想定される南壁沿い東側から器台・高坏が出土している。

遺物：Ｓ字台付甕２、甕２、小形甕１、坩２、高坏１、器台１、手捏土器１を確認。掲載遺物３点。

２号住居跡　（遺構：第27図、ＰＬ15　遺物：第75図、ＰＬ38、観察表Ｐ６）

位置：Ｎ11グリッド。重複：14号古墳周溝及び12号溝に切られる。長軸方位：Ｎ－51°－Ｗ。平面形態：長方形と想定される。規模：5.50ｍ×4.85ｍ。床面積：不明。残存深度：10㎝。壁の状態：不明。床面：ほぼ平坦で全体的に硬化する。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本。全体的に遺構中央寄りに位置する。炉跡：遺構中央部に位置する。1.95ｍ×0.95ｍの楕円形状に床面から３㎝ほど掘り込む。炉跡：全体に焼土が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：炭化粒・ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土。備考：遺構西側に炭化材及び焼土が確認された。

遺物出土状態：北西角付近から磨製石鏃等の原石と考えられる礫（千枚岩）、壺頸部片等が出土している。

遺物：先述の礫、壺２以上、高坏２を確認している。壺頸部には櫛描簾状文が施される。掲載遺物２点。

４号住居跡　（遺構：第27図、ＰＬ15　遺物：第75図、ＰＬ38、観察表Ｐ６）

位置：Ｉ12グリッド。16号古墳墳丘下にあたる位置。長軸方位：Ｎ－83°－Ｗ。平面形態：長方形。規模：5.55ｍ×推定4.95ｍ。床面積：推定26.9㎡。残存深度：７㎝。壁の状態：不明。床面：南西角部分以外は既に床面まで削平されている。壁周溝：部分的に幅10㎝程度の壁周溝が確認される。柱穴：主柱穴４本と想定されるが、そのほかにも大小のピットがある。炉跡：不明。貯蔵穴：遺構南東部に円形の穴が２基あるが、貯蔵穴とは断定できない。掘り方：床面の削平が激しかったためもあり、確認できなかった。埋没土の特徴：残存部分は暗褐色土を基調としていた。

遺物出土状態：床面残存部分及びピット内から少量の土器片が出土している。

遺物：壺１、高坏１、甕底部片１を確認している。いずれも小破片である。掲載遺物１点。

５号住居跡　（遺構：第28図、ＰＬ16　遺物：第75・76図、ＰＬ38、観察表Ｐ６）

位置：Ｎ６グリッド。13号古墳墳丘下にあたる位置。長軸方位：Ｎ－36°－Ｗ。平面形態：隅丸長方形。規模：3.80ｍ×3.30ｍ。床面積：11.4㎡。残存深度：52㎝。壁の状態：ほぼ垂直に立ち上がる。床面：ほぼ平坦であり、特に硬化した面は認められない。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本。各柱穴には根詰め石と思われる礫が確認されている。特に南東部の柱穴からは長径28㎝もある礫が上側を平坦にな

るように配置され、礎石状の機能を思わせる。また、北西部の柱穴からは炭化材が確認されている。炉跡：北側柱穴間に位置。61㎝×49㎝の楕円形で、床面から６㎝ほど掘り込む。貯蔵穴：南東部に径35㎝ほどの穴があるが、掘り込みは浅く、貯蔵穴の可能性は低い。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒・炭化粒等を含む暗褐色土。備考：遺構床面付近にまばらではあるが、焼土・炭化材の分布が認められる。また、南壁近く長楕円形と円形のピットがあり、一対で入口施設に関わるものと判断される。その手前には長方形状の凹みがある。

遺物出土状態：埋没土中に散乱するような状態であるが、床面付近からも比較的多く出土している。１層中から古墳時代前期（石田川期）の遺物が出土している。

遺物：弥生時代後期・樽式の壺５、甕１とＳ字台付甕２以上、高坏４以上、台付甕２、器台３以上、磨製石鏃の原石と思われる礫（千枚岩）２を確認している。先述したように、古墳時代前期の遺物は埋没土上層から出土したものであり、本来的には本遺構に伴う遺物ではないと判断される。掲載遺物16点。

６号住居跡　（遺構：第28図、ＰＬ15　遺物：第76図、ＰＬ38、観察表Ｐ７）

位置：Ｋ７グリッド。13号古墳墳丘下にあたる位置。重複：13号古墳周溝に遺構南側を切られる。長軸方位：推定Ｎ－15°－Ｗ。平面形態：全容不明であるが長方形基調と推定される。規模：不明×5.10ｍ。床面積：不明。残存深度：17㎝。壁の状態：不明。床面：確認部分において、ほぼ平坦。壁周溝：確認されなかった。柱穴：残存部分で主柱穴と思われる２本を確認。それぞれ補助柱穴を有する。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：埋没土中から土器片数点が出土しているのみである。

遺物：櫛描波状文が施された土器片、Ｓ字台付甕破片を確認している。掲載遺物１点。

７号住居跡　（遺構：第29図、ＰＬ15　遺物：第76図、ＰＬ38、観察表Ｐ７）

位置：Ｌ８グリッド。13号古墳墳丘下にあたる位置。重複：13号古墳周溝に遺構西側を切られる。長軸方位：Ｎ－63°－Ｅ。平面形態：全容不明であるが長方形基調と推定される。規模：不明×5.70ｍ。床面積：不明。残存深度：７㎝。壁の状態：不明。床面：ほぼ平坦である。壁周溝：確認されなかった。柱穴：残存部分で主柱穴と思われる３本を確認。炉跡：東側柱穴間に位置。0.83ｍ×0.74ｍの不整楕円形で、床面から７㎝ほど掘り込む。貯蔵穴：南壁沿い東側に位置する穴が貯蔵穴の可能性がある。1.06ｍ×0.89ｍの楕円形で、底面に向かってすぼまり、床面からの深さ27㎝。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：土器片がまばらに出土している程度である。

遺物：櫛描簾状文の施された土器片及びＳ字台付甕片を確認している。掲載遺物１点。

８号住居跡　（遺構：第30図、ＰＬ17～19　遺物：第76図、ＰＬ39、観察表Ｐ７）

位置：Ｊ14グリッド。16号古墳墳丘下にあたる位置。重複：昭和40年代の道路建設時に側溝工事部分が本住居跡にかかり、一部を削平されている。長軸方位：Ｎ－23°－Ｗ。平面形態：隅丸方形。規模：5.45ｍ×4.95ｍ。床面積：25.8㎡。残存深度：33㎝。壁の状態：ほぼ直立して立ち上がる。床面：遺構掘り方後、10～20㎝ほどの厚さで黒褐色土（14層）をほぼ均一に充填し、上面を床面としていたようである。全体的

にこの黒褐色土上面は非常に硬くしまっている。また、床面からは炉・柱穴・貯蔵穴部分を除いた全面から白色の灰が確認されており、有機質の敷物が存在していたと考えられる。さらに、柱材・壁材・屋根材と考えられる炭化材がこの白色灰層の上で広範に確認されている。**壁周溝**：貯蔵穴部分を除いて全周し、掘り方底面から６～12cmほど掘り込む。**柱穴**：主柱穴４本。そのほかに遺構西側に径30～40cm程度のピットが４基確認されており、主柱穴間の２本は入口施設に関係する可能性がある。**炉跡**：中央北寄りに位置する。1.00ｍ×0.80ｍほどの不整楕円形で、床面から６cmほどを皿状に掘り込んでいる。**貯蔵穴**：南壁面沿いやや東寄りに位置。平面形は上面径0.95ｍの半円形で、底面楕円形。床面からの深さは約50cm。**掘り方**：遺構全体をほぼ平坦面となるように掘り込み、この段階で壁周溝を巡らせている。**埋没土の特徴**：先述したように黒褐色土を充填して床面をつくっている。その上層には屋根材と考えられる炭化材層があり、さらにその上層に焼土層が確認される。１～４層はローム粒・ロームブロック・小礫等を含む暗褐色土で人為的に埋め戻されたようである。**備考**：上記事項から本住居跡は火災を受けたと判断される。また、屋根材の上に土を葺いた「土葺き屋根」であった可能性が高い。なお、埋没土層の一部を切り取り、簡易保存してある。

遺物出土状態：手捏土器３点が東側及び北側の壁際から出土している。出土状態から判断して、これらは床面に置かれていたものではなく、天井あるいは棚等に置かれていたと推定される。また、出土遺物は中央部に少なく、周辺部に多い傾向が認められる。貯蔵穴からはＳ字台付甕・壺・（火打石）等が出土している。

遺物：Ｓ字台付甕３以上、平底甕２以上、壺１、手捏土器３、高坏１以上、埦１、器台１、（火打石）１、砥石１を確認している。掲載遺物10点。

９号住居跡　（遺構：第31図、ＰＬ20）

位置：Ｉ14グリッド。16号古墳墳丘下にあたる位置。**重複**：16号古墳周溝に遺構西側を切られる。また、昭和40年代の道路建設時に一部を削平されている。**長軸方位**：推定Ｎ－66°－Ｅ。**平面形態**：全容不明であるが長方形と推定される。**規模**：不明×4.25ｍ。**床面積**：不明。**残存深度**：９cm。**壁の状態**：不明。**床面**：全体的に平坦な面をなす。**壁周溝**：確認されなかった。**柱穴**：主柱穴４本。そのほかに小ピット４基を確認。**炉跡**：確認されなかった。**貯蔵穴**：確認されなかった。**掘り方**：確認されなかった。**埋没土の特徴**：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：土器片がまばらに出土している程度で、特に遺物が集中する地点はみられなかった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、埦破片を確認している。いずれも小破片である。掲載遺物０。

16号住居跡　（遺構：第29図、ＰＬ20　遺物：第76図、ＰＬ39、観察表Ｐ８）

位置：Ｒ34グリッド。西側過半が調査区外。**重複**：18号・44号溝及び風倒木に切られる。**長軸方位**：推定Ｎ－69°－Ｗ。**平面形態**：全容不明。**規模**：不明×４ｍ以上。**床面積**：不明。**残存深度**：30cm。**壁の状態**：不明瞭であるがやや傾斜を持つようである。**床面**：多少の起伏がある。**壁周溝**：確認されなかった。**柱穴**：主柱穴は不明である。南壁際に径40cm程度のピットが２基存在する。**炉跡**：確認されなかった。**貯蔵穴**：確認されなかった。**掘り方**：確認されなかった。**埋没土の特徴**：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：土器片がまばらに出土している程度で、特に遺物が集中する地点はみられなかった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、器台１を確認している。掲載遺物１点。

17号住居跡　（遺構：第31図、ＰＬ20　遺物：第76図、ＰＬ39、観察表Ｐ８）

位置：Ｓ33グリッド。東側過半が調査区外であったが拡張して調査した。長軸方位：Ｎ－10°－Ｅ。平面形態：方形。規模：4.30ｍ×4.05ｍ。床面積：17.1㎡。残存深度：35㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：３・４層上面が床面と考えられる。全体として平坦である。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本。そのほかにピット２基が確認されている。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：「凹」の字状に縁辺部を10～25㎝ほど掘り込む。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：土器片がまばらに出土している程度で、特に遺物が集中する地点はみられなかった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、壺１を確認している。ほかに縄文時代の石鏃がみられた。掲載遺物２点。

18号住居跡　（遺構：第32図、ＰＬ20　遺物：第76図、ＰＬ39、観察表Ｐ８）

位置：Ｓ34グリッド。西側過半が調査区外。長軸方位：推定Ｎ－82°－Ｗ。平面形態：推定長方形。規模：不明×4.60ｍ。床面積：不明。残存深度：16㎝。壁の状態：不明。床面：２・３層上面が床面と考えられる。既に床面が表土下に露呈している部分が多かったが、全体として平坦である。壁周溝：確認されなかった。柱穴：調査区内において２本を確認している。そのほか東壁際に幅20㎝・長さ94㎝・深さ10㎝の溝状の掘り込みがある。また、南壁を切るピットが１基ある。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：北東隅に長軸約１ｍの不整楕円形の穴があるが、深さは10㎝程度であり、貯蔵穴とは断定できない。掘り方：縁辺部を溝状に掘り込むものと思われるが、明瞭に確認できなかった。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：まばらな分布状態で、特に遺物が集中する地点はみられなかった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、石鏃１を確認している。掲載遺物１点。

21号住居跡　（遺構：第32図、ＰＬ20　遺物：第76図、ＰＬ39、観察表Ｐ８）

位置：Ｐ13グリッド。24号古墳墳丘下にあたる位置。重複：24号古墳周溝に南東隅を切られる。長軸方位：Ｎ－20°－Ｗ。平面形態：隅丸方形。規模：3.40ｍ×3.20ｍ。床面積：10.3㎡。残存深度：28㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がり、上方へ向かって垂直に近くなる。床面：ほぼ平坦である。壁周溝：確認されなかった。柱穴：確認されなかった。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石を含む暗褐色～黒褐色土。備考：３層上面が床面の可能性がある。

遺物出土状態：３層上面において、中央南寄りに礫が集中するほかは、まばらな分布状態である。

遺物：Ｓ字台付甕破片、埦１を確認している。掲載遺物１点。

22号住居跡　（遺構：第39図、ＰＬ20）

位置：Ｏ13グリッド。重複：15号古墳及び24号古墳に大半を壊されている。長軸方位：不明。平面形態：不明であるが、（長）方形基調と想定される。規模：不明。床面積：不明。残存深度：14㎝。壁の状態：不明。床面：重複の関係で凹凸がみられる。壁周溝：残存部分において確認されている。柱穴：二重周溝

を有する15号古墳の周溝間の柱穴は主柱穴・補助柱穴の可能性がある。そのほか遺構推定部分に数基のピットがある。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：明瞭に観察し得なかった。

遺物出土状態：小破片がまばらに分布する状態で、15号古墳周溝内に流れ込んでいるものが多かった。

遺物：Ｓ字台付甕片、坩１、鉢１、甑１、高坏１、樽式系土器片を確認している。掲載遺物０。

23号住居跡　（遺構：第33・34図、ＰＬ20・21　遺物：第77図、ＰＬ39、観察表Ｐ８）

位置：Ｎ25グリッド。重複：29号溝及び35号溝に切られる。長軸方位：Ｎ－８°－Ｅ。平面形態：長方形。規模：6.15ｍ×5.50ｍ。床面積：推定32.2㎡。残存深度：26㎝。壁の状態：西側壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面：３・４層上面が床面と考えられる。全体として平坦で、特に硬化している部分は認められない。また、西側壁中央付近に焼土が分布する。壁周溝：全周すると思われる。柱穴：主柱穴４本で、深く掘り込む。そのほか、南東隅に小ピットがある。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：南壁際の東端付近に位置。45㎝×45㎝の不整円形で、床面からの深さ20㎝。掘り方：南側を除いた「凹」の字状に縁辺部を掘り込む。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：貯蔵穴上面にＳ字台付甕、その東側に高坏が並んでいたような状態で出土している。Ｓ字台付甕は内側に倒れ、高坏は上からの圧力で坏部が下に落ちていた。また、貯蔵穴の底面付近から坩が出土している。

遺物：前述のＳ字台付甕・高坏・坩は、いずれもほぼ完形である。掲載遺物３点。

24号住居跡　（遺構：第35図、ＰＬ22　遺物：第77図、ＰＬ39、観察表Ｐ９）

位置：Ｐ26グリッド。23号古墳墳丘下にあたる位置。重複：23号・28号古墳及び14号・23号・31号・32号溝に切られている。長軸方位：推定Ｎ－73°－Ｅ。規模：不明×6.30ｍ以上。床面積：不明。残存深度：35㎝。壁の状態：不明。床面：４・５層上面が床面と考えられ、床面残存部分には弱い起伏がある。東壁際に焼土の分布がみられる。壁周溝：６層が壁周溝と思われるが、掘り下げの段階では明瞭に確認し得なかった。柱穴：床面残存部分以外にも柱穴が確認でき、４本主柱穴と想定される。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：北東隅に径約50㎝・深さ33㎝の穴があり、貯蔵穴の可能性がある。掘り方：縁辺部を溝状に掘り下げている。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む黒褐色土を基調。２層に焼土層がある。

遺物出土状態：土器片がまばらに分布する程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕口縁部１を確認している。掲載遺物１点。

25号住居跡　（遺構：第36図、ＰＬ22）

位置：Ｑ25グリッド。重複：28号古墳、27号・30号溝、23号土坑に切られている。長軸方位：Ｎ－９°－Ｗ。平面形態：長方形。規模：7.75ｍ×6.55ｍ。床面積：不明。残存深度：14㎝。壁の状態：不明。床面：既に床面が露呈して検出された。残存部分において特に硬化した面はみられない。壁周溝：西壁沿いで一部確認された。柱穴：北西部の柱穴を重複により欠くが、本来的には４本主柱穴と想定される。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：南東隅付近に径75㎝・深さ31㎝の穴があり、貯蔵穴の可能性がある。掘り方：全体を不規則に掘り下げている。埋没土の特徴：既に床面まで削平されていたため、不明。１・２

層は貼床構築のものである。

遺物出土状態：ごくまばらな状態である。

遺物：器台・甕の破片を確認しているが、いずれも小破片である。掲載遺物０。

30号住居跡　（遺構：第34図、ＰＬ22）

位置：Ｑ28グリッド。23号古墳墳丘下にあたる位置。重複：東側を43号溝に切られる。風倒木痕を切る。長軸方位：推定Ｎ－４°－Ｅ。平面形態：全容不明だが、長方形基調と推定される。規模：6.30ｍ×不明。床面積：不明。残存深度：40㎝。壁の状態：壁面下側は傾斜を持つ。床面：６層上面が床面と考えられる。全体的に弱い起伏が認められる。壁周溝：北側から西側壁沿いに確認されるが、あまり明瞭な状態ではない。柱穴：４本主柱穴と想定される。炉跡：北側柱穴間に平面楕円形・長径40㎝・深さ８㎝の凹みがあり、焼土等は顕著に観察されなかったものの、位置・形状から判断して炉跡の可能性がある。貯蔵穴：南東部に平面楕円形・長径62㎝・深さ22㎝の穴があり、貯蔵穴と思われる。掘り方：全体を掘り込むが、特に縁辺部が深めである。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む黒褐色～暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：まばらな分布状態であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片・高坏破片が確認されている。掲載遺物０。

34号住居跡　（遺構：第37図、ＰＬ22）

位置：Ｙ１グリッド。西側過半が調査区外。重複：29号・32号住居跡に切られている。長軸方位：不明。平面形態：不明。規模：不明。床面積：不明。残存深度：８㎝。壁の状態：立ち上がりは傾斜を持つ。床面：残存部分はほぼ平坦。壁周溝：東壁沿いで確認されている。柱穴：残存部分にピット１基を検出しているが、本遺構より新しいものと思われる。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む黒褐色～暗褐色土。

遺物出土状態：破片がまばらに分布する程度であった。ピット内から高坏の脚部が出土しているが、本遺構に伴う遺物ではないと判断した。

遺物：Ｓ字台付甕の破片を確認している。ピットから出土した高坏は本節(6)に別掲した。掲載遺物０。

37号住居跡　（遺構：第37図、ＰＬ22　遺物：第77図、ＰＬ39、観察表Ｐ９）

位置：Ｒ２グリッド。南側・東側は調査区外。重複：38号住居跡の下層に位置し、遺構上半を同住居跡に切られている。長軸方位：不明。平面形態：不明。規模：不明。床面積：不明。残存深度：不明。壁の状態：不明。床面：ほぼ平坦。壁周溝：西側・北側壁際とも確認されるが、部分的に途切れる。柱穴：ピット５基を確認しているが、主柱穴は不明。炉跡：検出部分南東に位置。平面楕円形、規模69㎝×49㎝・床面からの深さ10㎝。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色～暗褐色土。備考：検出部分南東に礫が集中していた。特に被熱の痕跡はなく性格は不明である。

遺物出土状態：埋没土中に散乱するような状態であった。

遺物：櫛描波状文・簾状文の施された壺・甕片、高坏片を確認している。また、少量ではあるがＳ字台付甕片がある。掲載遺物12点。

40号住居跡　（遺構：第41図、ＰＬ22）

位置：Ｕ22グリッド。重複：41号住居跡を切る。長軸方位：推定Ｎ－17°－Ｗ。平面形態：全容不明であるが長方形基調と想定される。規模：推定5.40ｍ×不明。床面積：不明。残存深度：16㎝。壁の状態：不明。床面：多少の起伏がある。特に硬化した面はみられない。壁周溝：確認されなかった。柱穴：ピット２基を確認しているが、主柱穴は不明。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：土器片がまばらに分布する程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕破片を確認している。掲載遺物０。

41号住居跡　（遺構：第41図、ＰＬ22）

位置：Ｕ22グリッド。重複：40号住居跡に切られる。長軸方位：不明。平面形態：全容不明であるが長方形基調と想定される。規模：不明×3.90ｍ。床面積：不明。残存深度：10㎝。壁の状態：不明。床面：検出部分において、特に硬化した面はみられない。壁周溝：確認されなかった。柱穴：ピット２基を確認しているのみである。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：出土遺物は皆無であった。

45号住居跡　（遺構：第38・39図、ＰＬ22・23　遺物：第78図、ＰＬ40、観察表Ｐ９）

位置：Ｚ19グリッド。長軸方位：Ｎ－15°－Ｗ。平面形態：隅丸長方形。規模：8.20ｍ×6.95ｍ。床面積：55.5㎡。残存深度：22㎝。壁の状態：残存部分が浅いため不明瞭。床面：７層上面が床面と考えられ、全体的に平坦である。壁周溝：南東隅を除いてほぼ全周する。柱穴：主柱穴４本と想定されるが、北西部には深い柱穴が見当たらない。そのほかにも数基のピットがあるが、性格不明なものが多い。炉跡：中央部やや北寄りに位置。77㎝×62㎝・床面からの深さ５㎝強で、平面形態は不整形。炉の縁辺部には長さ15㎝前後の礫４点がみられる。また、炉を覆うような状態で広範に炭化材が分布していた。貯蔵穴：南東隅に位置。平面楕円形・規模80㎝×58㎝・深さ30㎝。掘り方：縁辺部を「回」の字状に掘り込む。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色～黒褐色土。備考：北側及び南側壁面沿いに焼土が分布し、中央部には炭化材・灰の広範な分布がみられることから、本住居跡は火災に遭っている可能性がある。また、北西隅付近には60㎝×60㎝ほどの範囲に厚さ約５㎝の粘土があり、粘土中から埦が出土している。この粘土には顕著な加熱の痕跡は認められなかった。

遺物出土状態：縁辺部に多く分布する状態が認められ、特に南東隅付近に集中していた。

遺物：Ｓ字台付甕３、甕２、壺５、坩３、高坏１、埦２、器台１を確認している。壺には縄文施文後に櫛描簾状文を頸部に施す樽式系・吉ヶ谷（赤井戸）式系が折衷したようなものもみられた。掲載遺物14点。

51号住居跡　（遺構：第40・41図、ＰＬ24　遺物：第78・79図、ＰＬ40、観察表Ｐ10）

位置：Ｙ21グリッド。重複：50号溝を切る。長軸方位：Ｎ－９°－Ｗ。平面形態：隅丸長方形。規模：7.90ｍ×6.32ｍ。床面積：47.6㎡。残存深度：25㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：４・５層上面が床面と考えられ、全体的に平坦である。壁周溝：北壁沿いを除いて確認されている。柱穴：主柱穴４本と想定され、60～85㎝程度の平面楕円形の掘り方が確認されている。柱痕径は約30㎝で

ある。炉跡：確認されなかった。北側柱穴間の穴（2.34ｍ×1.38ｍ）は床面下に位置するものである。貯蔵穴：南壁際やや東寄りに位置。平面楕円形、規模58cm×50cm・深さ24cm。掘り方：縁辺部を「凹」の字状に掘り込む。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・焼土粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土を基調とする。備考：北側及び西側壁際に焼土・炭化材が分布しており、火災を受けた可能性がある。

遺物出土状態：床面付近からややまばらに出土している。

遺物：Ｓ字台付甕１、甕１、壺３、甑１、器台１、坏１を確認している。掲載遺物６点。

53号住居跡　（遺構：第42図、ＰＬ24）

位置：Ｘ21グリッド。長軸方位：Ｎ－８°－Ｗ。平面形態：台形状。規模：5.80ｍ×4.20ｍ。床面積：23.0㎡。残存深度：25cm。壁の状態：不明。床面：多少の凹凸がある。壁周溝：確認されなかった。柱穴：ピット11基を確認しているが主柱穴を構成するものではない。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒・焼土粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：小破片がまばらに分布する程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片が少量みられる。掲載遺物０。

54号住居跡　（遺構：第42図、ＰＬ24）

位置：Ｙ20グリッド。長軸方位：Ｎ－22°－Ｗ。平面形態：隅丸長方形。規模：4.65ｍ×3.50ｍ。床面積：15.9㎡。残存深度：18cm。壁の状態：不明。床面：床面付近まで既に削平されたいたが、残存部分においては平坦で、顕著な硬化面は確認されなかった。壁周溝：東壁面南半分を除いて廻る。柱穴：ピット11基を確認しているが主柱穴を構成するものではない。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：南側縁辺部を掘り下げている。埋没土の特徴：焼土粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：土器片がまばらに分布する程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕破片を確認している。掲載遺物０。

55号住居跡　（遺構：第43図、ＰＬ25　遺物：第79図、ＰＬ40、観察表Ｐ11）

位置：Ｚ20グリッド。重複：北側を30号古墳周溝に切られている。風倒木痕を切っている。長軸方位：Ｎ－21°－Ｗ。平面形態：方形。規模：推定5.30ｍ×4.95ｍ。床面積：推定25.3㎡。残存深度：38cm。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：８層上面が床面と考えられ、全体的に平坦である。壁周溝：ほぼ全周するものと推測される。柱穴：主柱穴４本で、ほかに小ピット１基がある。炉跡：北側柱穴間に位置するが、明瞭に検出し得なかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：縁辺部をくずれた「回」の字状に掘り込むものと想定される。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：まばらな分布状態であるが、南西隅から壺と器台が出土している。

遺物：Ｓ字台付甕破片、壺１、器台１、高坏１、椀１を確認している。掲載遺物４点。

58号住居跡　（遺構：第44・45図、ＰＬ25　遺物：第79図、ＰＬ41、観察表Ｐ11）

位置：ｃ19グリッド。32号古墳墳丘下にあたる位置。長軸方位：Ｎ－３°－Ｅ。平面形態：隅丸長方形。規模：6.45ｍ×5.20ｍ。床面積：32.0㎡。残存深度：59cm。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめ

る。床面：９・12・16層上面が床面と考えられる。多少の凹凸がみられるが、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：全周する。柱穴：主柱穴４本で、そのほかに小ピット５基がある。炉跡：北側柱穴間に位置。平面楕円形で、規模1.02ｍ×0.63ｍ・深さ８㎝程度。貯蔵穴：南東隅付近に位置。平面楕円形で、長径約50㎝・深さ52㎝。掘り方：縁辺部をくずれた「回」の字状に掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土を基調。備考：部分的に焼土ブロックが確認されている。

遺物出土状態：南東隅で坩の完形品が出土しているほかは土器片がまばらに分布する程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、壺１、坩１、器台１、甑１、樽式系土器片を確認している。掲載遺物１点。

59号住居跡　（遺構：第46図、ＰＬ26　遺物：第79・80図、ＰＬ41、観察表Ｐ11）

位置：ｃ17グリッド。北東部は調査区外。長軸方位：Ｎ－61°－Ｅ。平面形態：隅丸方形。規模：7.27ｍ×6.70ｍ。床面積：不明。残存深度：26㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：４層上面が床面。多少の凹凸があるが、ほぼ平坦である。壁周溝：全周するものと想定される。柱穴：北東部は調査区外であるが、主柱穴は４本と思われる。各主柱穴には楕円形の掘り方が認められる。炉跡：中央部やや東寄りに位置。平面楕円形、規模61㎝×48㎝・深さ５㎝。南側に枕石を配している。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：全体をほぼ均等に掘り込む。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色～暗灰褐色土。

遺物出土状態：まばらな分布状態であるが、やや炉跡周辺からの出土が多い。

遺物：Ｓ字台付甕３、壺２、高坏１、埦１、器台１、樽式系土器片を確認している。壺にはいわゆる「パレススタイル」のものと思われる破片がある。掲載遺物７点。

60号住居跡　（遺構：第50図、ＰＬ26　遺物：第80図、ＰＬ41、観察表Ｐ11）

位置：ｇ22グリッド。長軸方位：Ｎ－56°－Ｗ。平面形態：隅丸長方形。規模：5.60ｍ×4.70ｍ。床面積：25.8㎡。残存深度：34㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の起伏がみられる。３層上面が床面であった可能性がある。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本で、ほかに小ピット１基がある。炉跡：西側柱穴間に位置。平面楕円形、規模53㎝×43㎝・深さ５㎝。貯蔵穴：東側壁際中央付近に位置。平面楕円形、規模58㎝×50㎝・深さ24㎝。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色～暗褐色土。

遺物出土状態：縁辺部からの出土がやや多い状態にある。

遺物：甕３以上、壺２以上、台付鉢２、砥石２、磨製石斧１、磨製石鏃の原石と思われる礫（千枚岩）を確認している。甕・壺には櫛描波状文・簾状文が施される。磨製石斧は太形蛤刃である。掲載遺物10点。

61号住居跡　（遺構：第45図、ＰＬ28　遺物：第81図、ＰＬ41、観察表Ｐ12）

位置：ｆ22グリッド。長軸方位：Ｎ－５°－Ｗ。平面形態：隅丸長方形。規模：4.65ｍ×3.90ｍ。床面積：17.3㎡。残存深度：16㎝。壁の状態：不明。床面：多少の凹凸がみられる。壁周溝：西側及び南側壁沿いにおいて確認されている。柱穴：ピット７基があるが、主柱穴は判断できない。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：北西隅付近から多く出土している。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕３以上、壺２以上、器台１を確認している。掲載遺物５点。

62号住居跡　（遺構：第47図、ＰＬ27　遺物：第81図、ＰＬ42、観察表Ｐ12）

位置：ｂ28グリッド。長軸方位：Ｎ－57°－Ｅ。平面形態：隅丸方形。規模：5.90ｍ×5.65ｍ。床面積：31.2㎡。残存深度：21.2㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の凹凸はあるがほぼ平坦。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本で、長方形・楕円形の掘り方が認められる。炉跡：確認されなかったが、西側柱穴間外側に焼土の分布があり炉に関連する可能性もある。貯蔵穴：西側隅に位置。平面形態は方形で、規模80㎝×77㎝・深さ46㎝。底面から10㎝ほど上で小形Ｓ字台付甕が斜位で出土し、その下側に粘土ブロックと焼土層がみられた。掘り方：一部不明瞭であるが、縁辺部を「回」の字状もしくは「凹」の字状に掘り込むものと思われる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む黒褐色土を基調とする。

遺物出土状態：全体的にまばらな分布状態であるが、貯蔵穴内の遺物のほか同じく貯蔵穴の上面からＳ字台付甕が出土している。

遺物：Ｓ字台付甕２、土器片を確認している。掲載遺物２点。

63号住居跡　（遺構：第48図、ＰＬ28　遺物：第81図、ＰＬ42、観察表Ｐ13）

位置：ｃ29グリッド。重複：70号溝に切られる。長軸方位：Ｎ－48°－Ｗ。平面形態：隅丸方形。規模：5.77ｍ×5.25ｍ。床面積：29.5㎡。残存深度：12㎝。壁の状態：不明。床面：多少の起伏がみられるが、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：全周する。柱穴：主柱穴４本。柱痕径20～30㎝。そのほか、西側壁際にピット１基がある。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：縁辺部を「回」の字状に掘り込む。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：まばらな分布状態であった。

遺物：Ｓ字台付甕１、壺１を確認している。掲載遺物１点。

64号住居跡　（遺構：第49・50図、ＰＬ28・29　遺物：第81・82図、ＰＬ42、観察表Ｐ13）

位置：ｃ30グリッド。長軸方位：Ｎ－11°－Ｅ。平面形態：隅丸方形。規模：6.70ｍ×6.65ｍ。床面積：42.2㎡。残存深度：35㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：５層上面が床面で硬くしまっている。全体的にほぼ平坦である。壁周溝：全周する。柱穴：主柱穴４本。50～60㎝の円形・楕円形の掘り方が認められる。柱穴からは柱痕は確認できず、ロームブロック混じりの暗褐色土が全体に入り込んでいる状態であったことから、柱は抜かれていた可能性がある。炉跡：中央やや北寄りに位置。平面楕円形で、規模77㎝×68㎝・深さ８㎝。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：縁辺部をくずれた「回」の字状に掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。備考：南側両柱穴を連結するような状態で間仕切り状の浅い溝が確認されている。同溝の埋没土はロームブロックを多量に含んでいる。

遺物出土状態：炉跡南西からＳ字台付甕が倒れた状態で出土している。また、西側壁面から磨製石斧が、南側壁面から玉砥石が出土している。玉類の出土は認められなかった。

遺物：Ｓ字台付甕１、甕２以上、壺２以上、磨製石斧１、玉砥石１を確認している。磨製石斧は太形蛤刃で、輝緑岩製である。掲載遺物６点。

65号住居跡　（遺構：第51・52図、ＰＬ29　遺物：第82図、ＰＬ42、観察表Ｐ13）

位置：ｄ24グリッド。重複：53号溝に切られる。長軸方位：Ｎ－７°－Ｗ。平面形態：隅丸方形。規模：6.90ｍ×6.75ｍ。床面積：推定45.9㎡。残存深度：32㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：５層上面が床面で、全体的に平坦である。壁周溝：ほぼ全周すると思われるが、南側で一部途切れる。柱穴：主柱穴４本。炉跡：中央北寄りに位置。平面形態は長方形に近く、規模61㎝×45㎝・深さ５㎝弱。灰の堆積が認められる。貯蔵穴：床面検出時には確認されなかったが、掘り方調査の段階で北西隅に平面楕円形・規模92㎝×81㎝・深さ22㎝ほどの穴が確認されており、貯蔵穴の可能性もある。掘り方：縁辺部を「回」の字状に掘り込む。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色～黒褐色土。

遺物出土状態：まばらな分布状態であり、比較的縁辺部からの出土が多い。

遺物：Ｓ字台付甕片、壺１以上、坩１、埦１、高坏１、敲石１、礫を確認している。掲載遺物４点。

66号住居跡　（遺構：第53図、ＰＬ30・31　遺物：第82図、ＰＬ42、観察表Ｐ13）

位置：ａ27グリッド。長軸方位：Ｎ－22°－Ｗ。平面形態：隅丸方形。規模：5.90ｍ×5.45ｍ。床面積：30.3㎡。残存深度：20㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：４層上面が床面で、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：全周する。柱穴：主柱穴４本で、北側２本には補助柱穴がある。柱痕径は18～30㎝程度である。炉跡：北側柱穴間に位置。平面楕円形、規模75㎝×49㎝・深さ５㎝弱で、南側に枕石状に礫を配している。貯蔵穴：南壁際の西寄りに位置。平面形態は方形に近く、規模76㎝×72㎝・深さ12㎝。掘り方：縁辺部を「回」の字状に掘り込む。また、北西隅に平面楕円形で規模91㎝×65㎝・深さ20㎝弱の穴が確認されている。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。備考：柱穴間に部分的にではあるが、幅20㎝前後・深さ５㎝弱の間仕切り状溝が３辺確認されている。

遺物出土状態：まばらな分布状態であり、比較的縁辺部からの出土が多い。

遺物：Ｓ字台付甕１、甕１、坩１を確認している。掲載遺物２点。

67号住居跡　（遺構：第54図、ＰＬ30・31　遺物：第83・84、ＰＬ43、観察表Ｐ14）

位置：ｃ24グリッド。長軸方位：Ｎ－80°－Ｅ。平面形態：隅丸長方形。規模：5.95ｍ×4.85ｍ。床面積：28.0㎡。残存深度：26㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の起伏がみられる。北東部を中心に焼土が分布する。壁周溝：全周する。柱穴：主柱穴４本と想定されるが、北東部の柱穴は規模が小さい。炉跡：中央やや北寄りに位置。平面円形で、規模60㎝×59㎝・深さ10㎝。南西部に長さ31㎝の礫がある。上面に炉跡を覆うような状態で炭化材の分布がみられる。また、炉跡北側にも炭化材・灰の分布が認められる。貯蔵穴：南壁際東寄りに位置。平面楕円形で、規模58㎝×49㎝・深さ31㎝。掘り方：明瞭に確認できなかったが８層は貼り床と考えられる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。備考：焼土・炭化材の状態から判断して火災に遭っている可能性が考えられる。

遺物出土状態：西側壁際の北端からＳ字台付甕・器台が、同じく南端から壺・甕・埦が転げ落ちたような状態で出土している。比較的、縁辺部に集中する状態がうかがえ、しかも壁際付近からの出土が多い。

遺物：Ｓ字台付甕６以上、甕３以上、壺３以上、坩１、埦１、高坏３以上、器台７以上、甑２、手捏土器、礫を確認している。掲載遺物18点。

68号住居跡　（遺構：第55図、ＰＬ31　遺物：第84・85図、ＰＬ44、観察表Ｐ15）

位置：ｄ27グリッド。重複：風倒木痕より本遺構が新しい。長軸方位：Ｎ－３°－Ｅ。平面形態：不整長方形。規模：5.50ｍ×4.75ｍ。床面積：24.9㎡。残存深度：36㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：８層上面が床面でやや起伏がみられる。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本と想定されるが、北東部の柱穴は規模が小さい。柱痕径は18～28㎝程度である。炉跡：中央やや北寄りに位置。平面円形で、規模40㎝×38㎝・深さ８㎝。粘土ブロックと焼土の分布がみられる。貯蔵穴：南東隅に位置。平面円形で、規模61㎝×59㎝・深さ21㎝で、底面は凹凸がある。貯蔵穴内から壺が出土している。掘り方：北東部を除いた範囲を深めに掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。備考：西側壁際中央部に炭化材が確認されている。

遺物出土状態：比較的、縁辺部から多く出土する状態が認められる。

遺物：Ｓ字台付甕２以上、甕１以上、壺５以上、坩１、埦１、高坏２以上、器台１、砥石１を確認している。砥石は断面５角形で、各広面を使用している。掲載遺物12点。

69号住居跡　（遺構：第56図、ＰＬ31・32　遺物：第85図、ＰＬ44、観察表Ｐ15）

位置：ｄ31グリッド。重複：71号溝に切られる。長軸方位：Ｎ－27°－Ｅ。平面形態：隅丸方形。規模：5.30ｍ×4.85ｍ。床面積：24.7㎡。残存深度：24㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：４層上面が床面と想定される。多少の凹凸がみられるが、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：北西隅～東～南壁沿い東半分において確認されているが、途切れる部分がみられる。柱穴：主柱穴４本で、南西部の柱穴には内側に補助柱穴状のピットがある。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：南西隅に位置。平面形態は長方形に近く、規模78㎝×70㎝・深さ25㎝。貯蔵穴内には多量の炭化材及び焼土がみられた。掘り方：縁辺部を「凹」の字状に掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色～黒褐色土。備考：本住居跡は火災に遭っており、壁際を中心に焼土の分布がみられる。また、縁辺部には放射状に炭化材が確認されている。なお、炭化材は材同定などの分析は行っていないが遺存状態良好なものを簡易保存してある。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、まばらな分布状態であった。

遺物：甕１、高坏１を確認している。掲載遺物１点。

70号住居跡　（遺構：第52図、ＰＬ31　遺物：第85図、ＰＬ44、観察表Ｐ15）

位置：ｈ26グリッド。31号古墳墳丘下にあたる位置。重複：69号溝及び２号河川跡に切られており、南東部のみが残存する。長軸方位：不明。規模：不明。床面積：不明。残存深度：18㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の凹凸がみられる。壁周溝：残存部分において全周する。柱穴：残存部分からピット３基を確認している。この内、掘り込みの深い１基が主柱穴の１本と推測される。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。

遺物出土状態：重複の影響もあり、出土遺物は少なかった。壺(2)は２号河川跡に流れ込んでいたものである。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕１、二重口縁壺１を確認している。掲載遺物２点。

73号住居跡　（遺構：第57図、ＰＬ31　遺物：第85図、ＰＬ44、観察表Ｐ16）

位置：Ｘ23グリッド。南東部は調査区外。長軸方位：Ｎ－62°－Ｅ。平面形態：隅丸方形。規模：5.60ｍ×5.48ｍ。床面積：不明。残存深度：13㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の凹凸がみられるが、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：北～西壁沿いにおいて確認されている。柱穴：南東部の柱穴は調査区外のため検出できなかったが、主柱穴４本と想定される。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：南壁際西寄りに位置。平面楕円形で、規模79㎝×54㎝・深さ36㎝。掘り方：縁辺部を「回」の字状に掘り込んでいるものと想定される。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、まばらな分布状態であった。

遺物：Ｓ字台付甕１、壺２を確認している。掲載遺物３点。

74号住居跡　（遺構：第58図、ＰＬ34　遺物：第86図、ＰＬ45、観察表Ｐ16）

位置：Ｗ23グリッド。南東半分は調査区外。長軸方位：推定Ｎ－26°－Ｗ。平面形態：全容不明であるが長方形基調と想定される。規模：6.00ｍ以上×不明。床面積：不明。残存深度：16㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の凹凸はみられるが、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：確認されなかった。柱穴：西側で主柱穴と思われる２本を確認している。北東部のピットは浅間Ｂ軽石が埋没しており、本住居跡よりは新しい時期のものである。炉跡：中央やや北寄りと想定される位置。平面不整円形で、規模42㎝×38㎝・深さ10㎝弱。南側に粘土塊がみられる。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：縁辺部を「回」の字状もしくは「凹」の字状に掘り込んでいるものと想定される。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。備考：西壁際及び北壁際に焼土が分布する。

遺物出土状態：まばらな分布状態であるが、比較的縁辺部からの出土が多かった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕・壺２以上、坩１を確認している。掲載遺物２点。

75号住居跡　（遺構：第59図、ＰＬ33　遺物：第86図、ＰＬ45、観察表Ｐ16）

位置：ｂ31グリッド。重複：57号土坑に一部切られる。長軸方位：Ｎ－43°－Ｅ。平面形態：隅丸方形。規模：5.55ｍ×5.05ｍ。床面積：推定26.2㎡。残存深度：17㎝。壁の状態：やや傾斜をもって立ち上がりはじめる。床面：多少の凹凸はあるが、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：南西壁面沿いにのみ確認されている。柱穴：主柱穴４本で、そのほかに小ピット３基がある。西側の柱穴には根詰石がみられる。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：南隅付近に位置。平面形態は長方形に近く、規模68㎝×52㎝・深さ24㎝。西隅にも楕円形の穴が位置するが、深さ10㎝と浅いものである。掘り方：全体をほぼ均等に掘り込んでいるが、中央部には小穴が多数みられた。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。備考：南西及び南東の壁面から幅15㎝・深さ５㎝程度の間仕切り状溝がのびている。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、まばらな分布状態であった。

遺物：甕１、土器片を確認している。掲載遺物１点。

76号住居跡　（遺構：第60図、ＰＬ33・34　遺物：第86図、ＰＬ45、観察表Ｐ16）

位置：Ｙ31グリッド。長軸方位：Ｎ－30°－Ｅ。平面形態：やや不整な隅丸長方形。規模：5.85ｍ×4.95ｍ。床面積：27.1㎡。残存深度：16㎝。壁の状態：不明。床面：多少の凹凸がみられるが、全体的にほぼ平坦

である。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本。そのほかに小ピット２基がある。炉跡：中央やや北寄りに位置。平面楕円形で、規模55cm×44cm・深さ６cm程度。南側に枕石を配している。貯蔵穴：床面調査時には確認できなかったが、掘り方調査の段階で南壁際東寄りに楕円形の穴を確認している。規模54cm×41cm・深さ20cm程度。規模・形状からみて貯蔵穴の可能性が高い。掘り方：縁辺部を「回」の字状に掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。

遺物出土状態：まばらな分布状態で、比較的縁辺部からの出土が多い。炉跡内からは甕が出土している。

遺物：台付甕１、甕１、蓋２を確認している。掲載遺物４点。

78号住居跡　（遺構：第61図、ＰＬ34　遺物：第86図、ＰＬ45、観察表Ｐ16）

位置：Ｙ31グリッド。重複：66号溝を切っている。長軸方位：Ｎ－２°－Ｅ。平面形態：隅丸長方形。規模：6.65ｍ×5.65ｍ。床面積：35.9㎡。残存深度：40cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：６・７・８層上面が床面で、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本。炉跡：中央やや北寄りに位置。平面楕円形で、規模48cm×40cm・深さ７cm前後。埋没土は焼土を多量に含んでいる。貯蔵穴：南壁際中央付近に位置。平面形態は方形に近く、規模53cm×49cm・深さ40cm。掘り方：縁辺部を「回」の字状に、内側は不規則に掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、南東隅付近から高坏・器台が出土している程度である。

遺物：高坏１、器台１を確認している。掲載遺物２点。

79号住居跡　（遺構：第62図、ＰＬ34）

位置：Ｗ32グリッド。長軸方位：Ｎ－23°－Ｅ。平面形態：長方形。規模：6.25ｍ×4.70ｍ。床面積：28.3㎡。残存深度：22cm。壁の状態：不明。床面：既に床面の大半が削平されている状態であった。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本。そのほか、東壁際中央部に深いピットがある。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：南壁際東寄りに位置。平面形態は方形状で、規模52cm×52cm・深さ36cm。この東側にも浅い穴がある。掘り方：縁辺部を広く「回」の字状に掘り込んでいる。

遺物出土状態：掘り方調査時に土器片がまばらに出土している。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕破片を確認している。掲載遺物０。

80号住居跡　（遺構：第63図、ＰＬ34）

位置：Ｕ24グリッド。南側過半が調査区外。長軸方位：Ｎ－２°－Ｗ。平面形態：全容不明であるが、隅丸長方形と想定される。規模：不明×7.05ｍ。床面積：不明。残存深度：35cm。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：３層上面が床面で、多少の凹凸はみられるが全体的にほぼ平坦である。壁周溝：調査範囲において全周する。柱穴：北側柱穴２本を確認している。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：縁辺部を浅く、内側を深めに掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、まばらな分布状態であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕１以上、坏１以上を確認している。掲載遺物０。

81号住居跡　（遺構：第64図、ＰＬ34　遺物：第86図、ＰＬ45、観察表Ｐ17）

位置：ｄ21グリッド。重複：30号・32号古墳及び53号溝（道路状遺構南側側溝）に切られる。長軸方位：推定Ｎ－78°－Ｅ。平面形態：全容不明であるが、長方形基調と想定される。規模：不明×8.95ｍ。床面積：不明。残存深度：32㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：２層上面が床面で硬くしまり、多少の凹凸がみられる。壁周溝：北側及び西側壁沿いに確認されている。柱穴：南西部の柱穴は不明だが、主柱穴４本と想定される。そのほかピット・穴が５基ある。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：全体を掘り込んでいると思われる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。備考：北西部を中心に焼土と炭化材の分布がみられる。

遺物出土状態：南東部から少量の土器片が出土している程度である。

遺物：Ｓ字台付甕破片、台付甕１、甕１、壺１、樽式系土器片を確認している。掲載遺物３点。

82号住居跡　（遺構：第65図、ＰＬ34・35　遺物：第87図、ＰＬ45、観察表Ｐ17）

位置：Ｚ31グリッド。重複：85号住居跡を切る。長軸方位：Ｎ－13°－Ｅ。平面形態：隅丸長方形。規模：5.93ｍ×5.30ｍ。床面積：30.3㎡。残存深度：28㎝。壁の状態：傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の凹凸がみられるが、全体的にほぼ平坦である。壁周溝：ほぼ全周する。柱穴：主柱穴４本。柱痕径は15～28㎝である。そのほかに小ピットが数基みられる。炉跡：新旧２基確認されている。いずれも中央北寄りに位置。１号炉跡は、平面不整長方形で規模49㎝×34㎝・深さ５㎝弱。２号炉跡は、平面円形で規模45㎝×42㎝・深さ７㎝程度。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：やや不規則な掘り方であるが、基本的には縁辺部を「回」の字状に掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。備考：わずかではあるが、東側に焼土の分布がみられる。

遺物出土状態：まばらな分布状態であった。南西隅から壺と器台が出土している。

遺物：（Ｓ字）台付甕の脚台部２、壺１、甕１、器台１を確認している。掲載遺物４点。

83号住居跡　（遺構：第66図、ＰＬ34　遺物：第87図、ＰＬ46、観察表Ｐ17）

位置：ｈ24グリッド。31号古墳墳丘下にあたる位置。長軸方位：Ｎ－71°－Ｅ。平面形態：長方形。規模：5.55ｍ×4.45ｍ。床面積：23.0㎡。残存深度：41㎝。壁の状態：傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：４層上面が床面で多少の起伏がみられる。壁周溝：全周する。柱穴：主柱穴４本で、円形・楕円形の掘り方が認められる。柱痕径は25～30㎝。炉跡：中央東寄りに位置。平面楕円形で、長軸35㎝・深さ５㎝弱。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：縁辺部を「Ｌ」字状に、中央部を長方形状に掘り込んでいる。また、床面下から深さ15㎝前後の小ピット５基が確認されている。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む黒褐色土～暗褐色土。備考：南東隅に焼土の分布がみられる。

遺物出土状態：縁辺部からの出土が多く、特に南壁際中央部からはＳ字台付甕６・高坏１が集中する。

遺物：Ｓ字台付甕７、高坏１を確認している。掲載遺物７点。

84号住居跡　（遺構：第67図、ＰＬ35）

位置：Ｘ33グリッド。重複：94号住居跡及び66号溝を切る。長軸方位：Ｎ－８°－Ｅ。平面形態：不整方形。規模：5.00ｍ×4.63ｍ。床面積：22.3㎡。残存深度：28㎝。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の起伏がみられる。壁周溝：南西隅・南東隅及び東壁沿いの一部を除いて全周。柱穴

：主柱穴４本。やや不均整な配置である。**炉跡**：確認されなかった。**貯蔵穴**：南東隅付近に径30㎝・深さ16㎝のピットがあるが貯蔵穴とは考えにくい。**掘り方**：基本的に、縁辺部を「回」の字状に掘り込んでいる。**埋没土の特徴**：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。**備考**：西側に平面長方形で、規模1.53ｍ×0.65ｍ・深さ46㎝の土坑があるが、本遺構との関係は判断できなかった。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、まばらな分布状態であった。

遺物：Ｓ字台付甕２以上、埦２以上を確認しているが、いずれも小破片である。掲載遺物０。

85号住居跡　（遺構：第68図、ＰＬ36　遺物：第88図、ＰＬ46、観察表Ｐ18）

位置：Ｚ32グリッド。**重複**：82号住居跡及び69号土坑・浅間Ｂ軽石を含むピットに切られる。**長軸方位**：Ｎ－５°－Ｅ。**平面形態**：長方形。**規模**：7.35×6.50ｍ。**床面積**：不明。**残存深度**：20㎝。**壁の状態**：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。**床面**：多少の起伏がみられる。**壁周溝**：確認されなかった。**柱穴**：主柱穴４本。**炉跡**：確認されなかった。**貯蔵穴**：確認されなかった。**掘り方**：基本的に、縁辺部を「回」の字状に掘り込んでいる。また、床面下から深さ10～15㎝前後の小ピットが多数確認されている。**埋没土の特徴**：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む黒褐色土～暗褐色土。

遺物出土状態：まばらな分布状態であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、台付甕脚台部１、壺１、高坏２以上、管玉１を確認している。掲載遺物５点。

86号住居跡　（遺構：第69図、ＰＬ36　遺物：第88図、ＰＬ46、観察表Ｐ18）

位置：ｉ31グリッド。**重複**：89号住居跡に切られる。**長軸方位**：推定Ｎ－59°－Ｅ。**平面形態**：長方形と推定される。**規模**：推定5.75ｍ×推定4.90ｍ。**床面積**：不明。**残存深度**：16㎝。**壁の状態**：不明。**床面**：既に床面が露呈している状態であった。**壁周溝**：確認されなかった。**柱穴**：主柱穴４本。**炉跡**：確認されなかった。**貯蔵穴**：確認されなかった。**掘り方**：縁辺部を「凹」の字状に、中央部を台形状に掘り込んでいる。また、床面下から深さ13～20㎝の小ピットが７基ほど確認されている。**埋没土の特徴**：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、中央部からＳ字台付甕の口縁部破片が出土している程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕１を確認している。掲載遺物１点。

87号住居跡　（遺構：第70図、ＰＬ36　遺物：第88図、ＰＬ46、観察表Ｐ18）

位置：ｇ24グリッド。31号古墳墳丘下にあたる位置。**重複**：31号古墳周溝・117号住居跡及び47号溝・74号土坑に切られる。**長軸方位**：Ｎ－15°－Ｗ。**平面形態**：方形。**規模**：5.85ｍ×5.60ｍ。**床面積**：推定31.9㎡。**残存深度**：38㎝。**壁の状態**：やや傾斜を持って立ち上がりはじめる。**床面**：３・４層上面が床面で、全体的にほぼ平坦である。**壁周溝**：一部途切れるが、ほぼ全周する。**柱穴**：主柱穴４本。**炉跡**：確認されなかった。**貯蔵穴**：確認されなかった。**掘り方**：縁辺部を「回」の字状に掘り込んでいる。また、中央南寄りに不整長方形の床下土坑がある。**埋没土の特徴**：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。**備考**：東壁際及び西壁際に焼土の分布がみられる。

遺物出土状態：まばらな分布状態である。北西柱穴内からＳ字台付甕が出土している。

遺物：Ｓ字台付甕３以上を確認している。掲載遺物１点。

88号住居跡　（遺構：第59図、ＰＬ36）

位置：ｈ24グリッド。北側大半が調査区外。重複：47号溝・31号古墳周溝に切られており、周溝底面にわずかに掘り込みが確認できる程度である。長軸方位：不明。平面形態：不明。規模：不明。床面積：不明。残存深度：６㎝。壁の状態：不明。床面：不明。壁周溝：確認されなかった。柱穴：調査範囲においてピット４基を確認しており、西側のピットは規模・位置から判断して主柱穴と思われる。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：不明。埋没土の特徴：不明。

遺物出土状態：少量の土器片が出土している程度である。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕破片を確認している。掲載遺物０。

94号住居跡　（遺構：第71図、ＰＬ35　遺物：第88図、ＰＬ46、観察表Ｐ18）

位置：Ｗ32グリッド。重複：84号住居跡に切られている。長軸方位：Ｎ－６°－Ｅ。平面形態：長方形。規模：6.50ｍ×5.45ｍ。床面積：不明。残存深度：15㎝。壁の状態：直立気味に立ち上がりはじめる。床面：やや凹凸がみられる。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴４本。楕円形の掘り方が確認されている。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：基本的に、縁辺部を「回」の字状に掘り込んでいる。また、床面下から深さ20～30㎝のピット４基が確認されている。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：出土遺物は少なく、まばらな分布状態であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、高坏１、砥石１を確認している。掲載遺物１点。

99号住居跡　（遺構：第62図、ＰＬ36　遺物：第88図、ＰＬ46、観察表Ｐ18）

位置：Ｗ３グリッド。重複：124号住居跡に切られる。長軸方位：Ｎ－35°－Ｅ。平面形態：方形。規模：3.50ｍ×3.05ｍ。床面積：推定10.5㎡。残存深度：５㎝弱。壁の状態：不明。床面：すでに床面まで削平されていた。壁周溝：確認されなかった。柱穴：小ピット１基があるが主柱穴は確認されなかった。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：南隅付近にやや壁外に出る不整円形の穴があり、貯蔵穴と判断した。規模60㎝×58㎝・深さ45㎝。貯蔵穴内からＳ字台付甕が出土している。掘り方：「凸」字状に掘り込んでいる。埋没土の特徴：不明。

遺物出土状態：先述の貯蔵穴からＳ字台付甕が出土しているほかは、まばらな分布状態である。

遺物：Ｓ字台付甕１、器台破片を確認している。掲載遺物１点。

101号住居跡　（遺構：第69図、ＰＬ36　遺物：第88図、ＰＬ46、観察表Ｐ18）

位置：Ｒ４グリッド。重複：１号河川跡に切られている。長軸方位：Ｎ－54°－Ｅ。平面形態：全容不明であるが、長方形基調と想定される。規模：不明×4.40ｍ。床面積：不明。残存深度：12㎝。壁の状態：傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の起伏・凹凸がみられる。壁周溝：確認されなかった。柱穴：残存部分においてピット６基を確認しているが、東側の２本が規模・位置から主柱穴と判断される。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：南壁際に位置。平面長方形で、規模58㎝×47㎝・深さ12㎝。貯蔵穴内には焼土の分布が認められ、また、高坏が出土している。掘り方：縁辺部を掘り込むようであるが、明瞭に確認できなかった。埋没土の特徴：不明。

遺物出土状態：高坏が貯蔵穴から出土しているほかは、まばらな分布状態である。

遺物：Ｓ字台付甕１、高坏１を確認している。掲載遺物１点。

106号住居跡　（遺構：第72図、ＰＬ37）

位置：Ｗ４グリッド。長軸方位：Ｎ－71°－Ｅ。平面形態：方形。規模：4.55ｍ×推定4.30ｍ。床面積：推定19.2㎡。残存深度：大半が削平されており、部分的に６㎝の掘り込みが確認できる程度である。壁の状態：不明。床面：すでに削平されている。壁周溝：確認されなかった。柱穴：ピット２基があるが、主柱穴は確認されなかった。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：不明。南側に長軸1.94ｍ・深さ12㎝ほどの凹みがある。埋没土の特徴：不明。

遺物出土状態：土器片がまばらに分布する程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、高坏脚部破片を確認している。掲載遺物０。

125号住居跡　（遺構：第72図、ＰＬ37　遺物：第88図、ＰＬ46、観察表Ｐ18）

位置：Ｓ４グリッド。重複：３号竪穴に切られる。長軸方位：Ｎ－49°－Ｅ。平面形態：隅丸方形。規模4.90ｍ×4.85ｍ。床面積：22.5㎡。残存深度：11㎝。壁の状態：不明。床面：すでに床面まで削平されていた。壁周溝：確認されなかった。柱穴：貯蔵穴と判断したものを除きピット４基があるが、主柱穴は確認されなかった。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：北隅に位置。平面楕円形で、規模44㎝×38㎝・深さ16㎝。掘り方：周囲を「回」の字状に掘り込んでいる。埋没土の特徴：床面下にローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土を充填している。

遺物出土状態：貯蔵穴からＳ字台付甕破片が出土しているほか、土器片がまばらに分布する。

遺物：Ｓ字台付甕破片、甕破片、高坏破片、樽式系土器片を確認している。掲載遺物１点。

130号住居跡　（遺構：第73図、ＰＬ37）

位置：Ｘ３グリッド。96号・110号・132号住居跡に切られる。長軸方位：Ｎ－６°－Ｗ。平面形態：方形。規模：5.40ｍ×5.25ｍ。床面積：推定27.7㎡。残存深度：14㎝。壁の状態：不明。床面：すでに床面まで削平されていた。壁周溝：東壁沿いを除いて確認されている。柱穴：ピット11基があるが、主柱穴は確認されなかった。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認できなかった。埋没土の特徴：不明。

遺物出土状態：ごく少量の遺物がまばらに分布する程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片、高坏脚部片を確認している。掲載遺物０。

132号住居跡　（遺構：第67図、ＰＬ37）

位置：Ｙ３グリッド。重複：39号溝に切られる。130号住居跡を切る。長軸方位：推定Ｎ－85°－Ｅ。平面形態：方形と推定される。規模：4.05ｍ以上×3.75ｍ。床面積：不明。残存深度：遺存の良い部分で８㎝程度。壁の状態：不明。床面：すでに床面は削平されていた。壁周溝：確認されなかった。柱穴：貯蔵穴と判断したものを除いてピット５基があるが、主柱穴は確認されなかった。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：北壁沿い中央付近に位置。平面楕円形で、規模53㎝×34㎝・深さ44㎝。底面から円礫が重なるように出土している。掘り方：確認できなかった。埋没土の特徴：不明。

遺物出土状態：まばらに土器片が分布する程度であった。

遺物：Ｓ字台付甕破片を確認している。掲載遺物０。

133号住居跡　（遺構：第74図、ＰＬ37）

位置：Ｖ３グリッド。33号古墳墳丘下にあたる位置。東側は調査区外。重複：33号古墳周溝に切られる。長軸方位：推定Ｎ－63°－Ｅ。平面形態：全容不明であるが、方形基調と想定される。規模：不明。床面積：不明。残存深度：９㎝。壁の状態：不明。床面：すでに床面まで削平されている。壁周溝：確認されなかった。柱穴：33号古墳周溝内で確認された２本を含めて、主柱穴４本と想定される。そのほか小ピット６基がある。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：わずかに壁外にのびるが、南壁西寄りに位置する長方形の穴を貯蔵穴と判断した。83㎝×55㎝・深さ34㎝。掘り方：縁辺部を「回」の字状に掘り込んでいるものと推測される。埋没土の特徴：不明。

遺物出土状態：土器片がわずかに出土している程度である。

遺物：Ｓ字台付甕破片、器台破片、樽式系土器片を確認している。掲載遺物０。

138号住居跡　（遺構：第63図、ＰＬ37）

位置：Ｕ３グリッド。東側は調査区外。重複：114号・128住居跡に切られており、ごく一部を調査し得たにすぎない。長軸方位：不明。平面形態：不明。規模：不明。床面積：不明。残存深度：14㎝。壁の状態：不明。床面：すでに床面まで削平されている。壁周溝：確認されなかった。柱穴：調査範囲内にピット１基があるが、主柱穴であるか否かは不明。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：不明。埋没土の特徴：不明。

遺物出土状態：わずかに土器片が分布する。

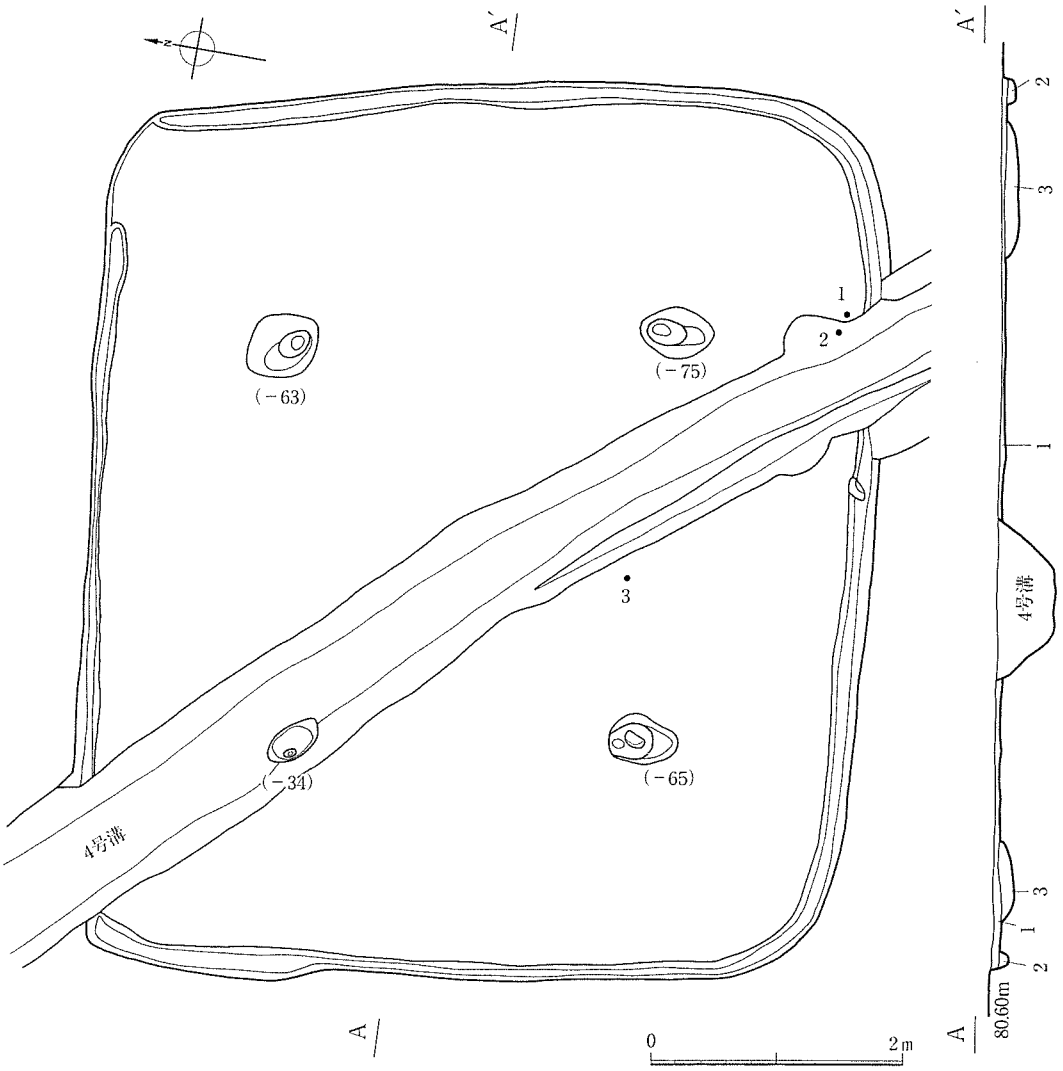
遺物：Ｓ字台付甕破片を確認している。掲載遺物０。

140号住居跡　（遺構：第73図、ＰＬ37　遺物：第88図、ＰＬ46、観察表Ｐ19）

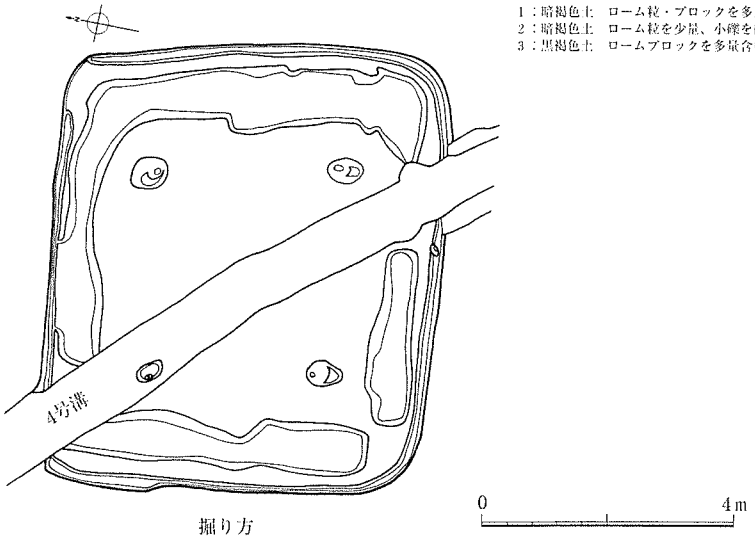
位置：ｄ８グリッド。重複：100号溝に切られるが、掘り方底面までは削平されない。長軸方位：Ｎ－５°－Ｅ。平面形態：方形。規模：4.50ｍ×4.10ｍ。床面積：18.2㎡。残存深度：20㎝。壁の状態：不明。床面：すでに床面まで削平されている。壁周溝：確認されなかった。柱穴：確認されなかった。ピットもみられない。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：くずれた「回」の字状に掘り込んでいる。埋没土の特徴：床面下にローム粒・ロームブロック・灰白色軽石粒を含む暗褐色土を充填している。

遺物出土状態：土器片がまばらに分布する程度である。

遺物：Ｓ字台付甕破片、坩１、高坏脚部片を確認している。掲載遺物１点。

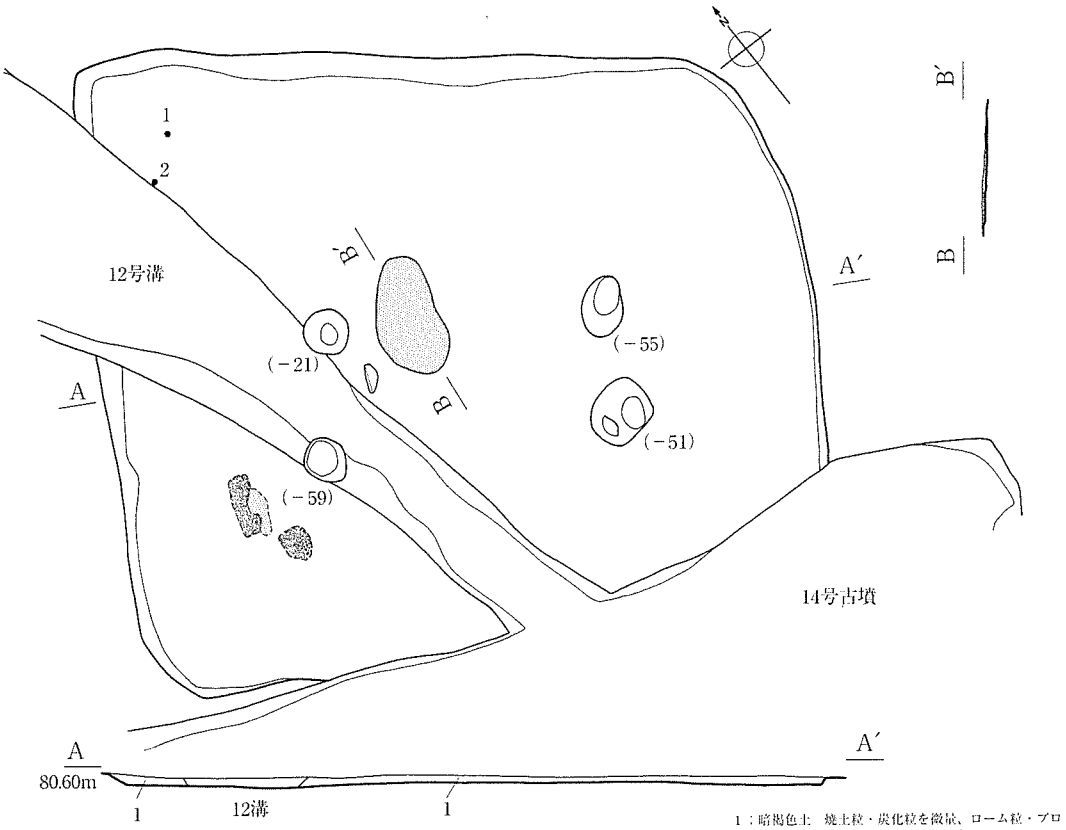


1：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量に含む。
2：暗褐色土　ローム粒を少量、小礫を微量含む。
3：黒褐色土　ロームブロックを多量含む。しまり強い。

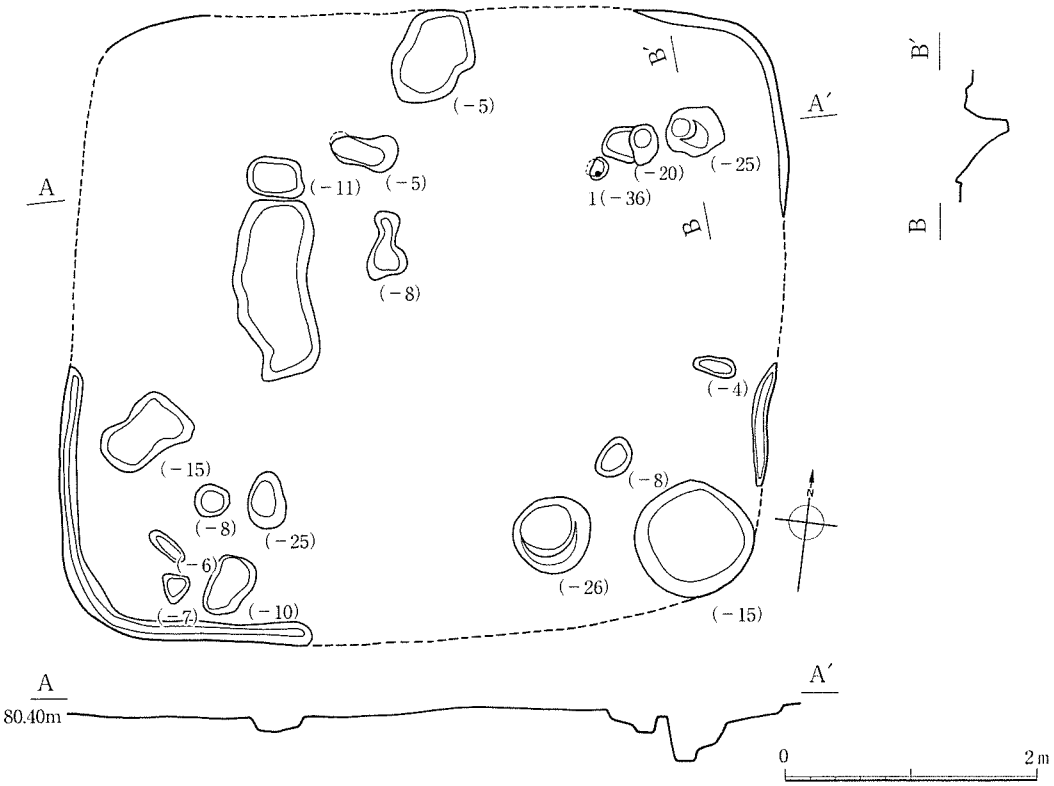


掘り方

第26図　１号住居跡

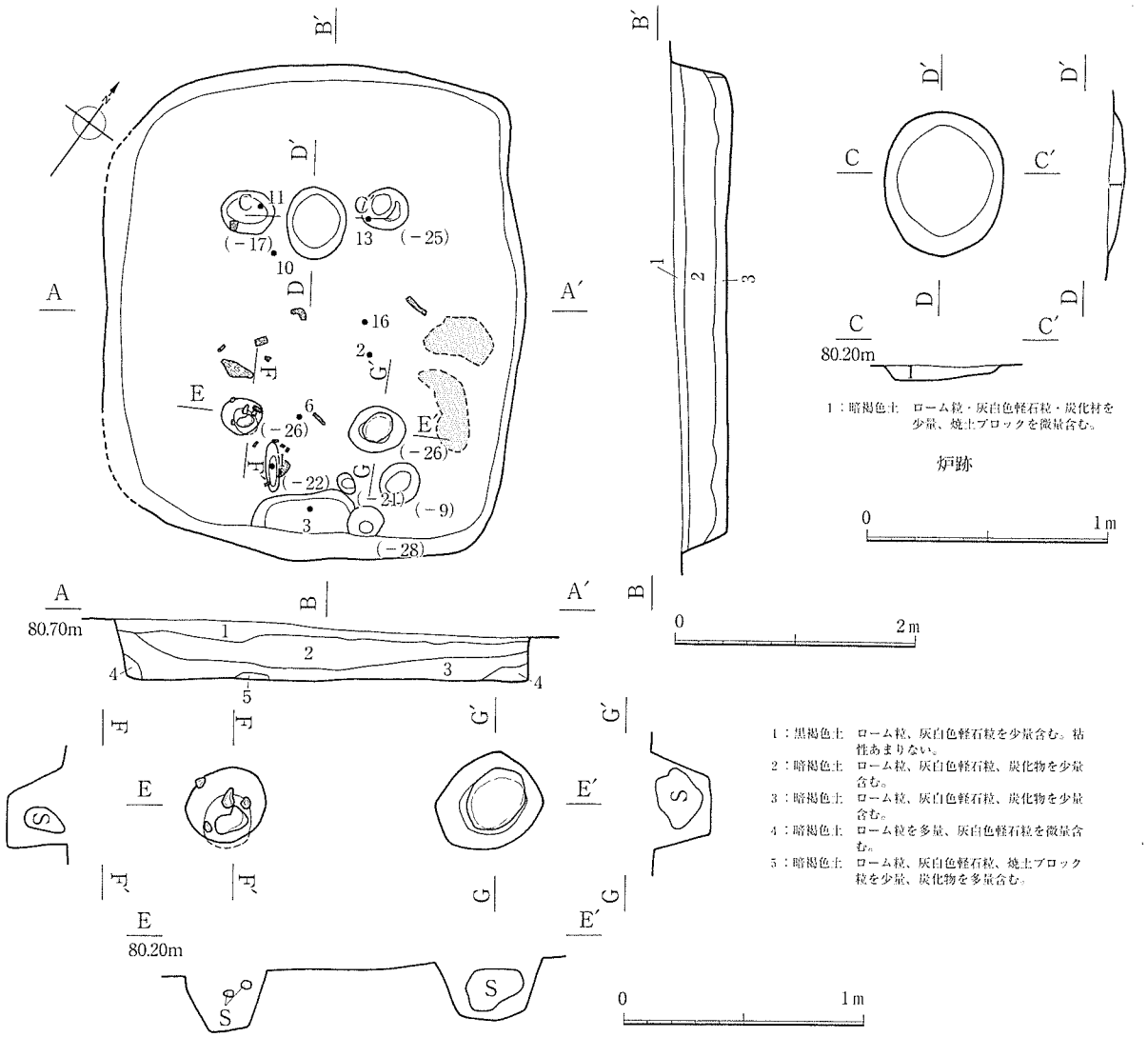


2号住居跡

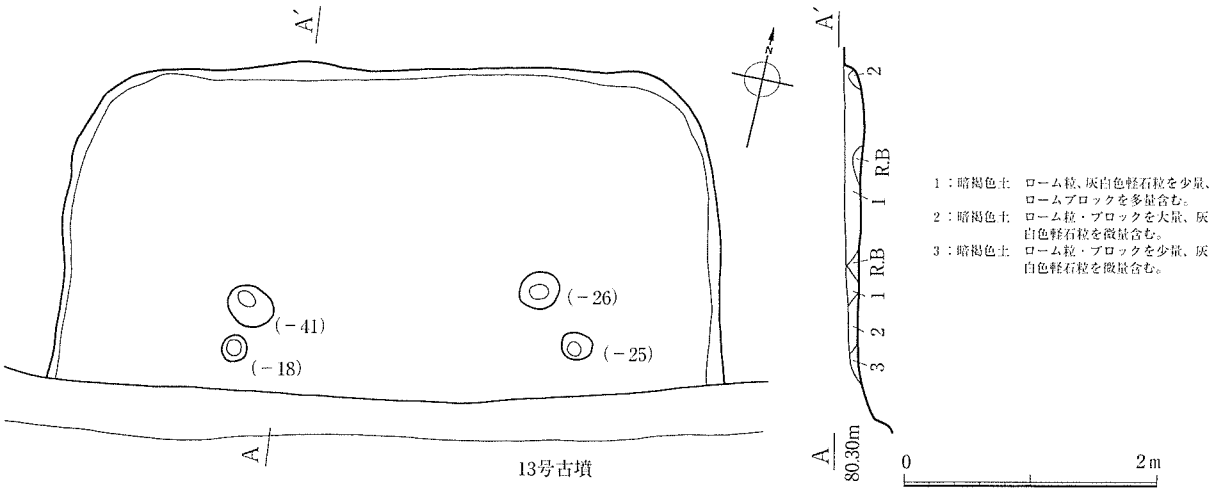


4号住居跡

第27図　２号住居跡・４号住居跡

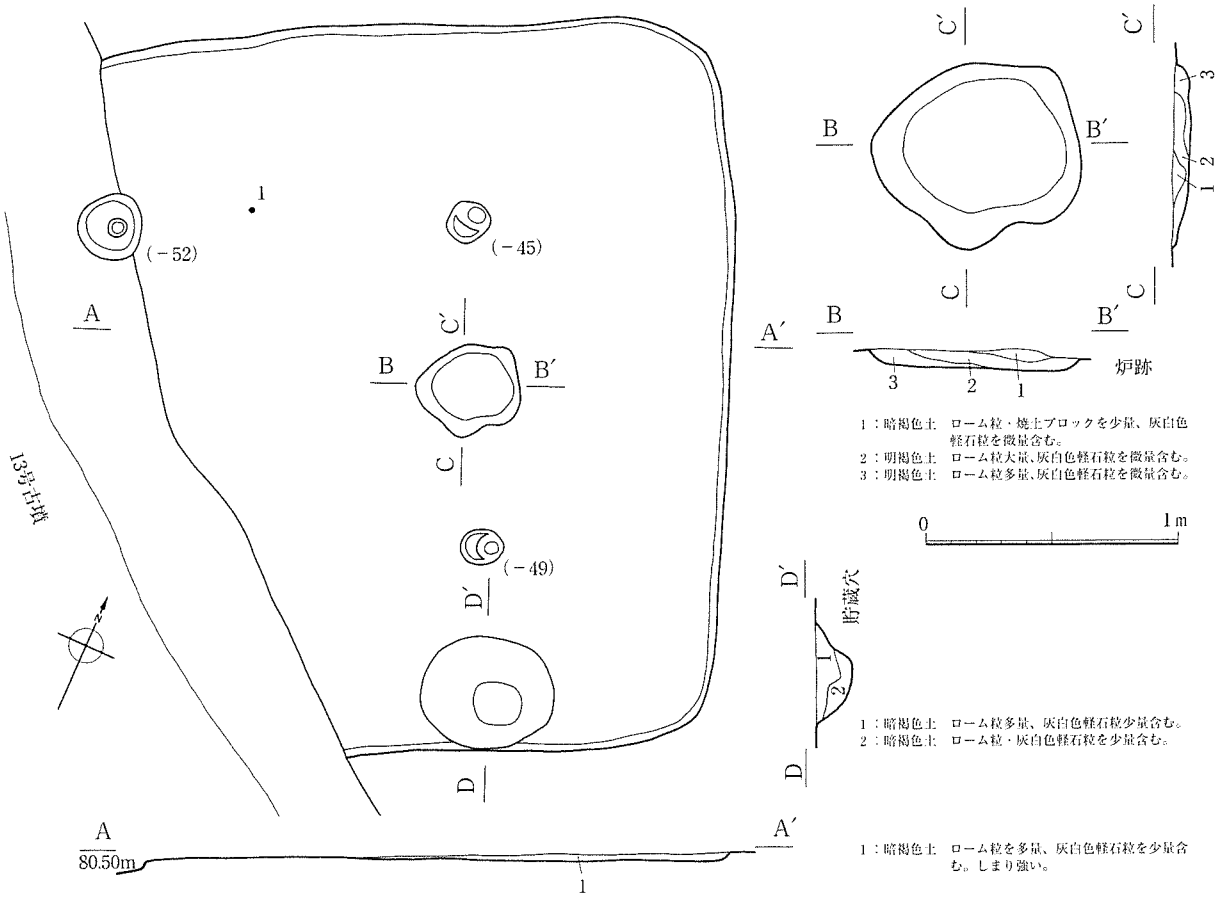


5号住居跡

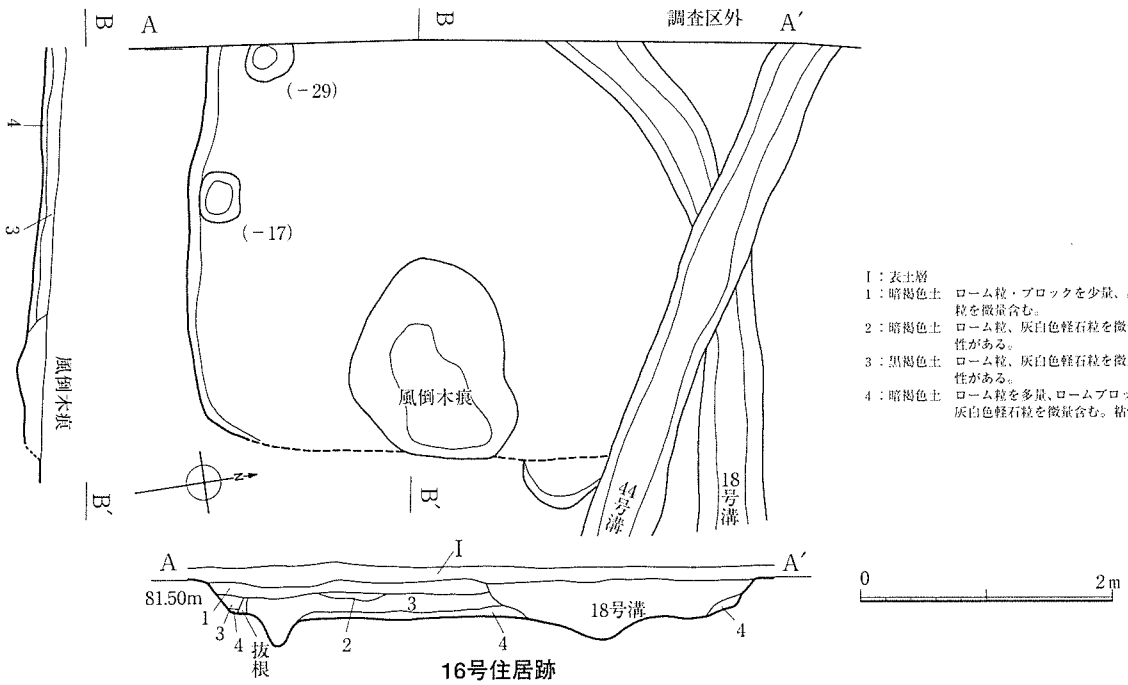


6号住居跡

第28図　5号住居跡・6号住居跡

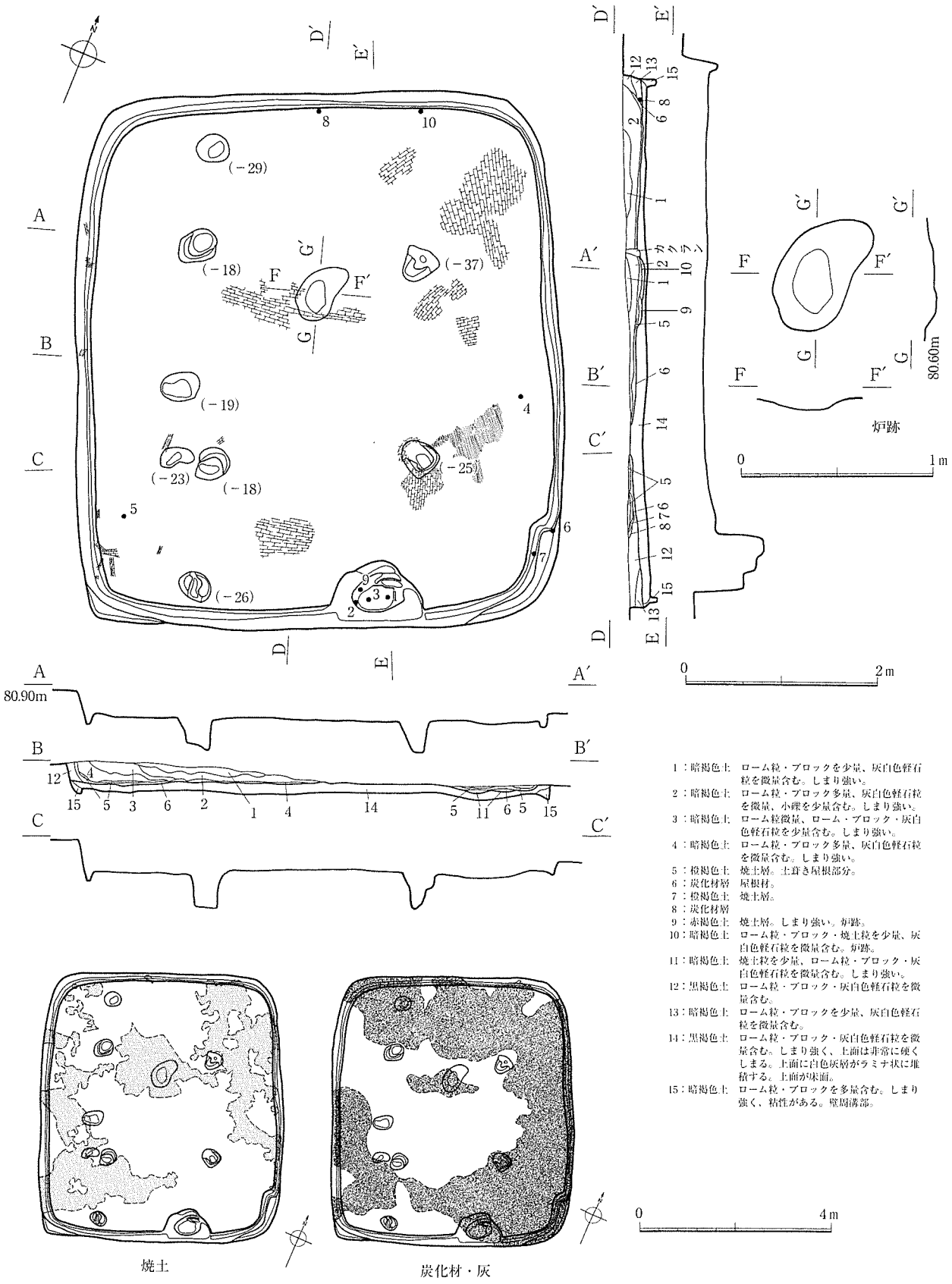


7号住居跡



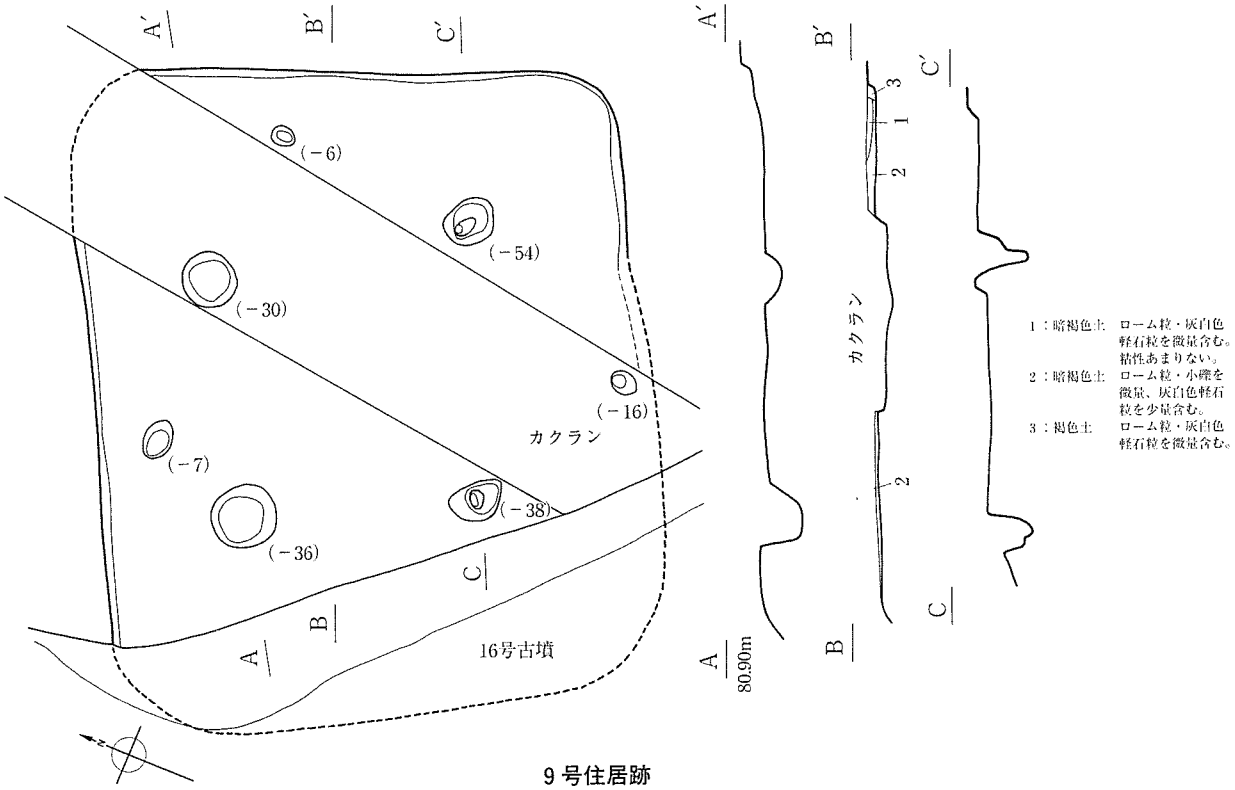
16号住居跡

第29図　７号住居跡・16号住居跡

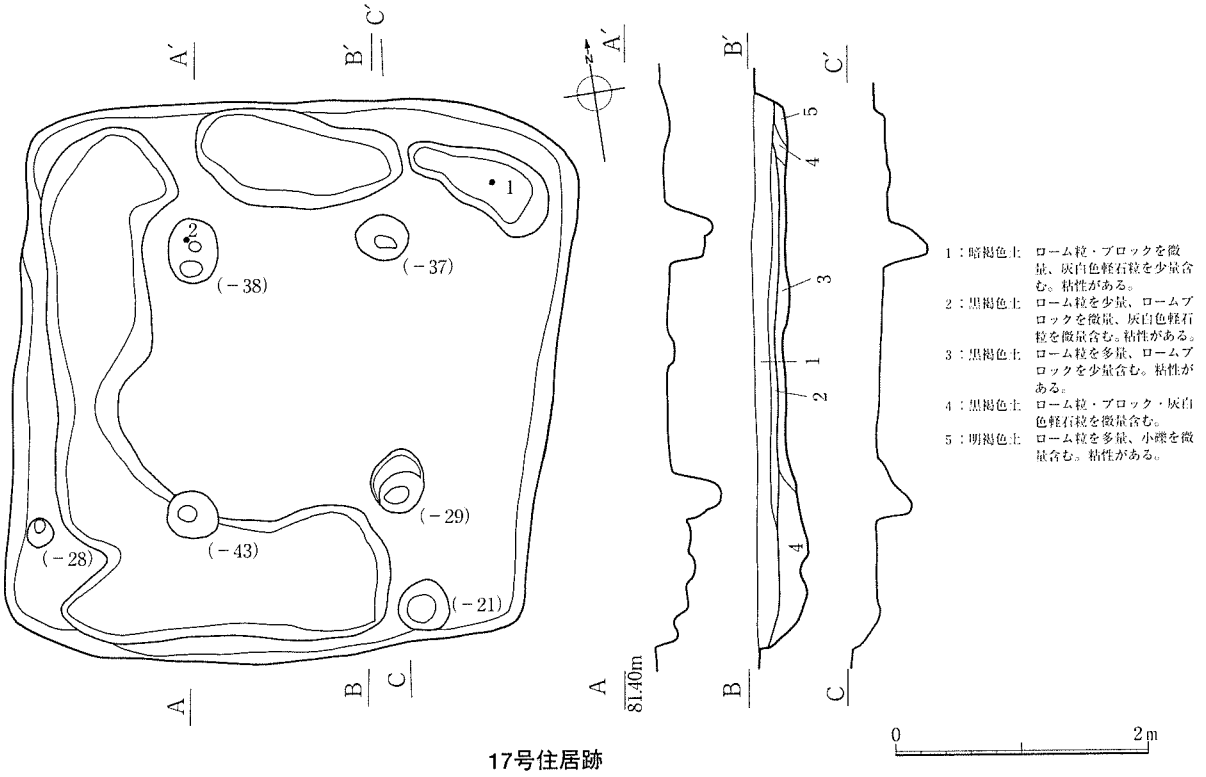


1：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強い。
2：暗褐色土　ローム粒・ブロック多量、灰白色軽石粒を微量、小礫を少量含む。しまり強い。
3：暗褐色土　ローム粒微量、ローム・ブロック・灰白色軽石粒を少量含む。しまり強い。
4：暗褐色土　ローム粒・ブロック多量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強い。
5：橙褐色土　焼土層。土葺き屋根部分。
6：炭化材層　屋根材。
7：橙褐色土　焼土層。
8：炭化材層
9：赤褐色土　焼土層。しまり強い。炉跡。
10：暗褐色土　ローム粒・ブロック・焼土粒を少量、灰白色軽石粒を微量含む。炉跡。
11：暗褐色土　焼土粒を少量、ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を微量含む。しまり強い。
12：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
13：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
14：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く、上面は非常に硬くしまる。上面に白色灰層がラミナ状に堆積する。上面が床面。
15：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量含む。しまり強く、粘性がある。壁周溝部。

第30図　８号住居跡

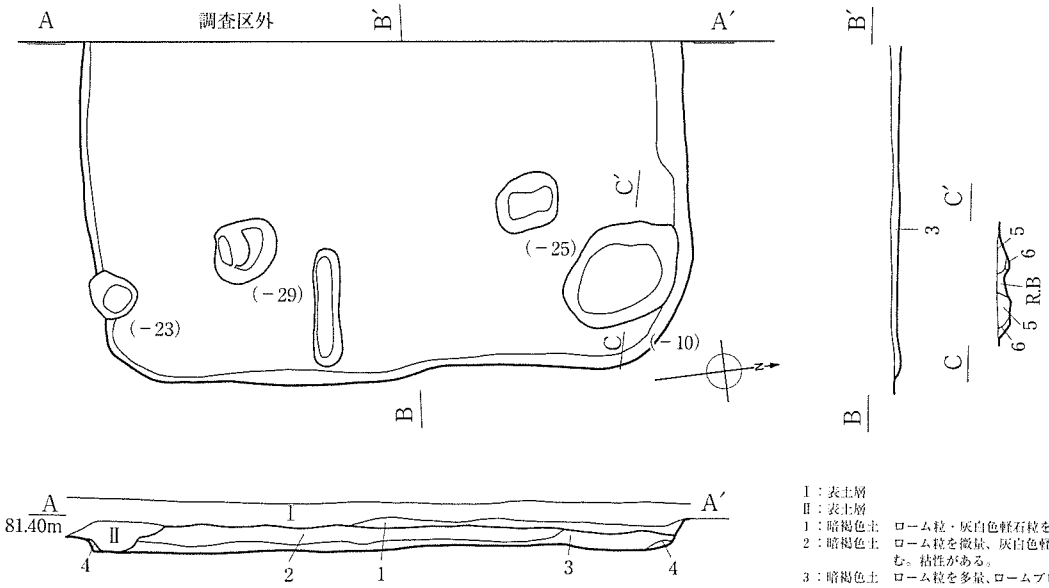


9号住居跡



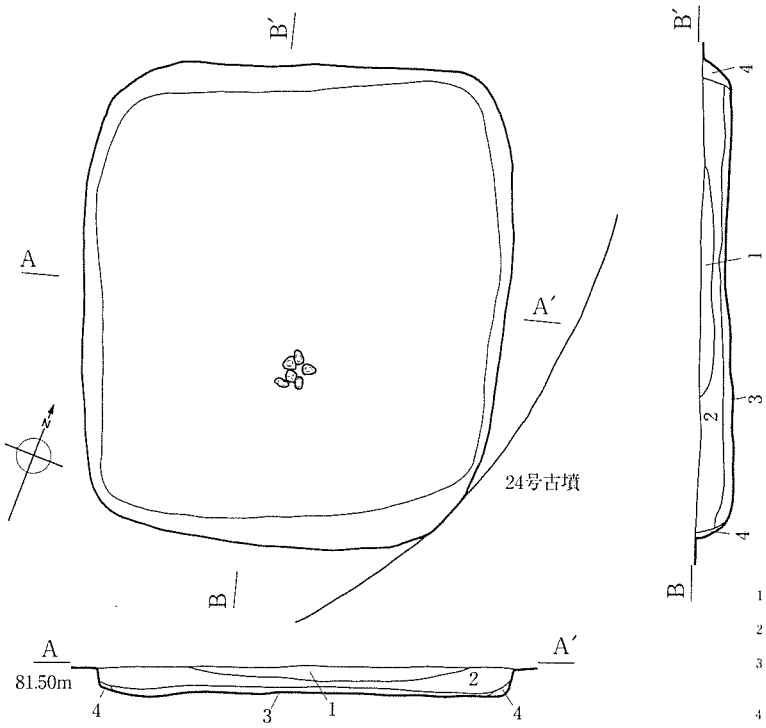
17号住居跡

第31図　９号住居跡・17号住居跡



Ⅰ：表土層
Ⅱ：表土層
1：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒を微量、灰白色軽石粒を少量含む。粘性がある。
3：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。
4：明褐色土　ローム粒を多量、灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。
5：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。粘性あまりない。
6：暗褐色土　ローム粒多量、灰白色軽石粒を微量含む。

18号住居跡

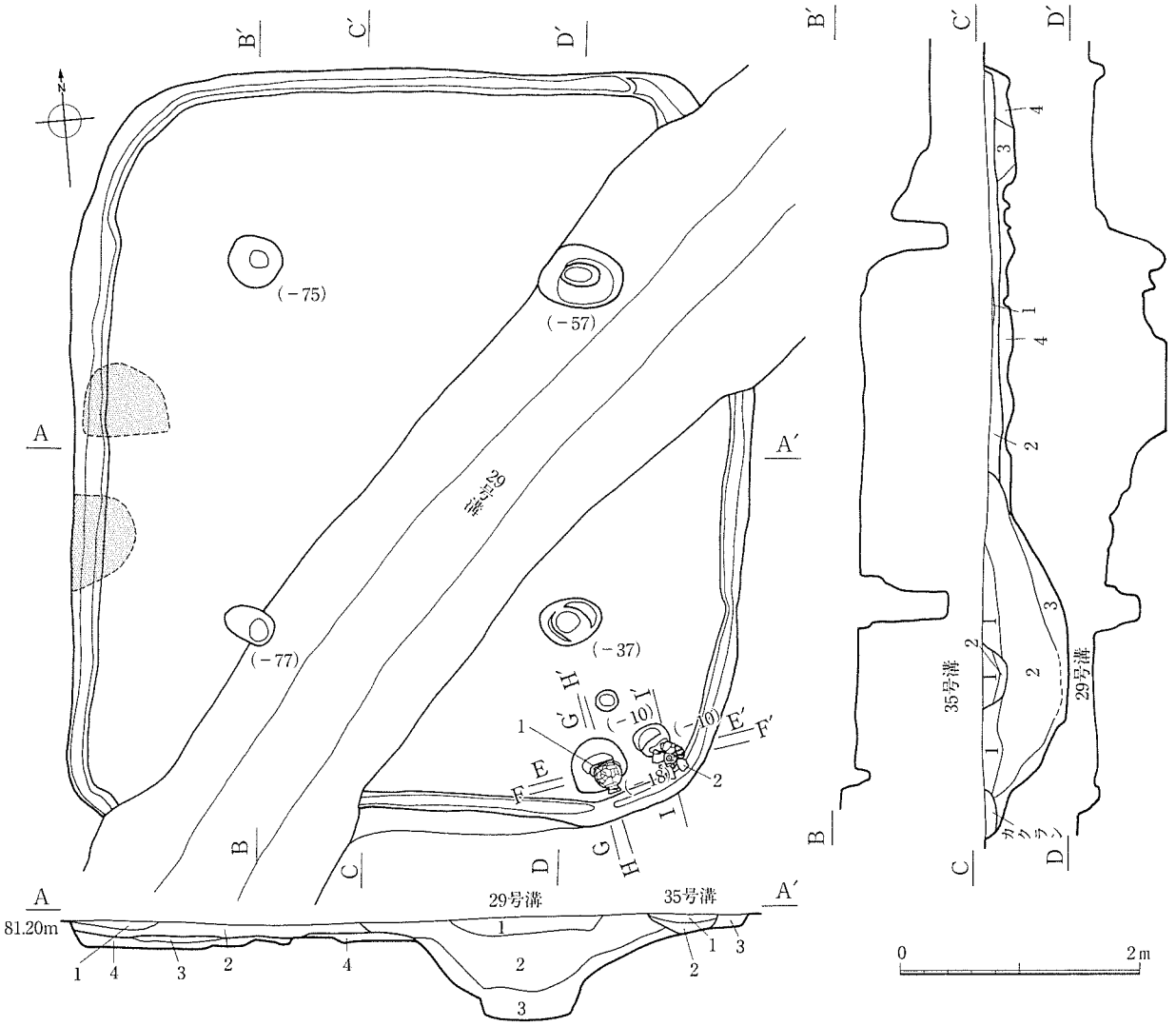


1：暗褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒・焼土粒を微量含む。
2：黒褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
3：黒色土　ローム粒が上部にラミナ状に堆積する。ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。
4：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量含む。

21号住居跡

0　2m

第32図　18号住居跡・21号住居跡



35号溝

1：暗褐色土　浅間B軽石二次堆積多量に、ローム粒を微量含む。しまり強い。

2：暗褐色土　浅間B軽石二次堆積多量に、ローム粒を微量、小礫を少量含む。しまり強い。

1：暗褐色土　焼土を少量、ローム粒・白色軽石粒を微量含む。粘性あまりない。

2：暗褐色土　ローム粒・ブロック・白色軽石粒を微量含む。

3：黒褐色土　ローム粒を微量、ロームブロックを少量含む。

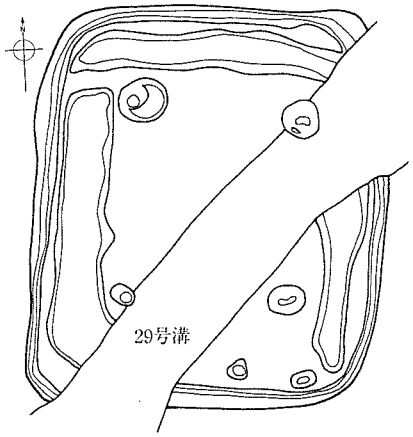
4：黒褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く、粘性がある。

29号溝

1：黒褐色土　ローム粒を少量含む。

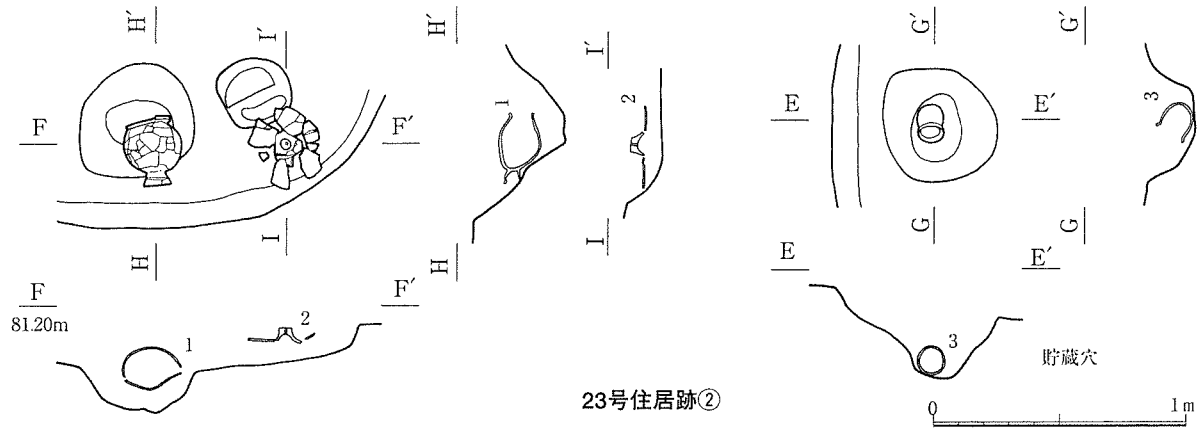
2：暗灰褐色土　ローム粒・ブロック少量、砂粒微量、小礫少量含む。しまり強く、粘性も強い。

3：暗灰褐色土　ローム粒・ブロック少量、砂粒・小礫を微量含む。しまり強く、粘性も強い。

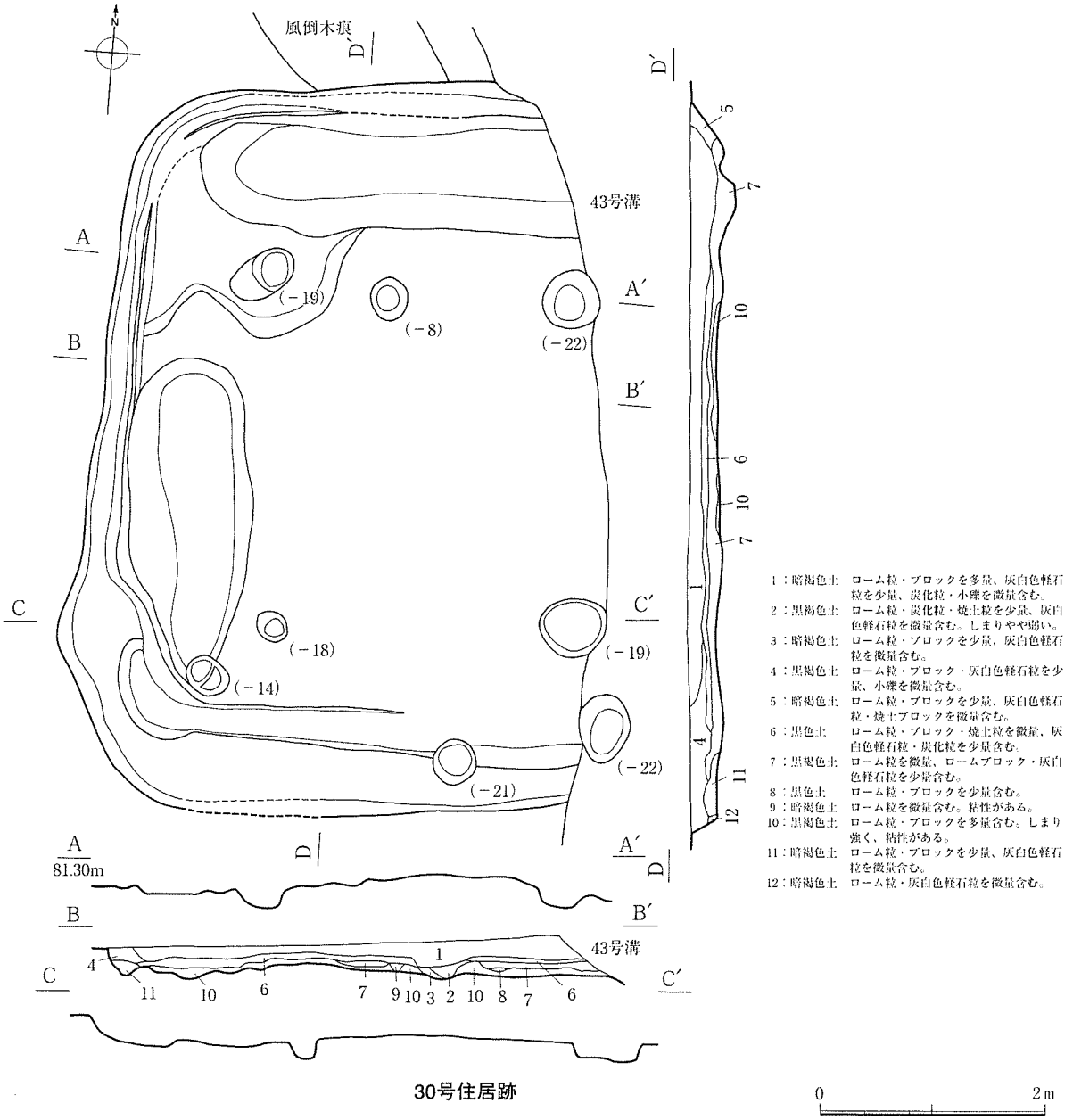


掘り方

第33図　23号住居跡①



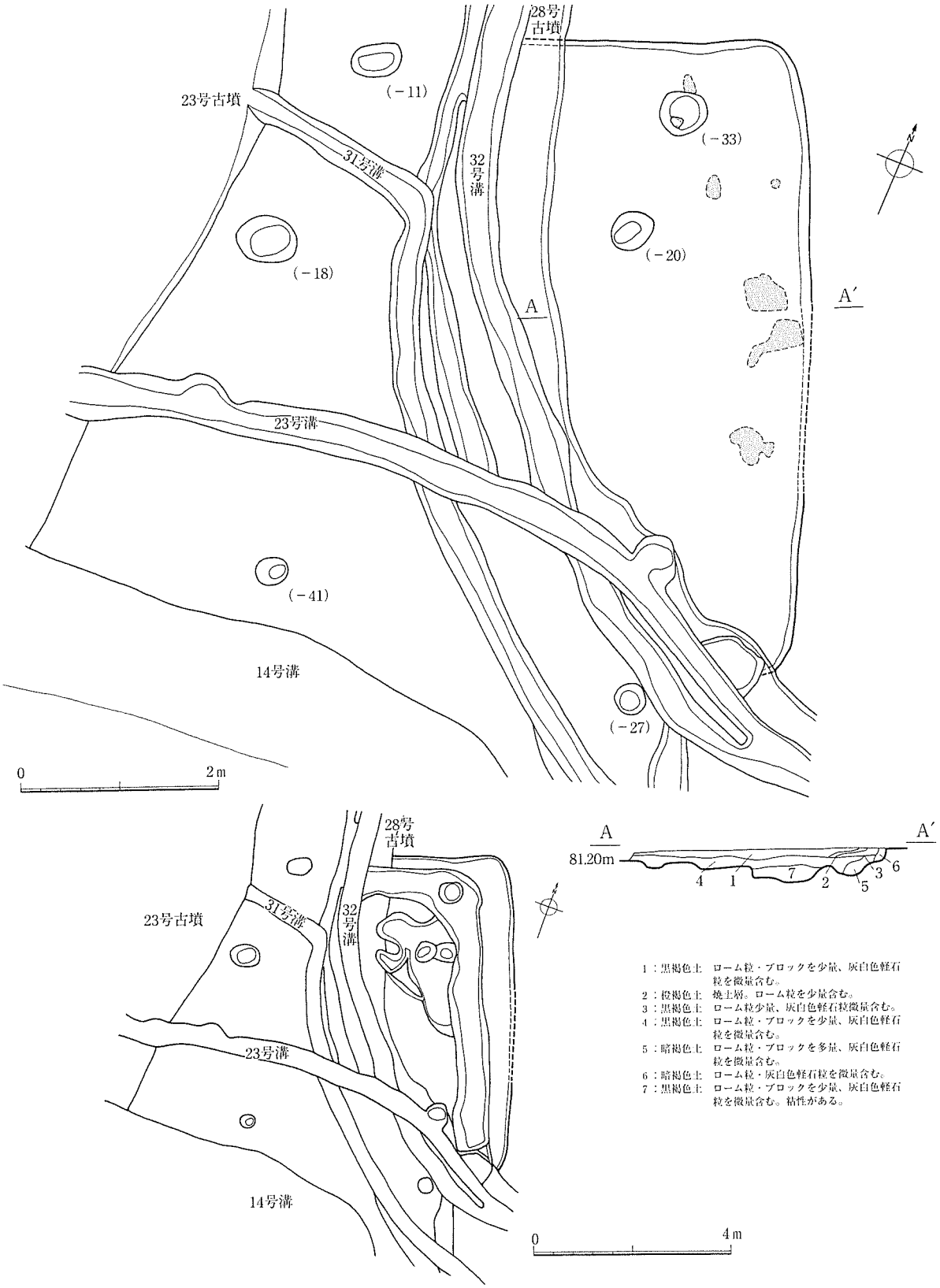
23号住居跡②



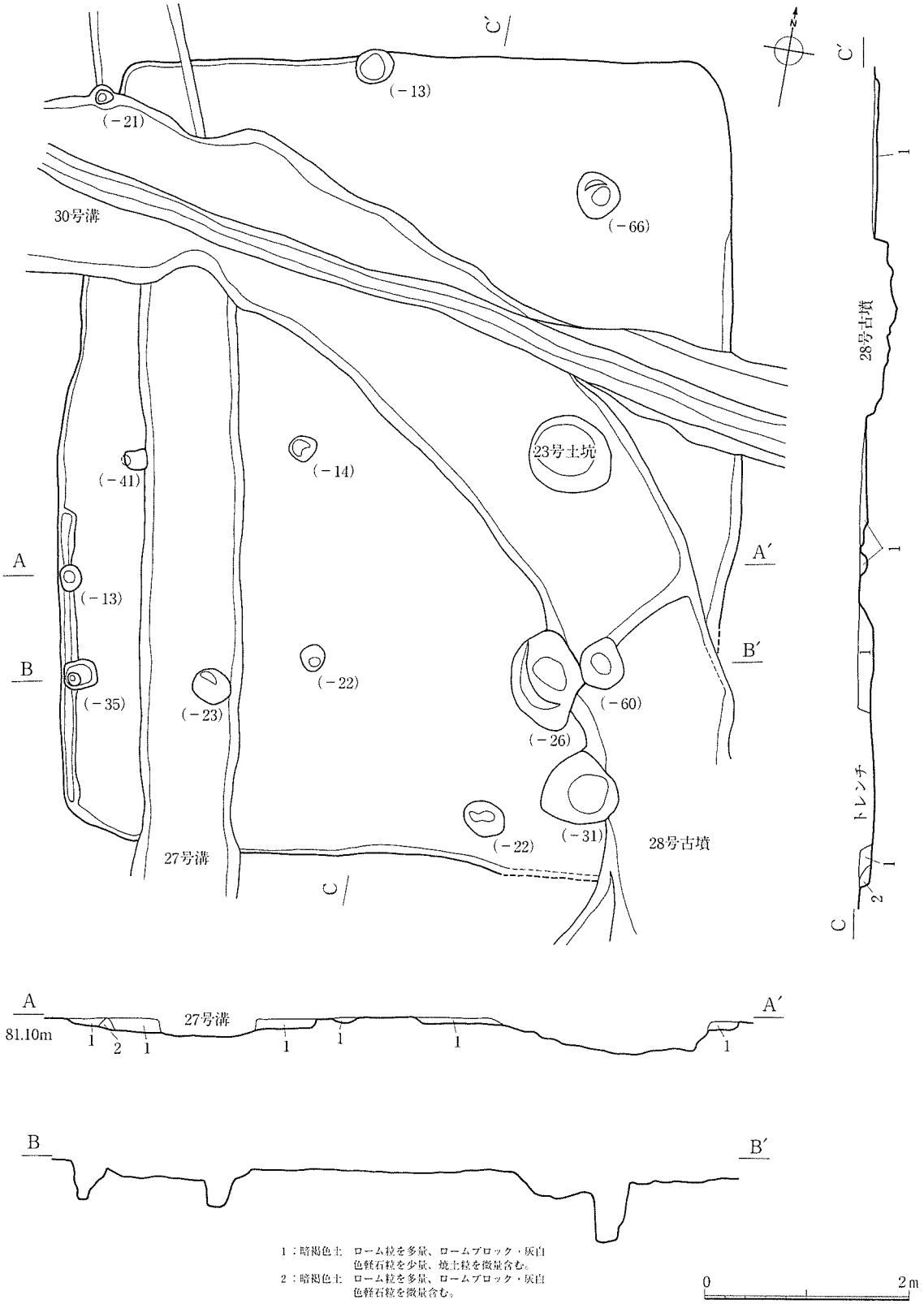
1：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を少量、炭化粒・小礫を微量含む。
2：黒褐色土　ローム粒・炭化粒・焼土粒を少量、灰白色軽石粒を微量含む。しまりやや弱い。
3：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
4：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量、小礫を微量含む。
5：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒・焼土ブロックを微量含む。
6：黒色土　ローム粒・ブロック・焼土粒を微量、灰白色軽石粒・炭化粒を少量含む。
7：黒褐色土　ローム粒を微量、ロームブロック・灰白色軽石粒を少量含む。
8：黒色土　ローム粒・ブロックを少量含む。
9：暗褐色土　ローム粒を微量含む。粘性がある。
10：黒褐色土　ローム粒・ブロックを多量含む。しまり強く、粘性がある。
11：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
12：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。

30号住居跡

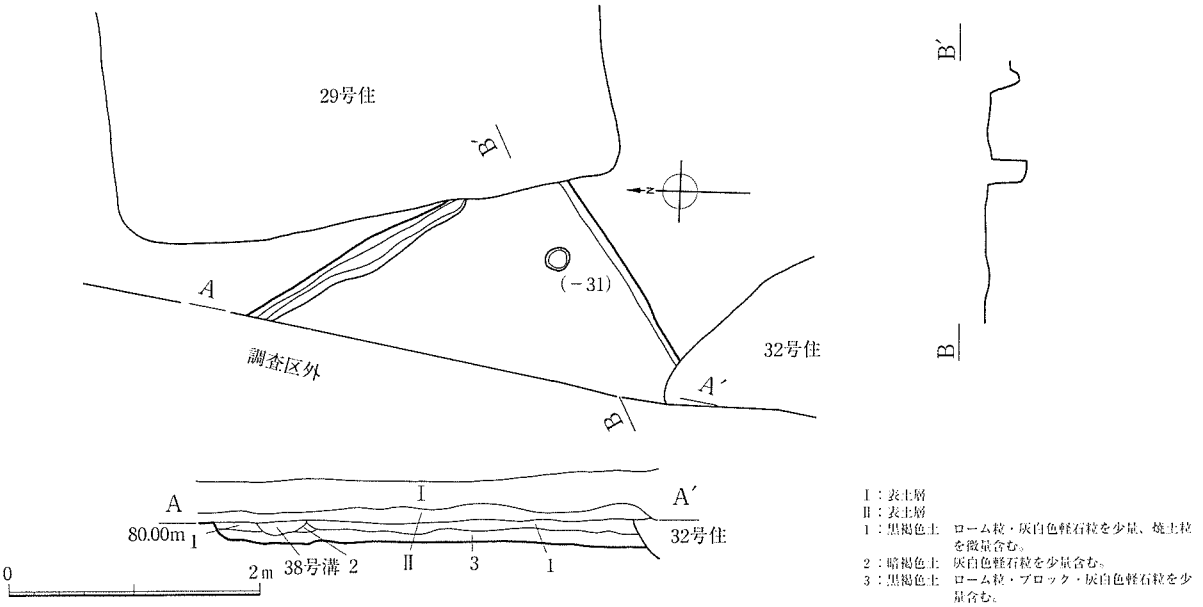
第34図　23号住居跡②・30号住居跡


28号
古墳
23号古墳
(－11)
31号溝
32
号
溝
(－33)
(－18)
(－20)
A
A′
23号溝
(－41)
14号溝
(－27)
0
2m
28号
古墳
23号古墳
31号溝
32
号
溝
23号溝
14号溝
0
4m
A
A′
81.20m
4
1
7
2
5
3
6
1：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
2：橙褐色土　焼土層。ローム粒を少量含む。
3：黒褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。
4：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
5：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
6：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
7：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。

第35図　24号住居跡

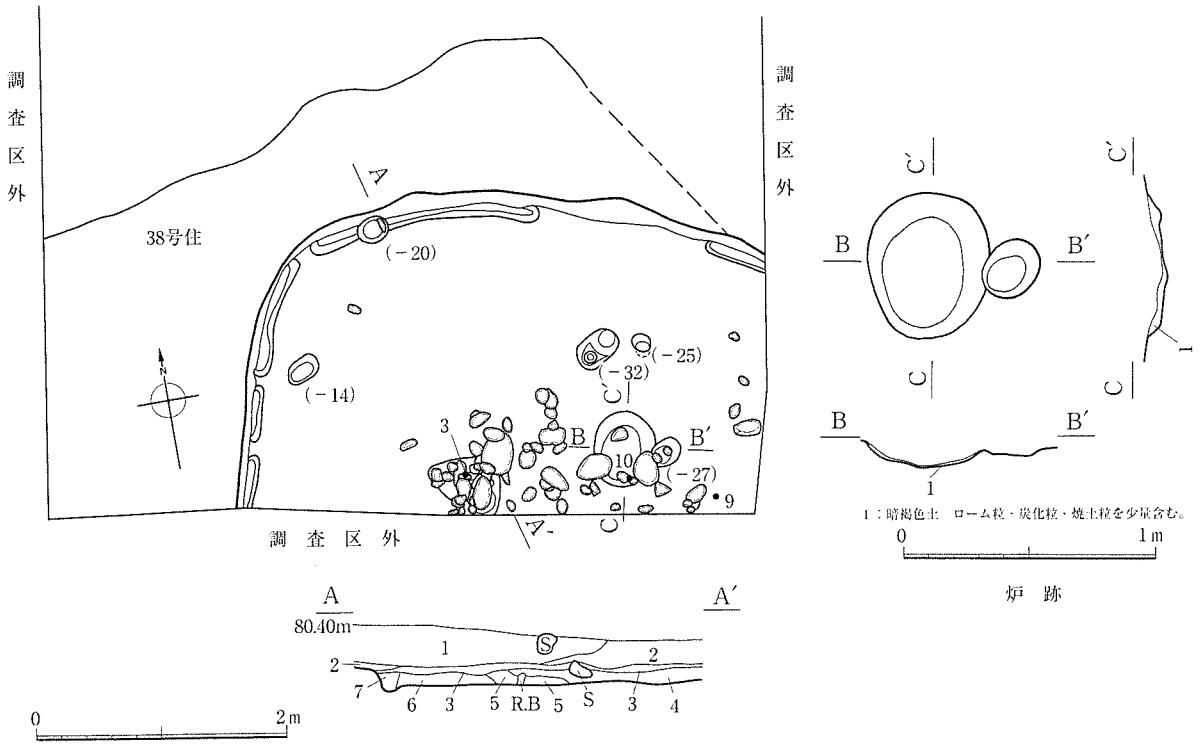

C′
(－13)
(－21)
30号溝
(－66)
28号古墳
23号土坑
(－14)
(－41)
A
A′
(－13)
B
B′
(－22)
(－35)
(－23)
(－60)
(－26)
(－31)
(－22)
28号古墳
27号溝
C
トレンチ
C
A
A′
81.10m
27号溝
B
B′
1：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロック・灰白色軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
0
2m

第36図 25号住居跡



I：表土層
II：表土層
1：黒褐色土　ローム粒・炭白色軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
2：暗褐色土　炭白色軽石粒を少量含む。
3：黒褐色土　ローム粒・ブロック・炭白色軽石粒を少量含む。

34号住居跡



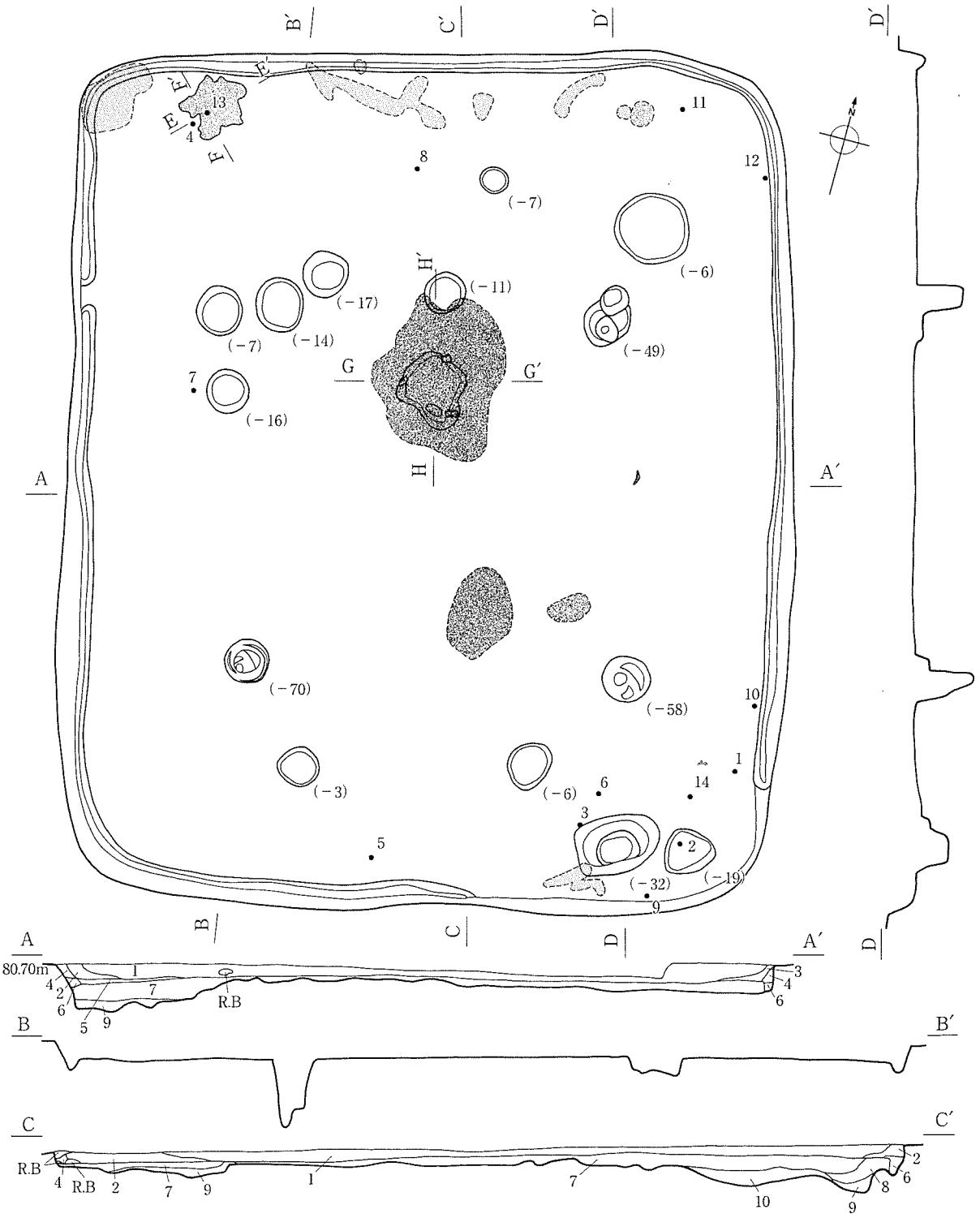
1：炭黒褐色土　38号住居跡を切る溝。浅間B軽石多量、ローム粒・ブロックを少量含む。しまり非常に強い。
2：炭暗褐色土　38号住居跡。ローム粒・ブロックを微量含む。
3：暗褐色土　38号住居跡。ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。
4：暗褐色土　37号住居跡。ローム粒・焼土粒を微量含む。
5：黒褐色土　37号住居跡。ローム粒を微量、焼土粒を微量含む。しまり強い。
6：暗褐色土　37号住居跡。ローム粒・ブロックを少量含む。粘性がある。
7：暗褐色土　37号住居跡。ローム粒を少量含む。粘性がある。

1：暗褐色土　ローム粒・炭化粒・焼土粒を少量含む。

炉　跡

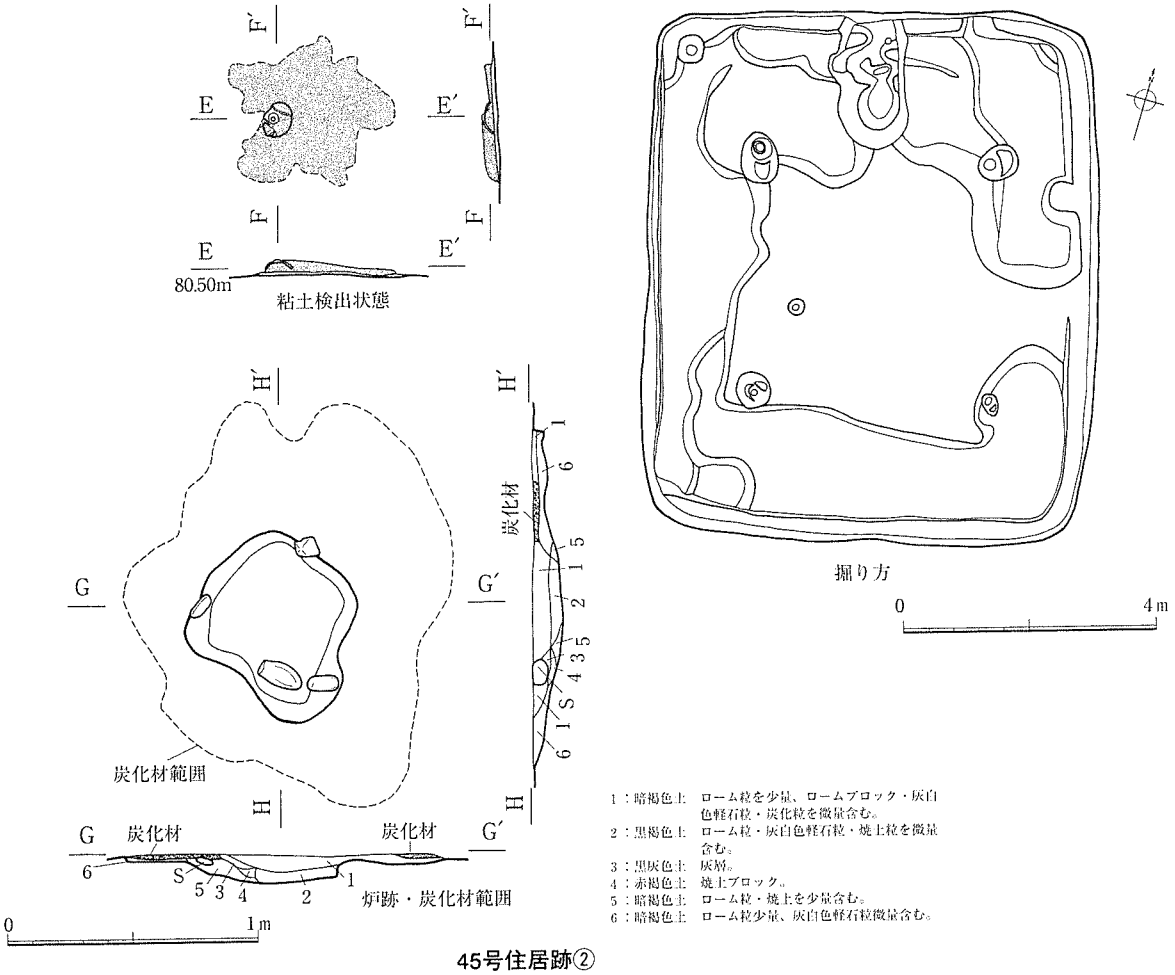
37号住居跡

第37図　34号住居跡・37号住居跡

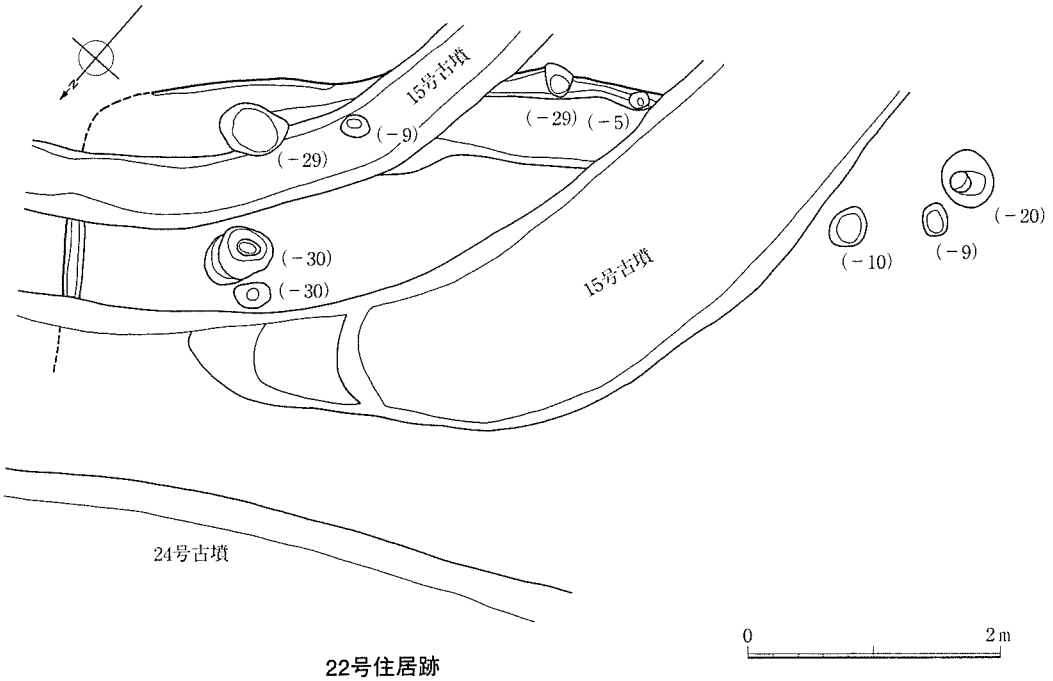


1：暗褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
2：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
3：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を微量、焼土粒を少量含む。
4：暗褐色土　ローム粒を微量含む。
5：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
6：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。しまり、あまりない。
7：黒褐色土　ロームブロックを多量、ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む。しまり強い。
8：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
9：暗褐色土　ロームブロックを多量、ローム粒を少量、灰白色軽石粒・焼土粒を微量含む。
10：暗灰褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。しまり強い。

第38図　45号住居跡①

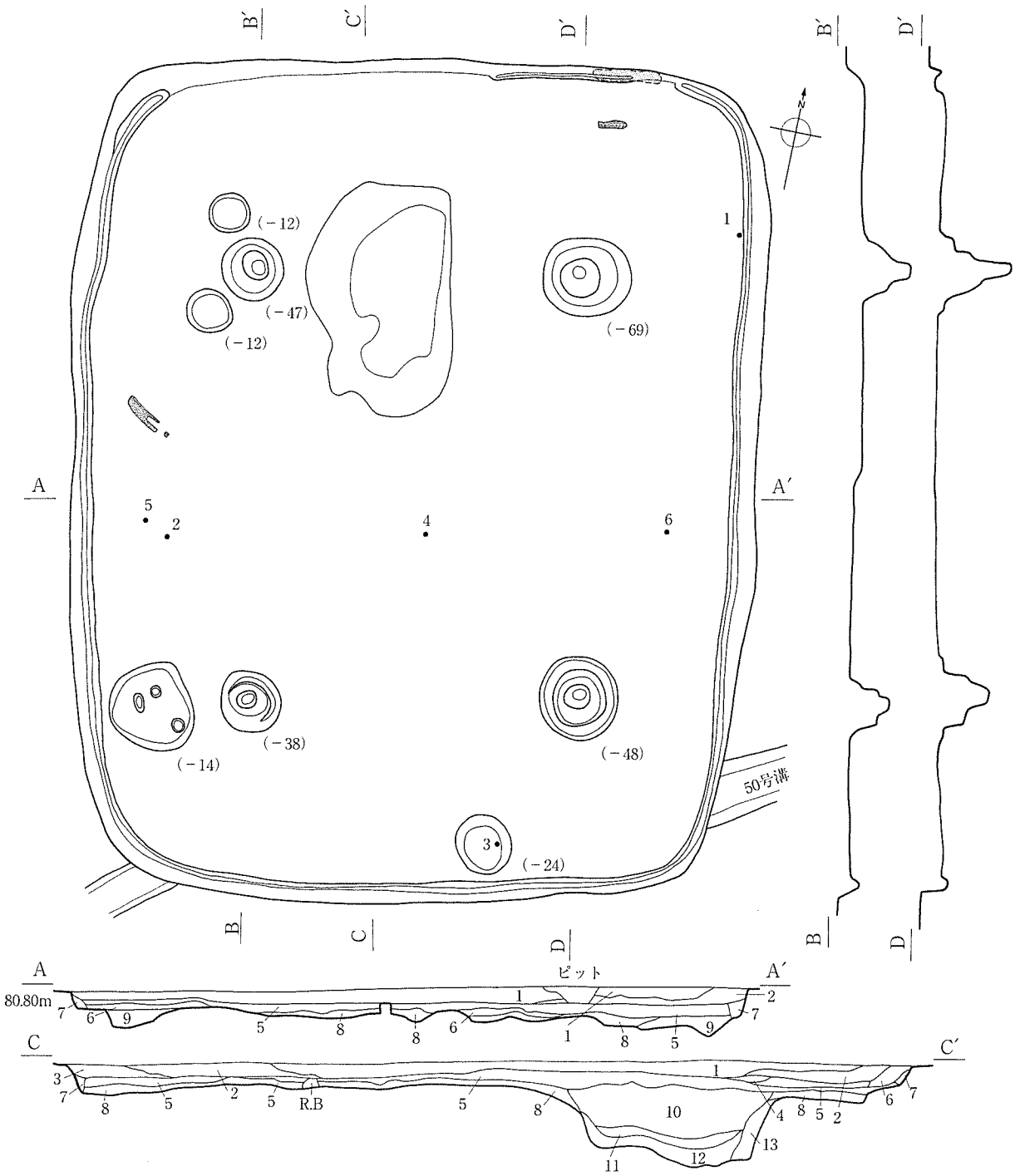


45号住居跡②



22号住居跡

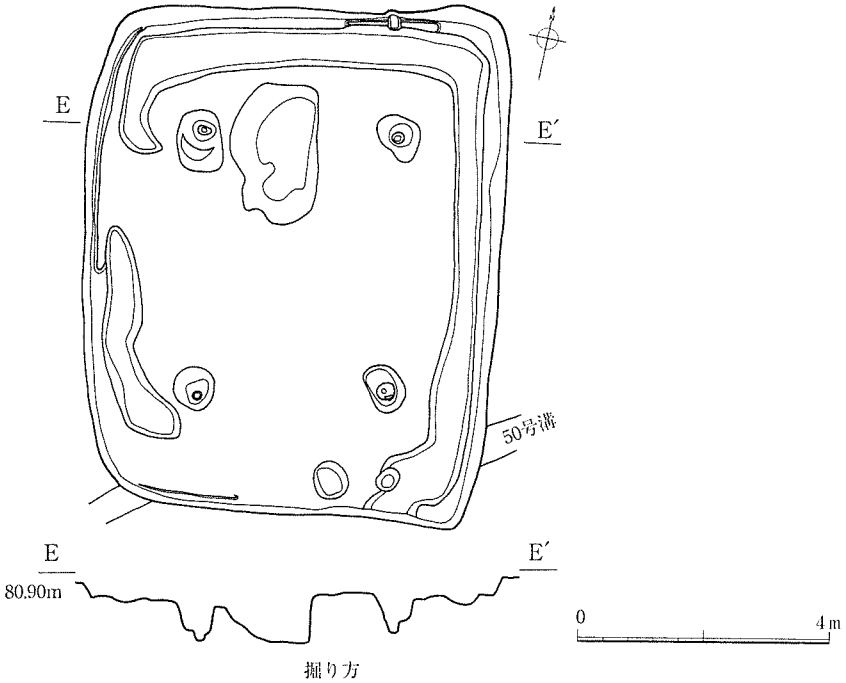
第39図　45号住居跡②・22号住居跡



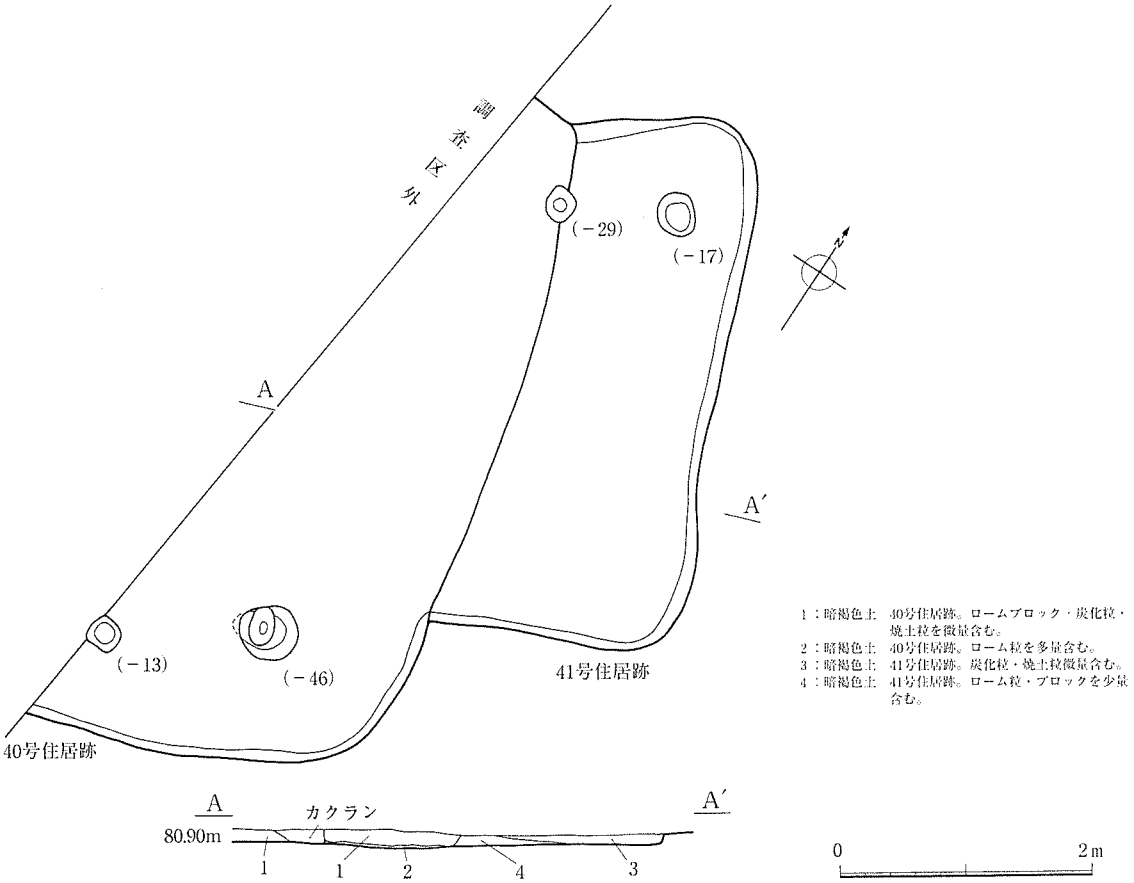
1：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロック・灰白色軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
2：暗褐色土　灰白色軽石粒を少量、ローム粒・焼土粒を微量含む。しまり強い。
3：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
4：黒褐色土　ローム粒を微量含む。
5：黄褐色土　ロームブロックを大量に含む。
6：暗褐色土　ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。
7：暗褐色土　ローム粒を多量含む。
8：黒褐色土　ロームブロックを多量、ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む。しまり強い。
9：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量含む。しまり強く、粘性あまりない。
10：黒褐色土　灰白色軽石粒を少量、ローム粒を微量含む。
11：暗褐色土　ローム粒を微量含む。しまり強く、粘性がある。
12：黒色土　ローム粒を少量含む。しまり強く、粘性がある。
13：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。

0　2m

第40図　51号住居跡①

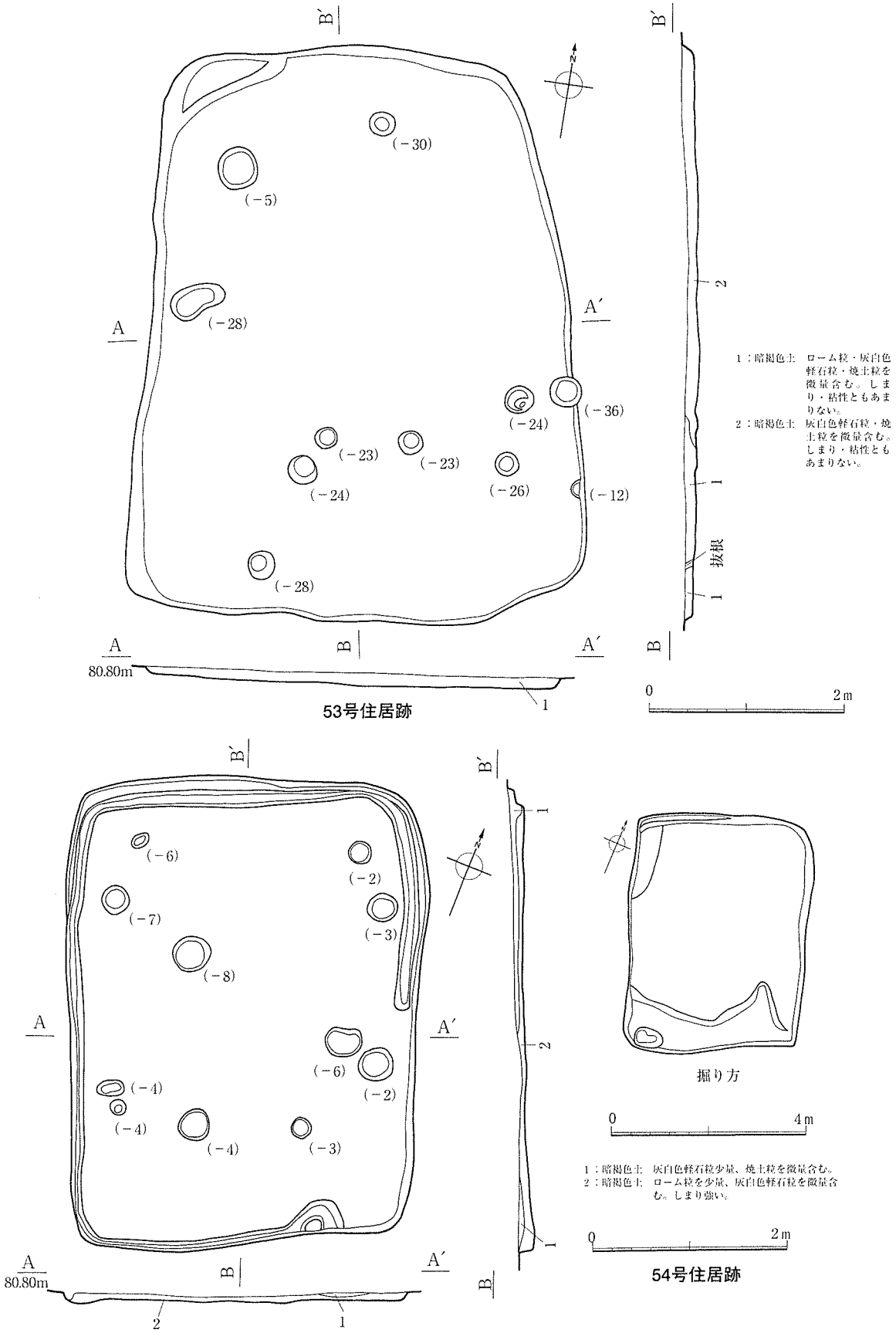


51号住居跡②

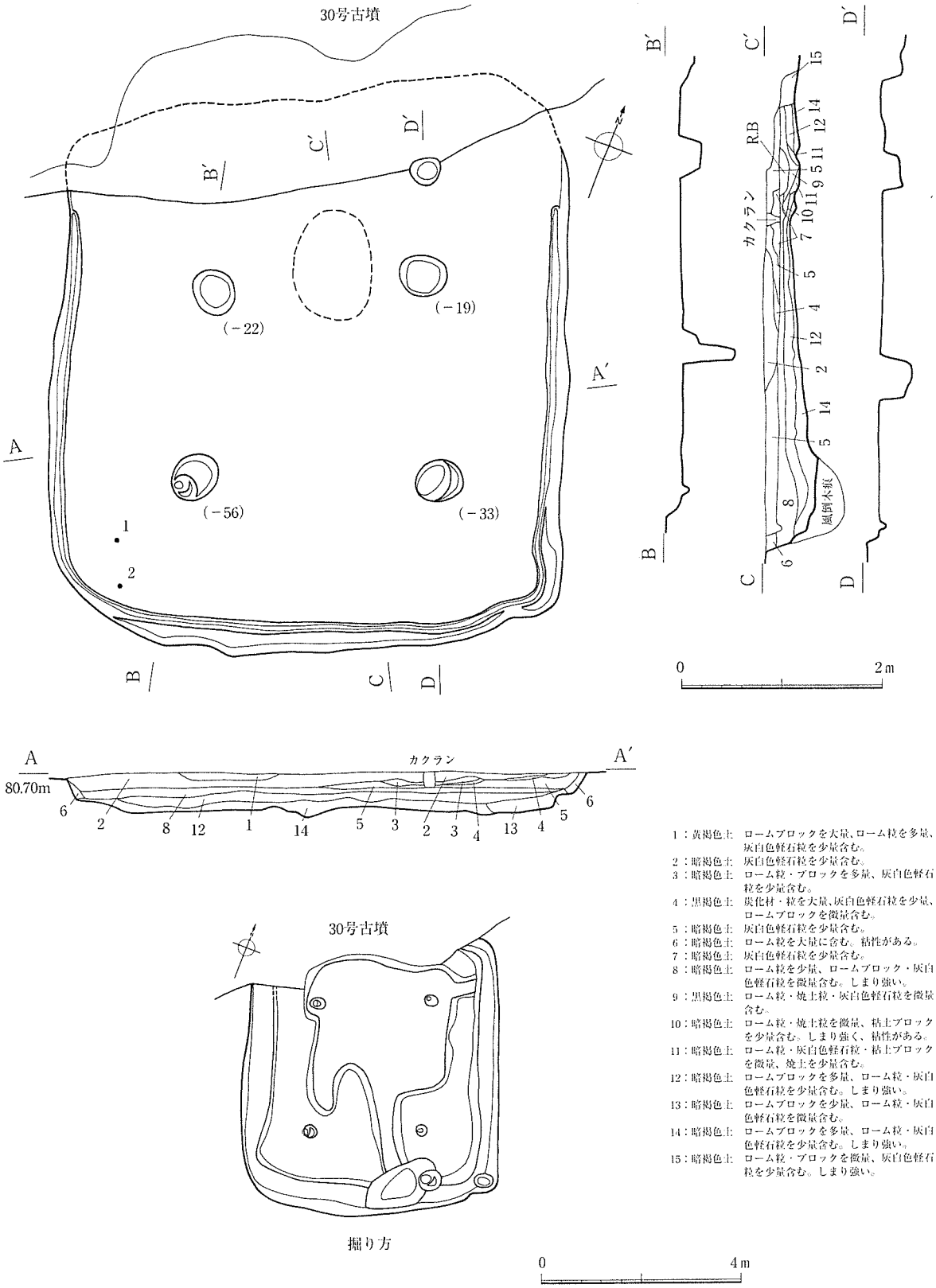


40・41号住居跡

第41図　51号住居跡②・40号・41号住居跡

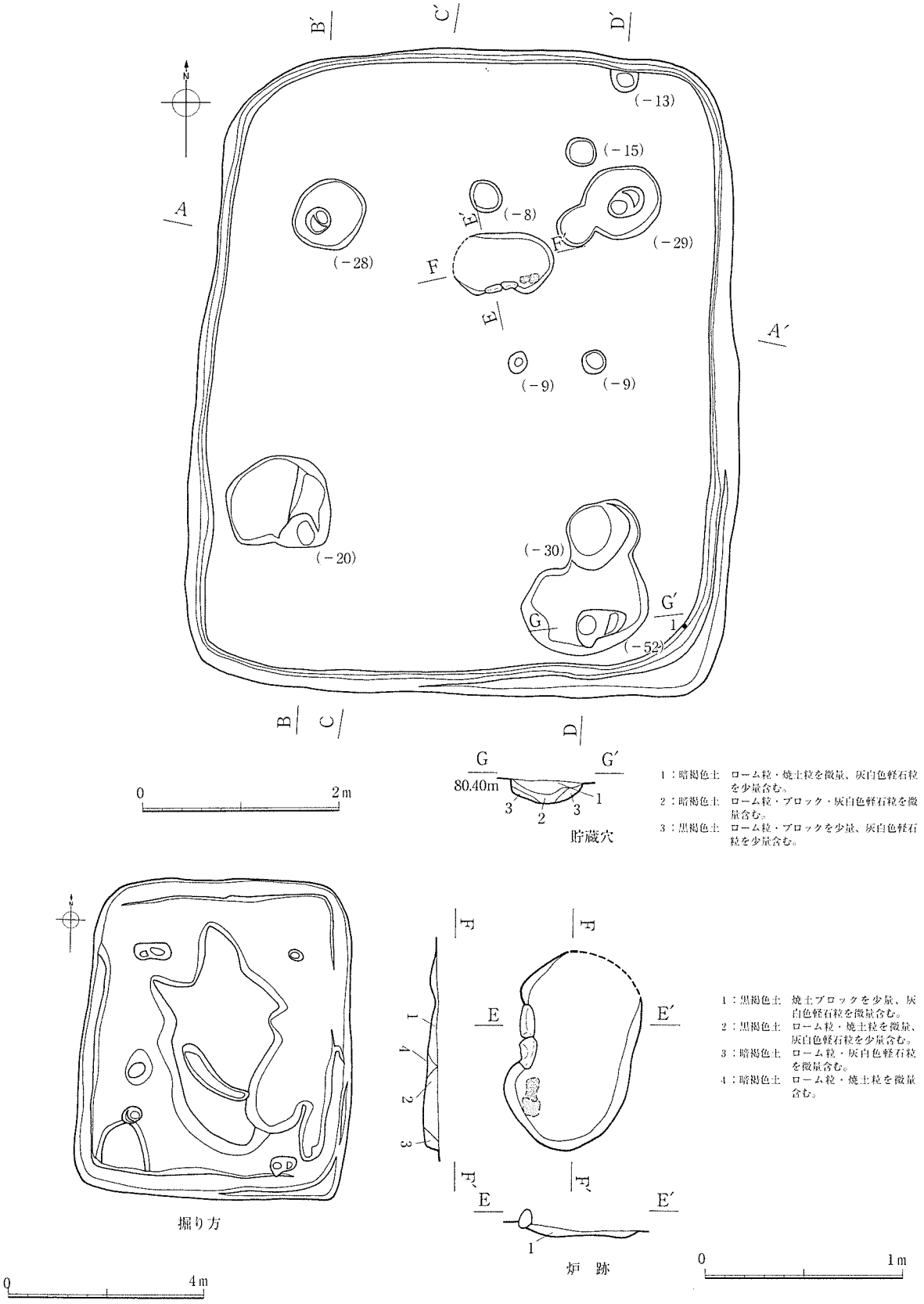


第42図　53号住居跡・54号住居跡

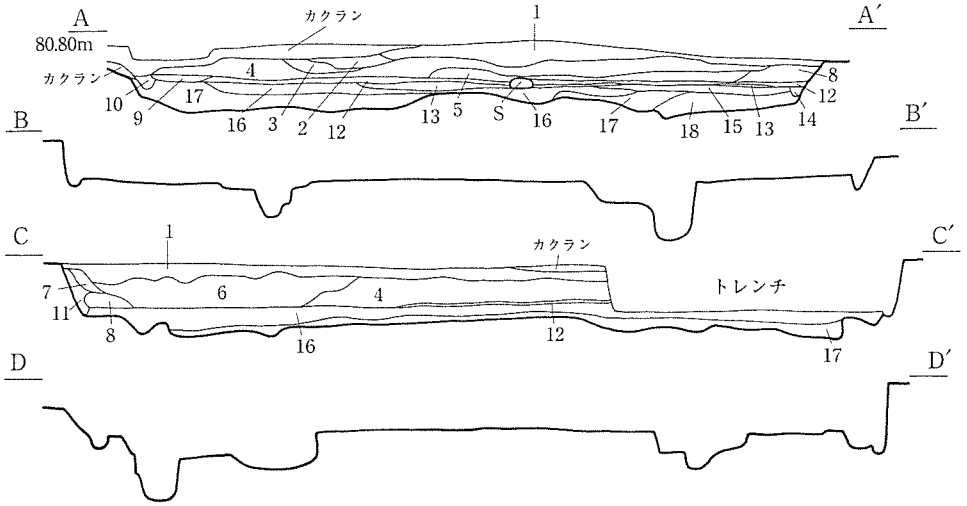


1：黄褐色土　ロームブロックを大量、ローム粒を多量、灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗褐色土　灰白色軽石粒を少量含む。
3：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を少量含む。
4：黒褐色土　炭化材・粒を大量、灰白色軽石粒を少量、ロームブロックを微量含む。
5：暗褐色土　灰白色軽石粒を少量含む。
6：暗褐色土　ローム粒を大量に含む。粘性がある。
7：暗褐色土　灰白色軽石粒を少量含む。
8：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。しまり強い。
9：黒褐色土　ローム粒・焼土粒・灰白色軽石粒を微量含む。
10：暗褐色土　ローム粒・焼土粒を微量、粘土ブロックを少量含む。しまり強く、粘性がある。
11：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒・粘土ブロックを微量、焼土を少量含む。
12：暗褐色土　ロームブロックを多量、ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む。しまり強い。
13：暗褐色土　ロームブロックを少量、ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
14：暗褐色土　ロームブロックを多量、ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む。しまり強い。
15：暗褐色土　ローム粒・ブロックを微量、灰白色軽石粒を少量含む。しまり強い。

第43図　55号住居跡

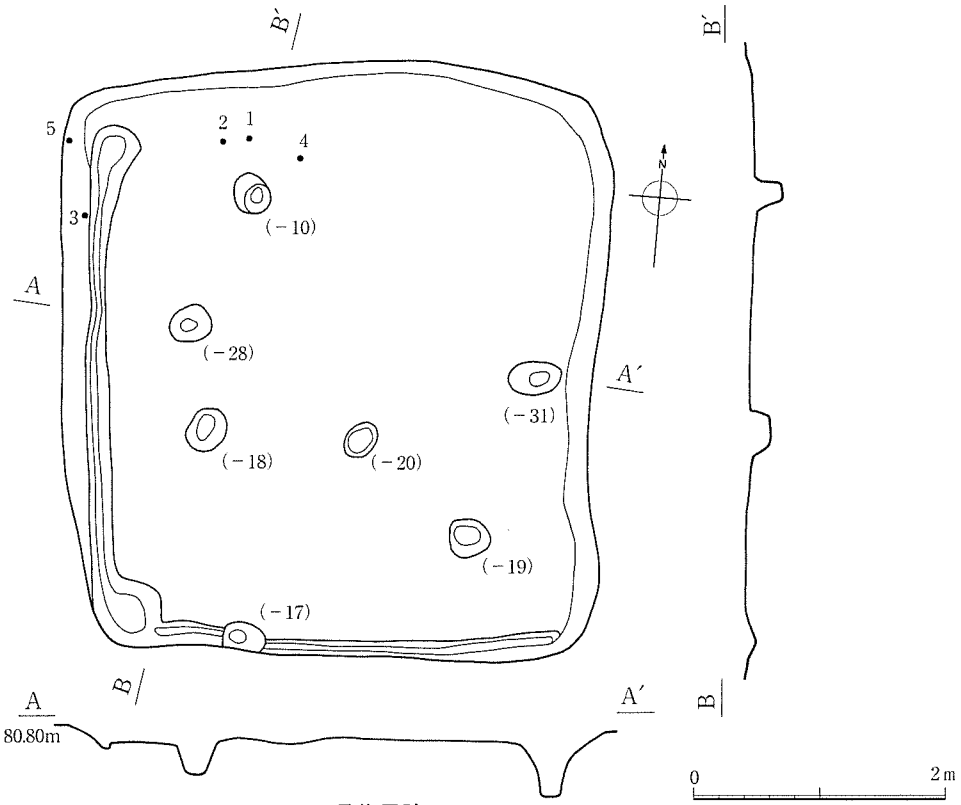


第44図　58号住居跡①



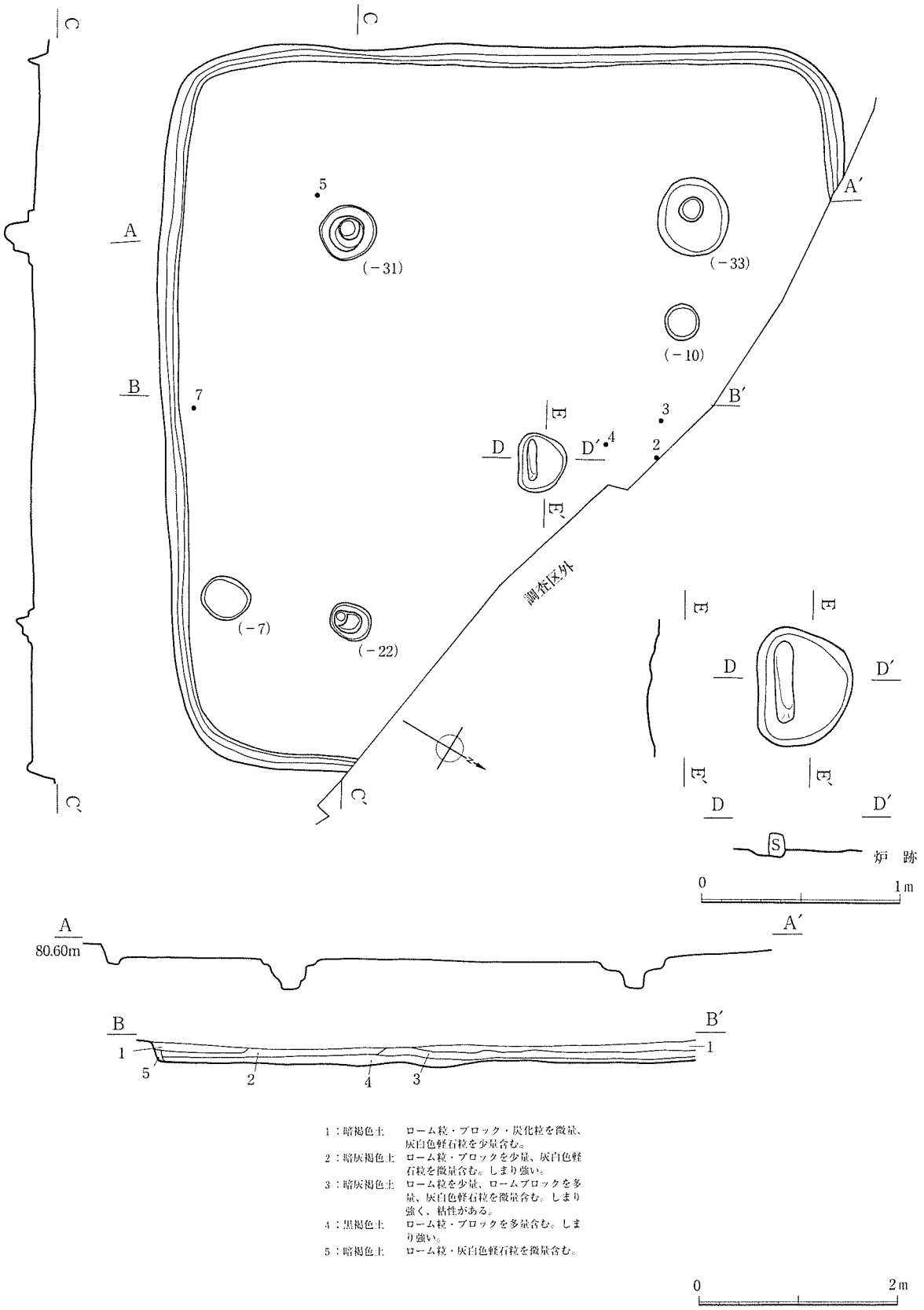
1：暗褐色土　ローム粒・ブロック・炭化粒を微量、灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
3：暗褐色土　ロームブロック大量、ローム粒を多量、灰白色軽石粒を微量含む。非常に硬い。
4：褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を少量含む。
5：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量、ロームブロックを微量含む。
6：暗褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量含む。粘性あまりない。
7：褐色土　ローム粒・ブロックを多量含む。
8：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒・焼土粒を微量含む。
9：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
10：暗褐色土　ローム粒・ブロックを微量、炭化粒・焼土粒を少量含む。
11：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・炭化粒を微量含む。
12：黒色土　灰白色軽石粒を微量含む。上面は硬くしまる。
13：黒褐色土　ロームブロックを多量、ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む。
14：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。
15：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
16：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を少量含む。
17：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
18：黒褐色土　ロームブロックを少量、ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。

58号住居跡②

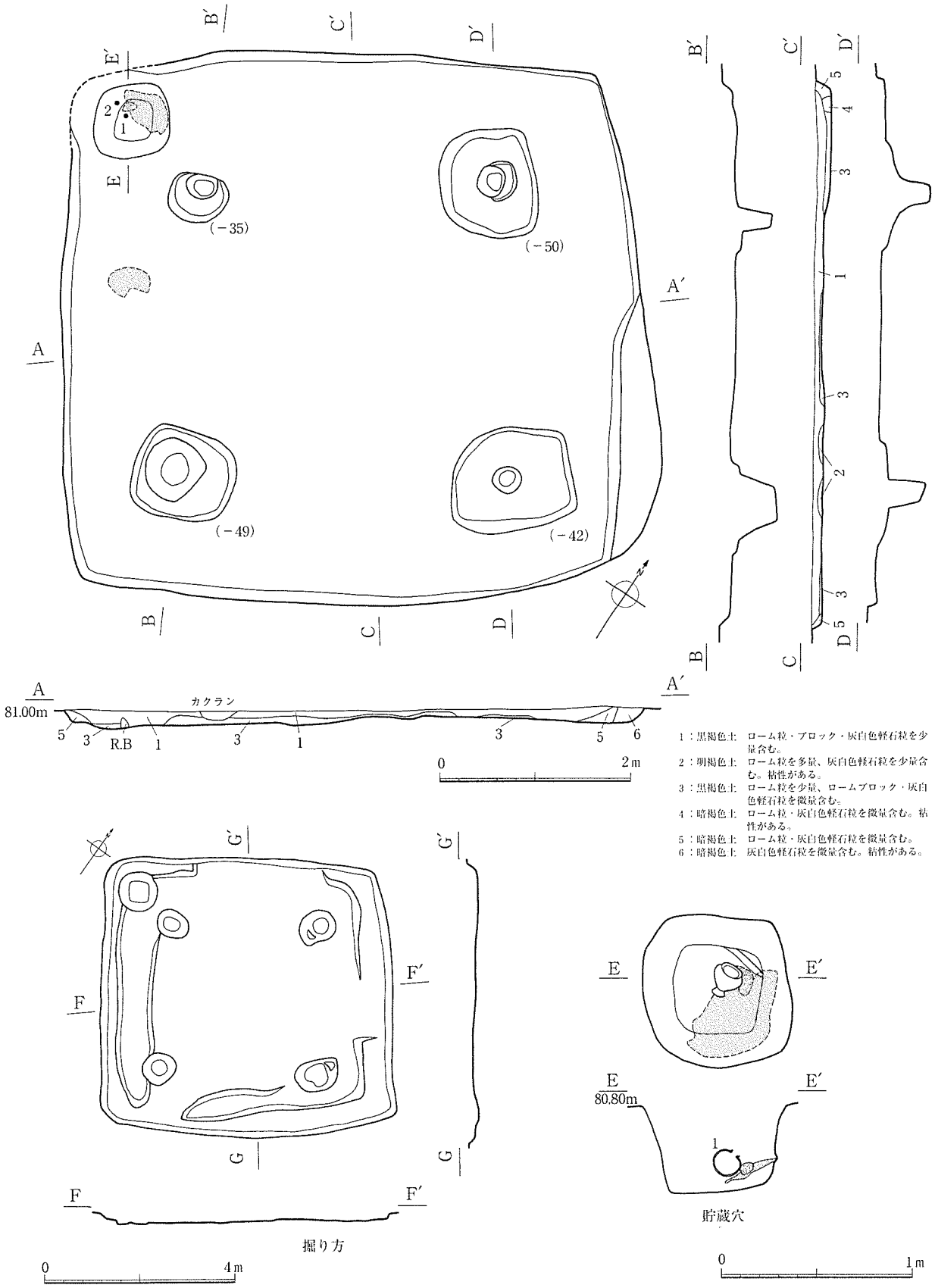


61号住居跡

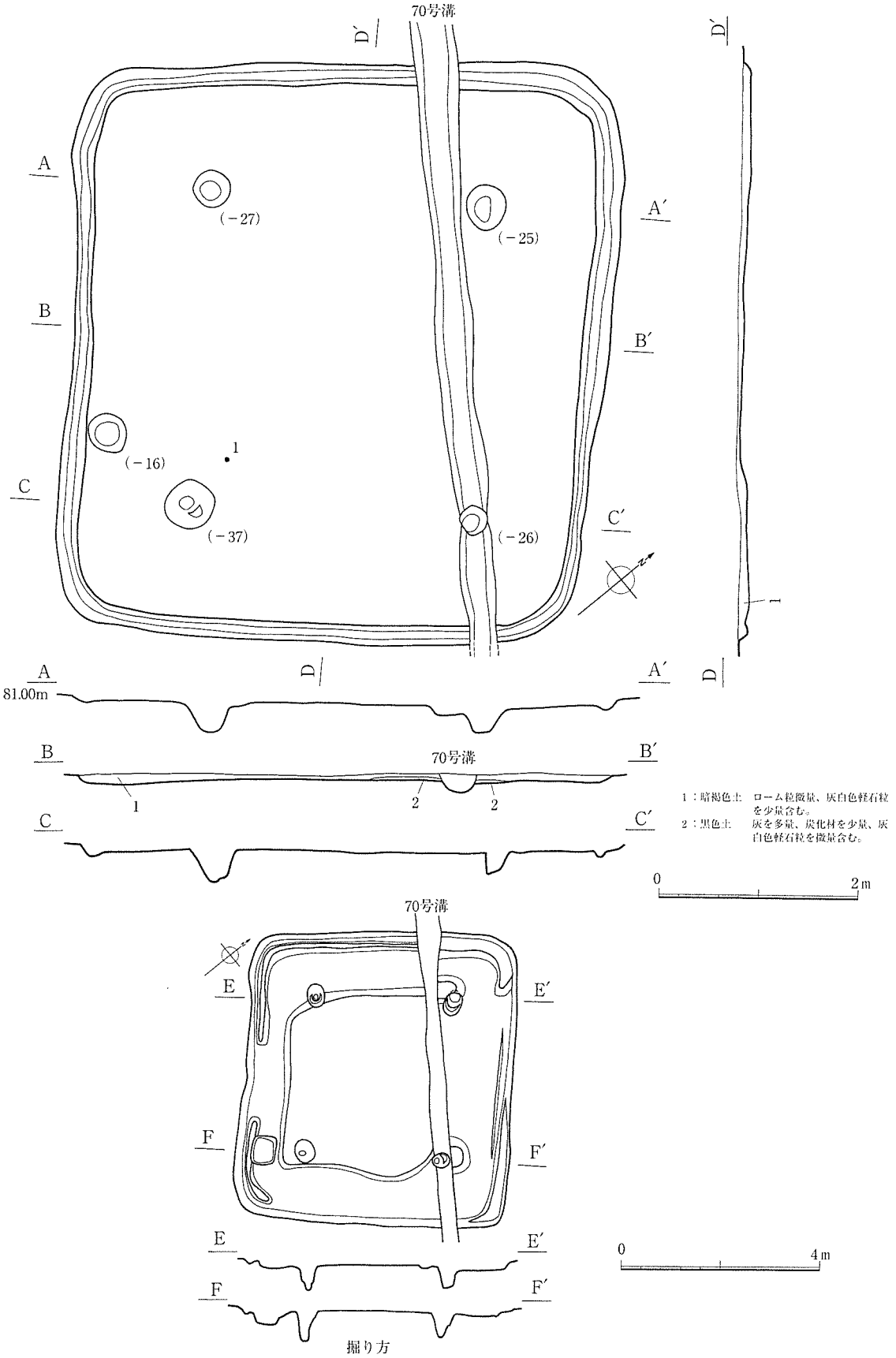
第45図　58号住居跡②・61号住居跡


C
C
A
A′
B
B′
5
(－31)
(－33)
(－10)
7
3
4
2
D
D′
E
E′
調査区外
(－7)
(－22)
C′
S
炉　跡
0
1m
80.60m
1
5
2
4
3
1：暗褐色土　ローム粒・ブロック・炭化粒を微量、灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗灰褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強い。
3：暗灰褐色土　ローム粒を少量、ロームブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く、粘性がある。
4：黒褐色土　ローム粒・ブロックを多量含む。しまり強い。
5：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
0
2m

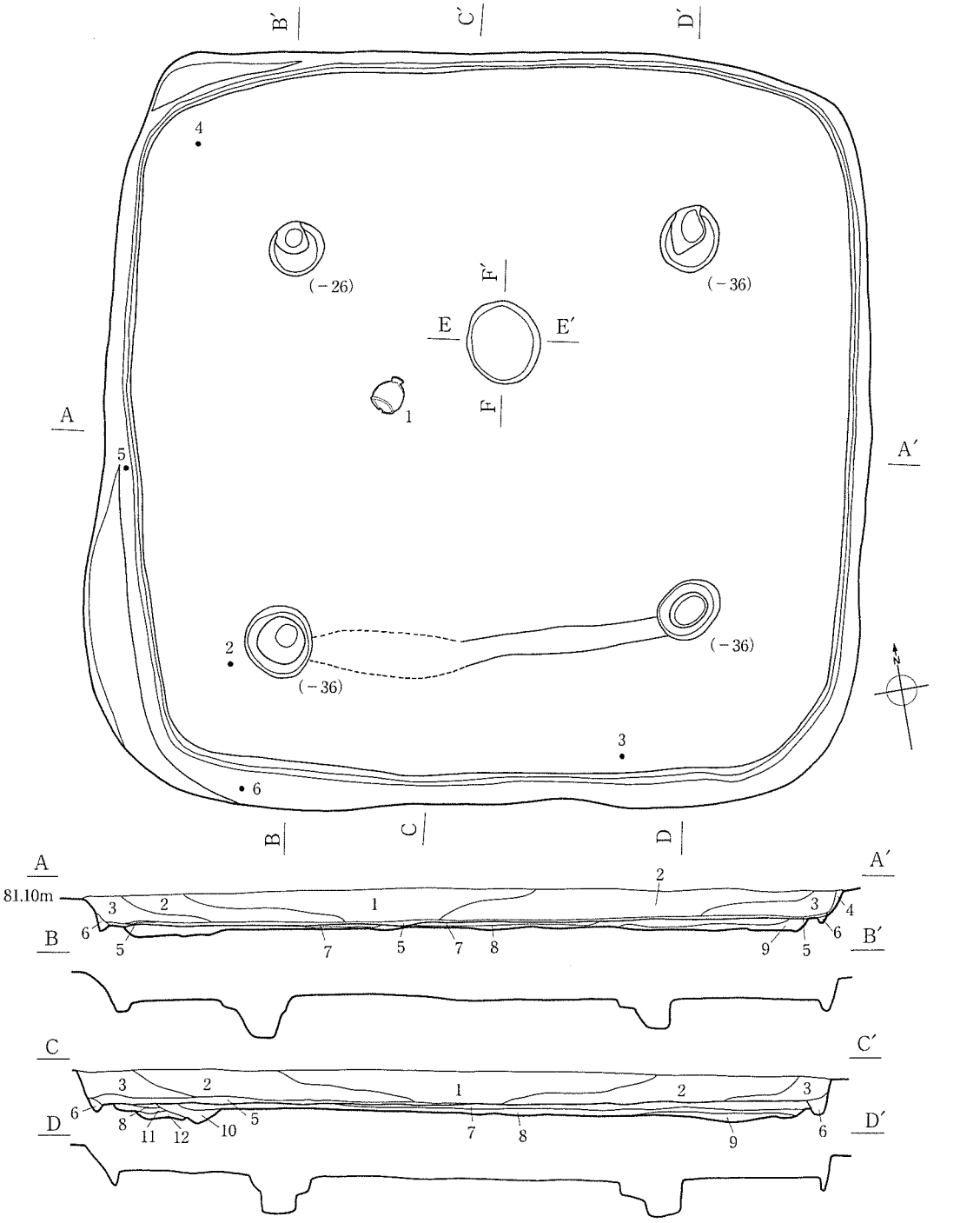
第46図　59号住居跡


B′
C′
D′
E′
E
A
A′
B
C
D
(−35)
(−50)
(−49)
(−42)
N
81.00m
カクラン
R.B
0
2m
1：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量含む。
2：明褐色土　ローム粒を多量、灰白色軽石粒を少量含む。粘性がある。
3：黒褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
4：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。
5：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
6：暗褐色土　灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。
G′
G
F
F′
掘り方
0
4m
80.80m
貯蔵穴
0
1m

第47図　62号住居跡


70号溝
D′
D
A
A′
B
B′
C
C′
(－27)
(－25)
(－16)
(－37)
(－26)
1
81.00m
2
1：暗褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒を少量含む。
2：黒色土　灰を多量、炭化材を少量、灰白色軽石粒を微量含む。
0
2m
E
E′
F
F′
4m
掘り方

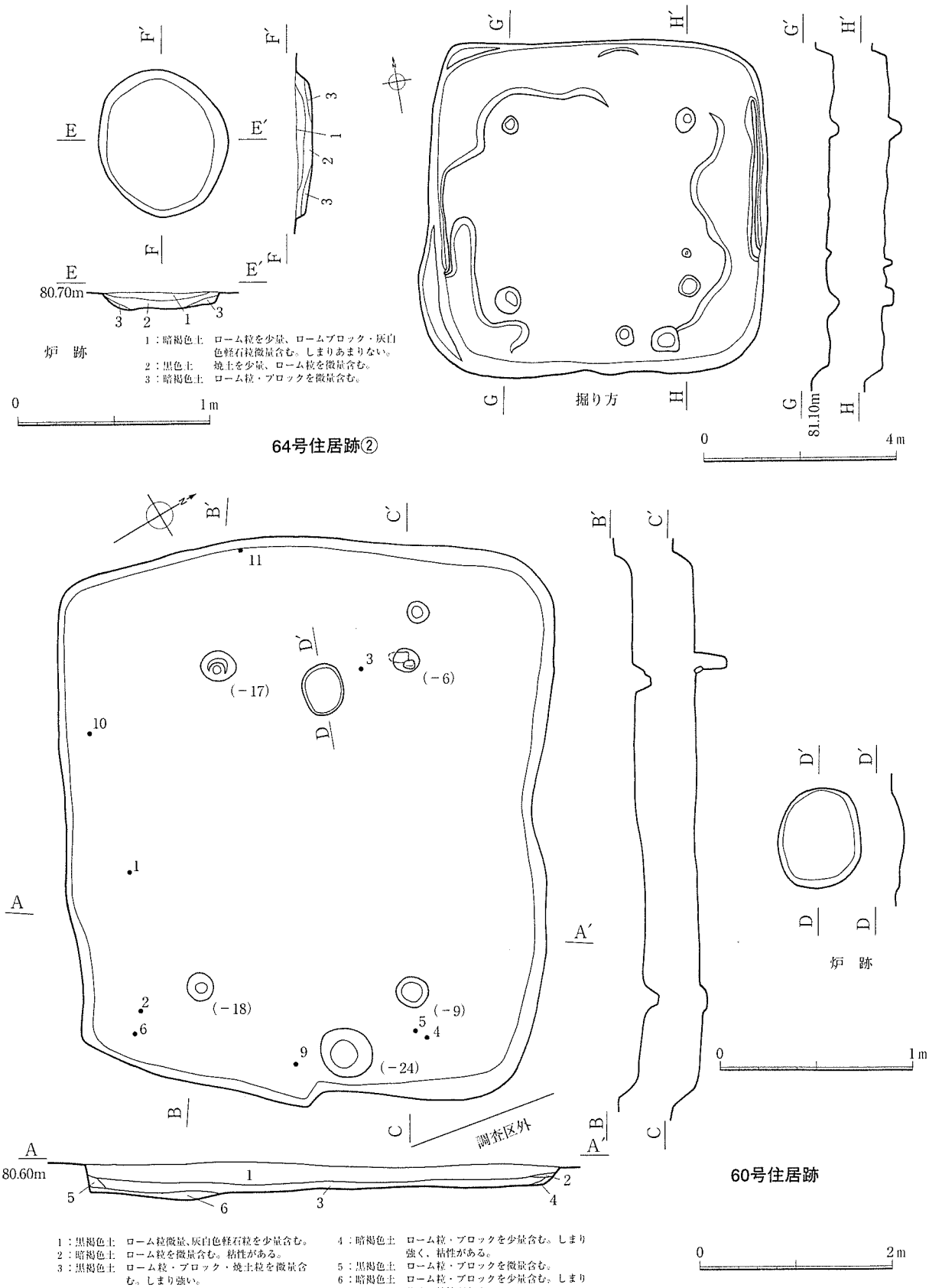
第48図　63号住居跡



1：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む、ロームブロックを微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
3：暗褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒少量含む。
4：暗褐色土　ローム粒を少量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く、粘性がある。
5：黒褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒少量含む。
6：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。しまりあまりない。
7：黒色土　灰白色軽石粒を少量含む。
8：暗褐色土　ローム粒多量、ロームブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
9：黒褐色土　ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。
10：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロックを多量含む。
11：黒色土　ローム粒・ブロックを微量含む。
12：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性がある。

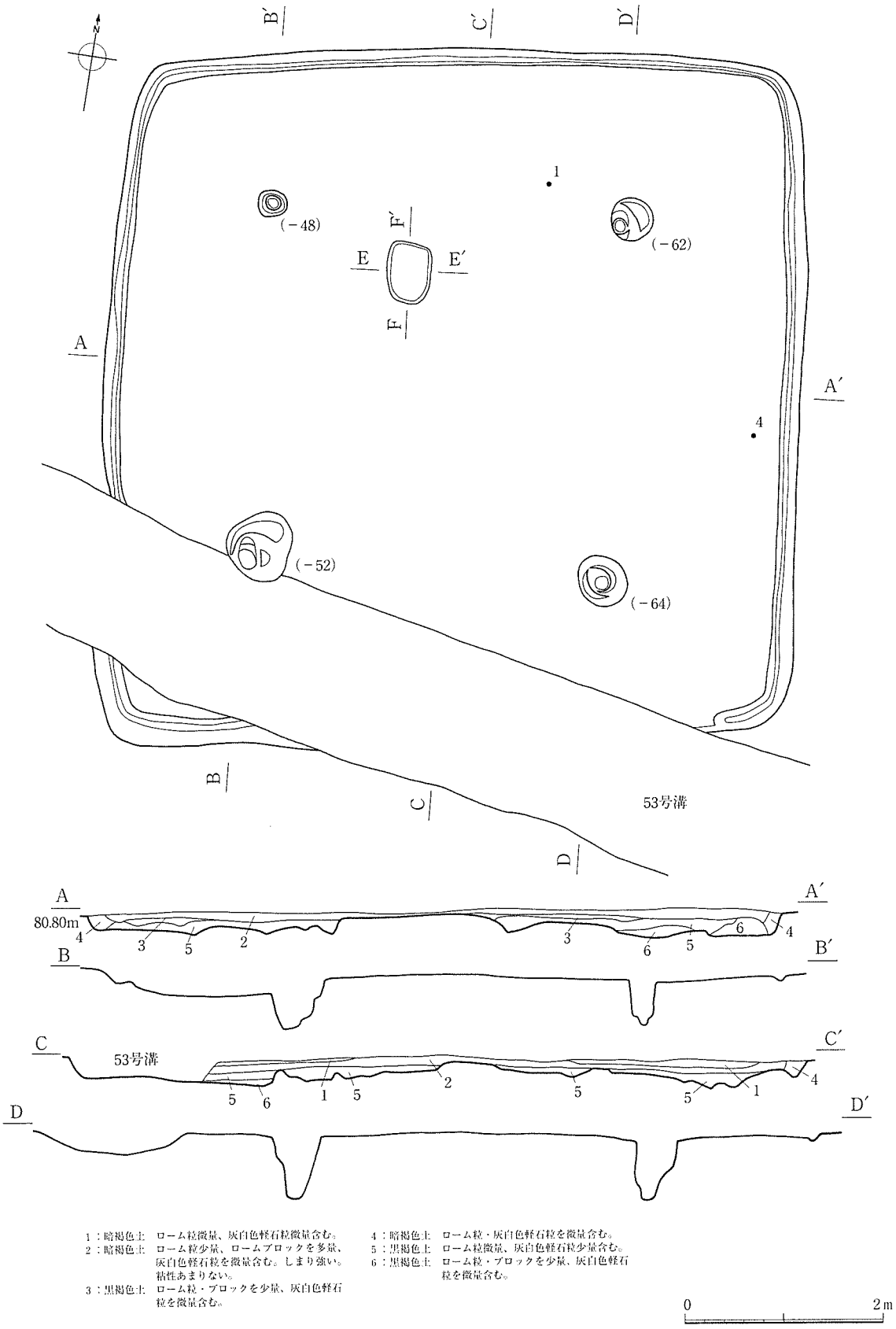
0　2m

第49図　64号住居跡①



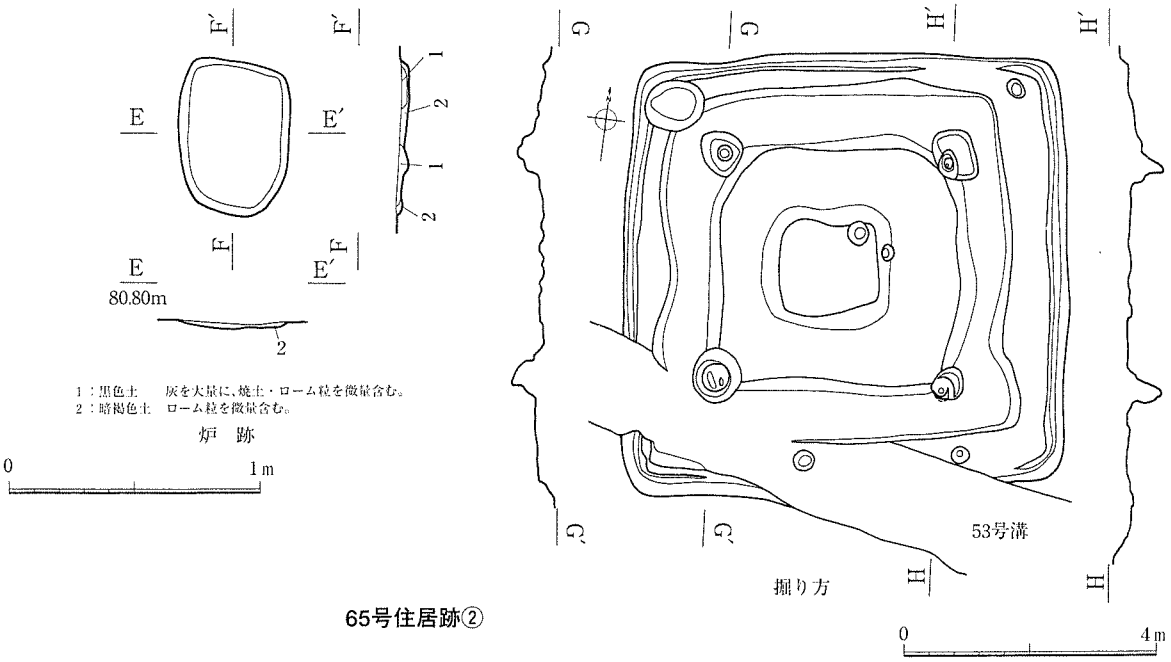
1：黒褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒を微量含む。粘性がある。
3：黒褐色土　ローム粒・ブロック・焼土粒を微量含む。しまり強い。
4：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強く、粘性がある。
5：黒褐色土　ローム粒・ブロックを微量含む。
6：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強く、粘性がある。

第50図　64号住居跡②・60号住居跡

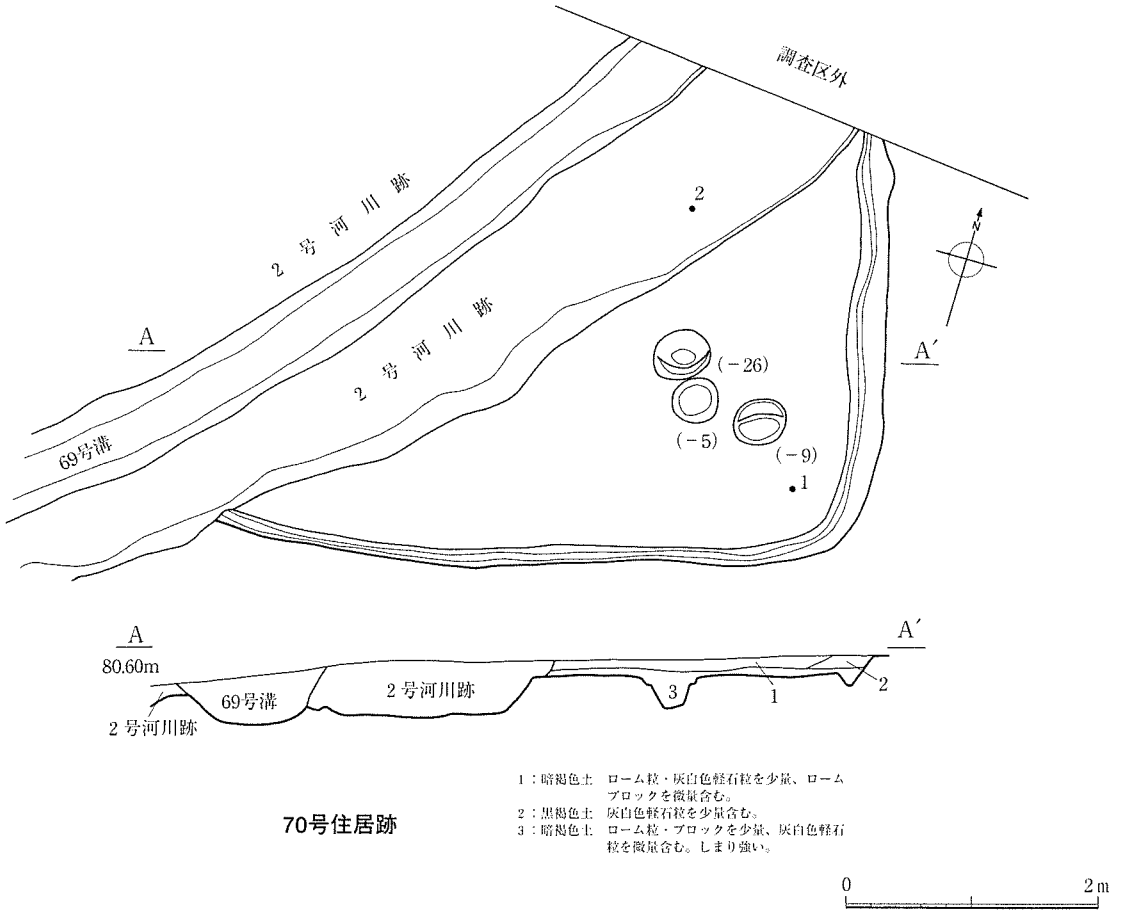


1：暗褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強い。粘性あまりない。
3：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
4：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
5：黒褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒少量含む。
6：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。

第51図　65号住居跡①

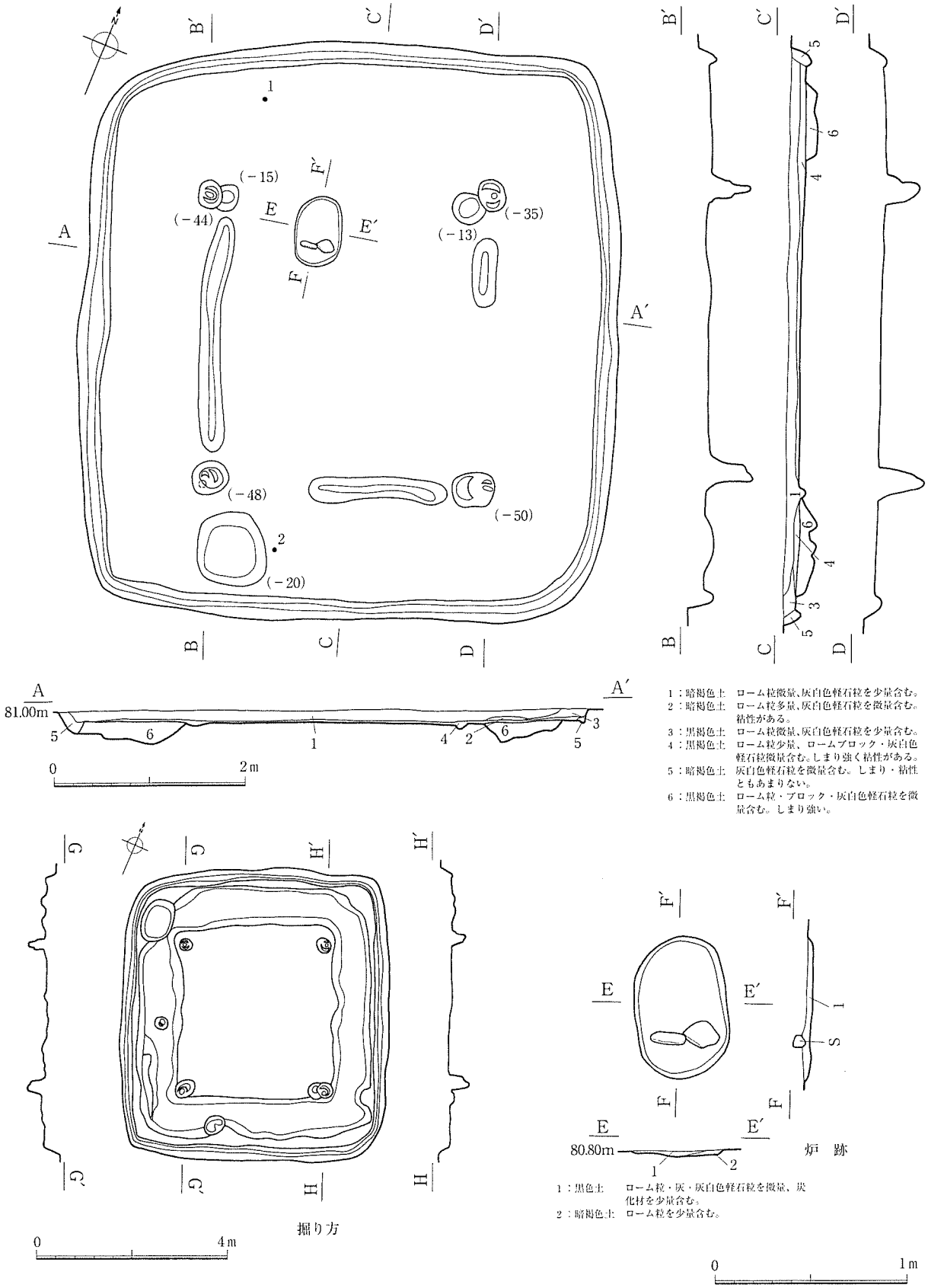


65号住居跡②

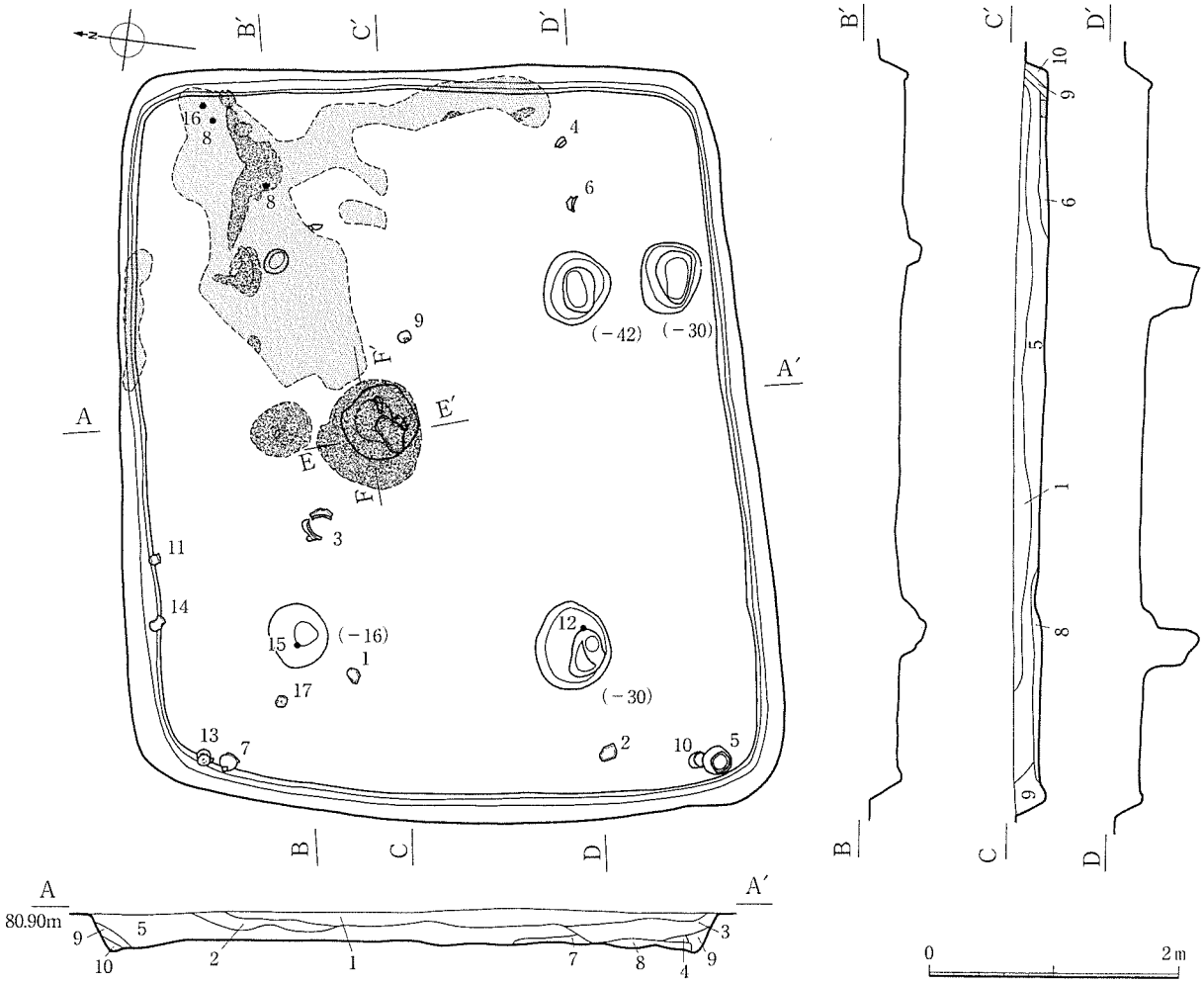


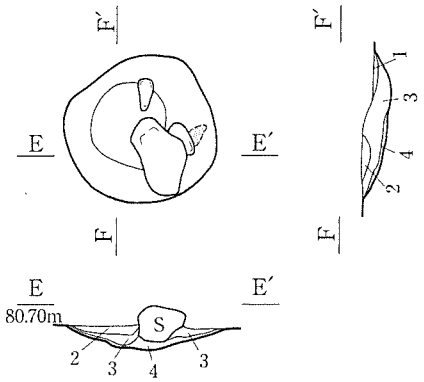
70号住居跡

第52図　65号住居跡②・70号住居跡


A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
G
G′
H
H′
(−15)
(−44)
(−35)
(−13)
(−48)
(−50)
(−20)
81.00m
80.80m
0
2m
4m
1m
掘り方
炉　跡
1：暗褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒多量、灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。
3：黒褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒を少量含む。
4：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック・灰白色軽石粒微量含む。しまり強く粘性がある。
5：暗褐色土　灰白色軽石粒を微量含む。しまり・粘性ともあまりない。
6：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を微量含む。しまり強い。
1：黒色土　ローム粒・灰・灰白色軽石粒を微量、炭化材を少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒を少量含む。

第53図　66号住居跡





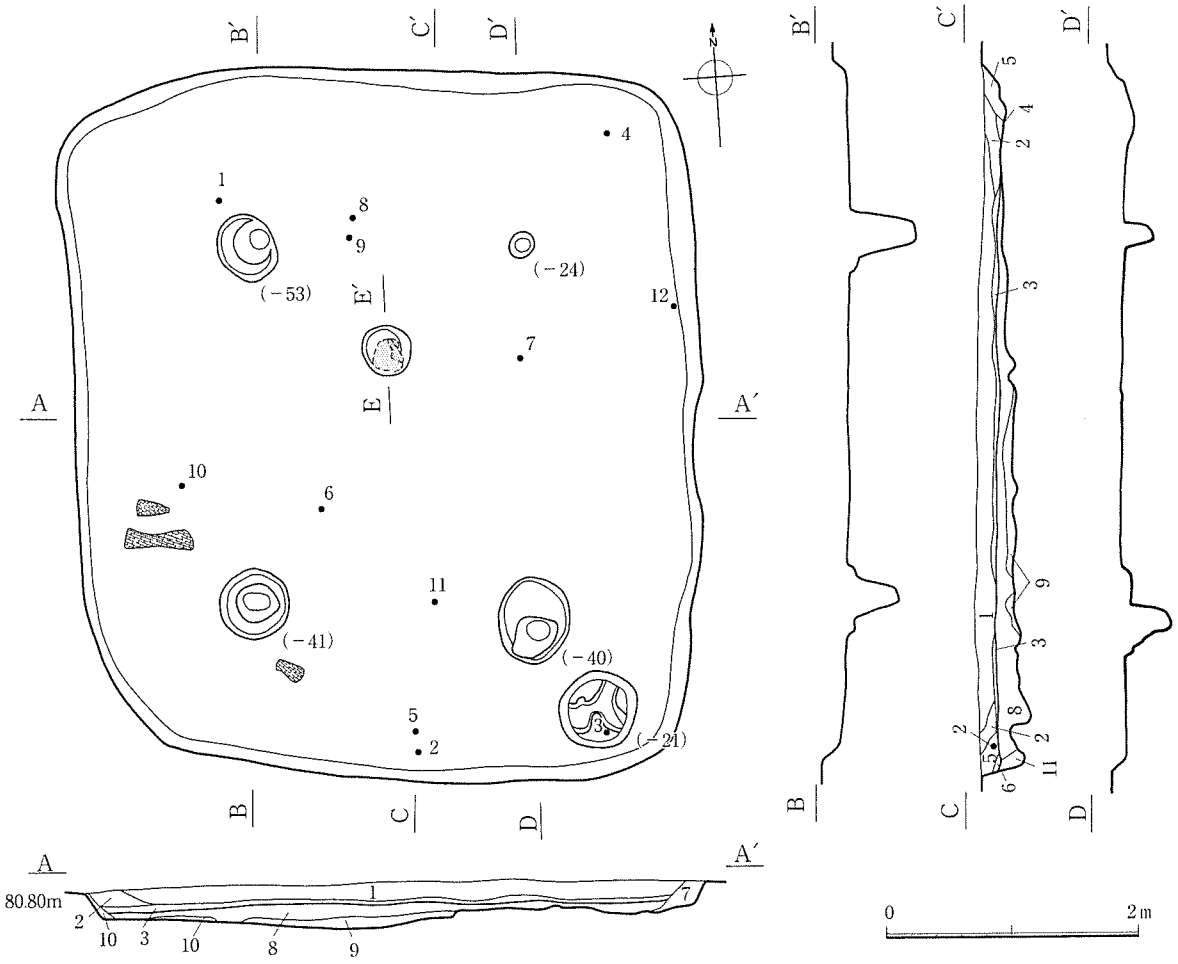
1：黒色土　炭化材・灰層。
2：黄褐色土　ロームブロックを大量に含む。
3：黒褐色土　ローム粒・焼土・灰白色軽石粒を微量含む。しまりあまりない。
4：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。

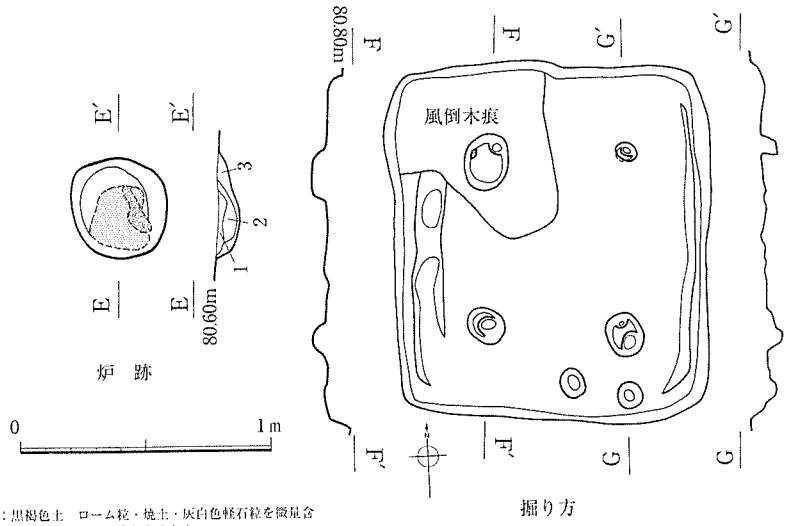
炉　跡

0　1m

1：暗褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く粘性がある。
3：黒褐色土　ローム粒・ブロックを微量、灰白色軽石粒を多量含む。
4：暗褐色土　ローム粒を少量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く粘性がある。
5：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を多量含む。
6：暗褐色土　ローム粒・焼土ブロック・炭化材を少量含む。灰白色軽石粒を微量含む。
7：黒色土　ローム粒灰白色軽石粒を微量、焼土を少量含む。しまりあまりない。
8：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、焼土・灰白色軽石粒を微量含む。
9：暗褐色土　ローム粒・焼土を微量含む。
10：明褐色土　ローム粒を多量含む。

第54図　67号住居跡

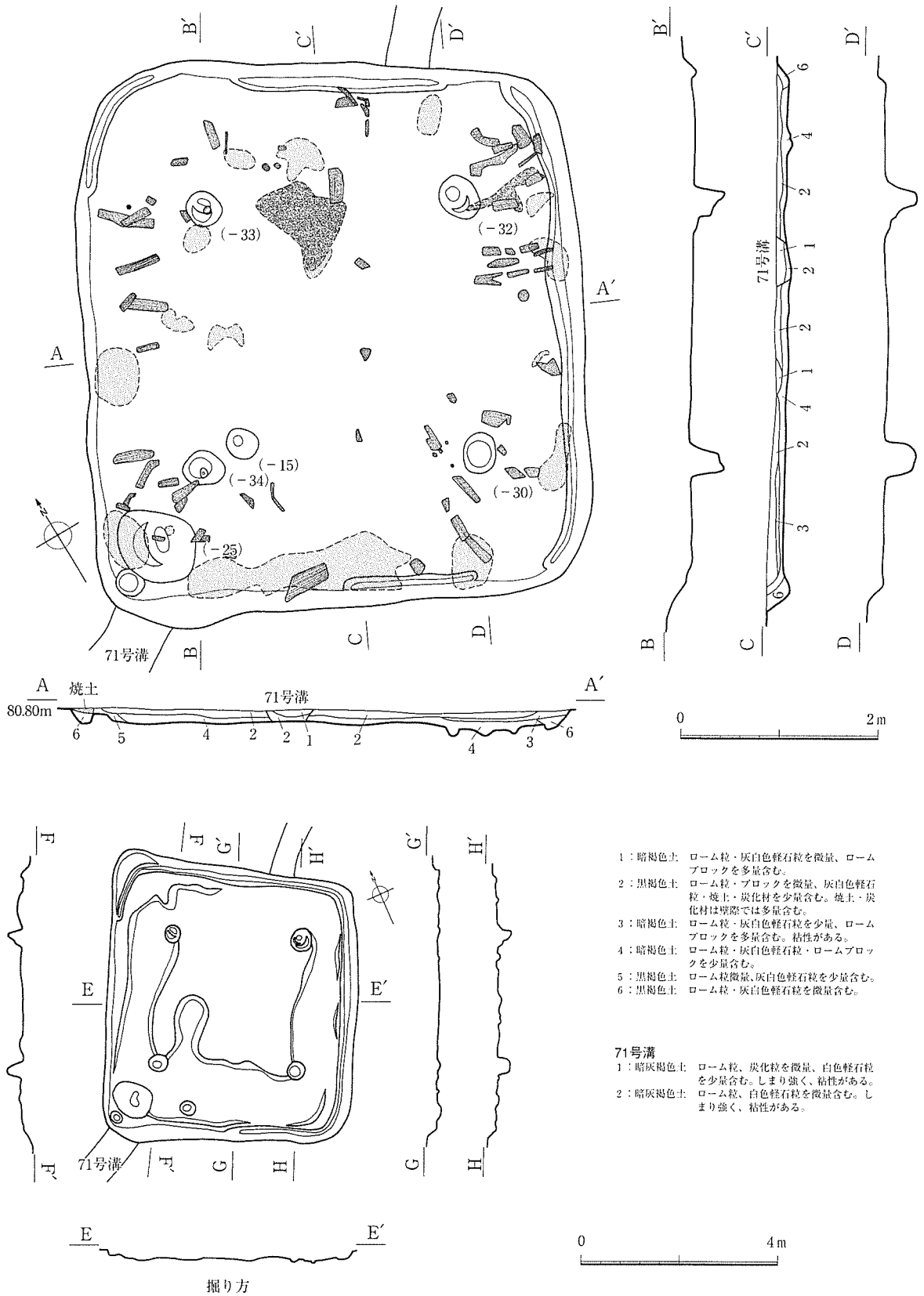




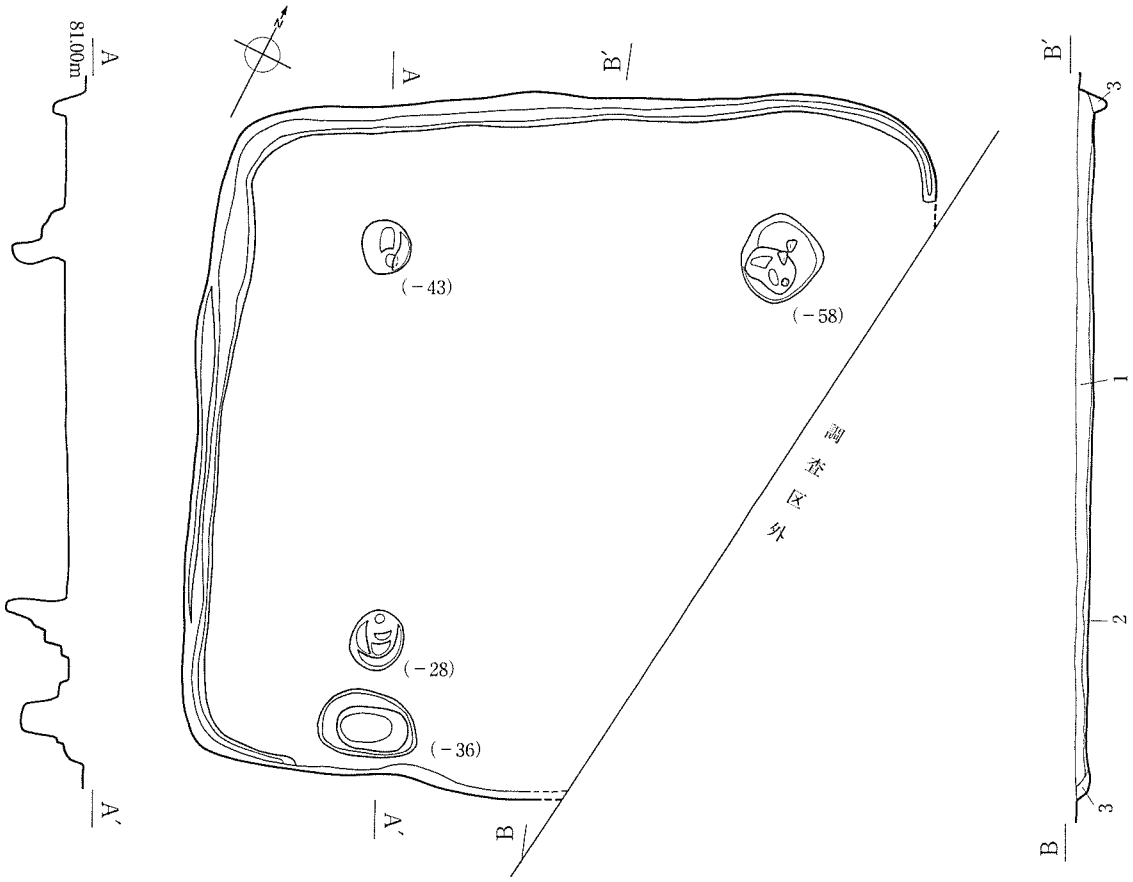
1：黒褐色土　ローム粒・焼土・灰白色軽石粒を微量含む。しまりあまりない。
2：赤褐色土　焼土層。粘土ブロックを含む。
3：暗褐色土　ローム粒・焼土・灰白色軽石粒を微量含む。しまりあまりない。

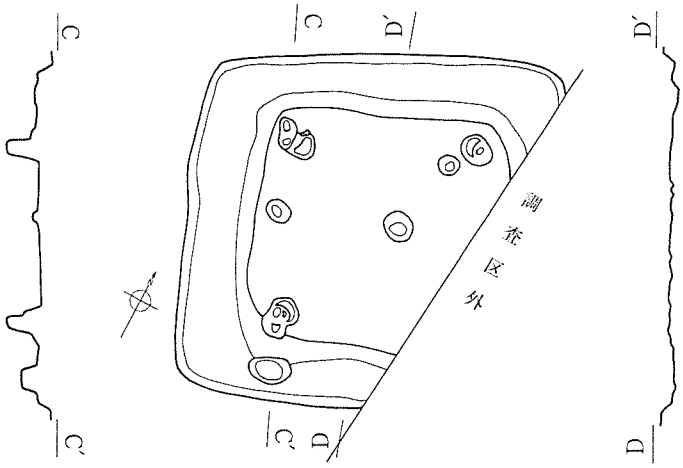
1：暗褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。
3：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
4：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
5：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。
6：暗褐色土　ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
7：暗灰褐色土　ローム粒・ブロックを微量、灰白色軽石粒を少量含む。しまり強く粘性がある。
8：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
9：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。粘性がある。
10：暗褐色土　ローム粒を多量含む。粘性がある。
11：暗褐色土　ローム粒を微量含む。しまり強く粘性がある。

第55図　68号住居跡

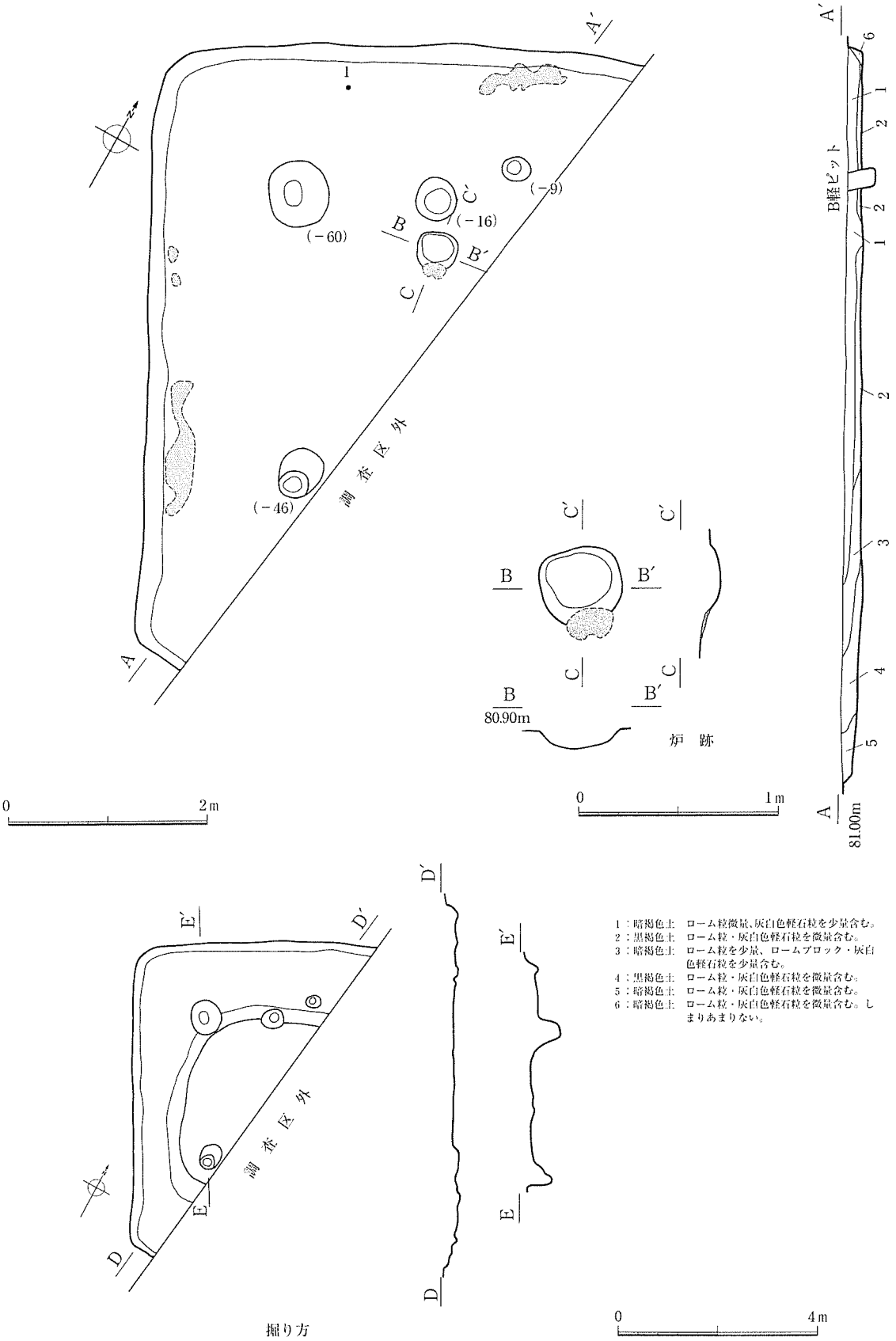

B′
C′
D′
A′
A
(－33)
(－32)
(－15)
(－34)
(－30)
(－25)
71号溝
B
C
D
焼土
80.80m
0
2m
E
E′
F
F′
G
G′
H
H′
0
4m
掘り方
1：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量、ロームブロックを多量含む。
2：黒褐色土　ローム粒・ブロックを微量、灰白色軽石粒・焼土・炭化材を少量含む。焼土・炭化材は壁際では多量含む。
3：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量、ロームブロックを多量含む。粘性がある。
4：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒・ロームブロックを少量含む。
5：黒褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒を少量含む。
6：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
71号溝
1：暗灰褐色土　ローム粒、炭化粒を微量、白色軽石粒を少量含む。しまり強く、粘性がある。
2：暗灰褐色土　ローム粒、白色軽石粒を微量含む。しまり強く、粘性がある。

第56図　69号住居跡

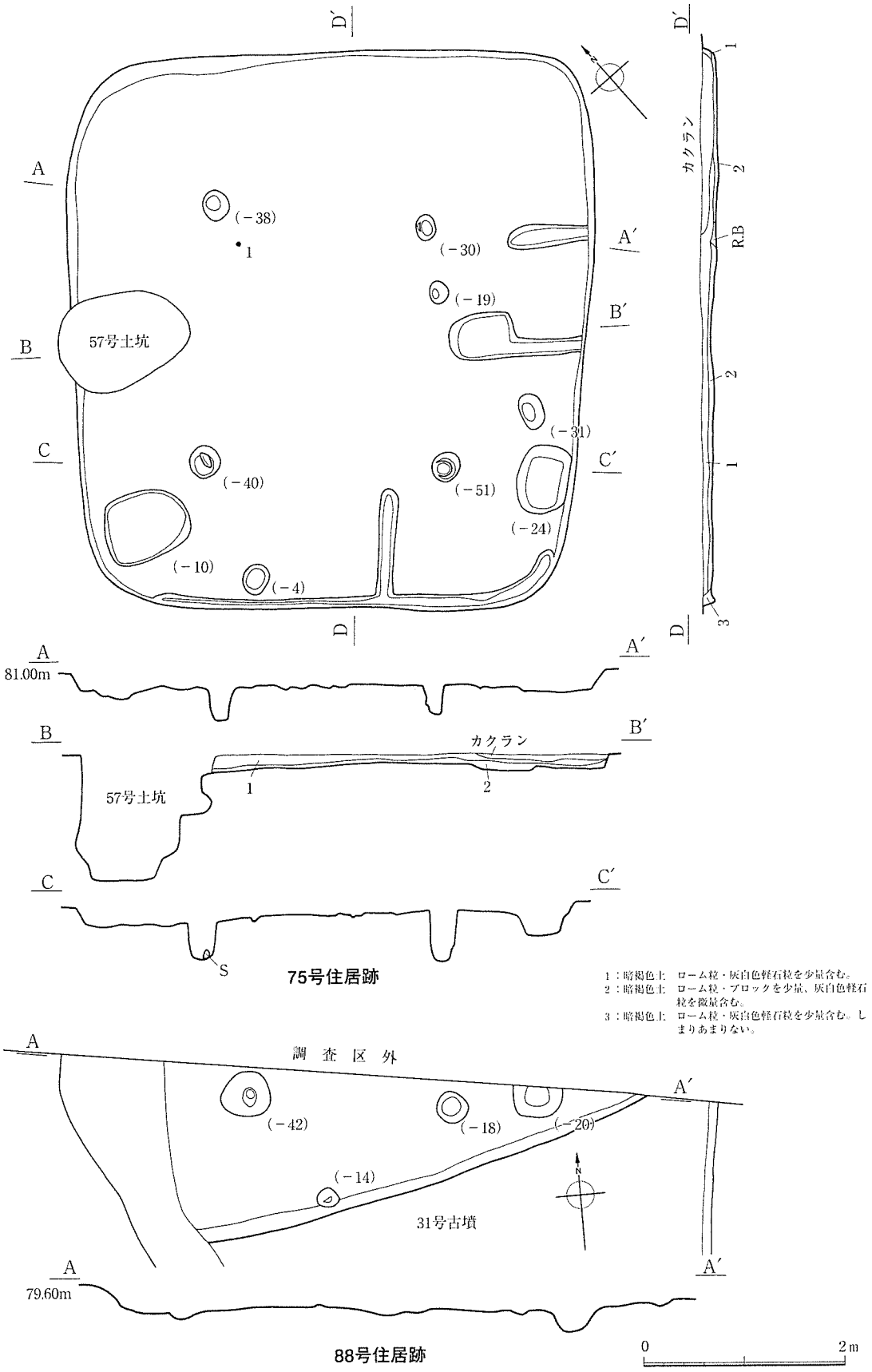

A
A'
81.00m
B
B'
C
C'
D
D'
(－43)
(－58)
(－28)
(－36)
調査区外
1
2
3
1：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量、ローム
ブロックを微量含む。
2：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
3：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
0
2m


C
C'
D
D'
調査区外
掘り方
0
4m

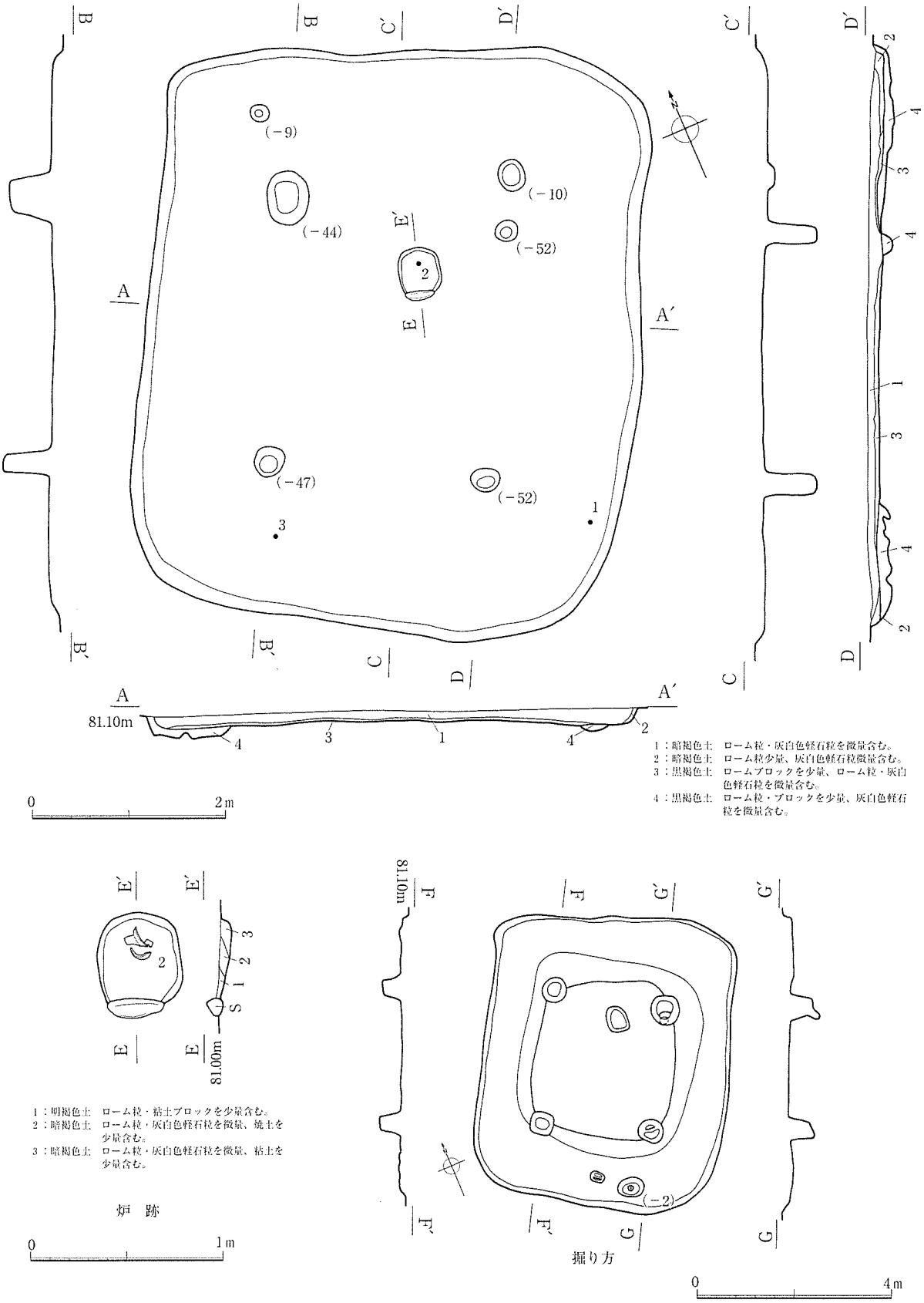
第57図　73号住居跡


A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
(−60)
(−16)
(−9)
(−46)
調査区外
B軽ピット
炉跡
80.90m
81.00m
0
2m
1m
4m
1：暗褐色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒を少量含む。
2：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
3：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を少量含む。
4：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
5：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
6：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。しまりあまりない。
掘り方

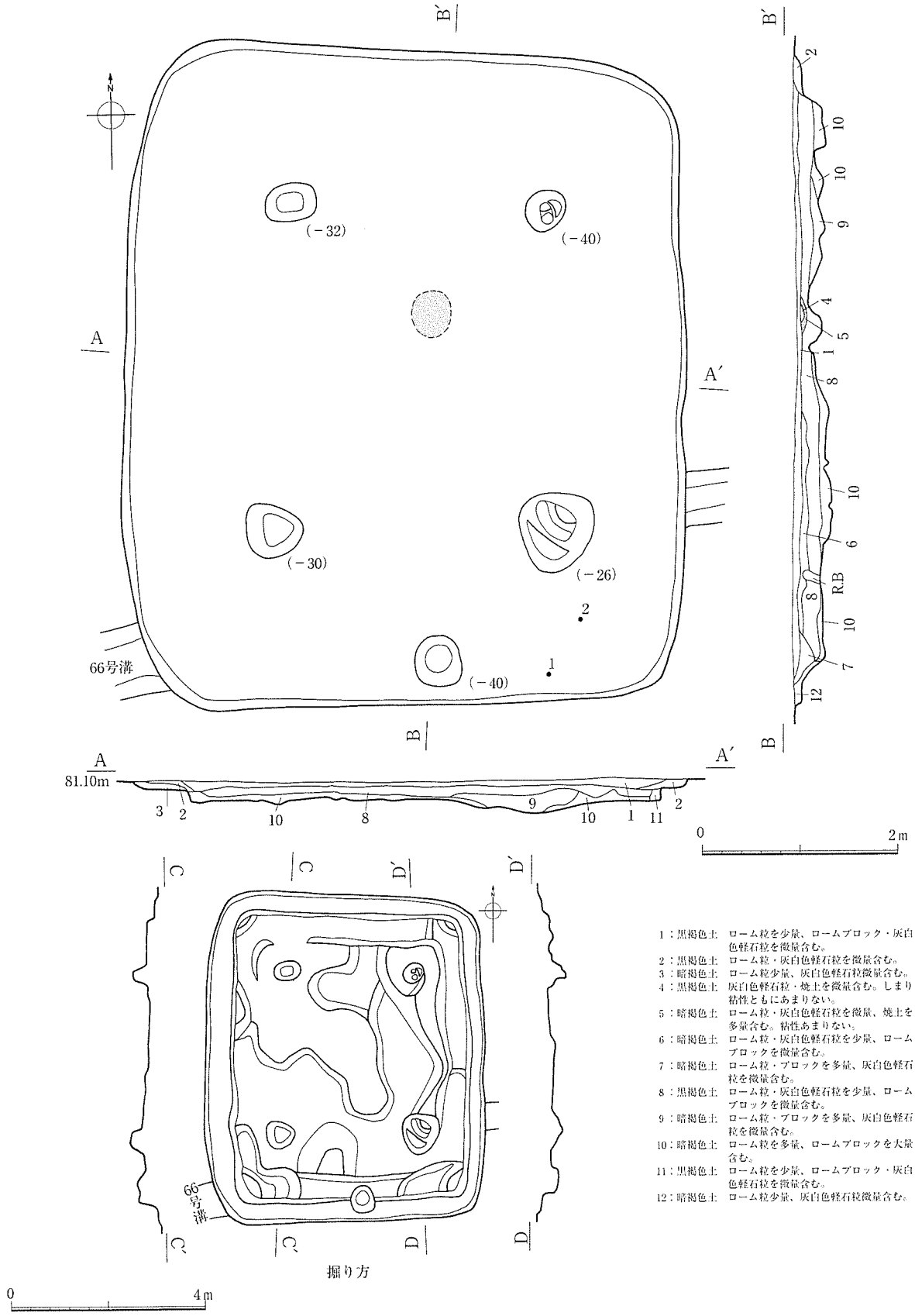
第58図　74号住居跡



第59図　75号住居跡・88号住居跡

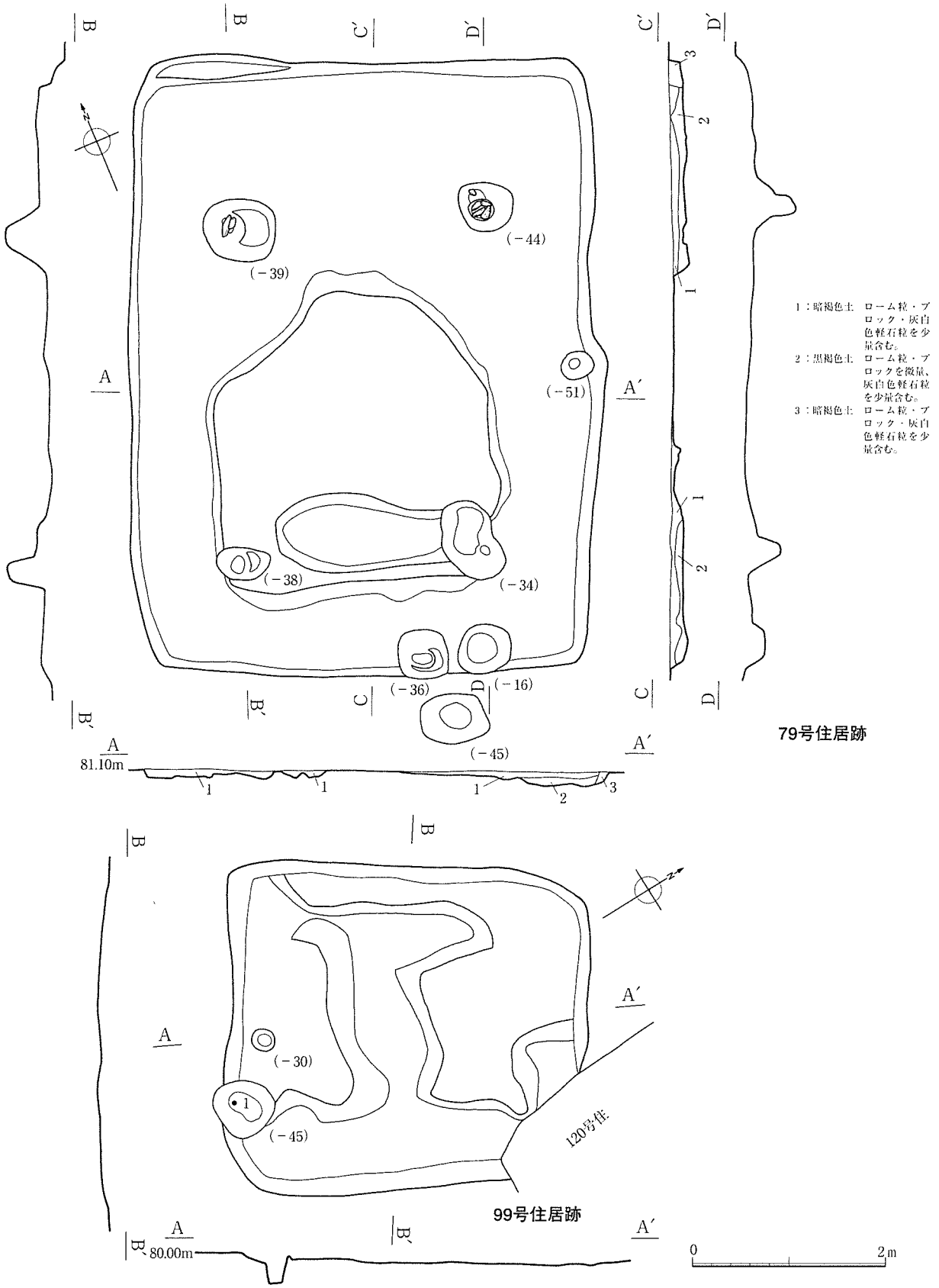

(－9)
(－44)
(－10)
(－52)
(－47)
(－52)
(－2)
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
G
G′
81.10m
81.00m
0
2m
0
1m
0
4m
1：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。
3：黒褐色土　ロームブロックを少量、ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
4：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
1：明褐色土　ローム粒・粘土ブロックを少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量、焼土を少量含む。
3：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量、粘土を少量含む。
炉　跡
掘り方

第60図　76号住居跡

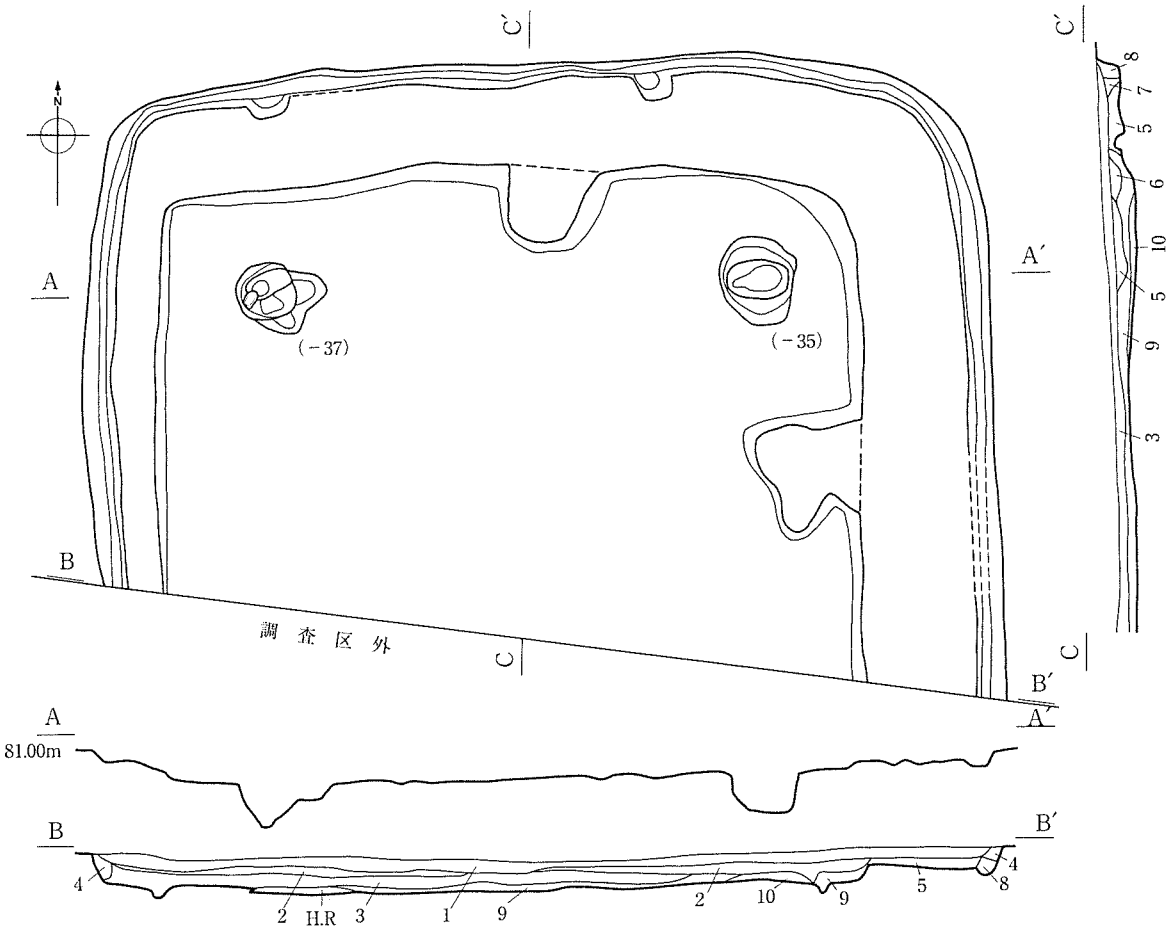


1：黒褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
2：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
3：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。
4：黒褐色土　灰白色軽石粒・焼土を微量含む。しまり粘性ともにあまりない。
5：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量、焼土を多量含む。粘性あまりない。
6：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量、ロームブロックを微量含む。
7：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
8：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量、ロームブロックを微量含む。
9：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
10：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロックを大量含む。
11：黒褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
12：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。

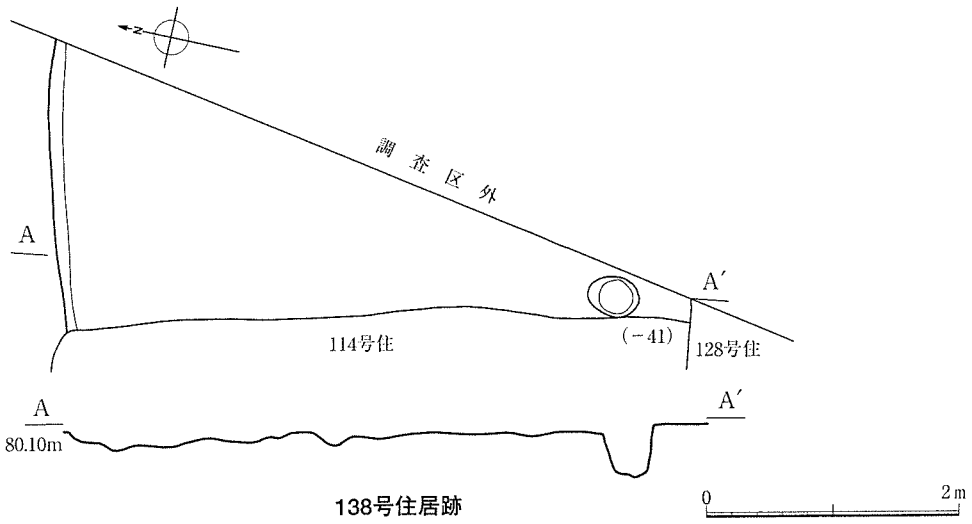
第61図　78号住居跡



第62図　79号住居跡・99号住居跡

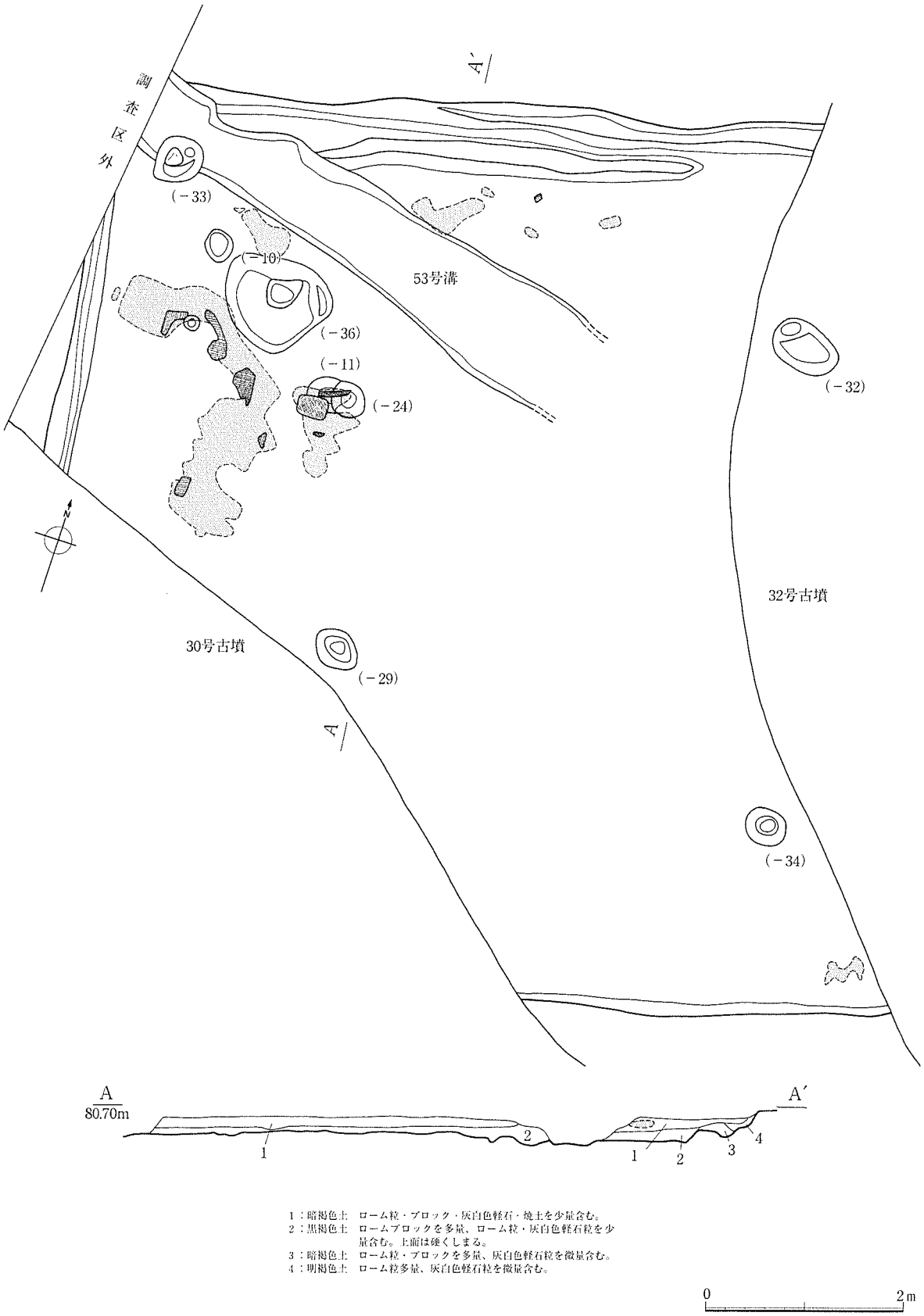


80号住居跡



138号住居跡

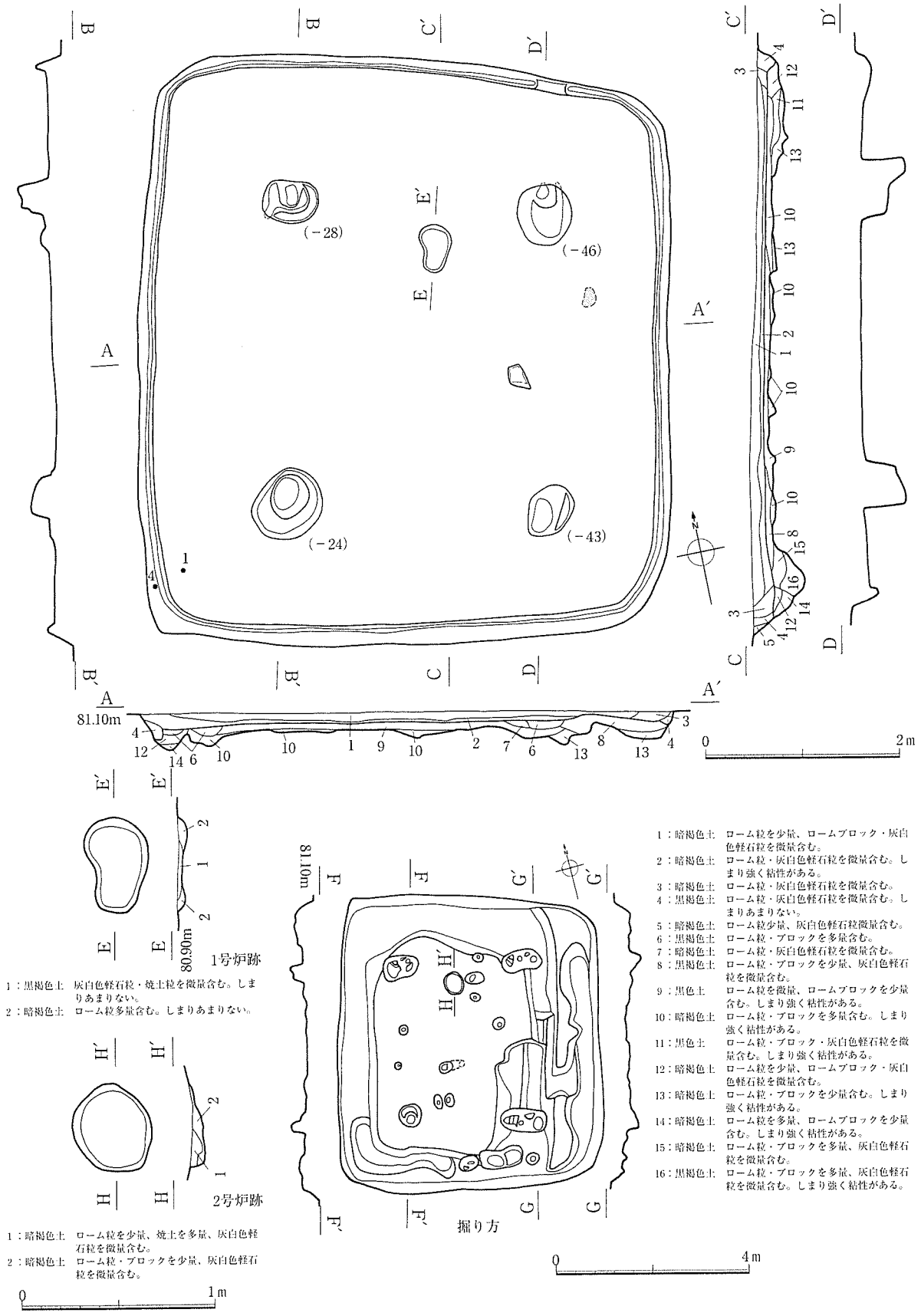
第63図 80号住居跡・138号住居跡



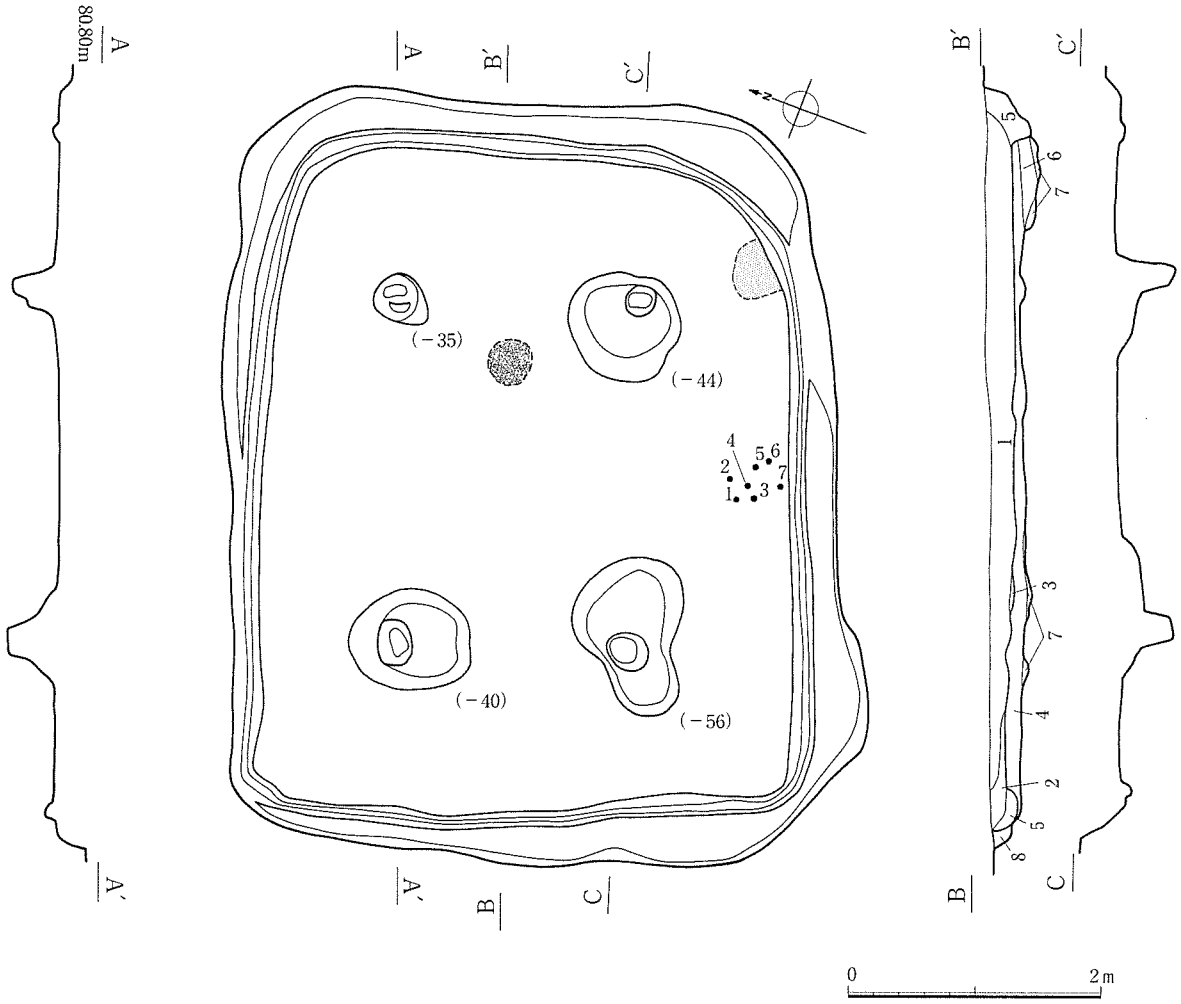
1：暗褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石・焼土を少量含む。
2：黒褐色土　ロームブロックを多量、ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む。上面は硬くしまる。
3：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
4：明褐色土　ローム粒多量、灰白色軽石粒を微量含む。

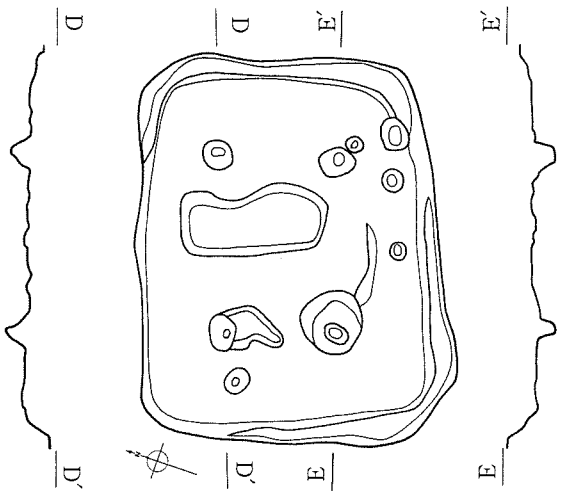
0　2m

第64図　81号住居跡


(−28)
(−46)
(−24)
(−43)
81.10m
80.90m
1号炉跡
2号炉跡
掘り方
0　2m
0　4m
0　1m
1：黒褐色土　灰白色軽石粒・焼土粒を微量含む。しまりあまりない。
2：暗褐色土　ローム粒多量含む。しまりあまりない。
1：暗褐色土　ローム粒を少量、焼土を多量、灰白色軽石粒を微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
1：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く粘性がある。
3：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
4：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。しまりあまりない。
5：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。
6：黒褐色土　ローム粒・ブロックを多量含む。
7：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
8：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
9：黒色土　ローム粒を微量、ロームブロックを少量含む。しまり強く粘性がある。
10：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量含む。しまり強く粘性がある。
11：黒色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く粘性がある。
12：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
13：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強く粘性がある。
14：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。しまり強く粘性がある。
15：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
16：黒褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。しまり強く粘性がある。

第65図　82号住居跡

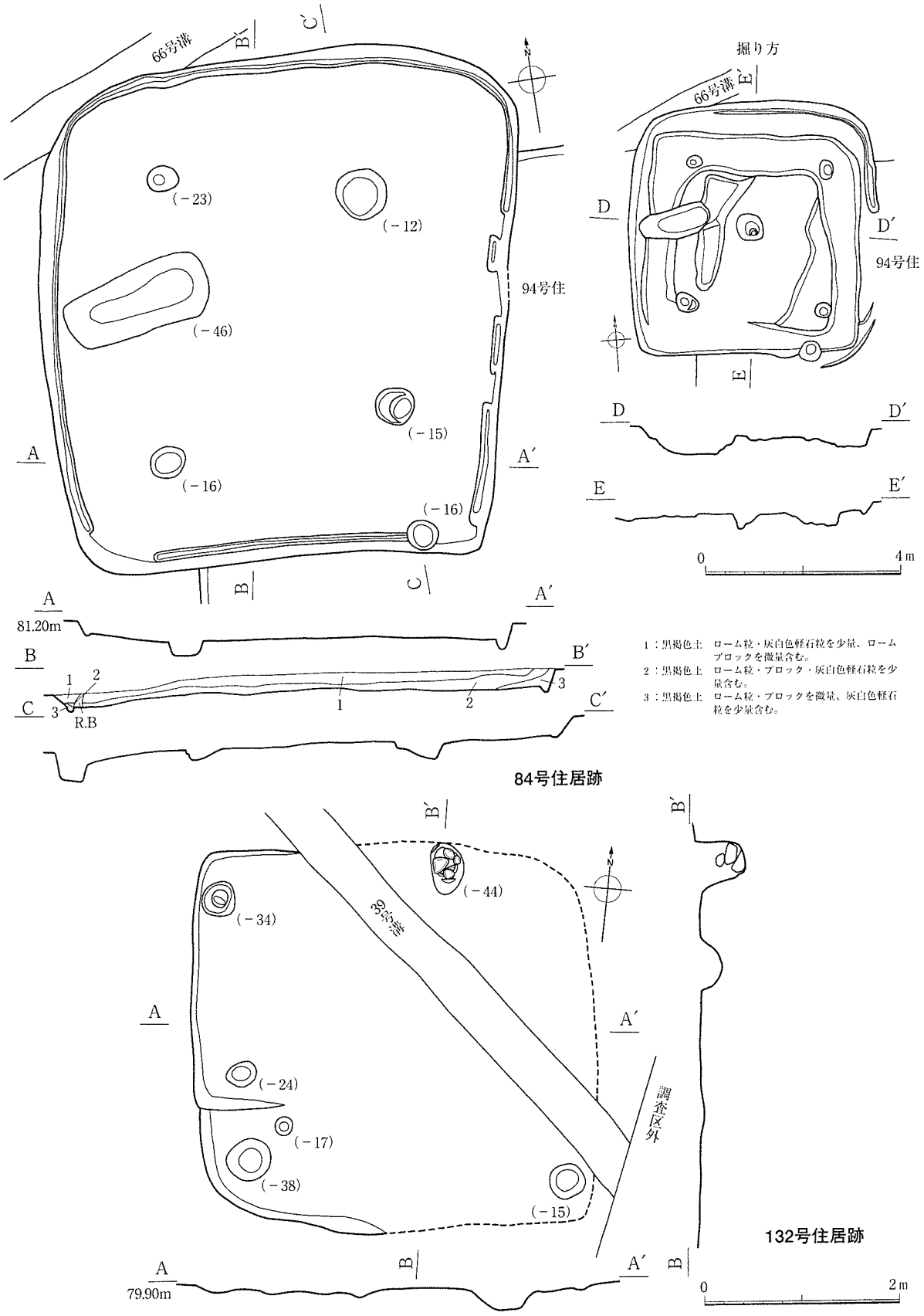




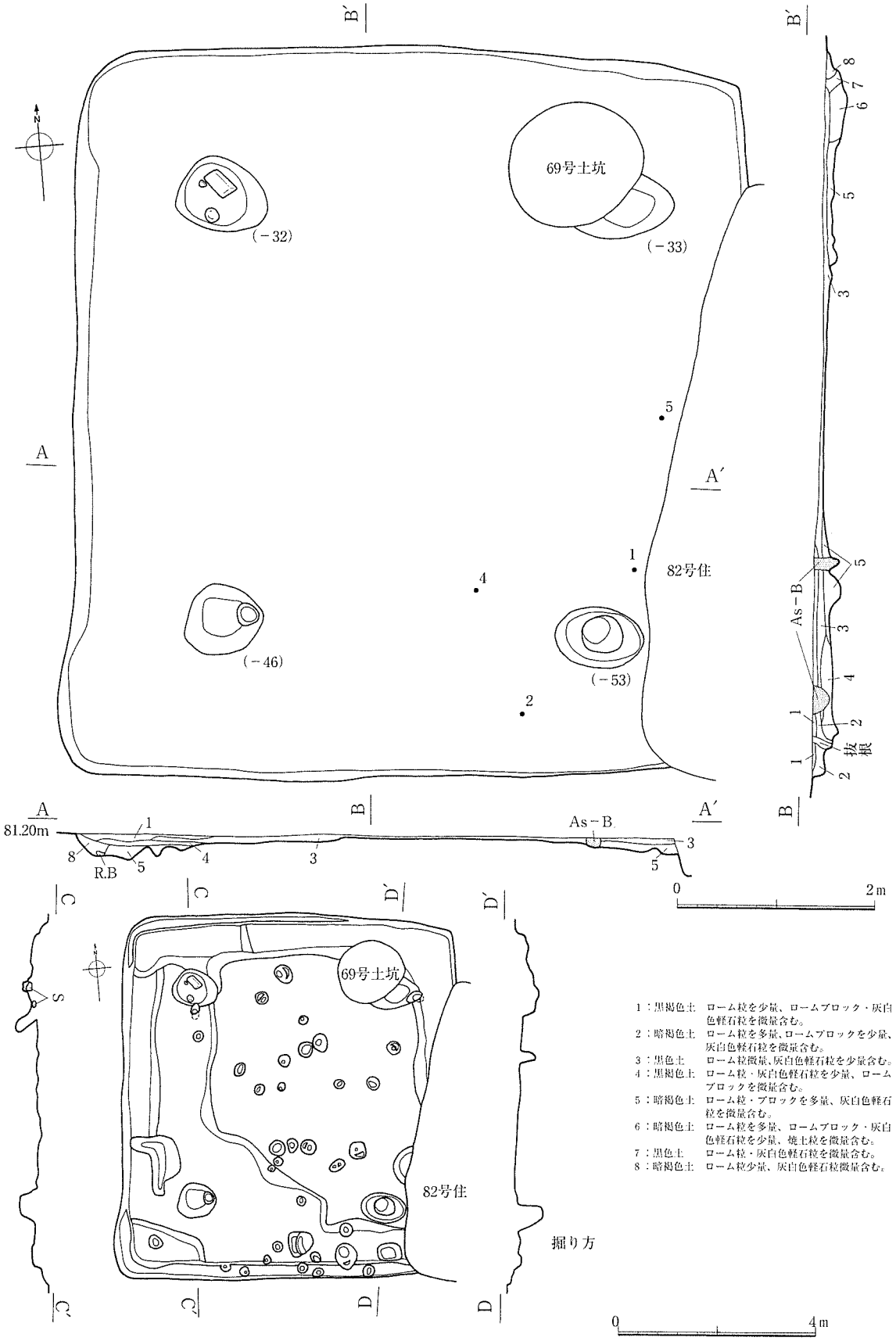
1：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量、ロームブロック微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒を微量、灰白色軽石粒・焼土ブロックを少量含む。
3：黒色土　焼土を微量、炭化材を少量含む。粘性あまりない。
4：黒褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量含む。
5：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
6：黒褐色土　ローム粒・ブロックを微量、灰白色軽石粒を少量含む。粘性あまりない。
7：暗褐色土　ローム粒・焼土粒を微量含む。
8：暗褐色土　ローム粒を少量、灰白色軽石粒を微量含む。

0　4m

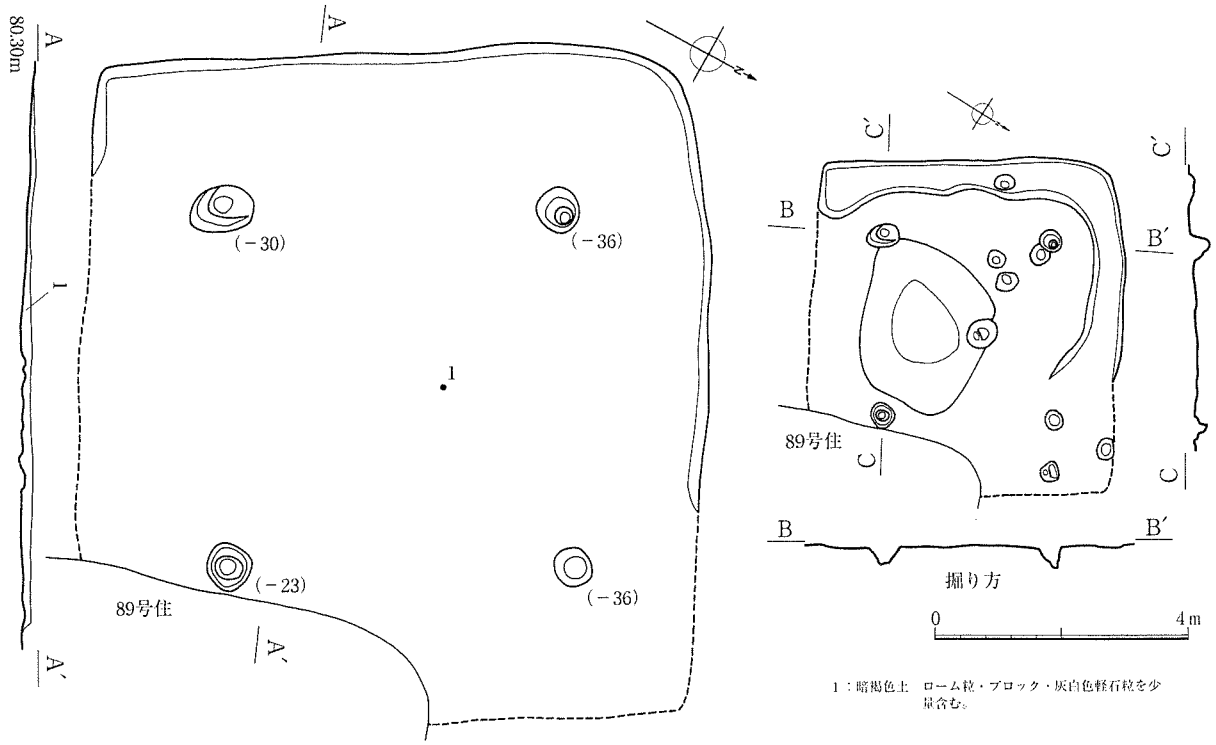
第66図　83号住居跡



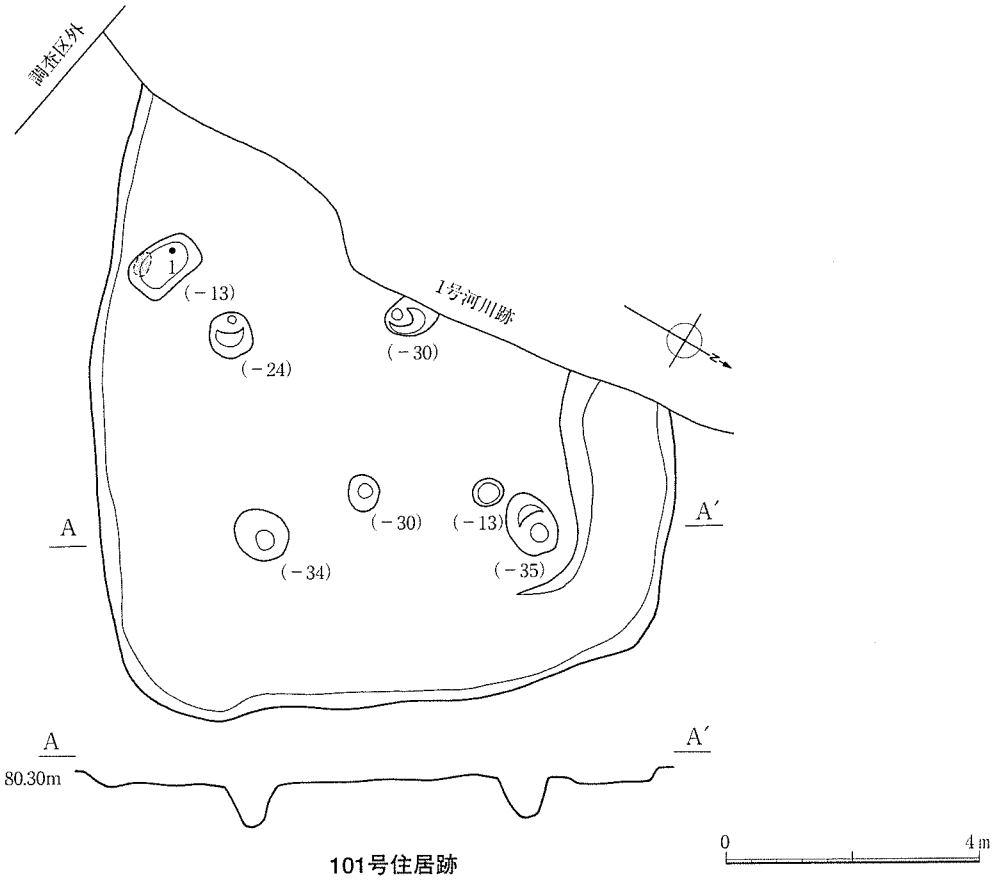
第67図　84号住居跡・132号住居跡


B′
B′
69号土坑
(－32)
(－33)
A
A′
82号住
(－46)
(－53)
As－B
抜根
A
B
A′
B
81.20m
As－B
R.B
0
2m
C
C
D′
D′
69号土坑
82号住
掘り方
C
C
D
D
0
4m
1：黒褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
3：黒色土　ローム粒微量、灰白色軽石粒を少量含む。
4：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量、ロームブロックを微量含む。
5：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
6：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロック・灰白色軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
7：黒色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
8：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。

第68図　85号住居跡

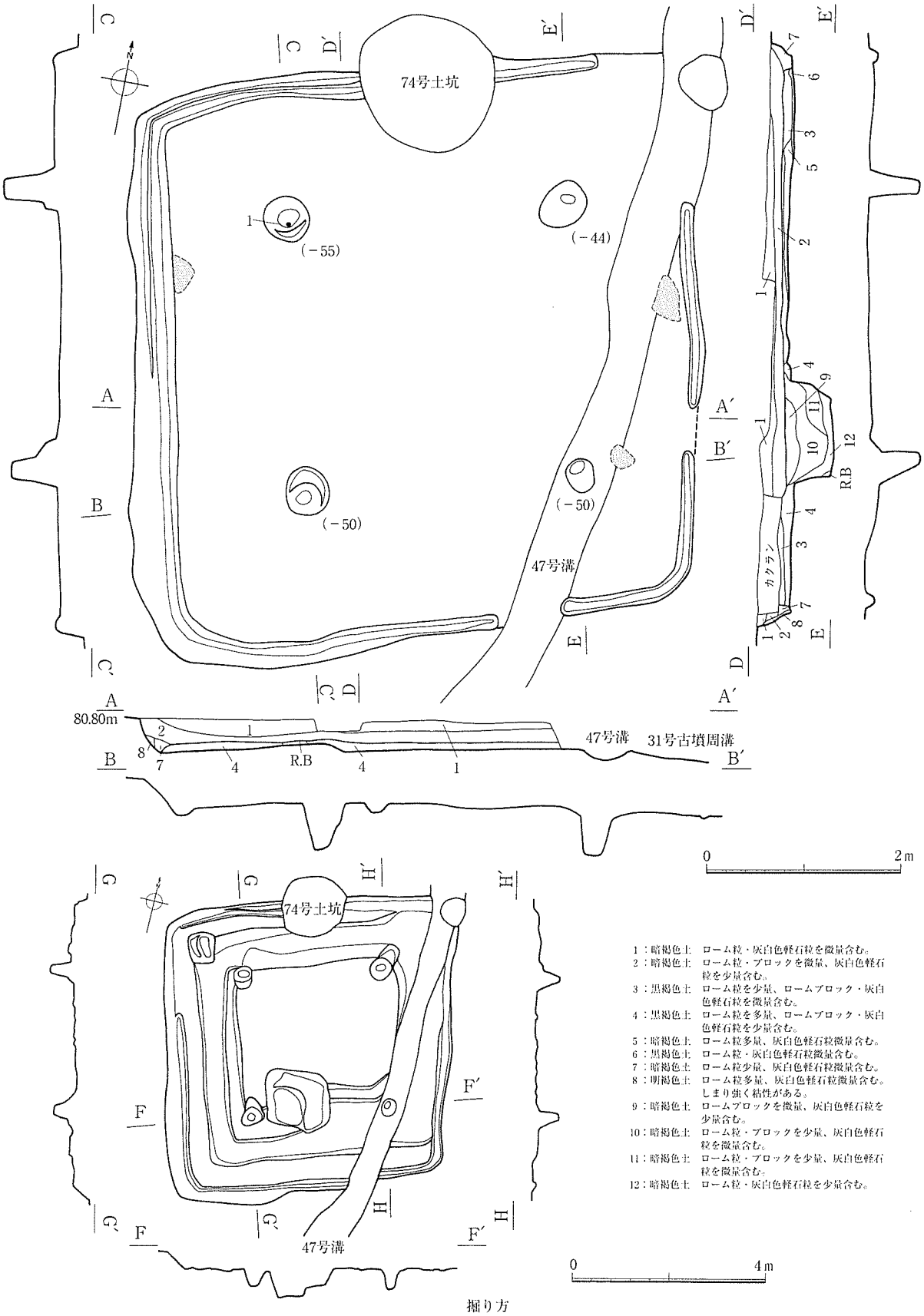


86号住居跡

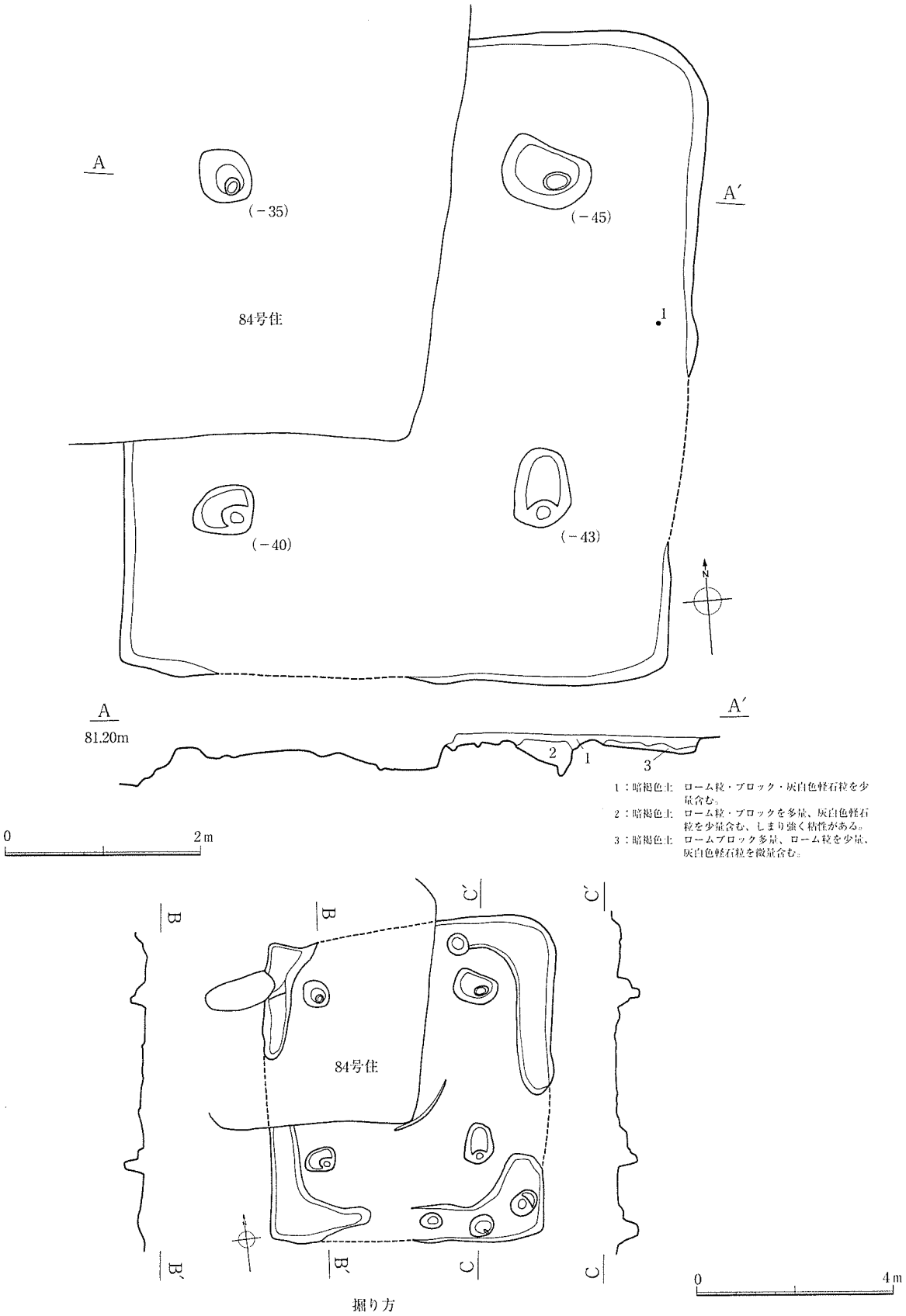


101号住居跡

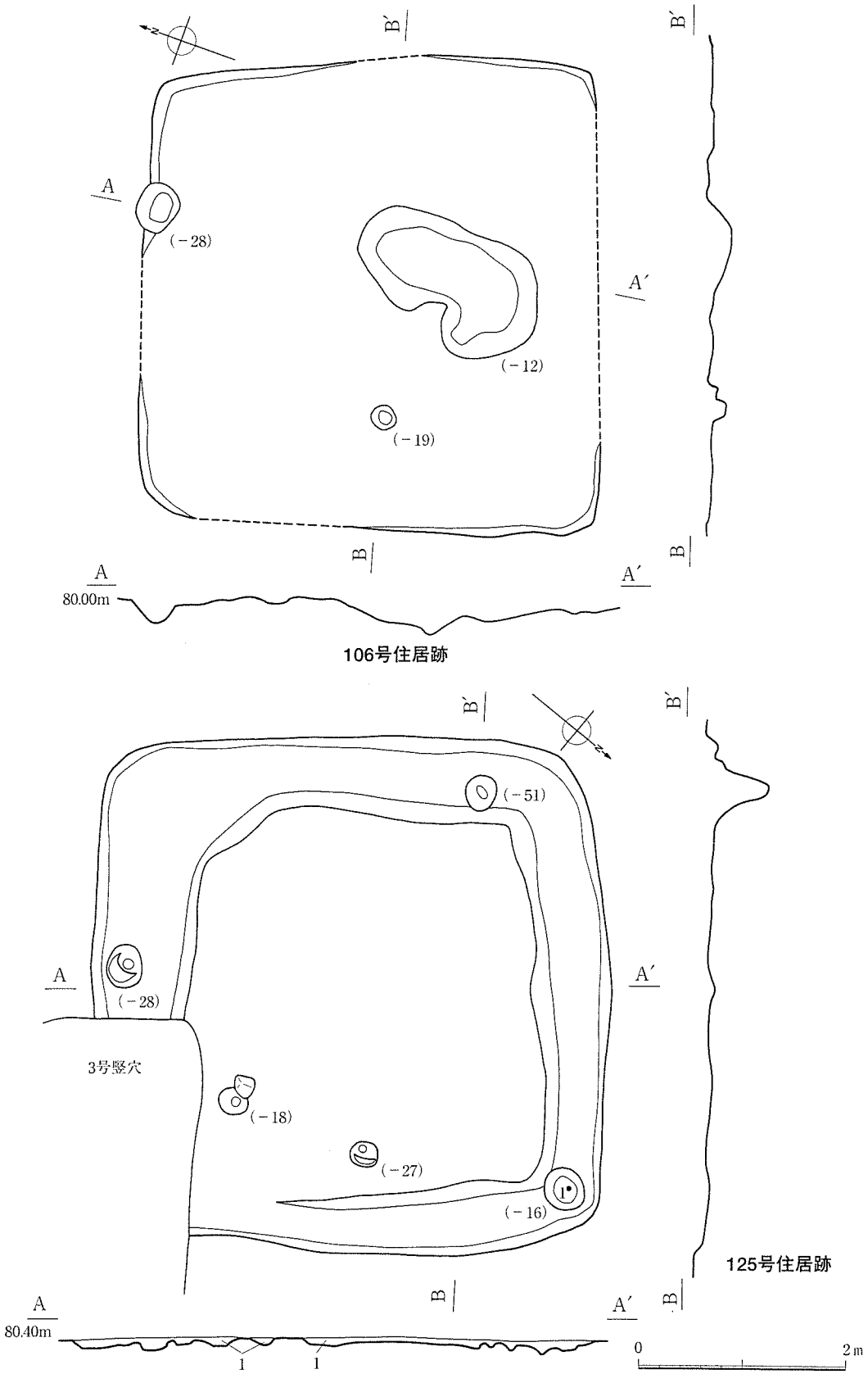
第69図　86号住居跡・101号住居跡


74号土坑
(－55)
(－44)
(－50)
(－50)
47号溝
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
G
G′
H
H′
R.B
カクラン
80.80m
47号溝
31号古墳周溝
74号土坑
47号溝
0
2m
0
4m
1：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
2：暗褐色土　ローム粒・ブロックを微量、灰白色軽石粒を少量含む。
3：黒褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック・灰白色軽石粒を微量含む。
4：黒褐色土　ローム粒を多量、ロームブロック・灰白色軽石粒を少量含む。
5：暗褐色土　ローム粒多量、灰白色軽石粒微量含む。
6：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒微量含む。
7：暗褐色土　ローム粒少量、灰白色軽石粒微量含む。
8：明褐色土　ローム粒多量、灰白色軽石粒微量含む。しまり強く粘性がある。
9：暗褐色土　ロームブロックを微量、灰白色軽石粒を少量含む。
10：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
11：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、灰白色軽石粒を微量含む。
12：暗褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を少量含む。
掘り方

第70図　87号住居跡

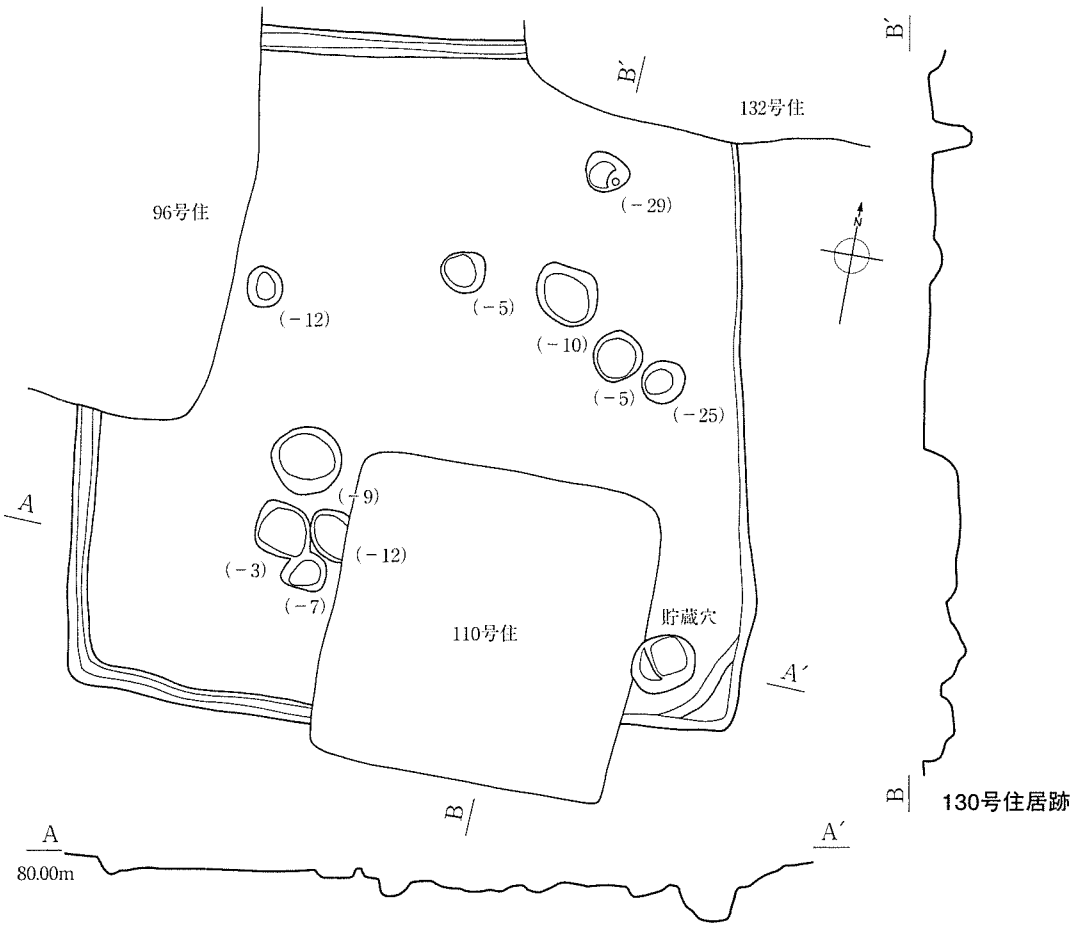

A
A′
(－35)
(－45)
84号住
1
(－40)
(－43)
N
A
A′
81.20m
2
1
3
1：暗褐色土　ローム粒・ブロック・灰白色軽石粒を少量含む。
2：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量、灰白色軽石粒を少量含む、しまり強く粘性がある。
3：暗褐色土　ロームブロック多量、ローム粒を少量、灰白色軽石粒を微量含む。
0
2m
B
B′
C
C′
84号住
N
0
4m
掘り方

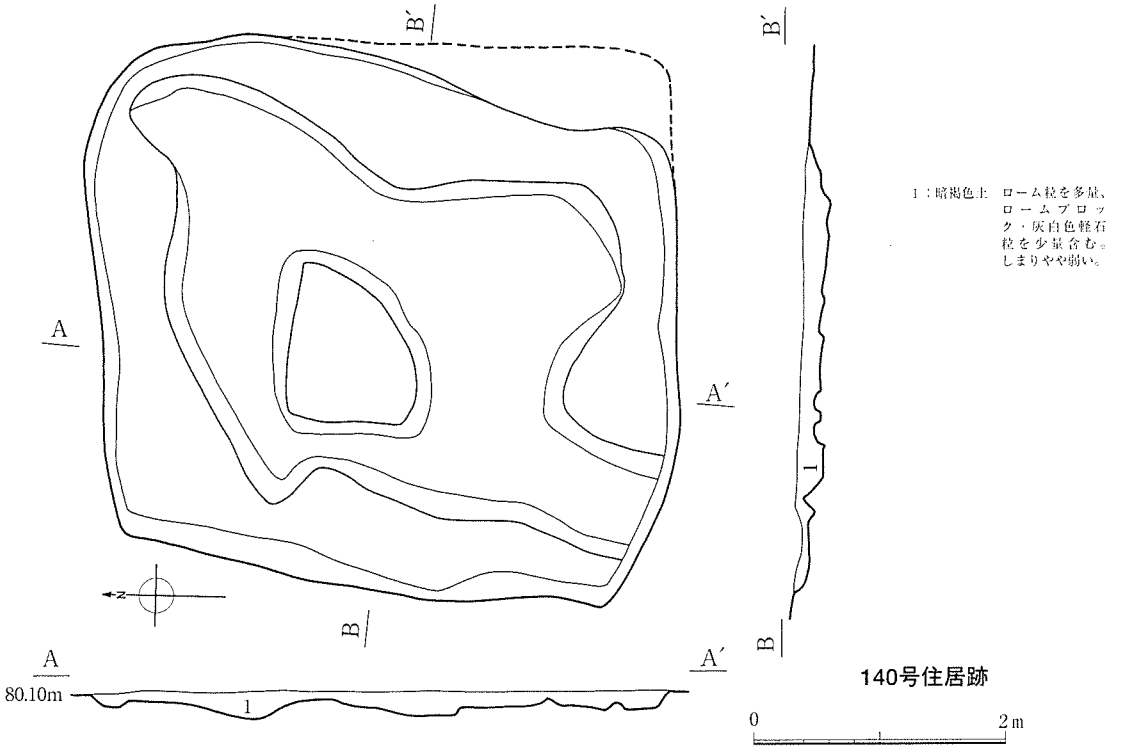
第71図　94号住居跡



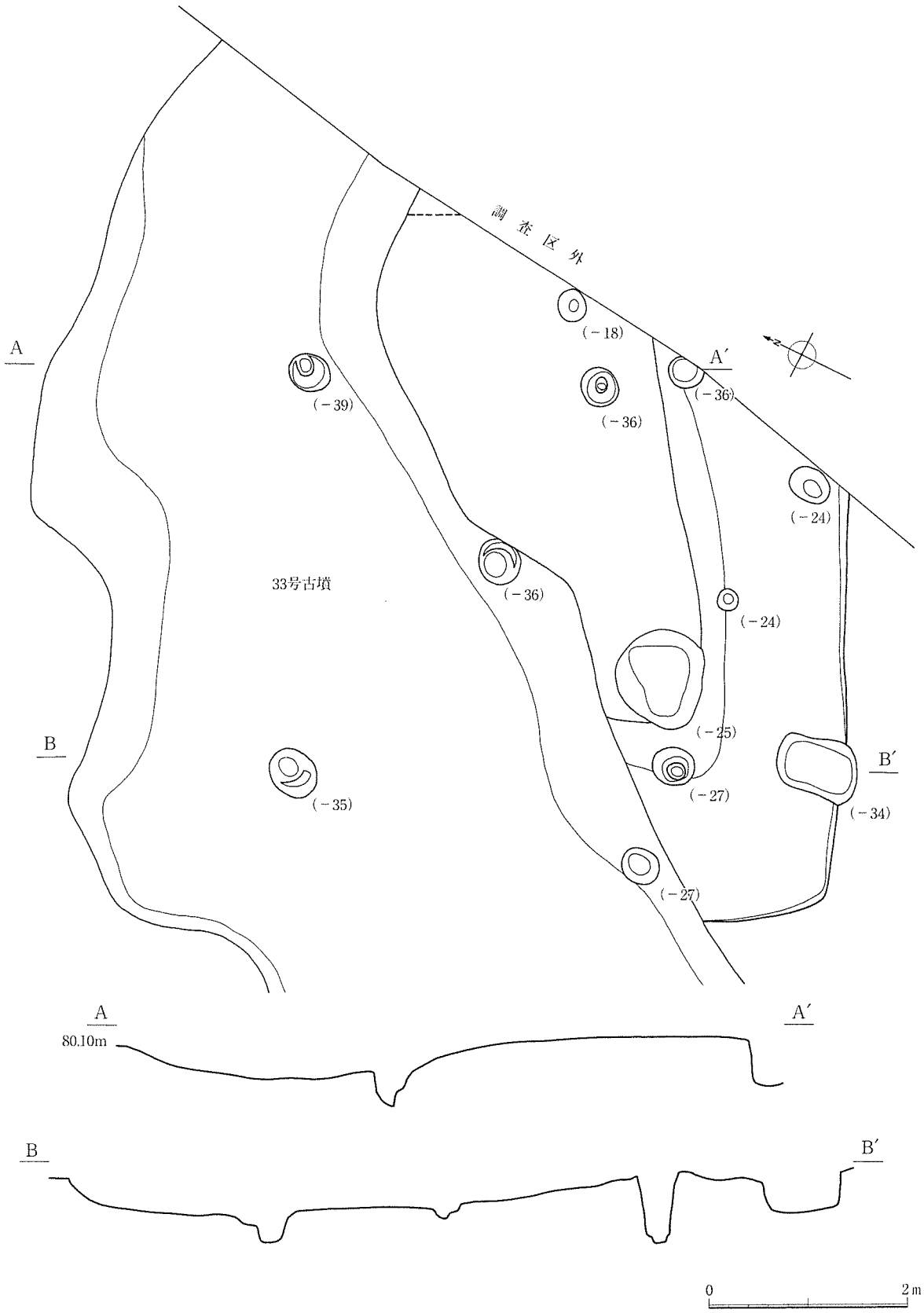
1：暗褐色土　ロームブロック多量、ローム粒を少量、
灰白色軽石粒を微量含む。

第72図　106号住居跡・125号住居跡

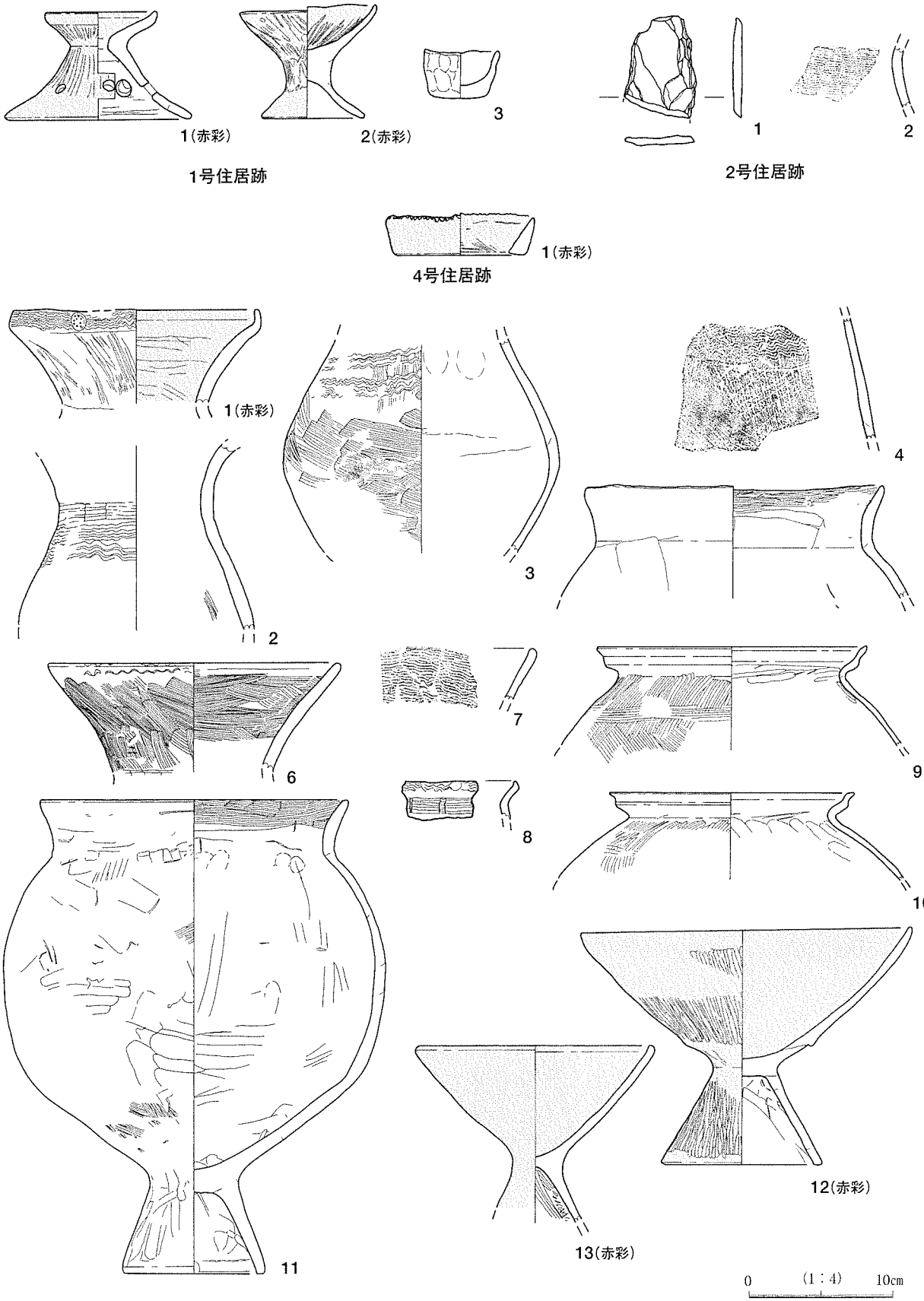




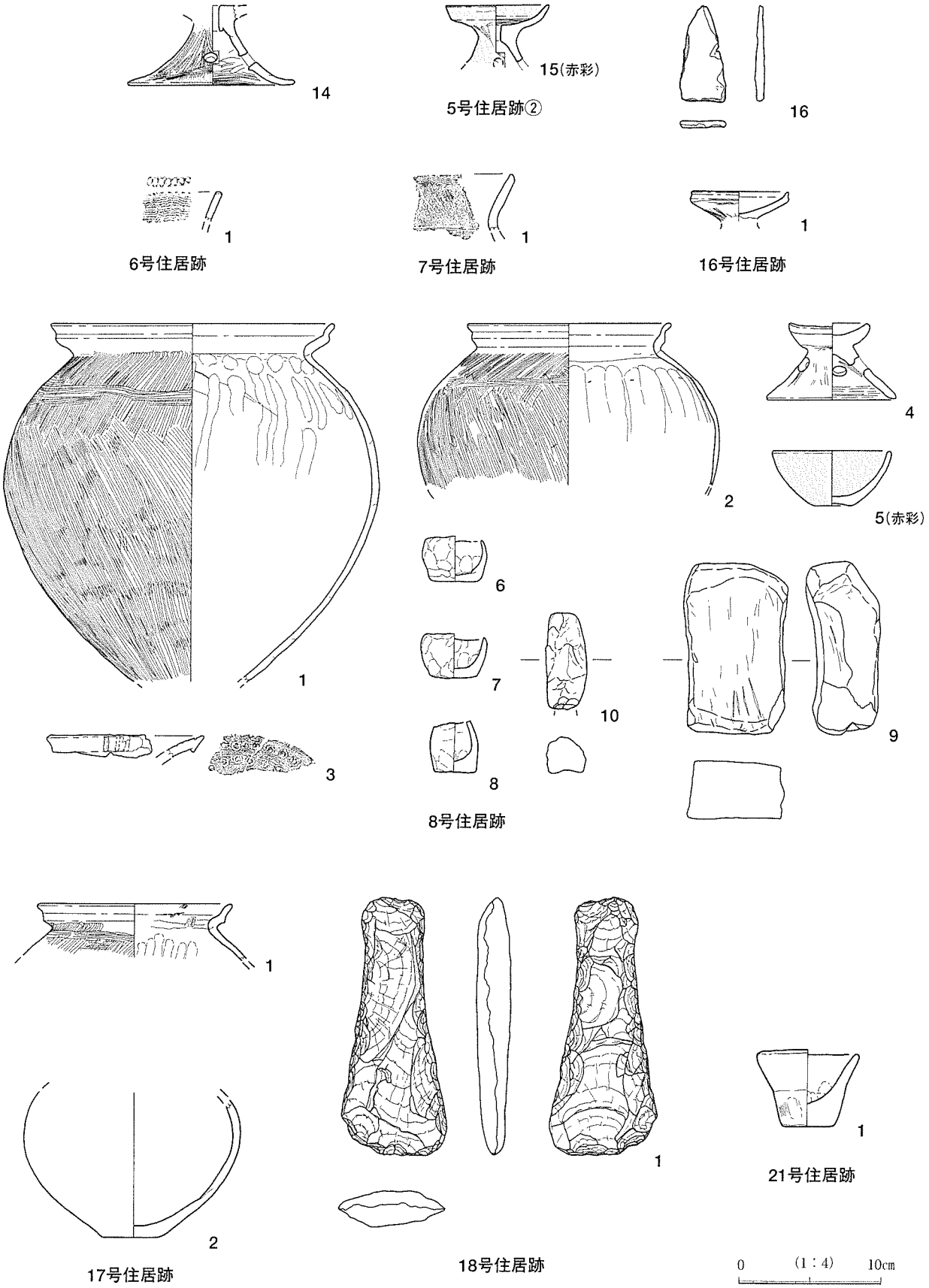
第73図　130号住居跡・140号住居跡



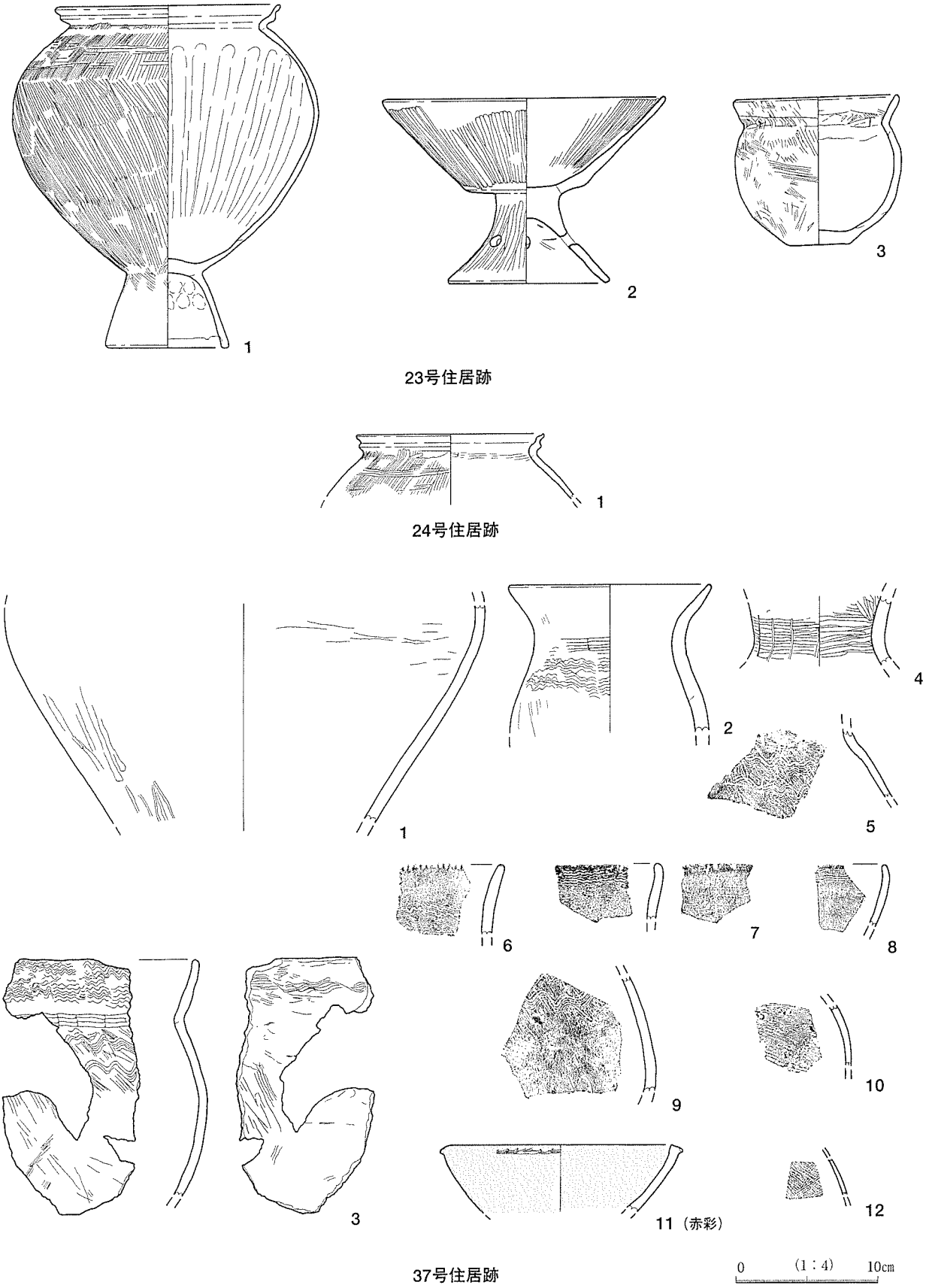
第74図　133号住居跡



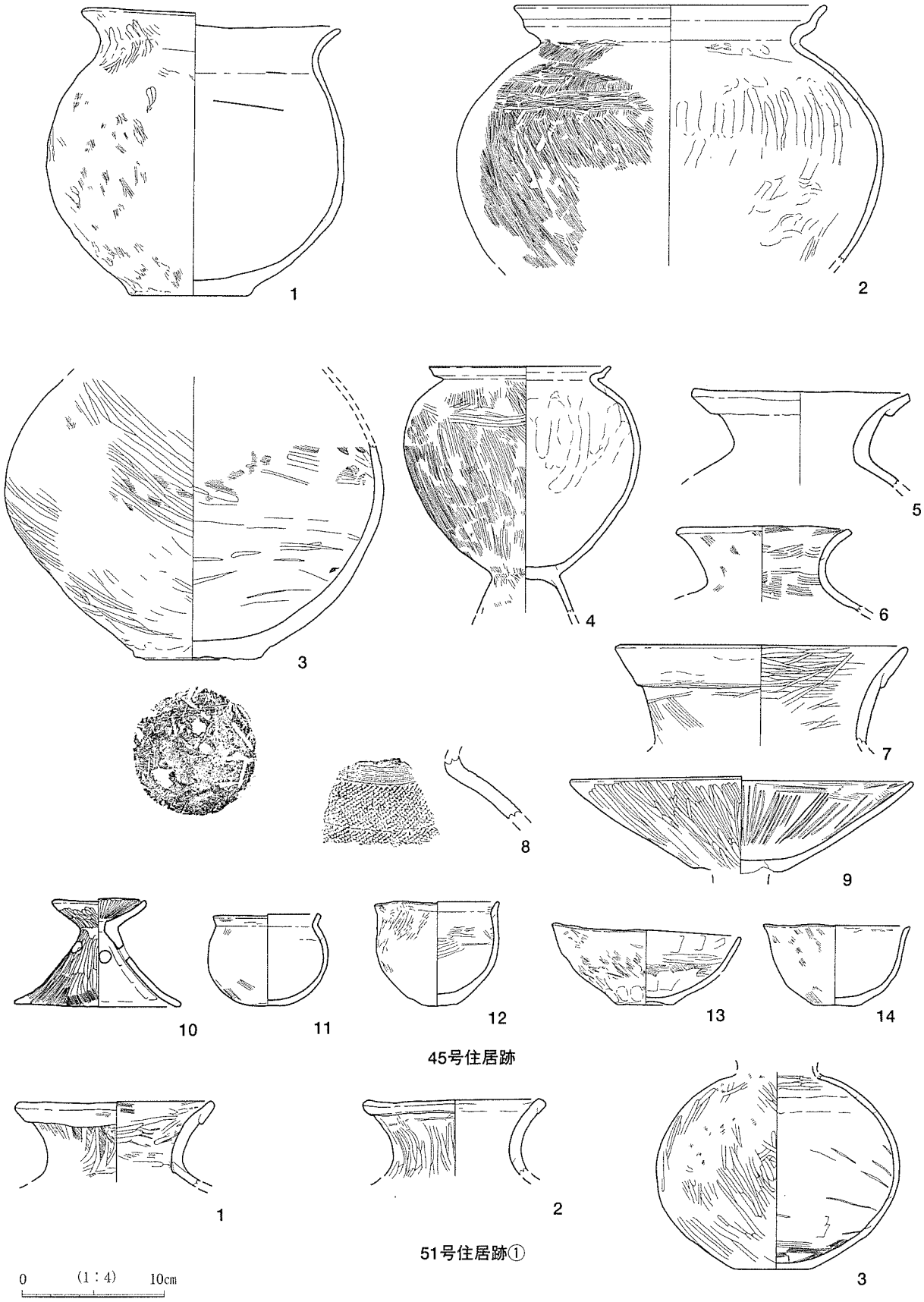
第75図　１号・２号・４号・５号住居跡出土遺物



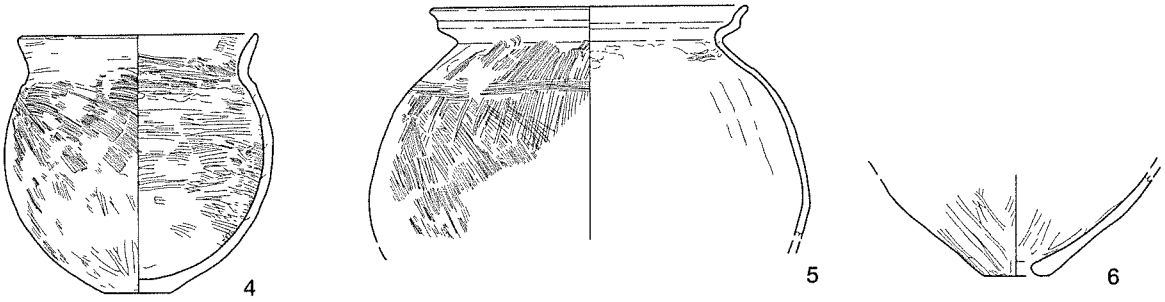
第76図　５号・６号・７号・８号・16号・17号・18号・21号住居跡出土遺物



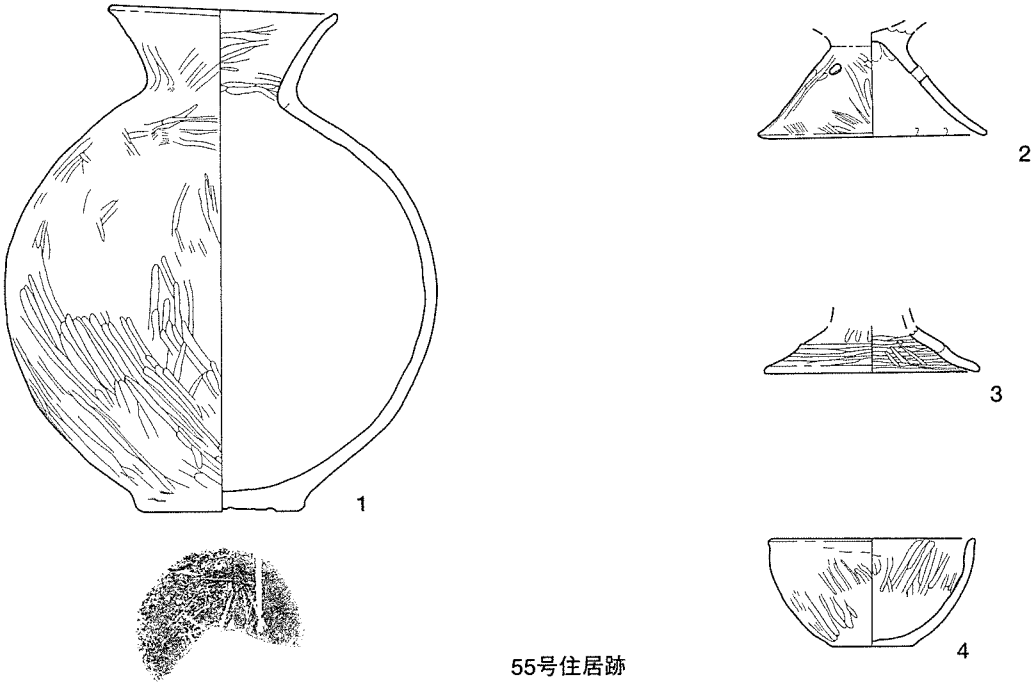
第77図 23号・24号・37号住居跡出土遺物



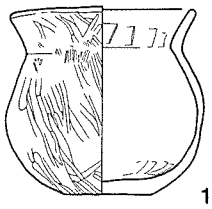
第78図 45号・51号住居跡出土遺物



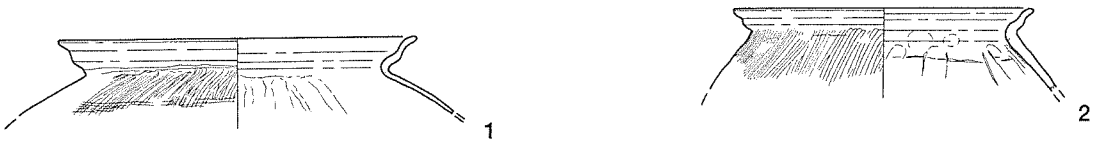
51号住居跡②



55号住居跡



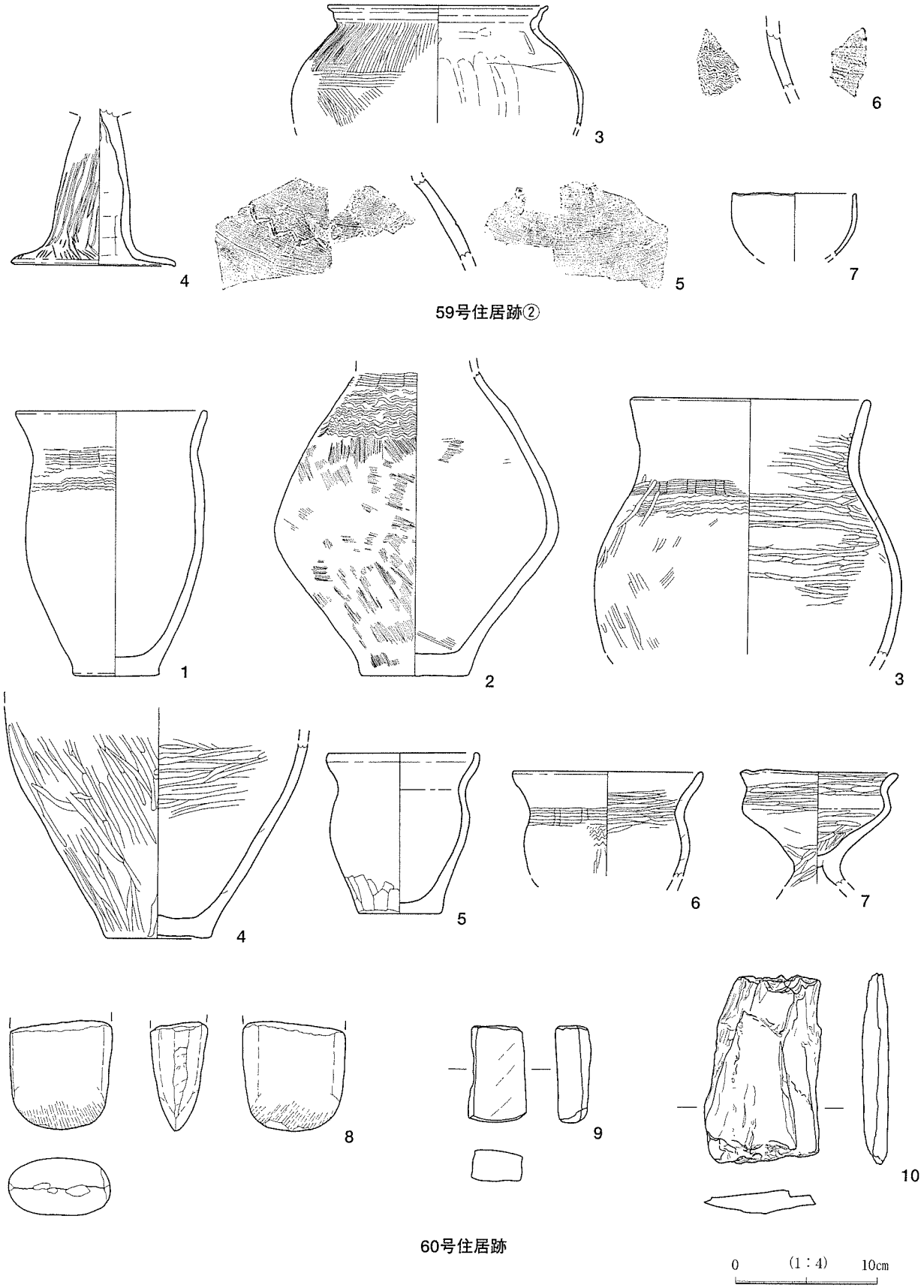
58号住居跡



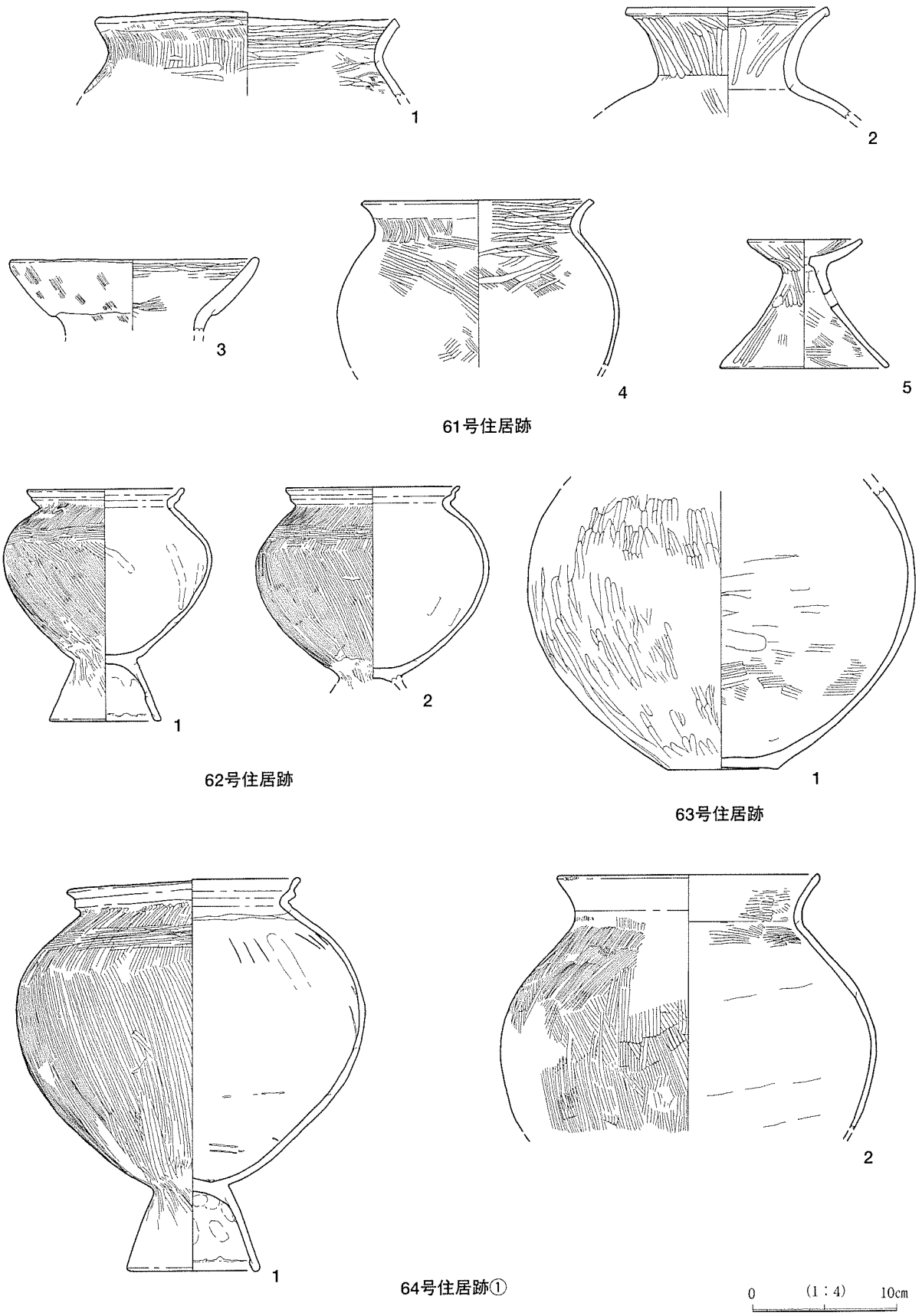
59号住居跡①

0　(1：4)　10cm

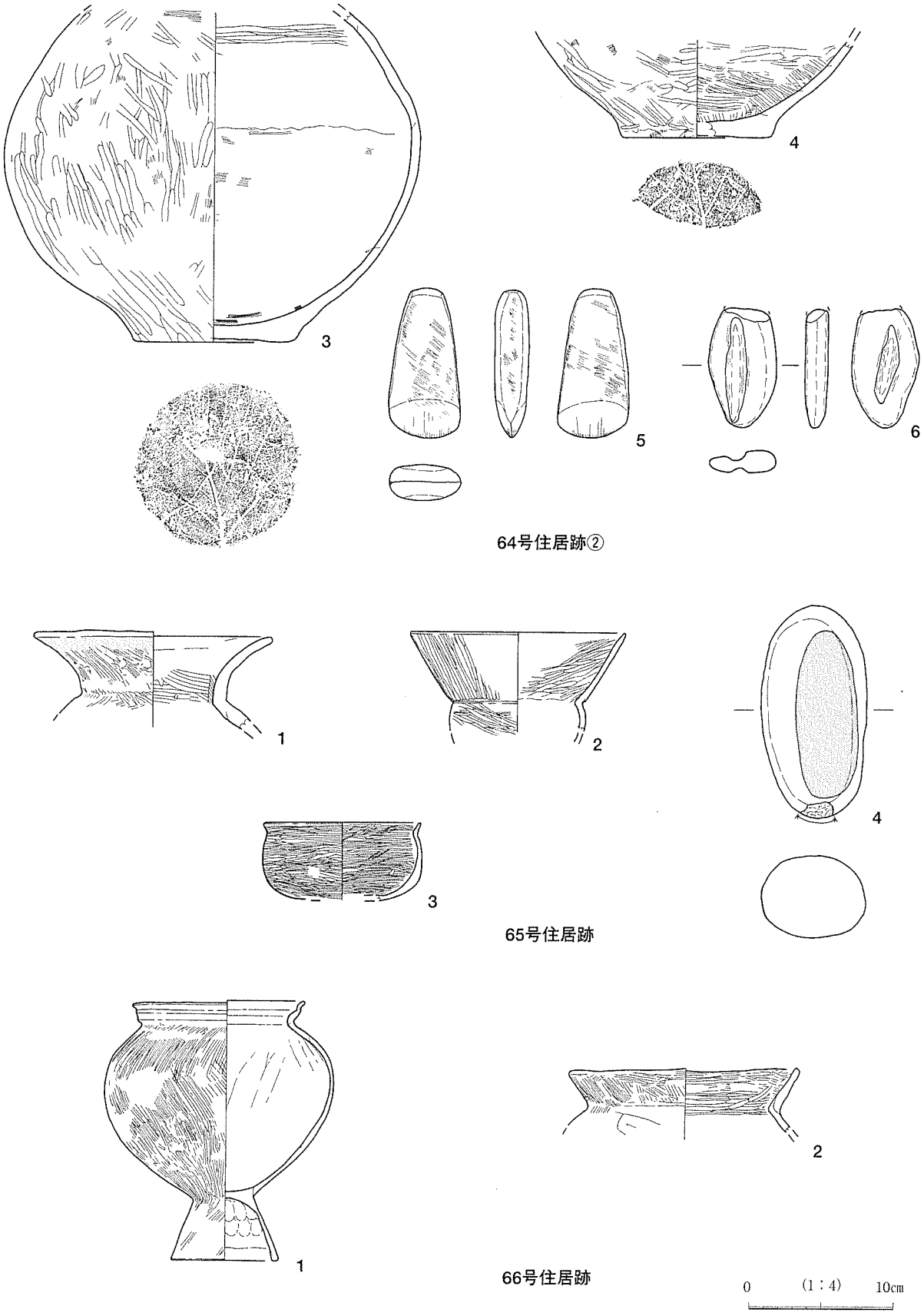
第79図 51号・55号・58号・59号住居跡出土遺物



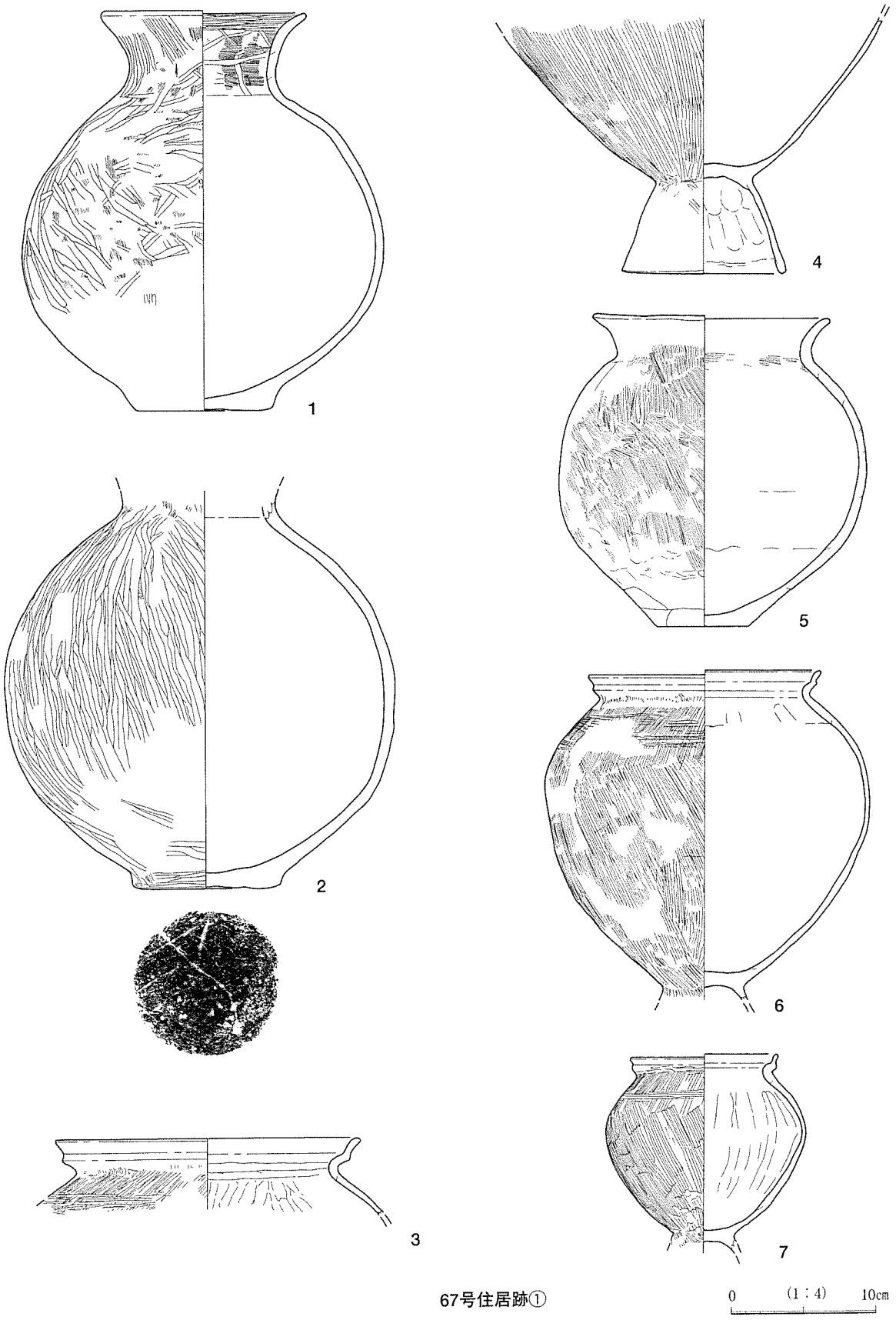
第80図 59号・60号住居跡出土遺物



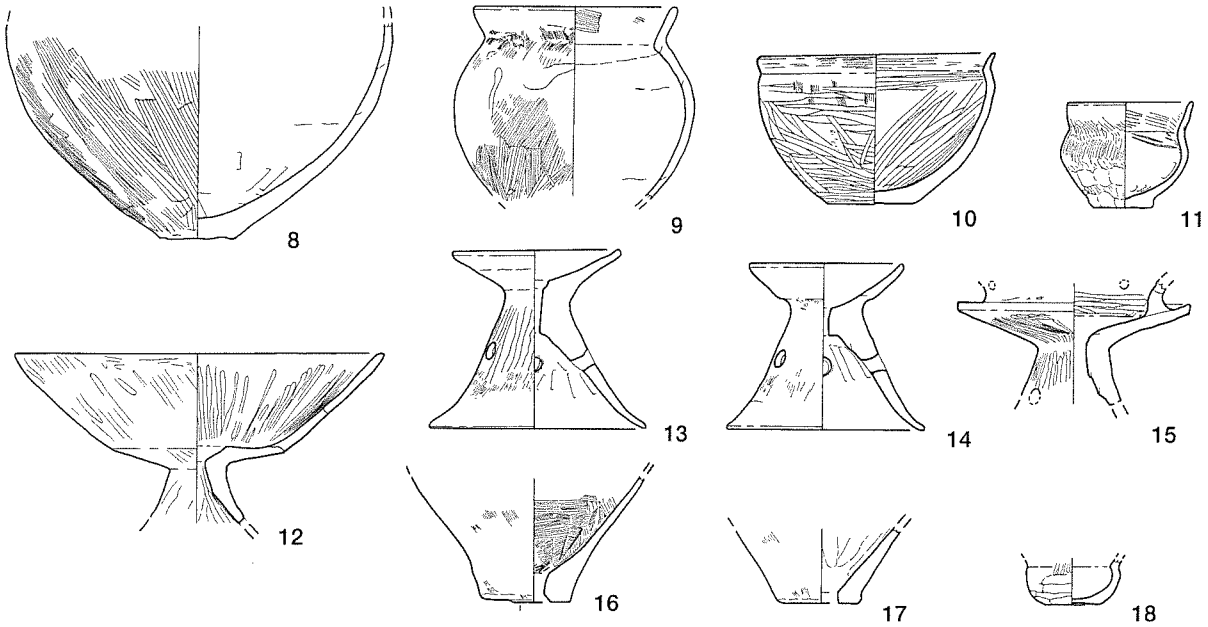
第81図 61号・62号・63号・64号住居跡出土遺物



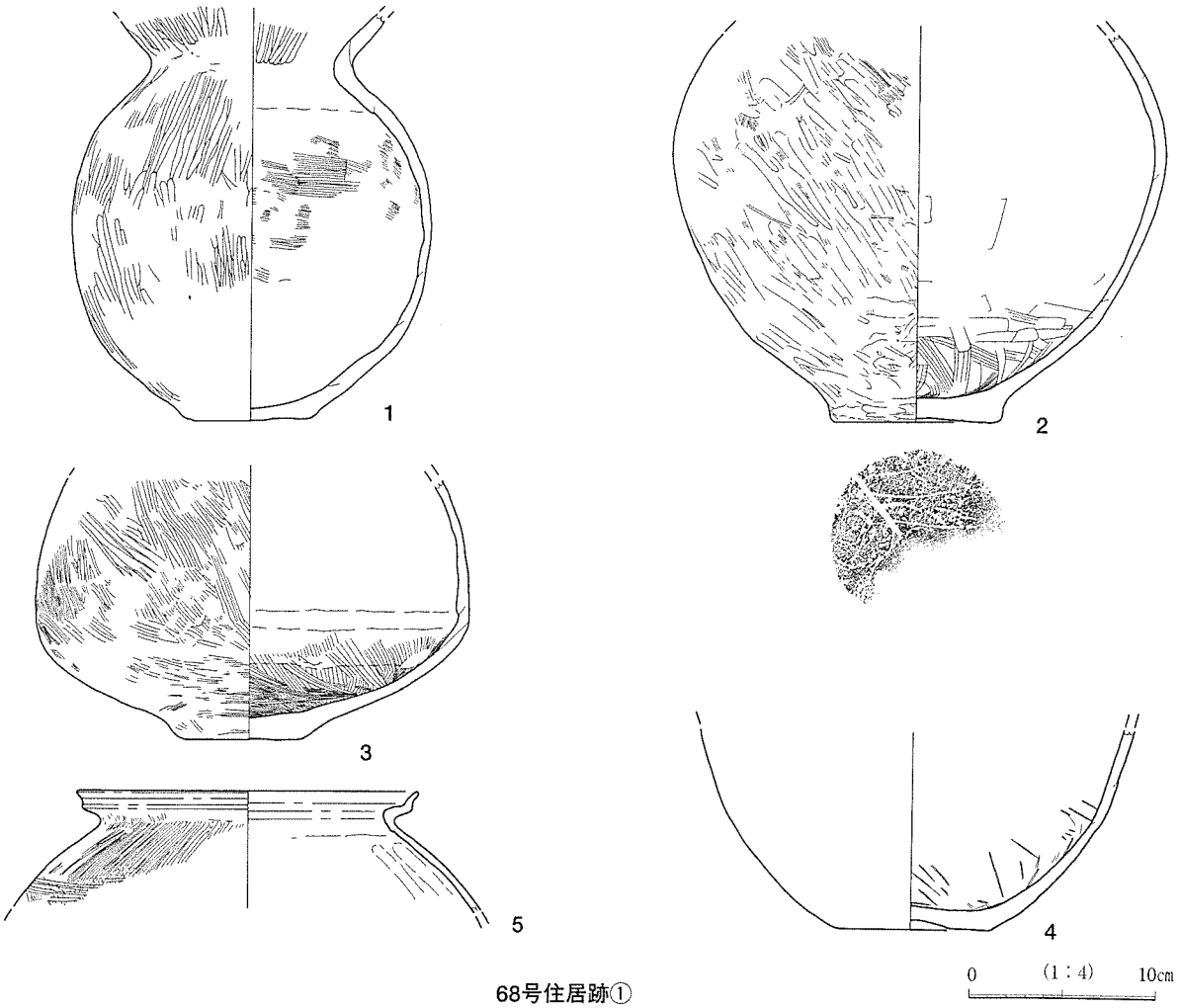
第82図　64号・65号・66号住居跡出土遺物



第83図　67号住居跡出土遺物

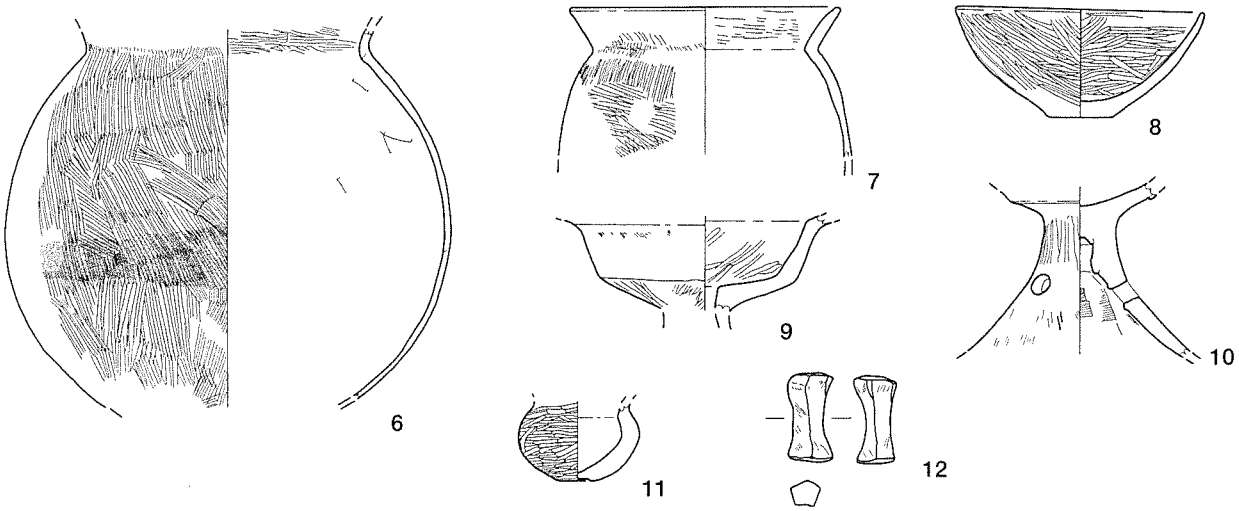


67号住居跡②

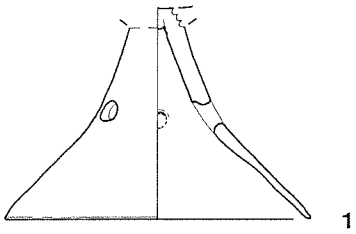


68号住居跡①

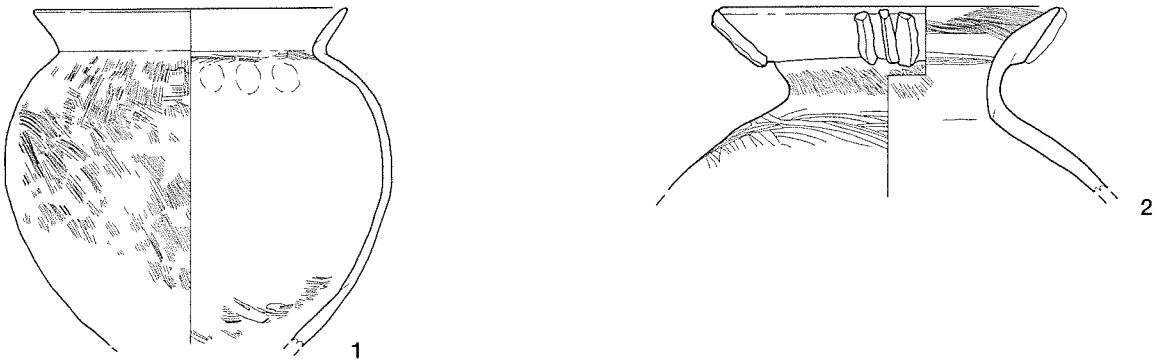
第84図　67号・68住居跡出土遺物



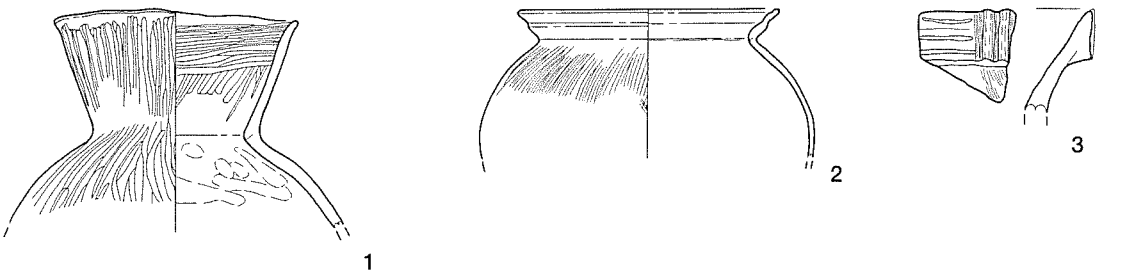
68号住居跡②



69号住居跡



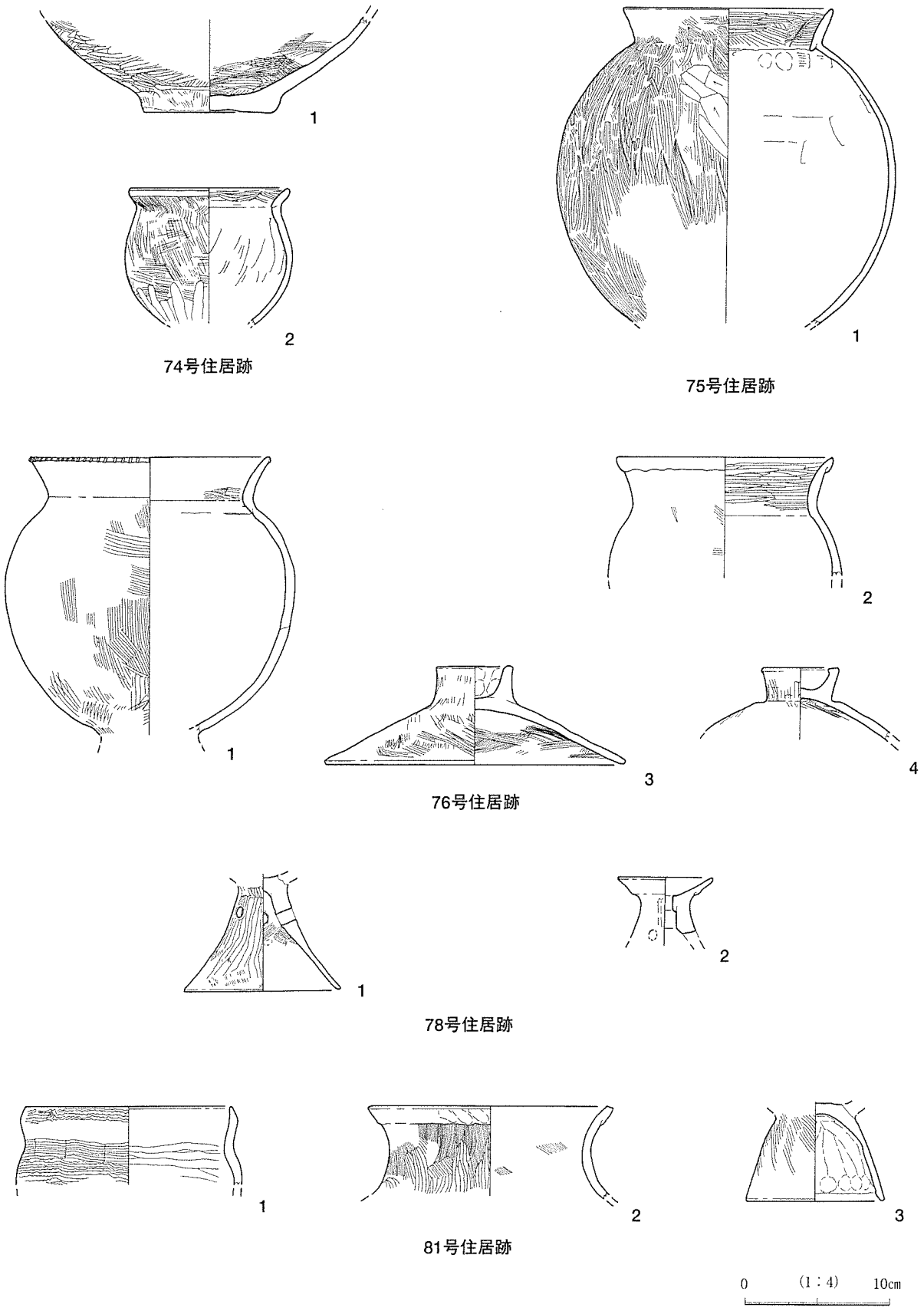
70号住居跡



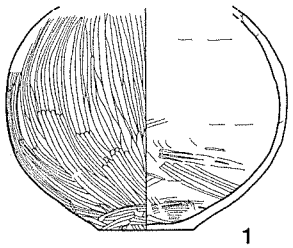
73号住居跡

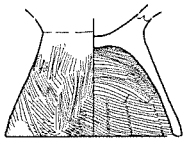
0　(1：4)　10cm

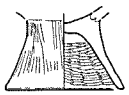
第85図 68号・69号・70号・73号住居跡出土遺物

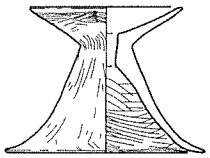


第86図 74号・75号・76号・78号・81号住居跡出土遺物

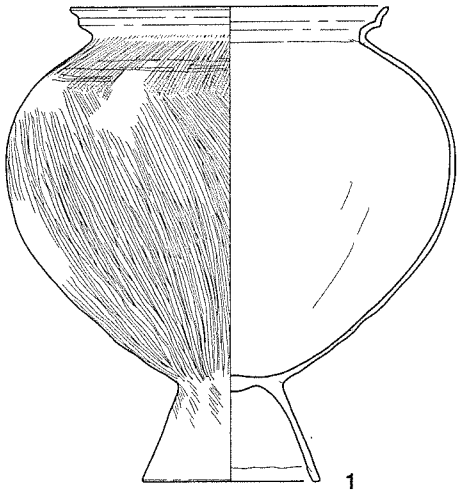


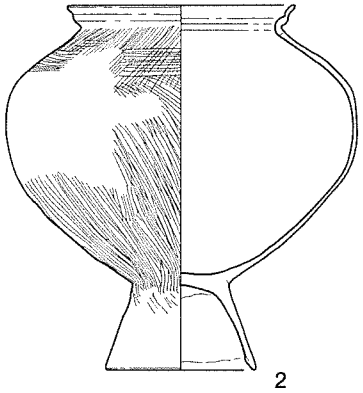


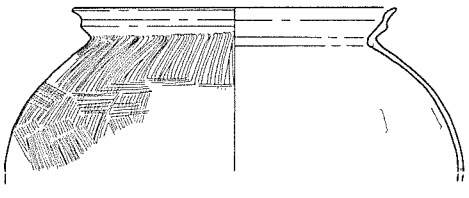


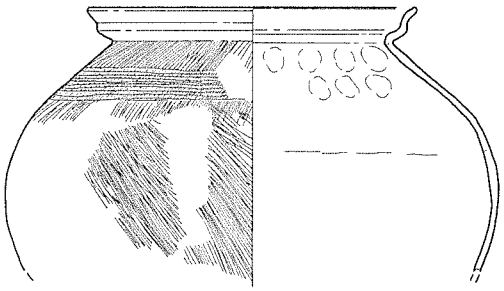


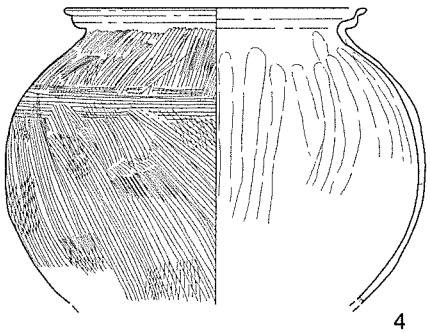
82号住居跡

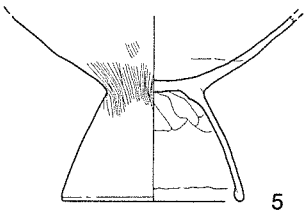


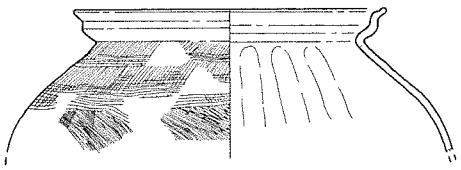


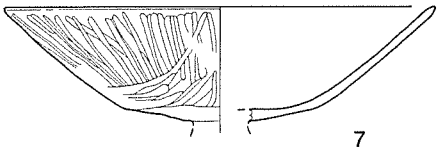








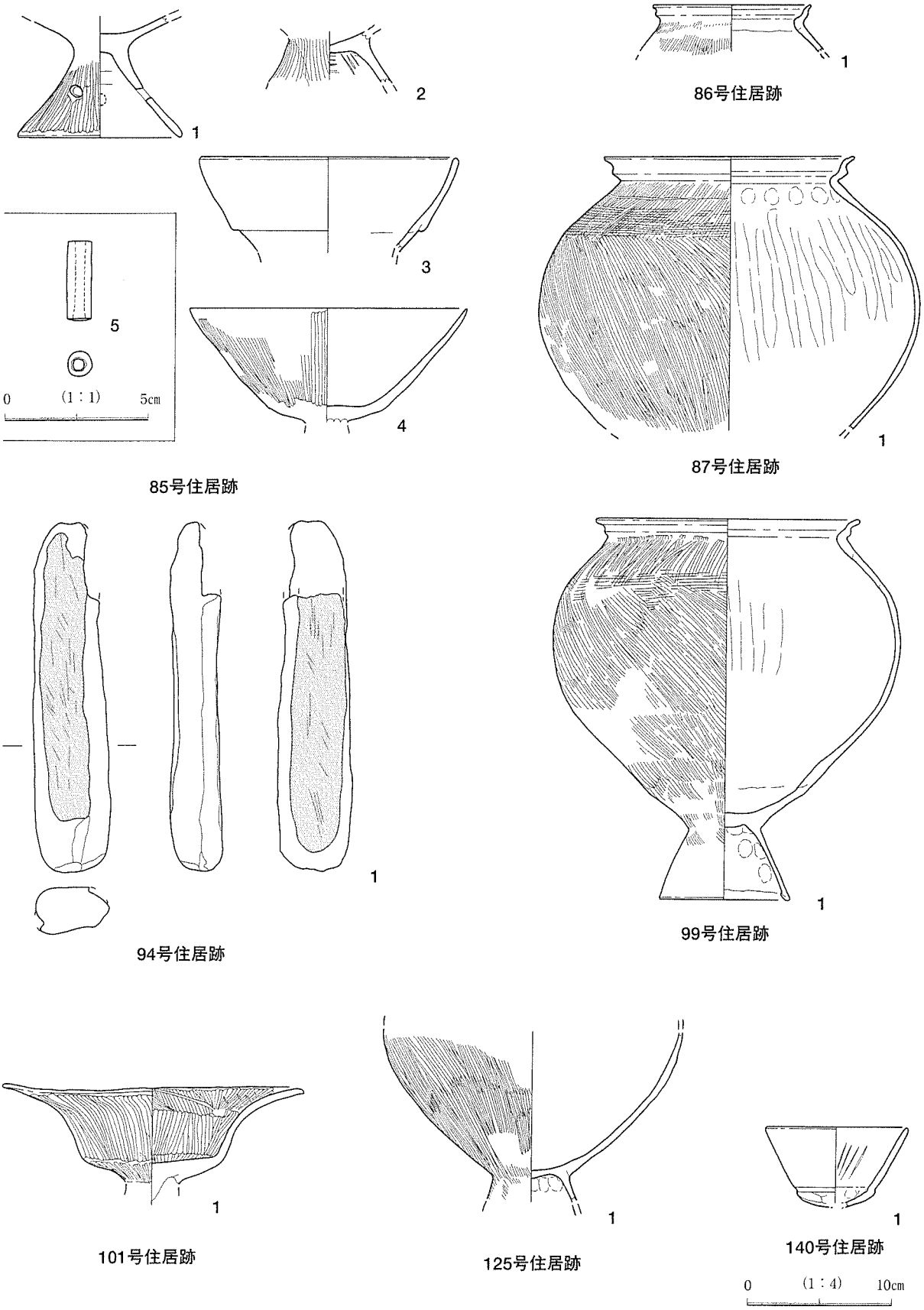




83号住居跡

0　(1：4)　10cm

第87図 82号・83号住居跡出土遺物



第88図　85号・86号・87号・94号・99号・101号・125号・140号住居跡出土遺物

（３）掘立柱建物跡

13棟を古墳時代前期の掘立柱建物跡と判断した。遺構分布状況及び棟方向が同時期の住居跡と近似する点と埋没土の類似性が最大の判断理由である。時期決定の根拠となる出土遺物は皆無に近いが、本時期の集落が展開する10区の遺構分布状況をみる限り、他の時期の建物跡である可能性は薄く、これら掘立柱建物跡が本時期の遺構である蓋然性は高いものと考えられる。

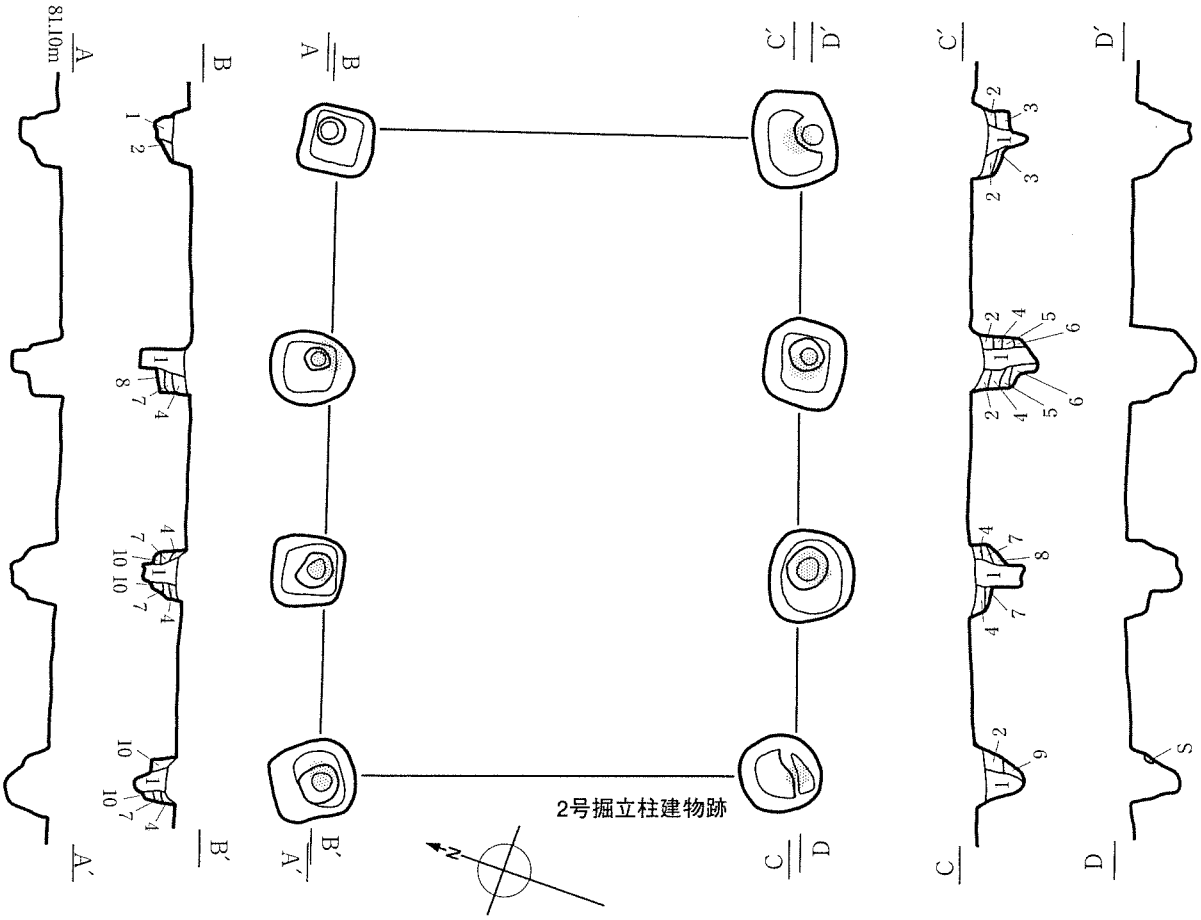
検出された掘立柱建物跡は、すべて側柱式である。桁行間・梁行間の構成は３種類がみられ、桁行３間・梁行１間のもの４棟、桁行２間・梁行１間のもの４棟、桁行１間・梁行１間のもの４棟、不明１棟と、３種類が同じ比率で存在している。柱痕径は25㎝前後で、50㎝前後の方形の掘り方を持つものが多い。掘り方には円形・楕円形のものもみられる。また、埋没土の状態をみると、柱を立てた後に異なる質の土を版築状に充填している状況がうかがえる。

先述したように出土遺物はほとんどなかったが、３号掘立柱建物跡・西側柱３本からは、柱痕部分から炭化稲が塊の状態で出土している。分析の結果（第５章第２節）、塊の割面にすべて穎がついており籾であることが判明している。また、枝梗のついたものもあることから、穂刈りの状態であったとみられる。粒形は「短粒の中」で、古墳時代以降では最も多い形態とのことである。炭化稲がどのようなことに起因して、このような状態で出土したのかは不明であるが、これら掘立柱建物跡が倉庫であった可能性の一端を示すようにも思われる。そのほか、13号・16号掘立柱建物跡の掘り方中から、わずかに古墳時代前期とみられる土器片が出土している。

なお、重複する14号・15号掘立柱建物跡は15号が新しく、17号・19号の新旧関係は不明である。

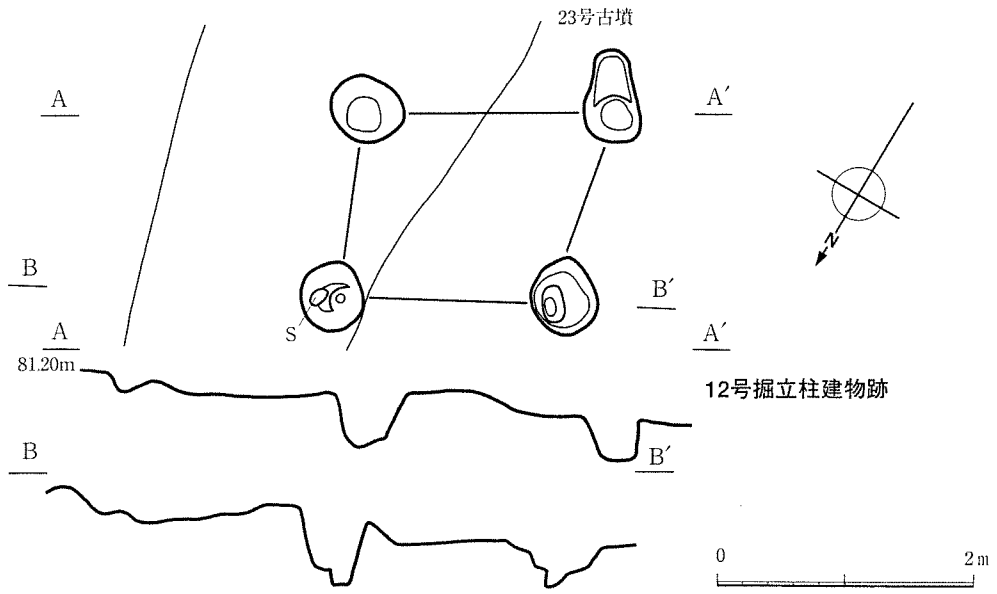
表２　古墳時代前期掘立柱建物跡一覧

遺構番号	位置	方　位	桁×梁間	桁　行	梁　行	柱間寸法 桁行（m）	柱間寸法 梁行（m）	柱痕径（㎝）	掘り方形態	挿　図	ＰＬ
２号掘立	Ｓ27	Ｎ－69°－Ｅ	３×１間	5.13ｍ	3.75ｍ	1.57～1.83	3.61～3.75	22～31	方　形	第89図	47
３号掘立	Ｓ27	Ｎ－19°－Ｗ	３×１間	5.36ｍ	3.92ｍ	1.72～1.90	3.89～3.92	20～25	不整形	第90図	47～49
12号掘立	Ｑ27	Ｎ－56°－Ｅ	１×１間	1.99ｍ	1.54ｍ	1.66～1.99	1.45～1.59	不　明	楕円形	第89図	49
13号掘立	Ｚ17	不　明	不　明	不　明	不　明	2.00		19～25	方　形	第90図	49
14号掘立	ｂ24	Ｎ－72°－Ｅ	３×１間	4.63ｍ	4.23ｍ	1.38～1.68	3.98～4.23	20～24	方～円	第91図	49
15号掘立	ｂ24	Ｎ－16°－Ｗ	１×１間	4.00ｍ	2.00ｍ	3.72～4.00	2.00～2.05	20～22	楕円形	第91図	49
16号掘立	ｃ23	Ｎ－15°－Ｗ	１×１間	1.96ｍ	1.53ｍ	1.94～1.94	1.53～1.54	21～26	楕円形	第92図	50
17号掘立	Ｙ30	Ｎ－25°－Ｗ	３×１間	4.55ｍ	3.64ｍ	1.35～1.71	3.20～3.64	26～32	方～円	第92図	50
18号掘立	Ｘ31	Ｎ－０°	２×１間	4.25ｍ	3.03ｍ	2.07～2.17	2.81～3.03	24～25	方　形	第93図	50
19号掘立	Ｙ30	Ｎ－74°－Ｗ	１×１間	3.55ｍ	3.15ｍ	3.00～3.55	2.67～3.15	26	方～円	第92図	50
20号掘立	Ｚ29	Ｎ－47°－Ｗ	２×１間	4.10ｍ	3.83ｍ	1.96～2.14	3.53～3.83	不　明	方～円	第93図	50
21号掘立	ｃ28	Ｎ－４°－Ｅ	２×１間	3.42ｍ	3.06ｍ	1.37～1.74	3.01～3.06	不　明	方・楕	第94図	50
22号掘立	ｄ27	Ｎ－１°－Ｗ	２×１間	2.27ｍ	2.52ｍ	1.11～1.16	2.52	不　明	楕円形	第94図	4

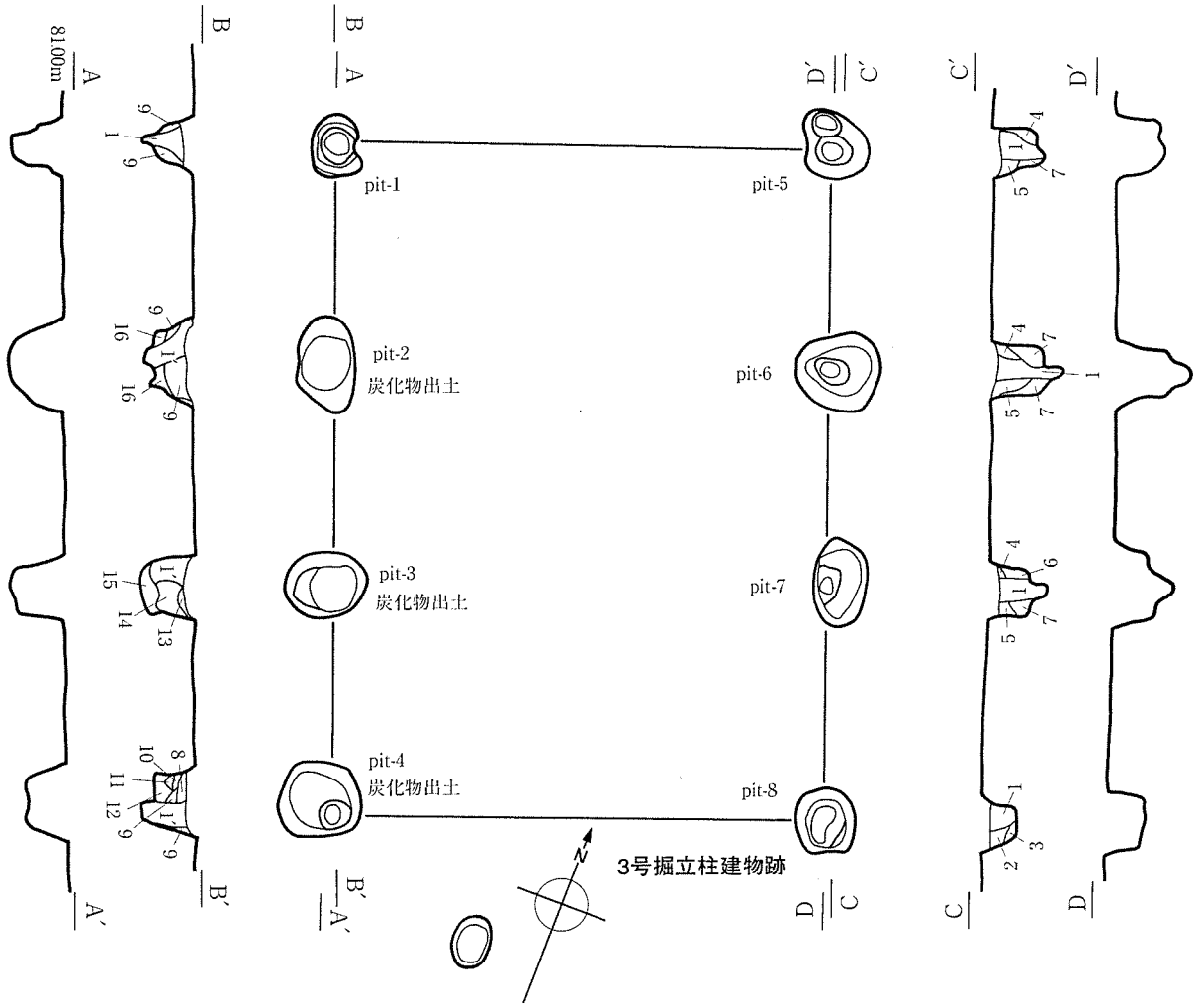


1：黒褐色土　ローム粒を微量含む。しまりあまりない。
2：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。
3：黒褐色土　ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。しまり強い。
4：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロックを多量、灰白色軽石粒を微量含む。
5：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。粘性がある。
6：黒褐色土　ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。粘性がある。
7：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。
8：黒褐色土　ローム粒・灰白色軽石粒を微量含む。粘性がある。
9：明褐色土　ローム粒を大量、ロームブロックを多量含む。粘性がある。
10：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。

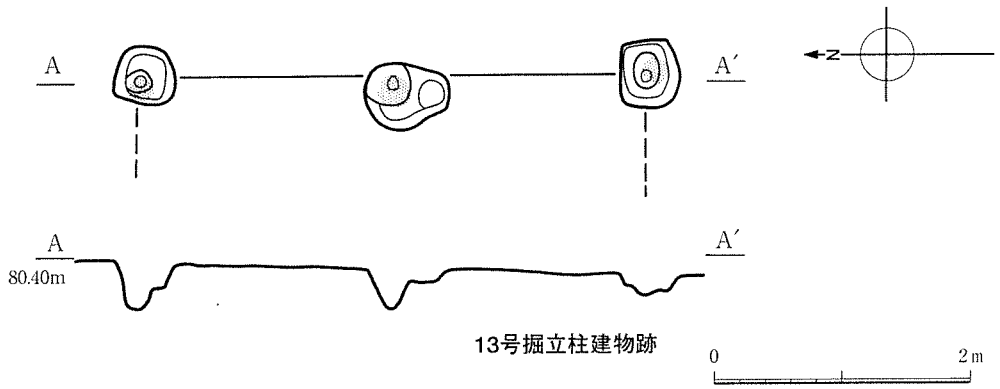
※スクリーントーンは、柱痕の位置（以下同じ）



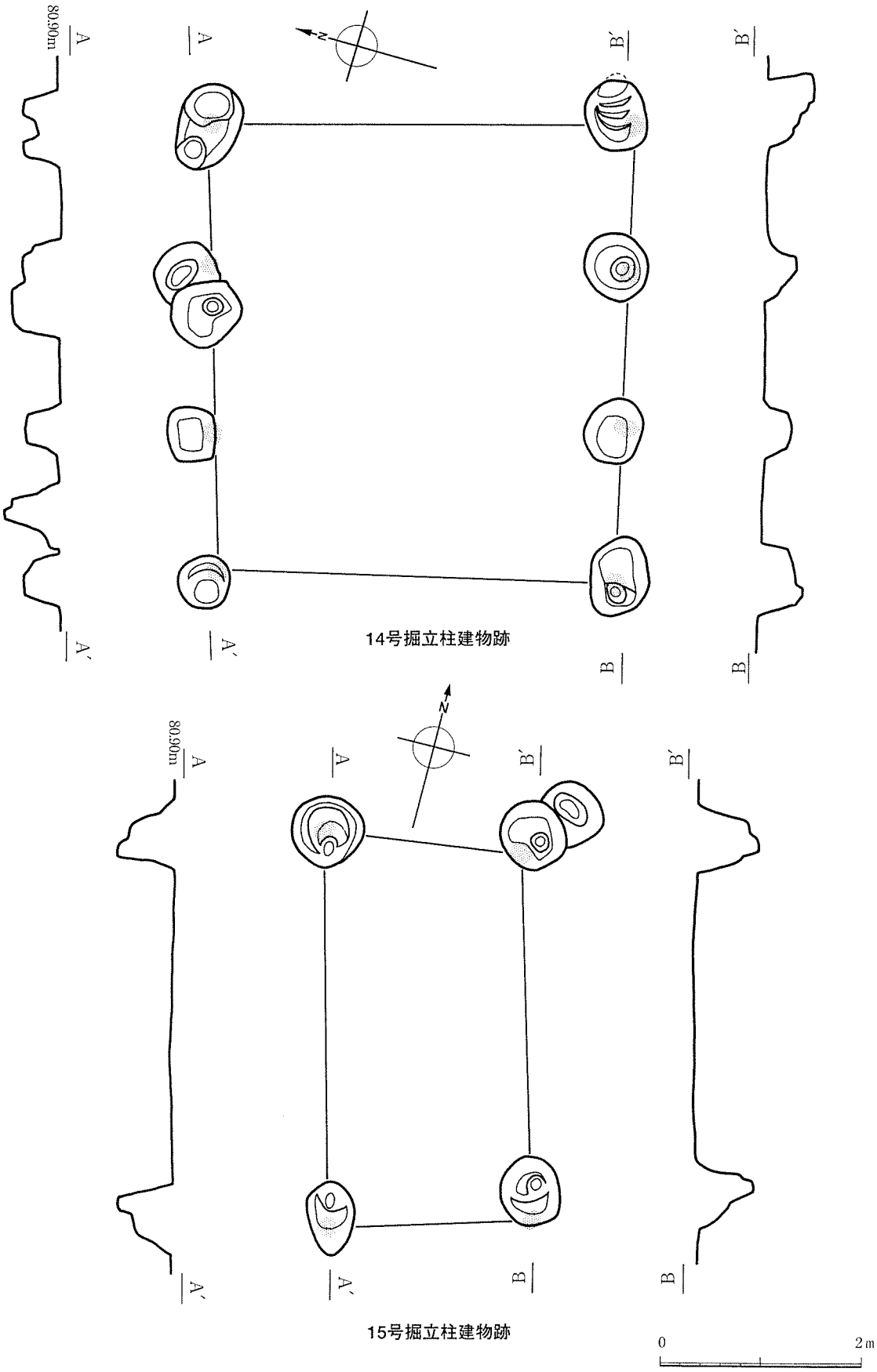
第89図　２号掘立柱建物跡・12号掘立柱建物跡



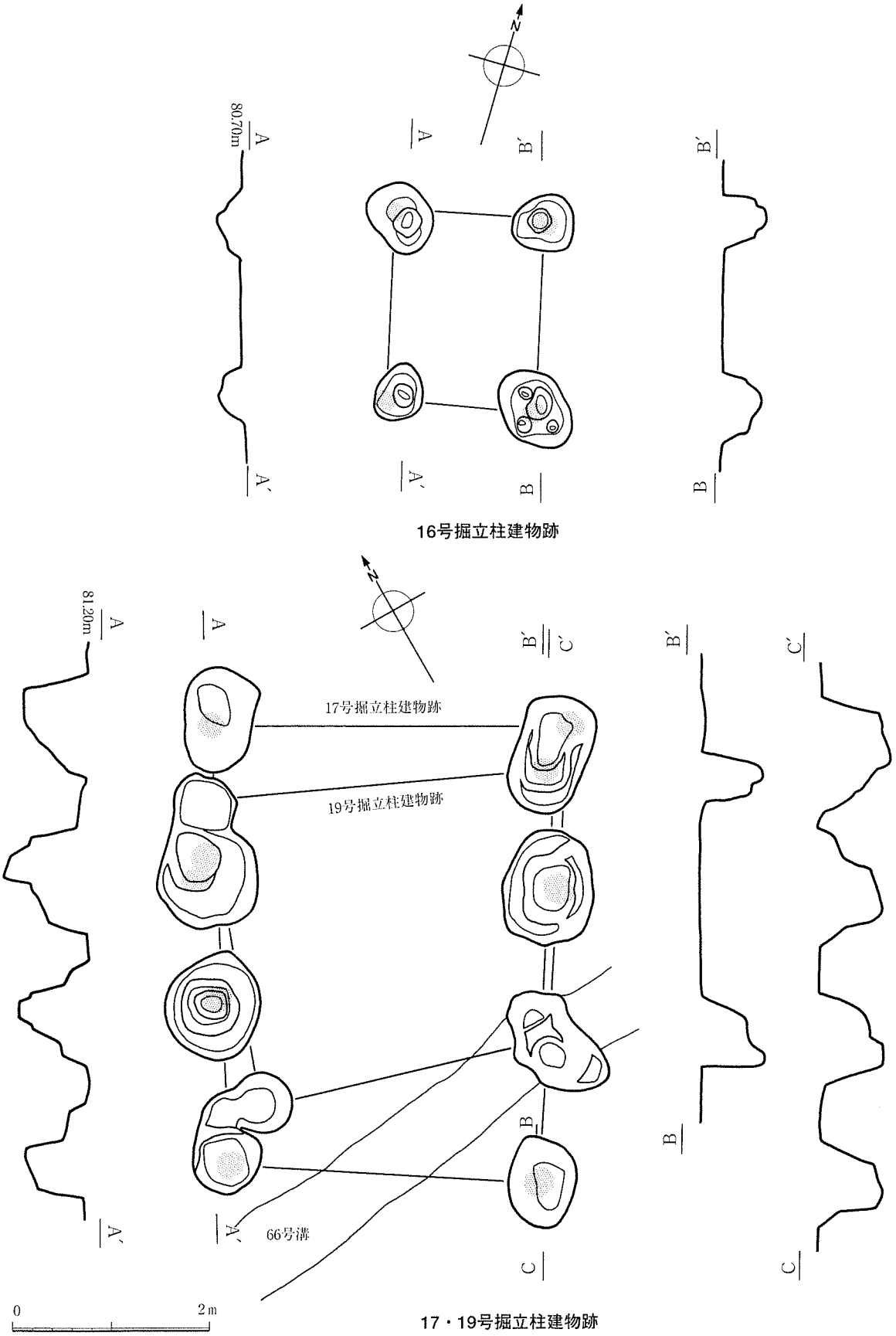
1：黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりあまりない。
1′：黒褐色土　ローム粒を微量、炭化稲（籾）を多量、炭化材を少量含む。しまりあまりない。
2：暗褐色土　ローム粒を微量含む。しまり強い。
3：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。
4：黒褐色土　ローム粒微量含む。しまりあまりない。
5：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。
6：暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。しまり強い。
7：暗褐色土　ローム粒・ブロックを多量含む。しまり強く、粘性がある。
8：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。
9：暗褐色土　ローム粒を微量含む。
10：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。
11：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。
12：明褐色土　ローム粒を多量含む。しまり強く粘性がある。
13：明褐色土　ローム粒を多量含む。しまり強く粘性がある。
14：暗褐色土　ローム粒・ブロックを微量、焼土ブロックを少量含む。しまり強い。
15：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。
16：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。しまり強い。



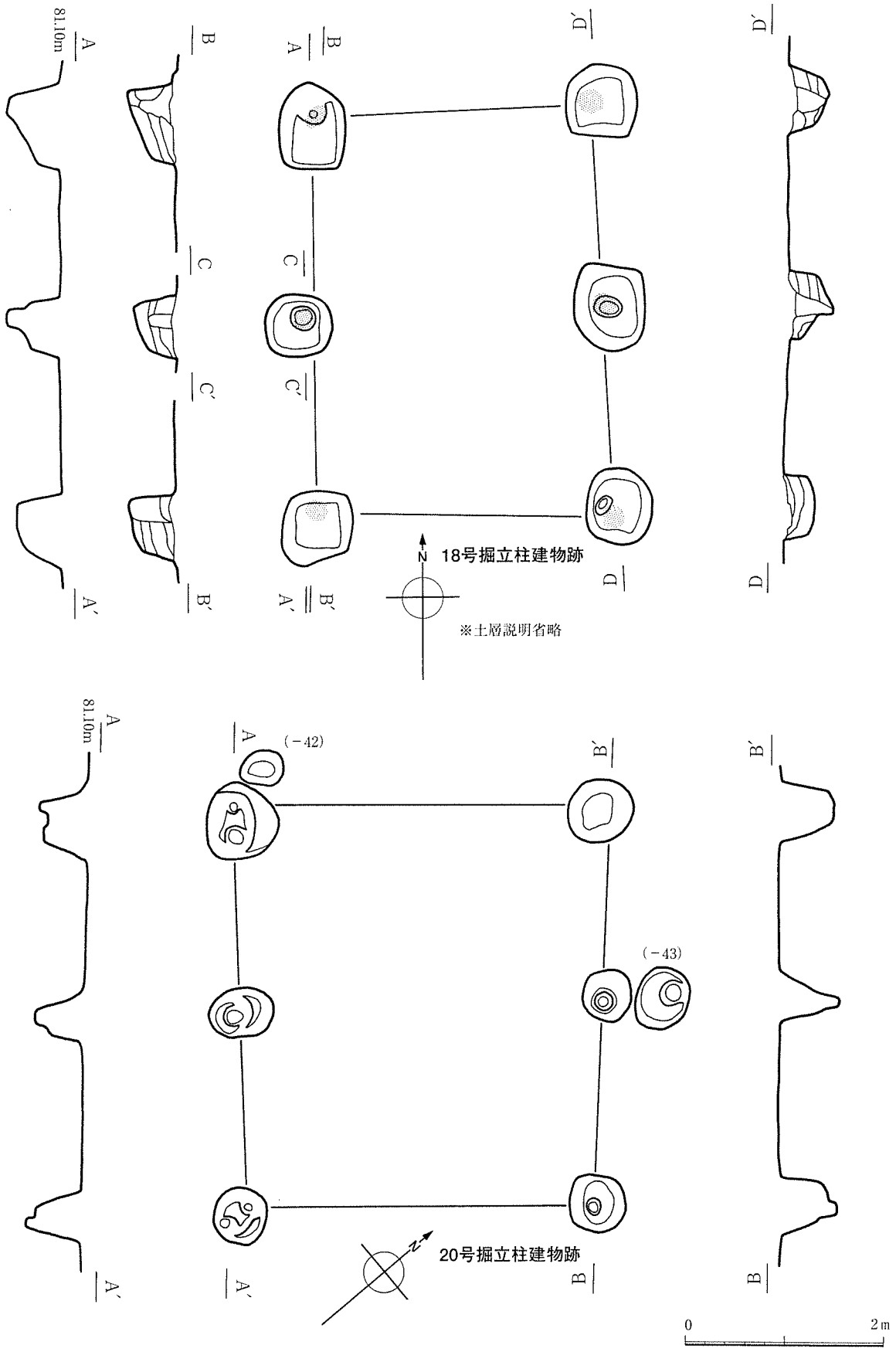
第90図　３号掘立柱建物跡・13号掘立柱建物跡



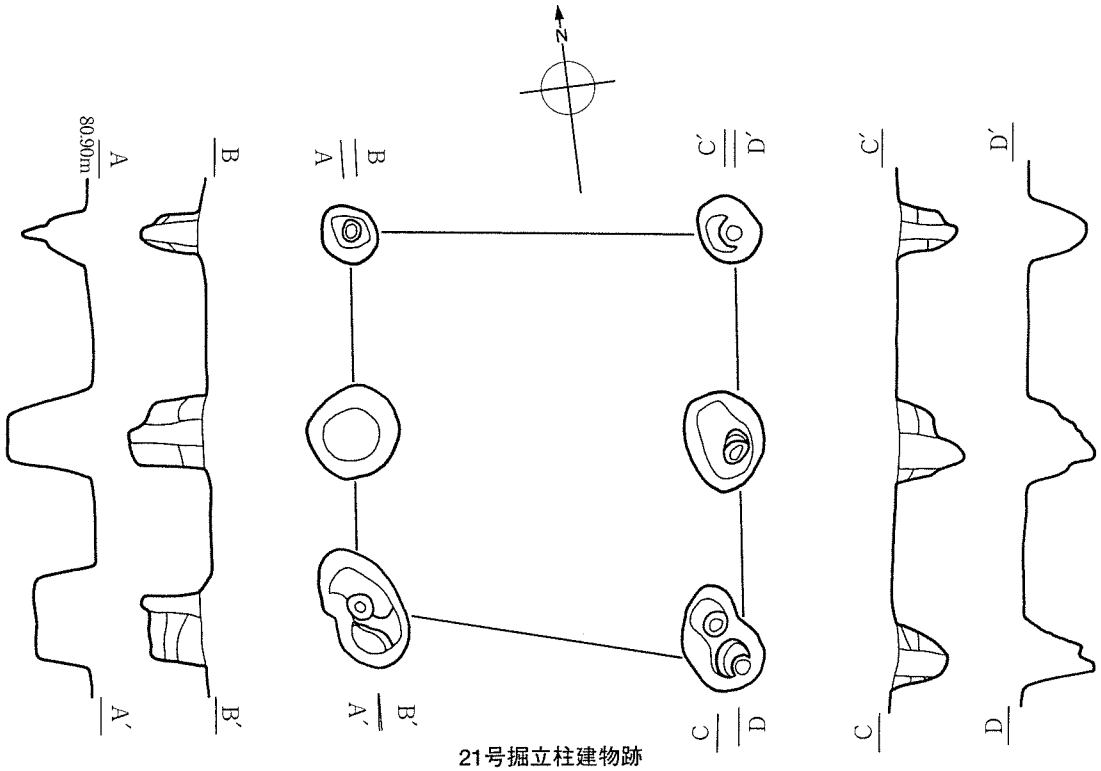
第91図　14号掘立柱建物跡・15号掘立柱建物跡



第92図　16号掘立柱建物跡・17号・19号掘立柱建物跡

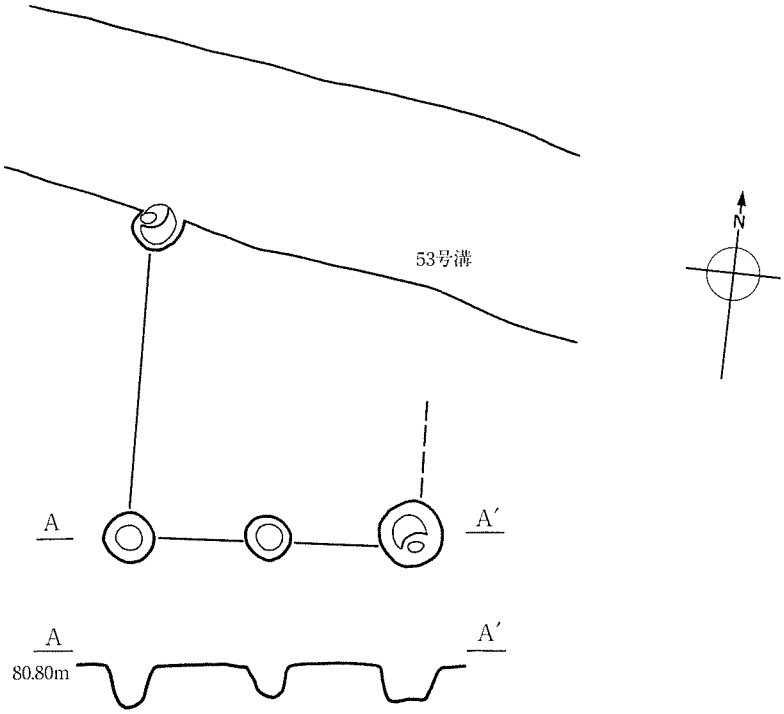


第93図　18号掘立柱建物跡・20号掘立柱建物跡



21号掘立柱建物跡

※土層説明省略



22号掘立柱建物跡

0　2m

第94図　21号掘立柱建物跡・22号掘立柱建物跡

（４）土坑

３号土坑（遺構：第95図、ＰＬ51
遺物：第97図、ＰＬ58、観察表：Ｐ19）
位置：Ｏ３グリッド。平面形態：楕円形。断面形態：皿状。規模：1.56ｍ×1.38ｍ。残存深度：20㎝。
遺物出土状態：底面よりやや浮いて散在する状態。
遺物：壺４以上、器台１を確認。壺には櫛描簾状文・波状文が施される。掲載遺物４点。

10号土坑　（遺構：第95図、ＰＬ53
遺物：第97図、ＰＬ58、観察表Ｐ19）
位置：Ｉ19グリッド。１号・２号方形周溝墓に隣接。平面形態：不整円形。断面形態：縁辺部が溝状に凹む。規模：1.13ｍ×1.06ｍ。残存深度：16㎝。
遺物出土状態：中央部底面から10㎝ほど上から壺が出土している。
遺物：壺２を確認している。掲載遺物１点。

83号土坑（遺構：第96図、ＰＬ51
遺物：第98図、ＰＬ59、観察表Ｐ19）
位置：Ｙ３グリッド。長軸方位：Ｎ－78°－Ｗ。平面形態：楕円形。断面形態：皿状。規模：2.17ｍ×1.88ｍ。残存深度：12㎝。
遺物出土状態：底面に破砕した土器片が敷かれたような状態で出土している。
遺物：先述の土器は肩部付近に最大径（80.4㎝）を持つ大形壺に復元できた。口頸部・底部を欠くが、棺として使用された可能性がある。なお、土坑内に骨片等は見当たらなかった。ほかに、櫛描波状文・簾状文の施された甕口縁部片を確認している。掲載遺物２点。

44号土坑（遺構：第95図、ＰＬ53
遺物：第97図、ＰＬ58、観察表Ｐ19）
位置：c17グリッド。平面形態：隅丸方形。断面形態：逆台形状。規模：1.25ｍ×1.15ｍ。残存深度：25㎝。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・白色軽石粒を含む暗褐色土～黒褐色土。
遺物出土状態：埋没土中から土器片が出土。
遺物：Ｓ字台付甕１、器台・高坏片を確認している。掲載遺物１点。

53号土坑（遺構：第95図、ＰＬ52
遺物：第97・98図、ＰＬ58、観察表Ｐ19）
位置：W21グリッド。重複：東側から浅い溝が流れ込む。長軸方位：Ｎ－57°－Ｗ。平面形態：楕円形。底面は長方形に近い。断面形態：Ｕ字状。規模：2.54ｍ×1.91ｍ。残存深度：109㎝。埋没土の特徴：浅間Ｃ軽石・ローム粒を含む黒褐色土～暗褐色土。備考：埋没土中に炭化材が観察され、特に床上10㎝の位置に多い。また、底面中央付近に20×15㎝の長方形礫がある。集落の中でも低湿地近くに位置しており、井戸の可能性がある。
遺物出土状態：埋没土上層から下層にわたって、比較的多量の遺物が出土している。
遺物：壺１以上、Ｓ字台付甕５以上、器台１を確認している。掲載遺物６点。

54号土坑（遺構：第95図、ＰＬ53）
位置：W24グリッド。平面形態：楕円形。底面は方形に近い。断面形態：Ｕ字状。規模：1.42ｍ×1.23ｍ。残存深度：72㎝。埋没土の特徴：浅間Ｃ軽石・ローム粒を含む暗褐色土～黒褐色土。
遺物出土状態：土器片少量が出土している程度。
遺物：Ｓ字台付甕破片を確認。掲載遺物０。

59号土坑（遺構：第95図、ＰＬ53
遺物：第98図、ＰＬ58、観察表Ｐ20）
位置：ｄ26グリッド。長軸方位：Ｎ－53°－Ｗ。平面形態：不整形。断面形態：皿状。規模：2.42ｍ×1.94ｍ。残存深度：８㎝。埋没土の特徴：浅

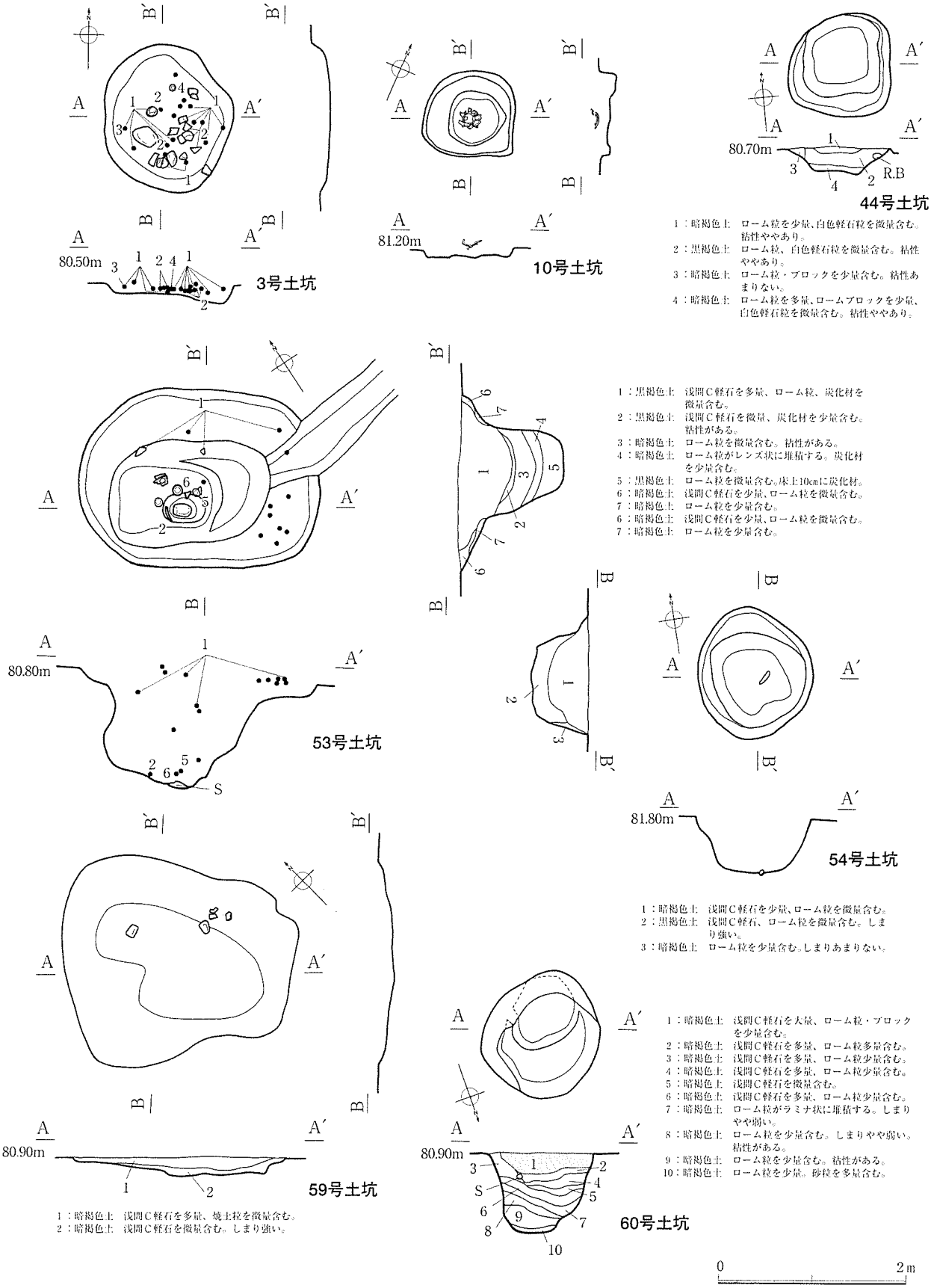
間Ｃ軽石を含む暗褐色土。
遺物出土状態：埋没土中に少量の遺物がみられる程度であった。
遺物：小形Ｓ字台付甕１、器台破片を確認している。掲載遺物１点。

60号土坑（遺構：第95図、ＰＬ53
遺物：第98図、ＰＬ58、観察表Ｐ20）
位置：ｃ31グリッド。69号住居跡の南側に隣接。平面形態：楕円形。断面形態：Ｕ字状。南側はオーバーハングする。規模：1.37ｍ×1.24ｍ。残存深度：88㎝。埋没土の特徴：浅間Ｃ軽石・ローム粒を含む暗褐色土。１層には浅間Ｃ軽石が大量に含まれている。10層には砂粒が多量に含まれている。
遺物出土状態：埋没土中より甕底部が出土。
遺物：前述の甕底部のみ。掲載遺物１点。

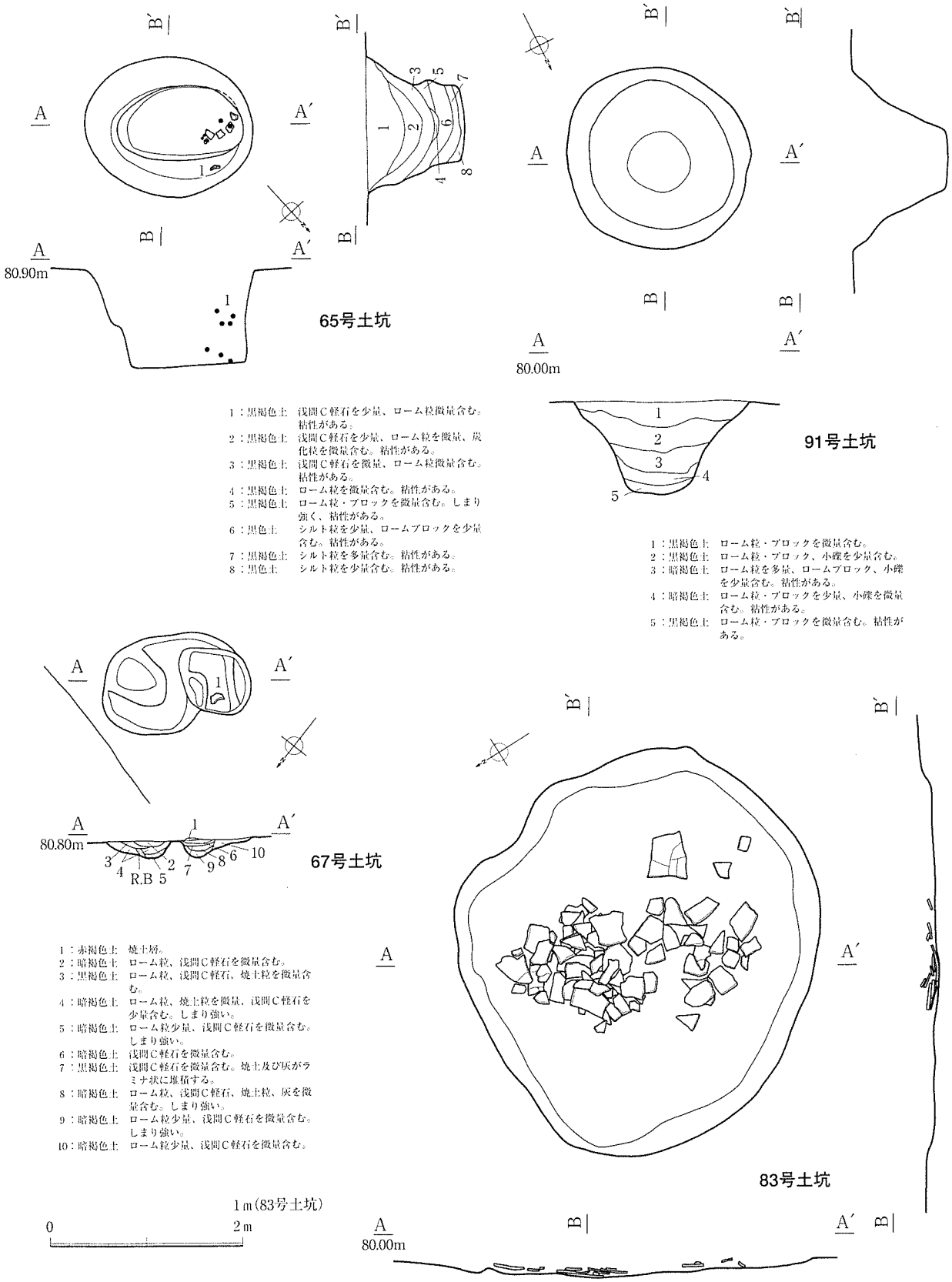
65号土坑（遺構：第96図、ＰＬ53
遺物：第98図、ＰＬ58、観察表Ｐ20）
位置：Ｘ27グリッド。58号溝の北側に近接する。長軸方位：Ｎ－48°－Ｗ。平面形態：楕円形。断面形態：凵状。規模：1.74ｍ×1.45ｍ。残存深度：102㎝。埋没土の特徴：浅間Ｃ軽石粒・ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。備考：比較的低地部に位置している。また、規模・形態等が先述した53号土坑に類似しており、同様の性格の遺構と考えられる。調査時は渇水期のためもあり湧水はしなかったが、同時期の住居跡・掘立柱建物跡・溝などの分布状況から判断して、井戸の可能性が最も高いように思われる。
遺物出土状態：土器片が遺構の北西部に集中して出土している。
遺物：Ｓ字台付甕２以上を確認している。掲載遺物２点。

67号土坑（遺構：第96図、ＰＬ53
遺物：第98図、ＰＬ58、観察表Ｐ20）
位置：ｄ24グリッド。長軸方位：Ｎ－37°－Ｅ。平面形態：不整形。２基の土坑が重複するような状態。断面形態：皿状。規模：1.54ｍ×0.96ｍ。残存深度：22㎝。埋没土の特徴：浅間Ｃ軽石・ローム粒・焼土・灰を含む暗褐色土～黒褐色土。備考：埋没土に焼土・灰が確認されており、熱を使う何らかの施設であった可能性がある。
遺物出土状態：少量の土器片が出土している程度である。
遺物：Ｓ字台付甕片を確認している。掲載遺物１点。

91号土坑（遺構：第96図、ＰＬ53
遺物：第98図、ＰＬ59、観察表Ｐ20）
位置：ｃ４グリッド。平面形態：円形。断面形態：逆台形状で底面はやや丸みがある。規模：1.99ｍ×1.85ｍ。残存深度：98㎝。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・小礫を含む黒褐色土～暗褐色土。
遺物出土状態：埋没土中より少量の土器が出土している程度である。
遺物：Ｓ字台付甕破片、器台１を確認している。掲載遺物１点。



第95図　３号・10号・44号・53号・54号・59号・60号土坑

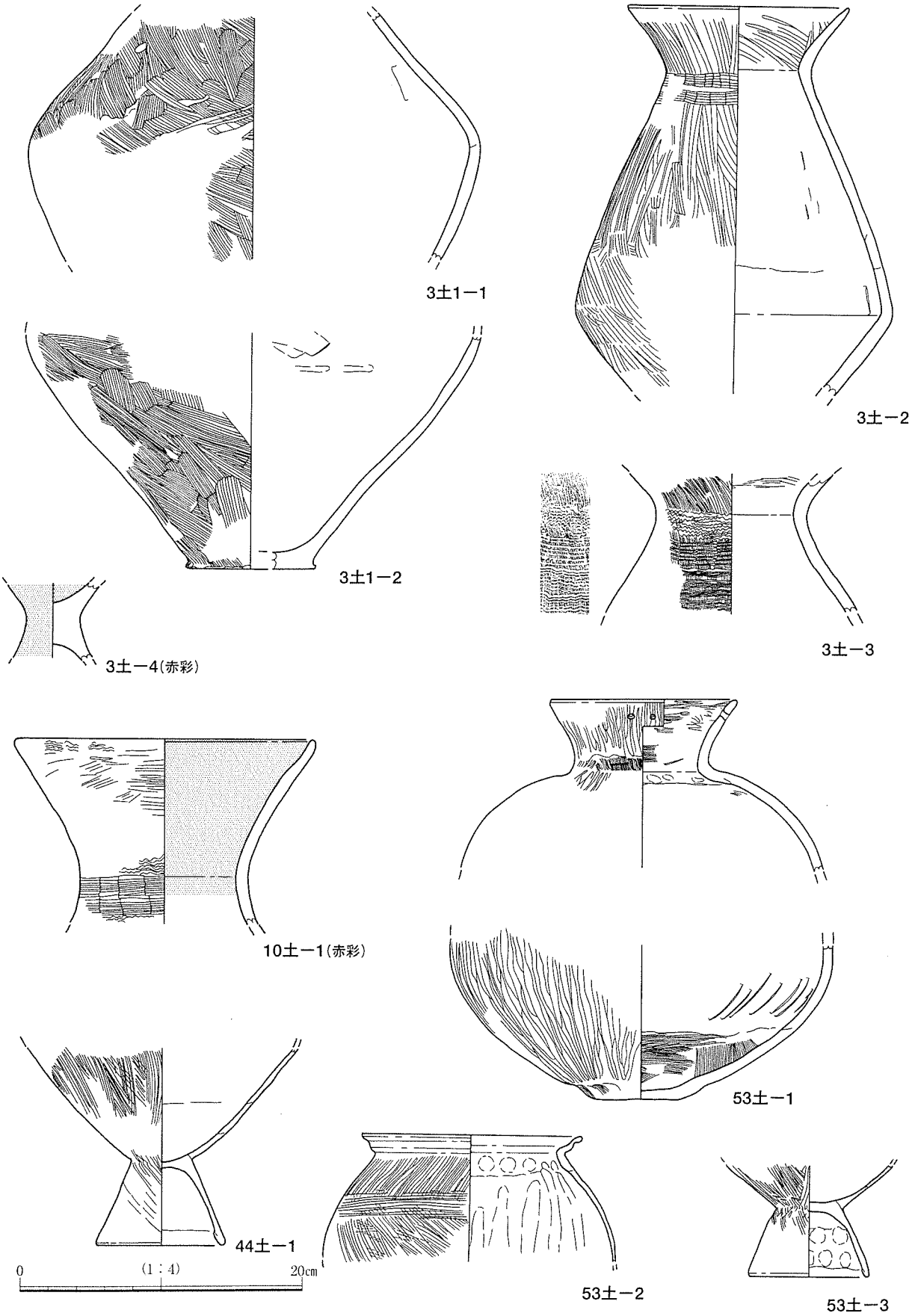


1：黒褐色土　浅間Ｃ軽石を少量、ローム粒微量含む。粘性がある。
2：黒褐色土　浅間Ｃ軽石を少量、ローム粒を微量、炭化粒を微量含む。粘性がある。
3：黒褐色土　浅間Ｃ軽石を微量、ローム粒微量含む。粘性がある。
4：黒褐色土　ローム粒を微量含む。粘性がある。
5：黒褐色土　ローム粒・ブロックを微量含む。しまり強く、粘性がある。
6：黒色土　シルト粒を少量、ロームブロックを少量含む。粘性がある。
7：黒褐色土　シルト粒を多量含む。粘性がある。
8：黒色土　シルト粒を少量含む。粘性がある。

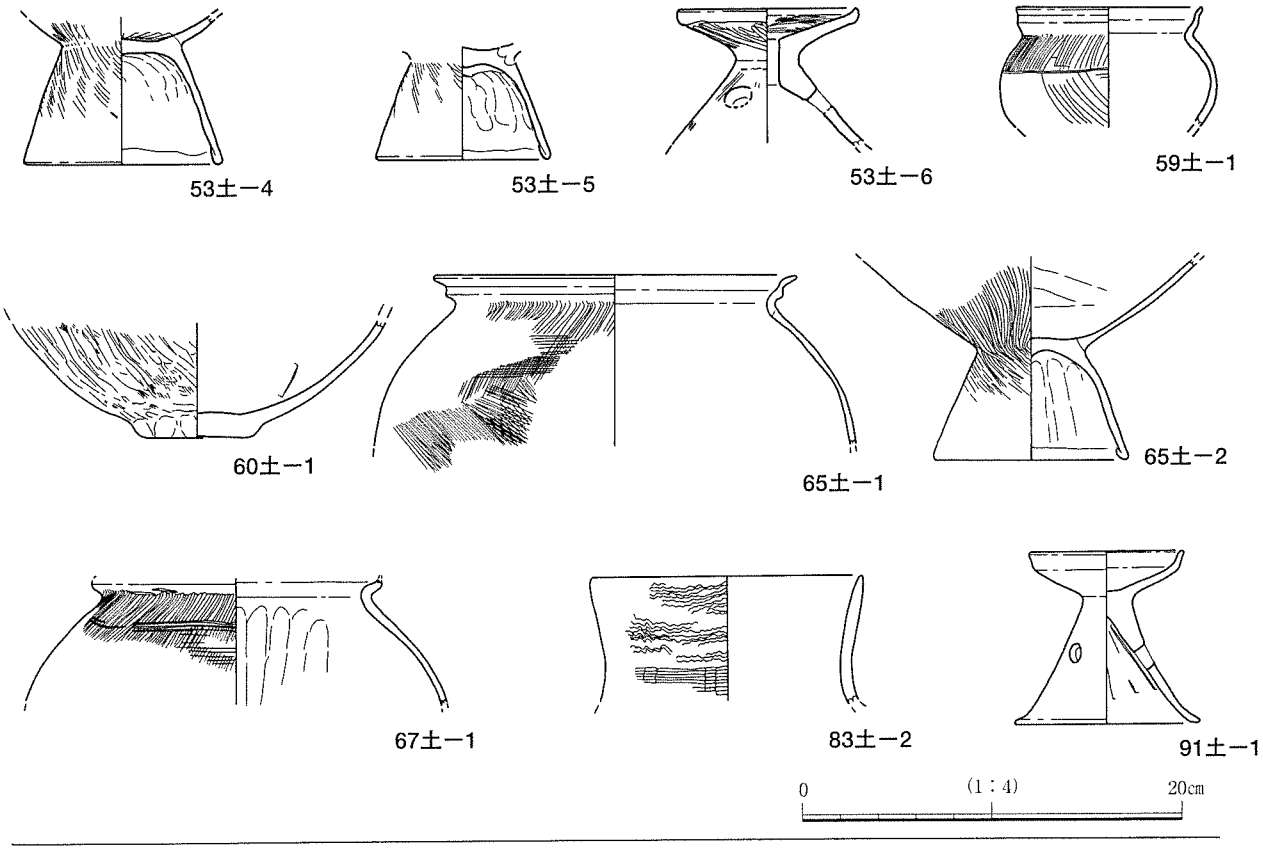
1：黒褐色土　ローム粒・ブロックを微量含む。
2：黒褐色土　ローム粒・ブロック、小礫を少量含む。
3：暗褐色土　ローム粒を多量、ロームブロック、小礫を少量含む。粘性がある。
4：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、小礫を微量含む。粘性がある。
5：黒褐色土　ローム粒・ブロックを微量含む。粘性がある。

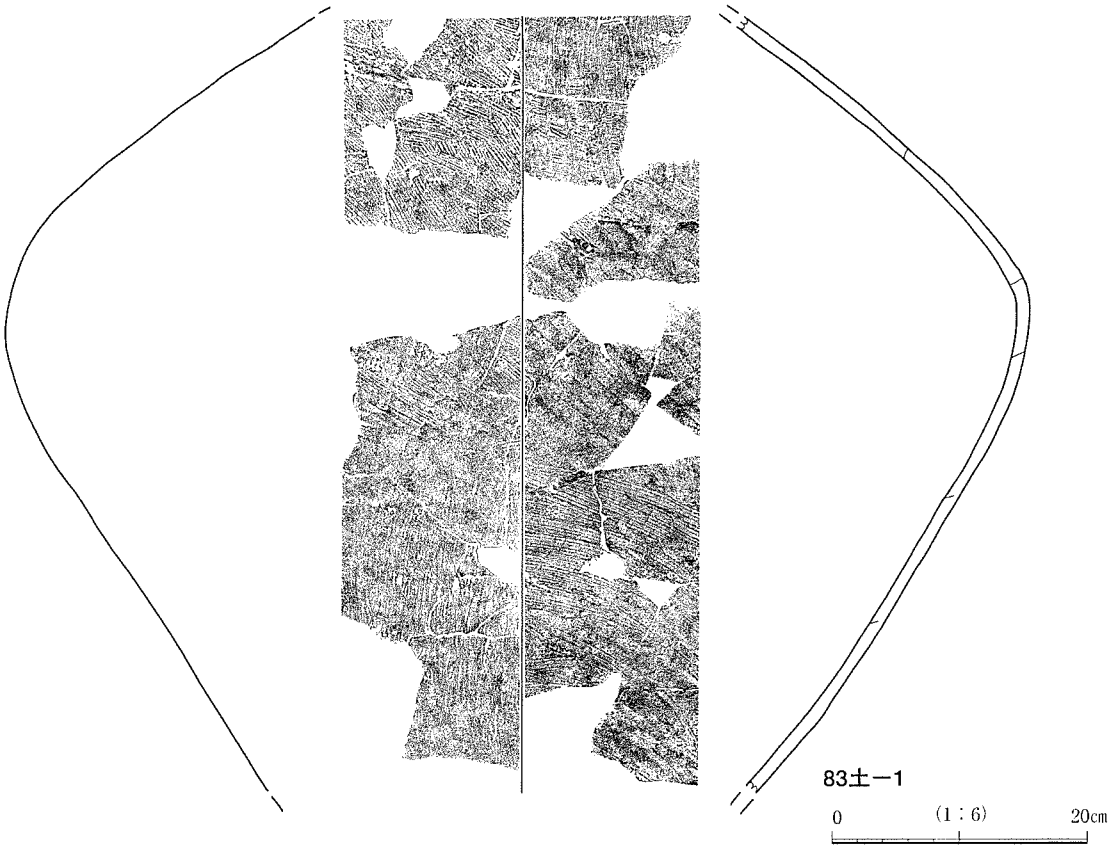
1：赤褐色土　焼土層。
2：暗褐色土　ローム粒、浅間Ｃ軽石を微量含む。
3：黒褐色土　ローム粒、浅間Ｃ軽石、焼土粒を微量含む。
4：暗褐色土　ローム粒、焼土粒を微量、浅間Ｃ軽石を少量含む。しまり強い。
5：暗褐色土　ローム粒少量、浅間Ｃ軽石を微量含む。しまり強い。
6：暗褐色土　浅間Ｃ軽石を微量含む。
7：黒褐色土　浅間Ｃ軽石を微量含む。焼土及び灰がラミナ状に堆積する。
8：暗褐色土　ローム粒、浅間Ｃ軽石、焼土粒、灰を微量含む。しまり強い。
9：暗褐色土　ローム粒少量、浅間Ｃ軽石を微量含む。しまり強い。
10：暗褐色土　ローム粒少量、浅間Ｃ軽石を微量含む。

第96図　65号・67号・83号・91号土坑



第97図　３号・10号・44号・53号土坑出土遺物





第98図 53号・59号・60号・65号・67号・83号・91号土坑出土遺物

（５）溝

49号溝（遺構：第104図、ＰＬ57
遺物：第113図、ＰＬ59、観察表Ｐ21）
位置：Ｒ24グリッド。６号方形周溝墓の北東に隣接。東側は調査区外。重複：48号溝に切られるようである。上端幅：1.42ｍ。下端幅：0.60ｍ。残存深度：41㎝。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・白色軽石粒を含む黒褐色土。備考：方形周溝墓の一部の可能性あり。
遺物出土状態：少量の土器片が出土している。
遺物：壺口縁部片１を確認。掲載遺物１点。

36号溝（遺構：第104図、ＰＬ57
遺物：第113図、ＰＬ59、観察表Ｐ21）
位置：Ｓ23～Ｓ22グリッド。西側は調査区外。東側は低湿地へ流れ込む。走行方向（底面の標高）：西（80.14ｍ）～東（80.00ｍ）。断面形態：Ｕ字～薬研状。上端幅：1.35ｍ。下端幅：0.36ｍ。残存深度：69㎝。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・白色軽石粒を含む黒褐色土。４層に浅間Ｃ軽石堆積。５層には砂粒を含む。備考：後述の58号溝と同一の溝と考えられる。本溝の浅間Ｃ軽石についてはテフラ分析を実施（第５章第１節）。
遺物出土状態：浅間Ｃ軽石層より上層から、比較的まとまって出土している。
遺物：壺２以上、Ｓ字台付甕１以上を確認している。掲載遺物３点。

58号溝（遺構：第100～104図、PL54～57　遺物：第105～112図、PL60～66、観察表Ｐ21）
位置：ａ32～Ｕ23グリッド。西側は調査区外。走行方向（底面の標高）：西（80.20ｍ）～東（80.15ｍ）。断面形態：薬研状。上端幅：1.85ｍ。下端幅：0.15ｍ。残存深度：80㎝。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・浅間Ｃ軽石を含む黒褐色土～暗褐色土。13層に浅間Ｃ軽石がレンズ状に堆積する。また、４層に炭化物、５・６層には砂礫がみられる。備考：前述の36号溝と同一の溝で、低湿地に流れ込むと考えられる。本溝と同時期の水田面は確認されなかったが、規模・走行状態からみて灌漑用水路と判断される。また、５・６層に砂礫がみられることなど溝の埋没状態からみて、本溝は浅間Ｃ軽石堆積後も機能していた可能性がある。Ｙ29グリッド以西は、溝底面付近が南側に抉られている。一部、遺物周辺に焼土がみられた。
遺物出土状態：遺物は浅間Ｃ軽石層より上層５～10㎝の位置で大量に出土し、下層からは縄文土器片及び弥生後期土器片がわずかに出土しているにすぎない。比較的完形品に近いものが多く、特にＹ29グリッド周辺には遺物の集中が認められた。
遺物：Ｓ字台付甕29以上、台付甕２以上、甕10以上、壺12以上、小形壺・坩３以上、埦２以上、甑２以上、片口２、高坏５、器台12以上を確認。胎土に結晶片岩を含むものが多い。掲載遺物73点。

50号溝（遺構：第16図、ＰＬ４）
位置：Ｘ22～Ｙ20グリッド。重複：51号・55号住居跡に切られる。走行方向（底面の標高）：南西（80.78ｍ）～北東（80.60ｍ）。断面形態：Ｕ字状。上端幅：46㎝。下端幅：28㎝。残存深度：16㎝。埋没土の特徴：ローム粒・白色軽石粒を含む黒褐色土～暗褐色土。
遺物出土状態：少量の土器片が出土している。
遺物：Ｓ字台付甕破片を確認。掲載遺物０。

59号溝（遺構：第99図、ＰＬ４）
位置：W23～Ｕ26グリッド。重複：58号溝に切られる。走行方向（底面の標高）：北東（80.86ｍ）～南西（80.70ｍ）。断面形態：Ｕ字状。上端幅：45㎝。下端幅：24㎝。残存深度：16㎝。埋没土の特徴：ローム粒等を含む黒褐色土～暗褐色土。
遺物出土状態：少量の土器片が出土している。
遺物：土器片を確認。掲載遺物０。

68号溝（遺構：第99図、ＰＬ４）

位置：Ｙ28～W31グリッド。重複：58号溝に流れ込むような状態。走行方向（底面の標高）：南西（80.84ｍ）～北東（80.78ｍ）。断面形態：Ｕ字状。上端幅：1.06ｍ。下端幅：0.78ｍ。残存深度：15㎝。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・浅間Ｃ軽石を含む黒褐色土。

遺物出土状態：出土遺物は皆無であった。

72号溝（遺構：第99図、ＰＬ４）

位置：W27～W28グリッド。重複：58号溝から分かれる。走行方向（底面の標高）：北東（80.46ｍ）～南西（80.32ｍ）。断面形態：Ｕ字状。上端幅：0.56ｍ。下端幅：0.24ｍ。残存深度：27㎝。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・浅間Ｃ軽石を含む黒褐色土。

遺物出土状態：少量の土器片が出土している。

遺物：掲載遺物０。

74号溝（遺構：第99図、ＰＬ57
遺物：第113図、ＰＬ59、観察表Ｐ25）

位置：ａ２～Ｚ１グリッド。東側は調査区外。西側は１号河川跡に切られる。走行方向（底面の標高）：北西（78.80ｍ）～東南東（78.72ｍ）。断面形態：逆台形状。上端幅：1.80ｍ。下端幅：0.88ｍ。残存深度：100㎝。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土。

遺物出土状態：埋没土中からややまとまって出土している。

遺物：Ｓ字台付甕４以上、壺１、高坏２以上、器台１、樽式系土器片を確認。掲載遺物６点。

85号溝（遺構：第104図、ＰＬ57）

位置：ｂ１グリッド。重複：75号・76号溝に切られる。走行方向：残存部分においてＬ字状。断面形態：箱状。上端幅：1.40ｍ。下端幅：1.02ｍ。残存深度：31㎝。埋没土の特徴：ローム粒・焼土粒を含む暗褐色土。備考：古墳時代前期住居跡の掘り方と思われる。

遺物出土状態：少量の土器片が出土している。

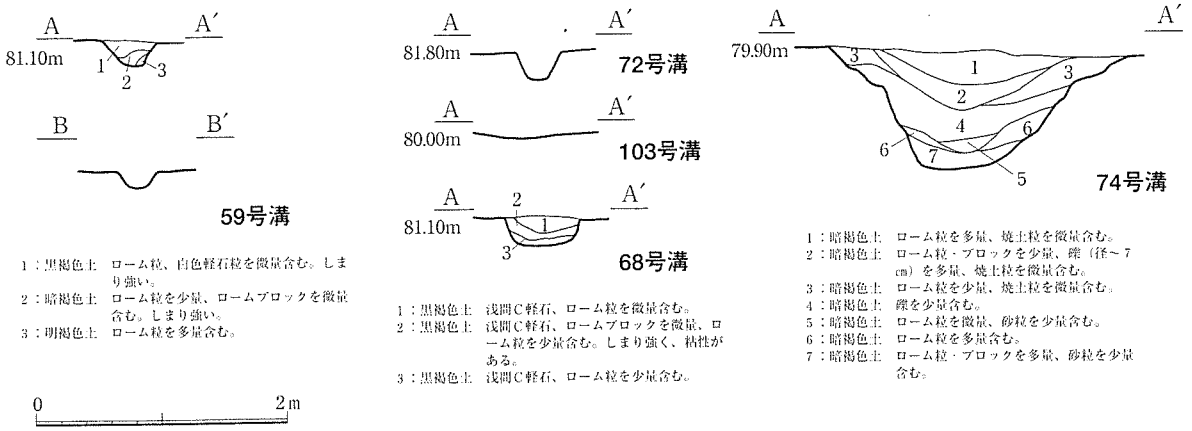
遺物：Ｓ字台付甕破片を確認。掲載遺物０。

103号溝（遺構：第99図、ＰＬ３
遺物：第113図、ＰＬ59、観察表Ｐ25）

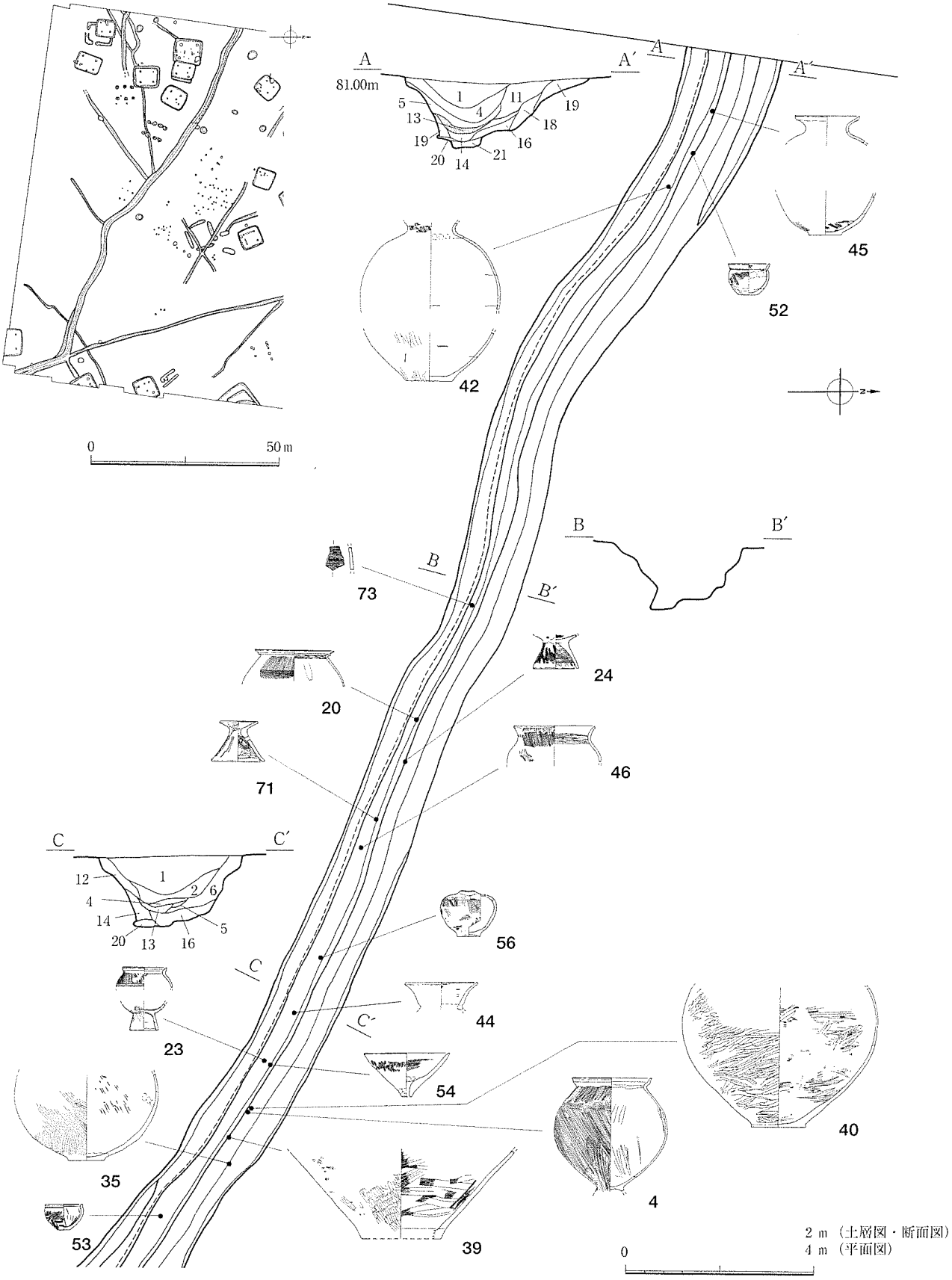
位置：ａ８～ｃ８グリッド。重複：浅間Ｂ軽石下水田跡に削平される。101号溝に切られる。走行方向（底面の標高）：南西（79.98ｍ）～北（79.78ｍ）。断面形態：皿状。上端幅：0.98ｍ。下端幅：0.53ｍ。残存深度：９㎝。埋没土の特徴：ローム粒を含む黒褐色土。

遺物出土状態：少量の土器片が出土している。

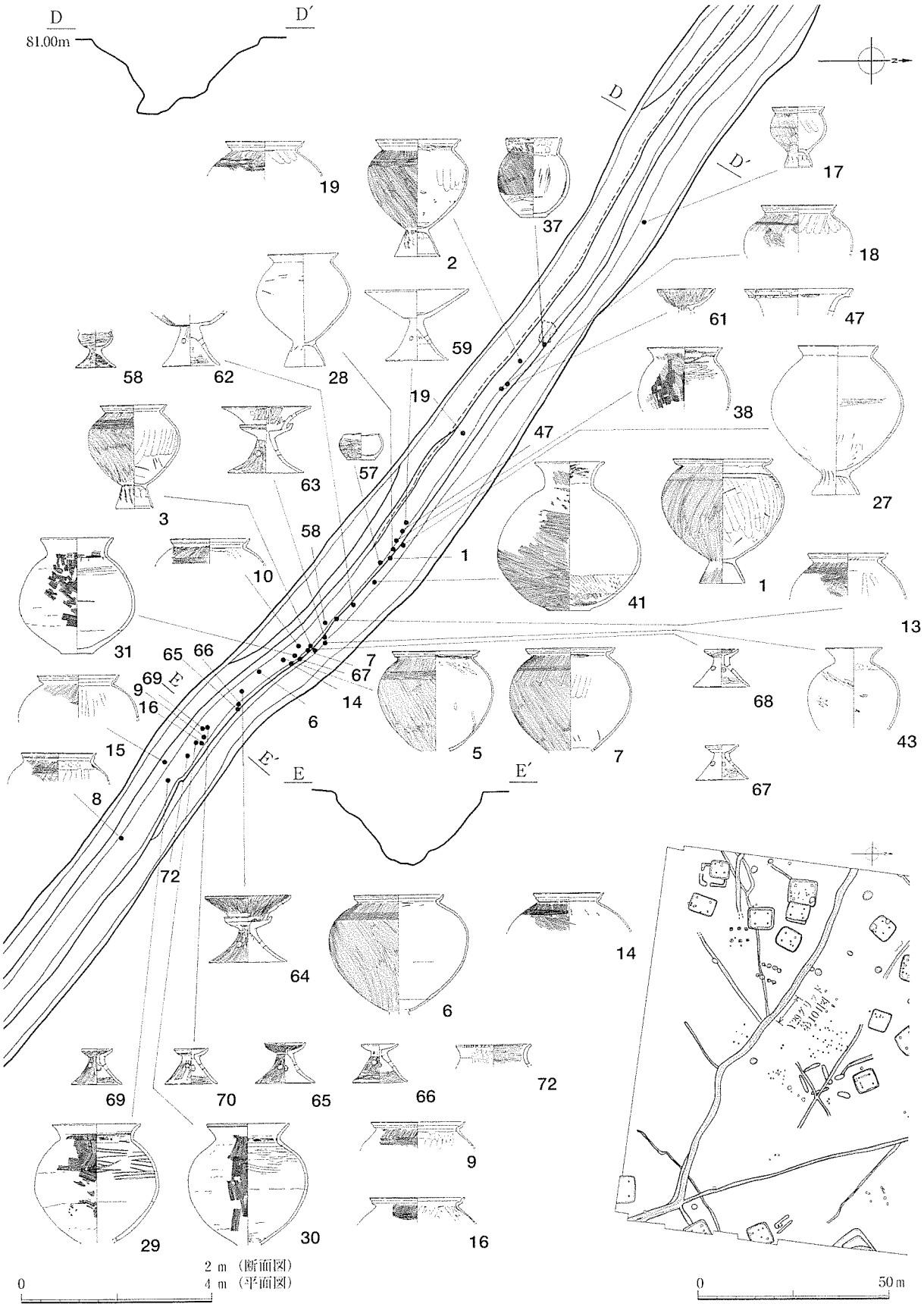
遺物：Ｓ字台付甕破片、台付甕脚台部、樽式系破片を確認している。掲載遺物２点。



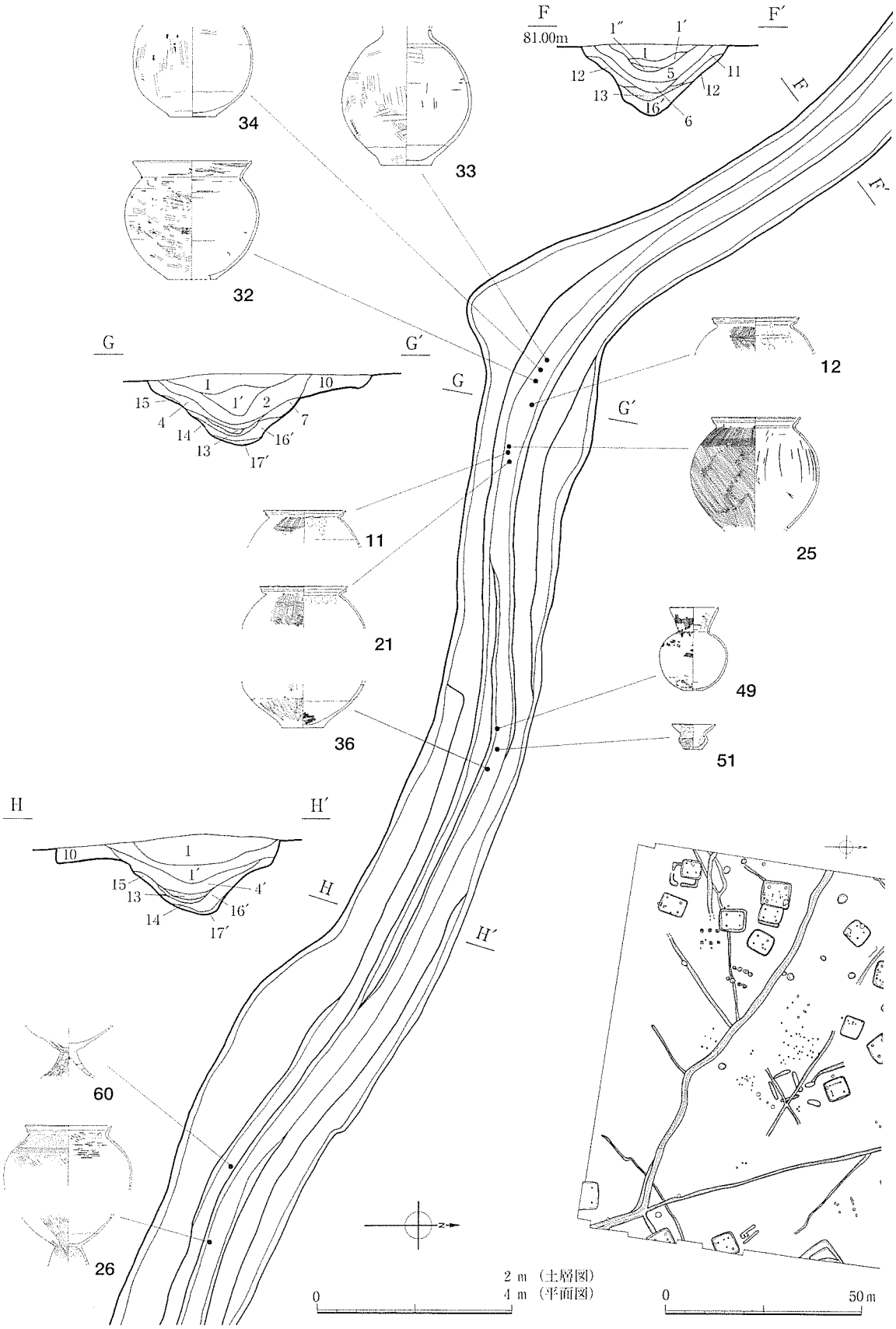
第99図　59号・68号・72号・74号・103号溝土層図、断面図


A
A′
81.00m
1
4
5
11
13
19
18
16
19
20
14
21
0
50 m
42
45
52
B
B′
73
20
24
71
46
C
C′
12
1
2
6
4
14
5
20
13
16
56
23
44
54
35
40
4
53
39
2 m（土層図・断面図）
4 m（平面図）
0

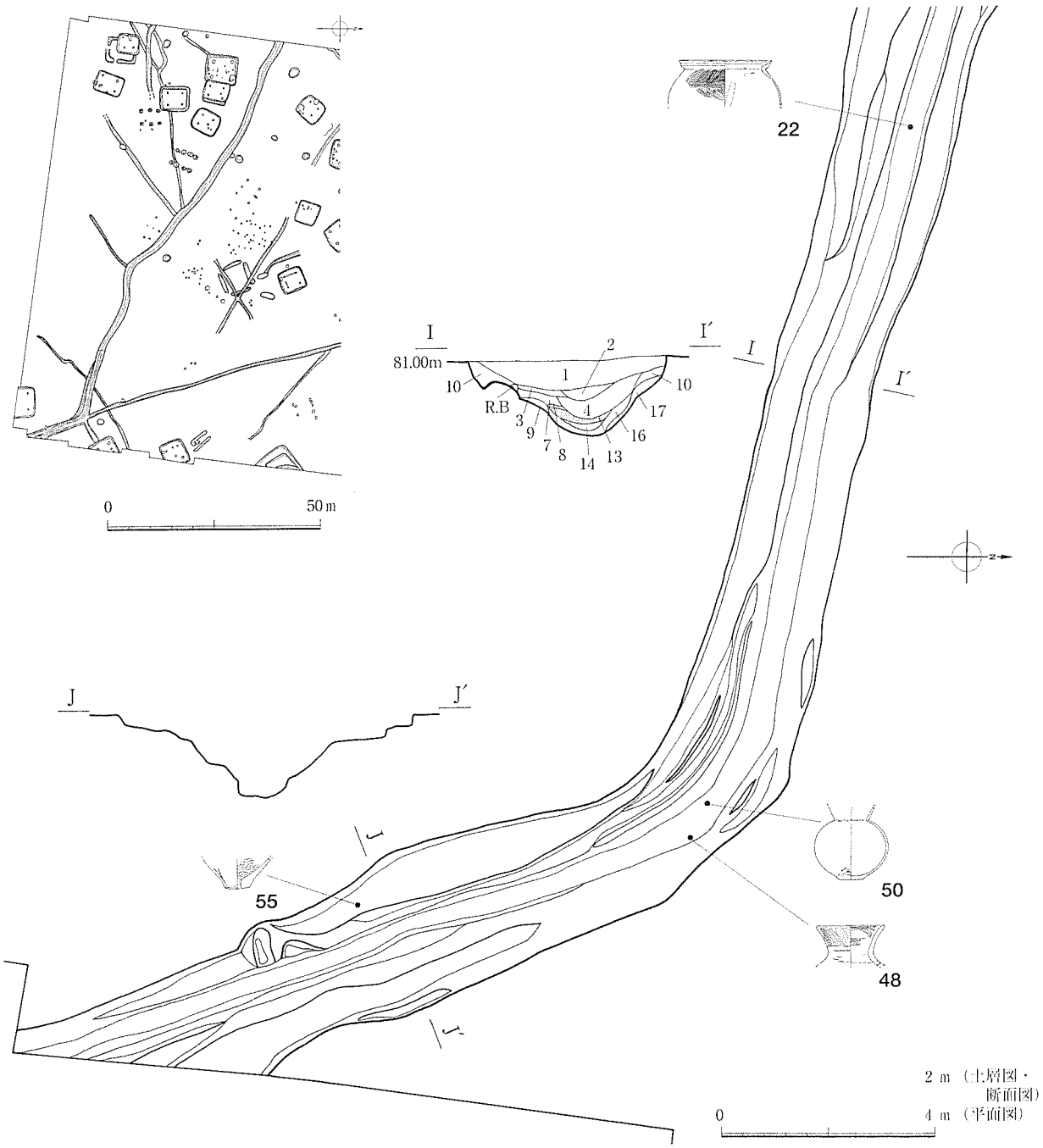
第100図　58号溝①



第101図　58号溝②

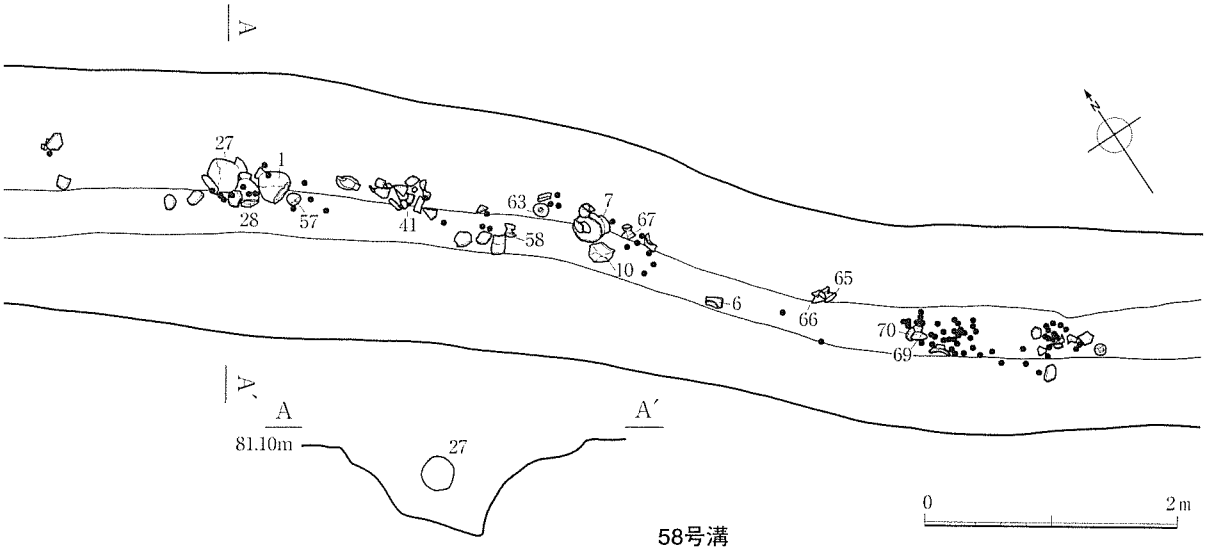

F
F′
81.00m
1″
1′
1
5
11
12
13
16′
6
34
33
32
G
G′
1
10
1′
2
7
15
4
14
16′
13
17′
12
25
11
21
49
36
51
H
H′
10
1
1′
15
13
4′
16′
14
17′
60
26
2 m（土層図）
4 m（平面図）
0
50 m

第102図　58号溝③

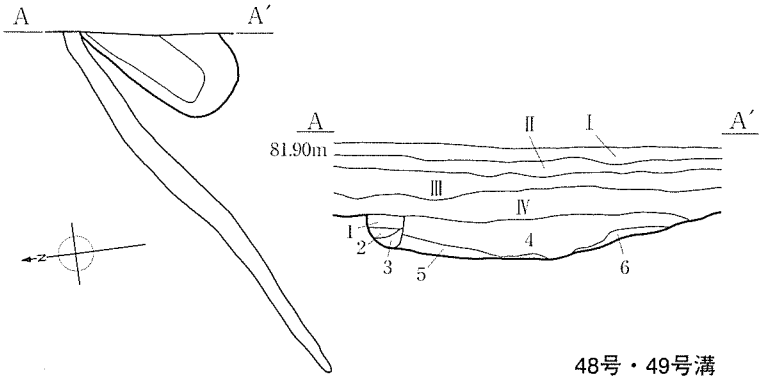


1：黒褐色土　浅間Ｃ軽石少量、ローム粒を微量含む。しまり強い。
1′：黒褐色土　浅間Ｃ軽石、ローム粒を微量含む。しまり強く、粘性がある。
1″：黒褐色土　浅間Ｃ軽石を少量、ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性がある。
2：暗褐色土　浅間Ｃ軽石、ローム粒を少量含む。
3：黒褐色土　浅間Ｃ軽石を微量含む。しまり強く、粘性がある。
4：暗褐色土　浅間Ｃ軽石、炭化物を少量、ローム粒を微量含む。
4′：暗褐色土　浅間Ｃ軽石、ローム粒を少量、炭化物を微量含む。しまり強く、粘性がある。
5：黒褐色土　浅間Ｃ軽石、砂礫を少量、ローム粒を微量含む。しまり強い。
6：黒褐色土　浅間Ｃ軽石、砂礫を少量含む。
7：暗褐色土　浅間Ｃ軽石、ローム粒を微量含む。粘性がある。
8：暗褐色土　ローム粒を多量含む。粘性がある。
9：明褐色土　ローム粒を大量に、ロームブロックを多量含む。粘性がある。
10：暗褐色土　ローム粒を少量含む。粘性がある。
11：黒褐色土　浅間Ｃ軽石を少量、ローム粒・ブロックを微量含む。しまり強い。
12：黒褐色土　ローム粒・ブロック、シルトブロックを少量含む。しまり強い。
13：浅間Ｃ軽石層　一部上面に浅間Ｃ軽石の灰層がラミナ状に堆積する。
14：灰暗褐色土　浅間Ｃ軽石を多量含む。
14′：黒褐色土　浅間Ｃ軽石、ローム粒を少量含む。
15：淡黄褐色土　ローム粒を多量含む。しまり強く、粘性がある。
16：黒褐色土　ローム粒を微量含む。粘性がある。
16′：黒褐色土　ローム粒を少量含む。しまり強く、粘性がある。
17：暗褐色土　ローム粒、シルトブロックを少量含む。しまり強く、粘性がある。
17′：黒褐色土　ローム粒、シルトブロックを少量含む。しまり強く、粘性がある。
18：暗褐色土　ローム粒を少量含む。
19：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。
20：黒色土　しまり強く、粘性も強い。

第103図　58号溝④

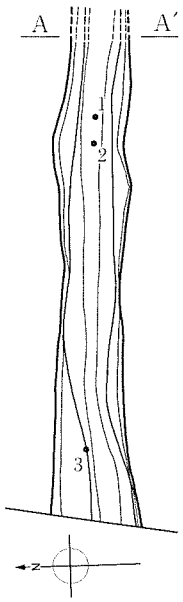


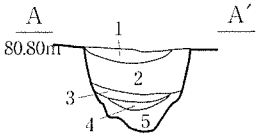
58号溝



Ⅰ：表土
Ⅱ：表土
Ⅲ：表土
Ⅳ：黒褐色土　白色軽石粒少量、ローム粒を微量含む。
1：黒褐色土　白色軽石粒を微量含む。しまり・粘性ともあまりない。
2：暗褐色土　ローム粒を少量、白色軽石粒・ロームブロックを微量含む。
3：暗褐色土　ローム粒・ブロックを少量、白色軽石粒を微量含む。
4：黒褐色土　ローム粒・ブロックを少量、白色軽石粒を微量含む。
5：黒褐色土　白色軽石粒少量、ローム粒を微量含む。
6：暗褐色土　ローム粒を多量、白色軽石粒微量含む。

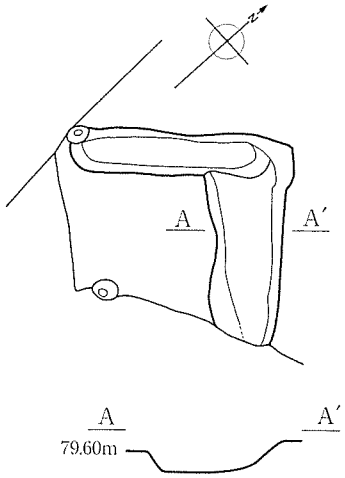
48号・49号溝





1：黒褐色土　ローム粒・ブロック、小礫を微量、白色軽石粒を少量含む。しまり強く、粘性がある。
2：黒褐色土　ローム粒、小礫を微量、白色軽石粒を少量含む。粘性がある。
3：黒褐色土　ローム粒、白色軽石粒を少量含む。粘性がある。
4：浅間C軽石層
5：黒褐色土　ローム粒、砂粒を少量含む。しまり強く、粘性がある。

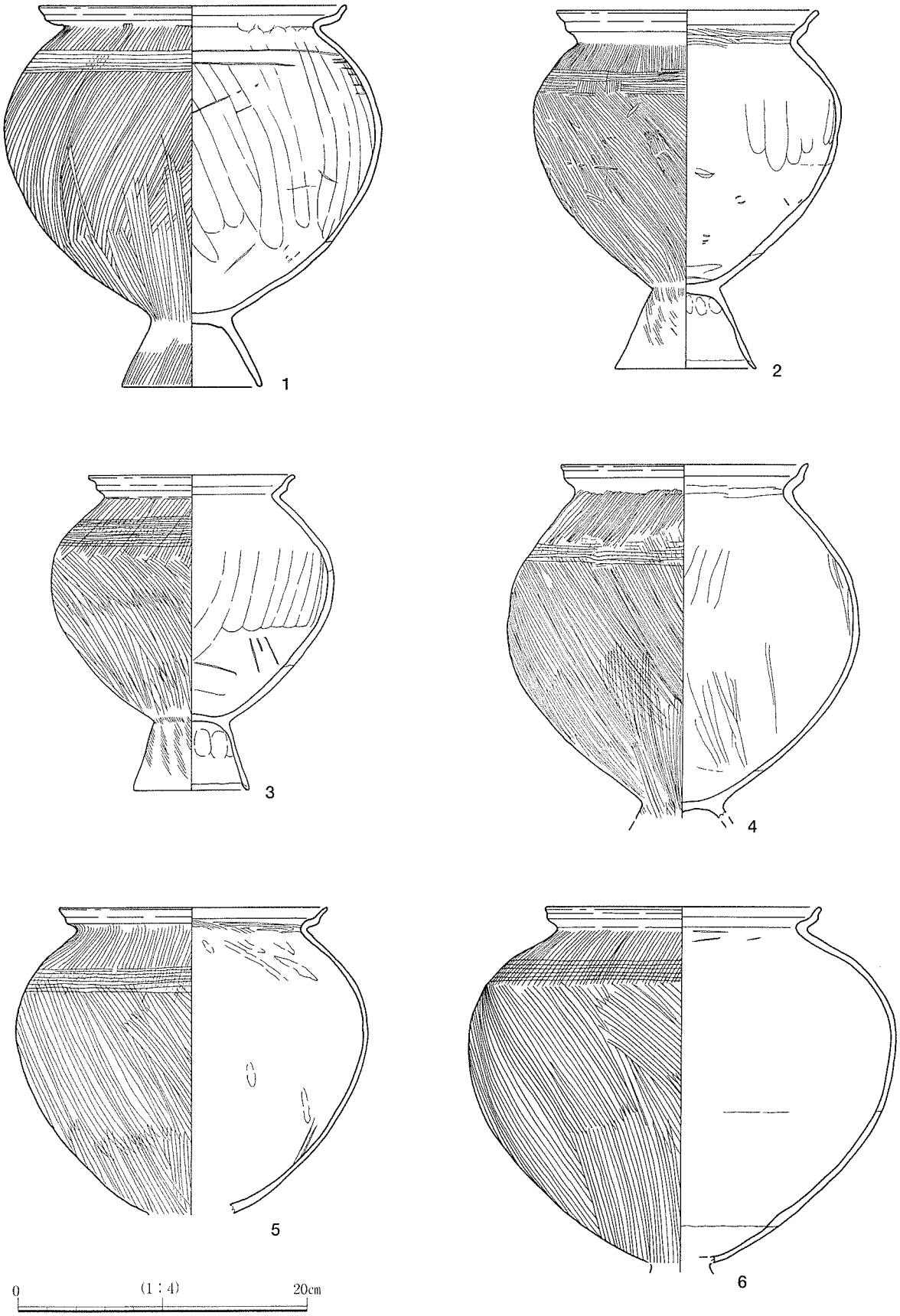
36号溝



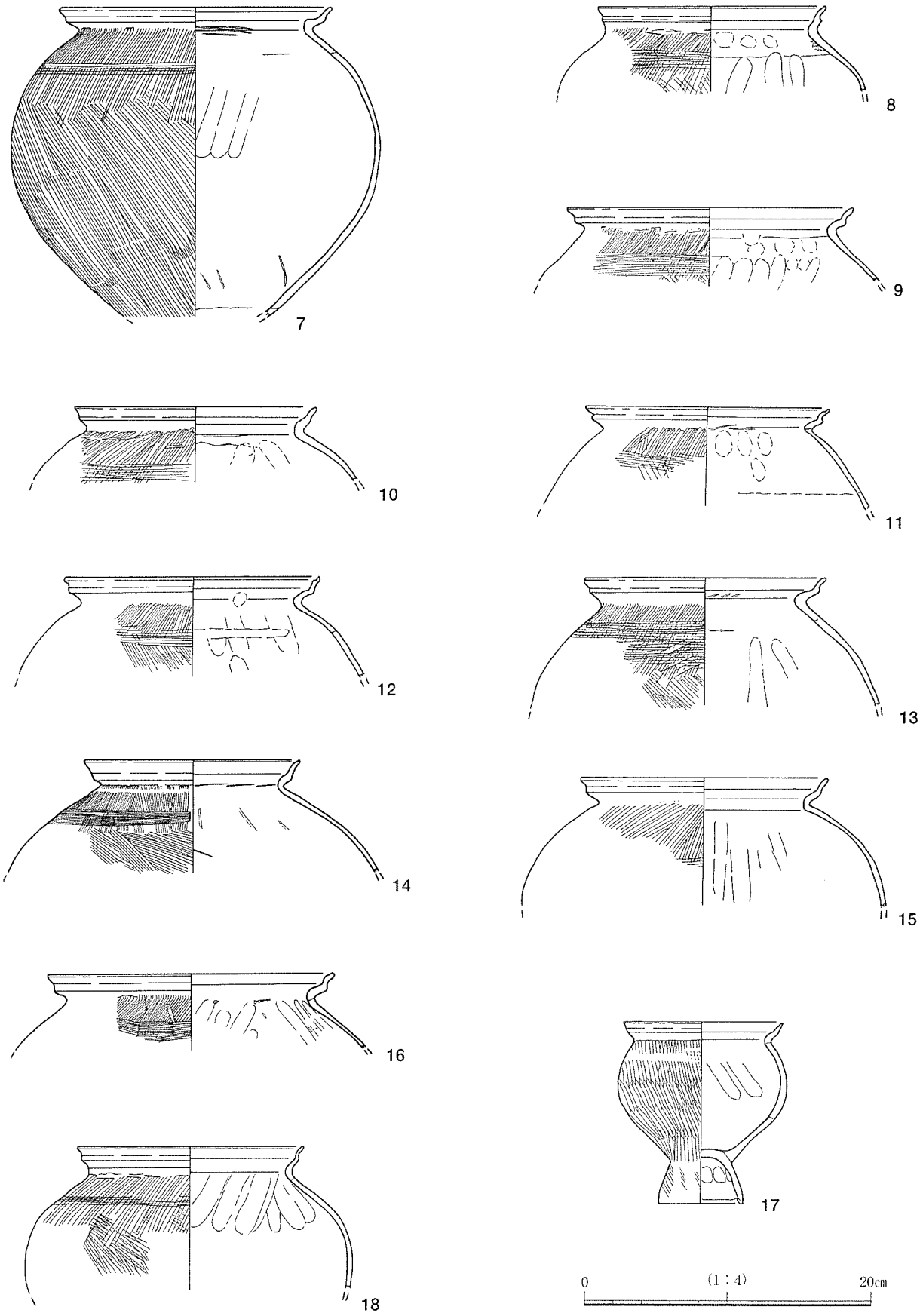
85号溝

2 m（土層図・断面図）
4 m（平面図）
0

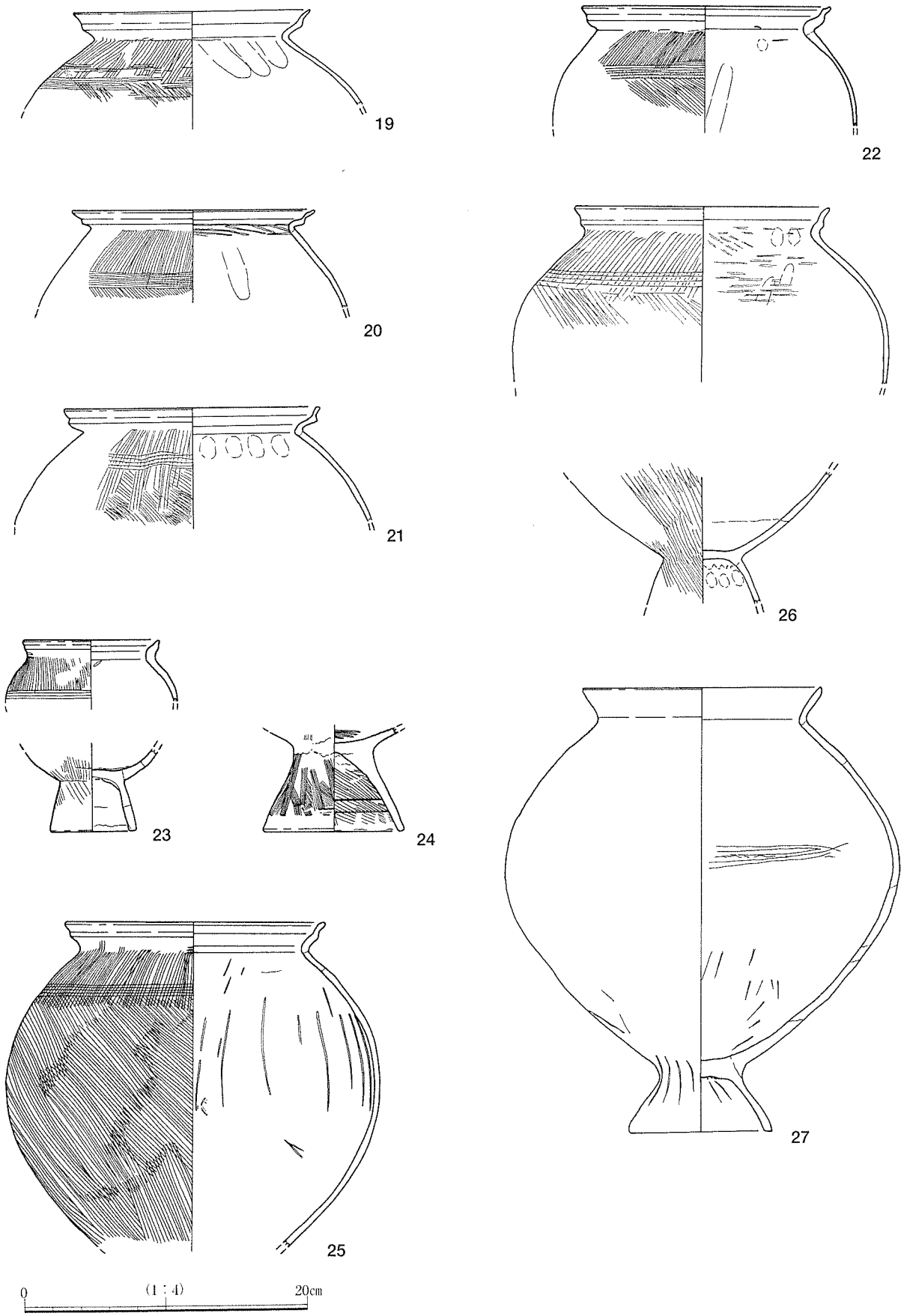
第104図　58号溝Ｙ29グリッド遺物出土状態、36号・49号・85号溝



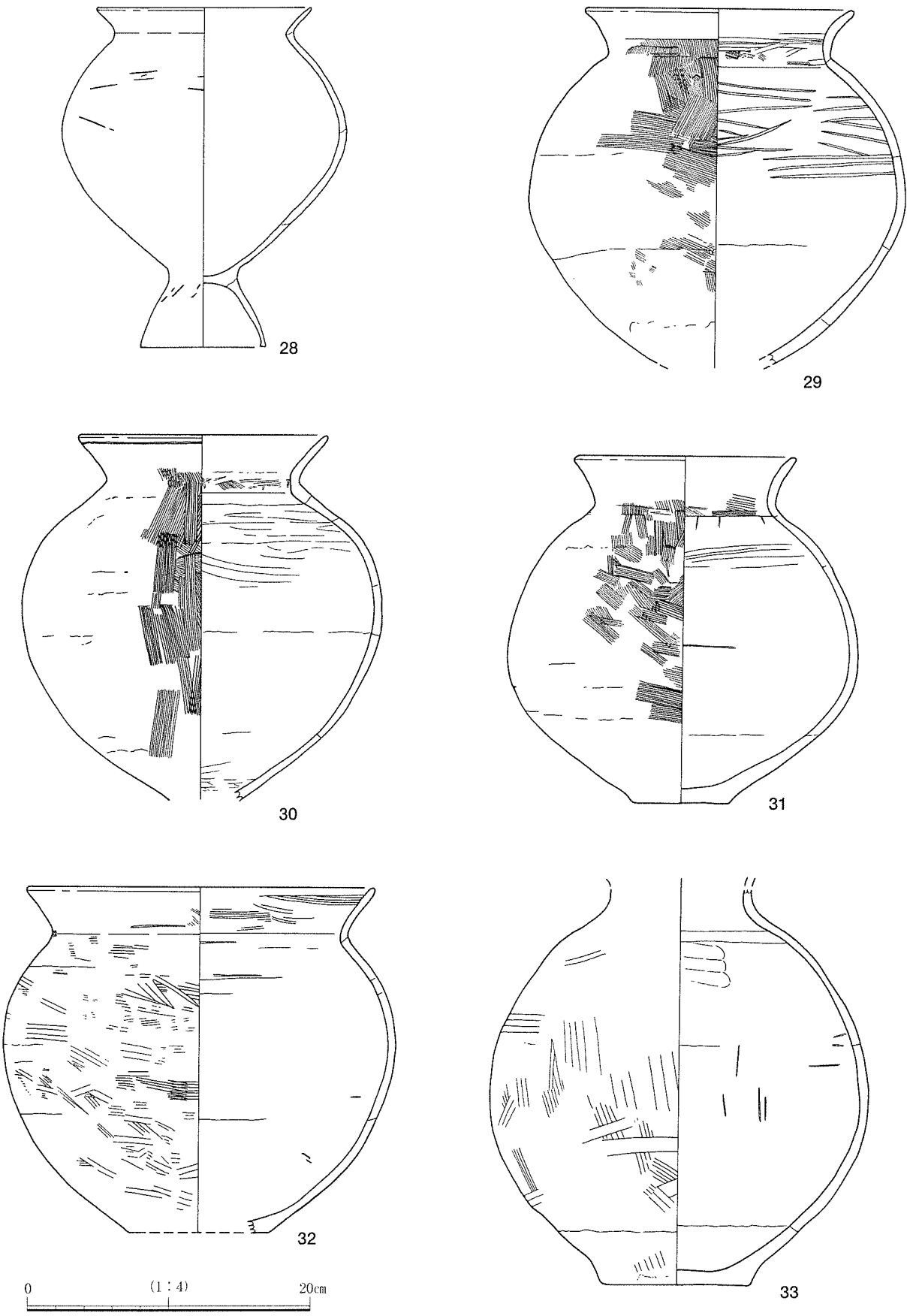
第105図　58号溝出土遺物①



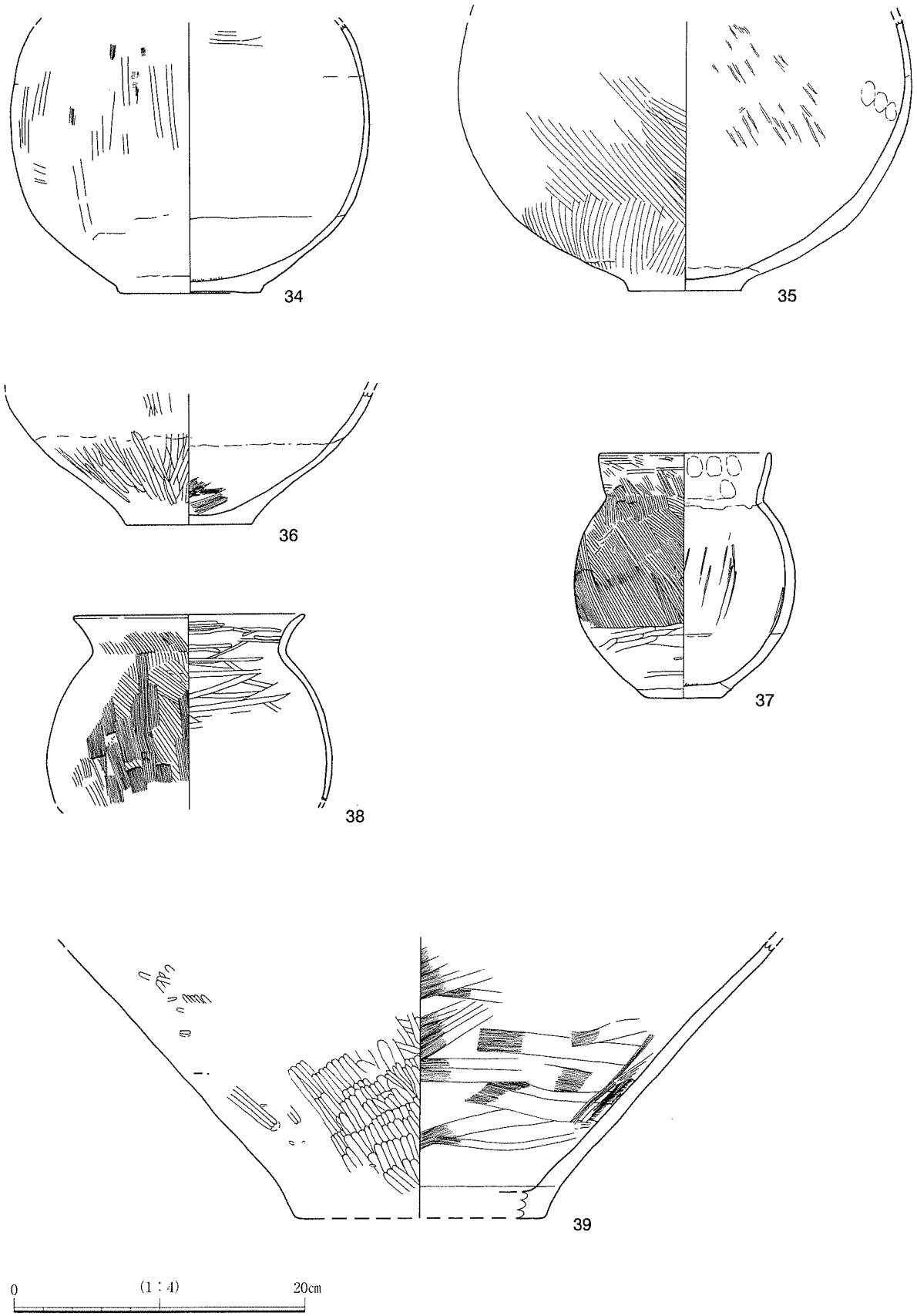
第106図　58号溝出土遺物②



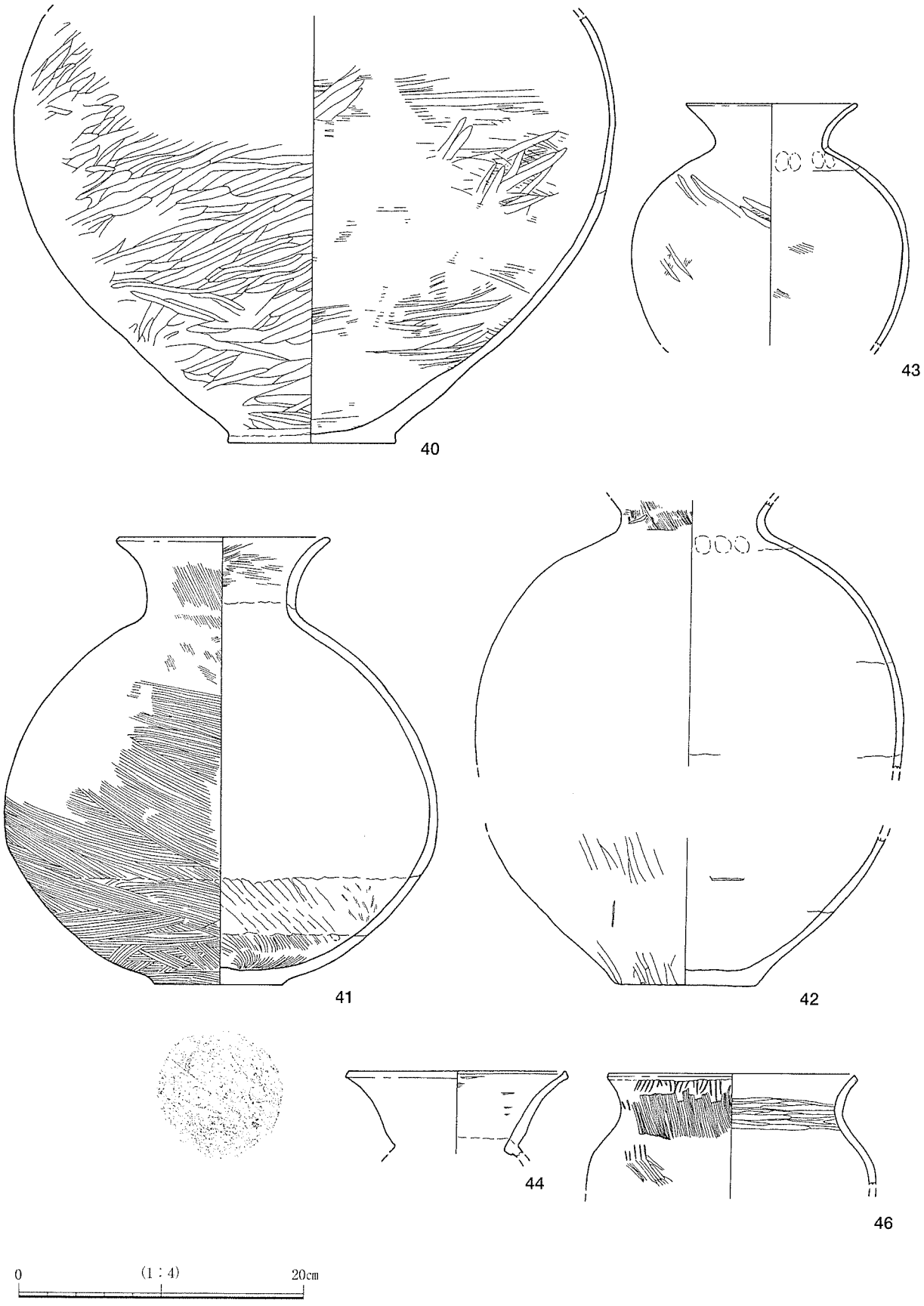
第107図　58号溝出土遺物③



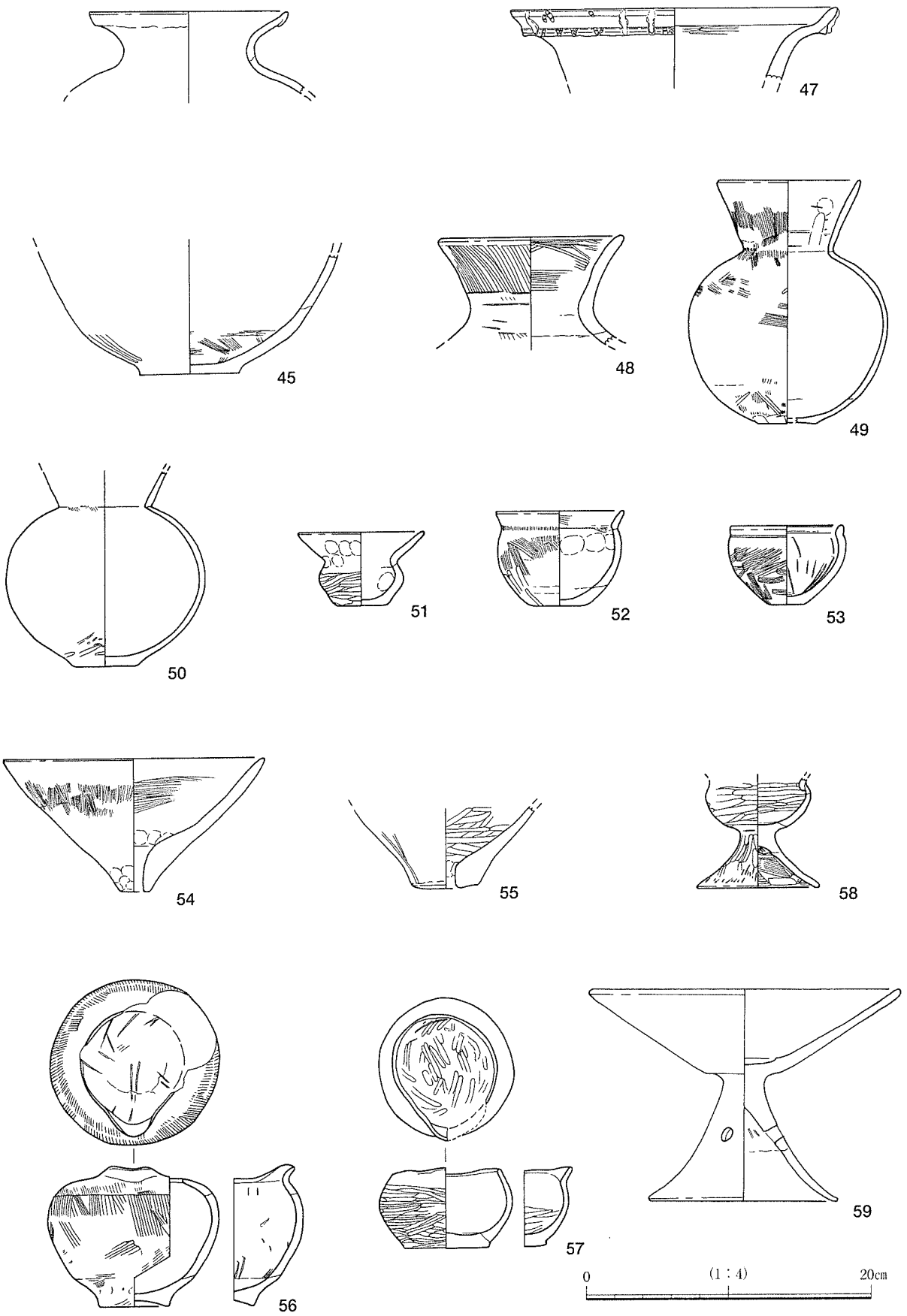
第108図　58号溝出土遺物④



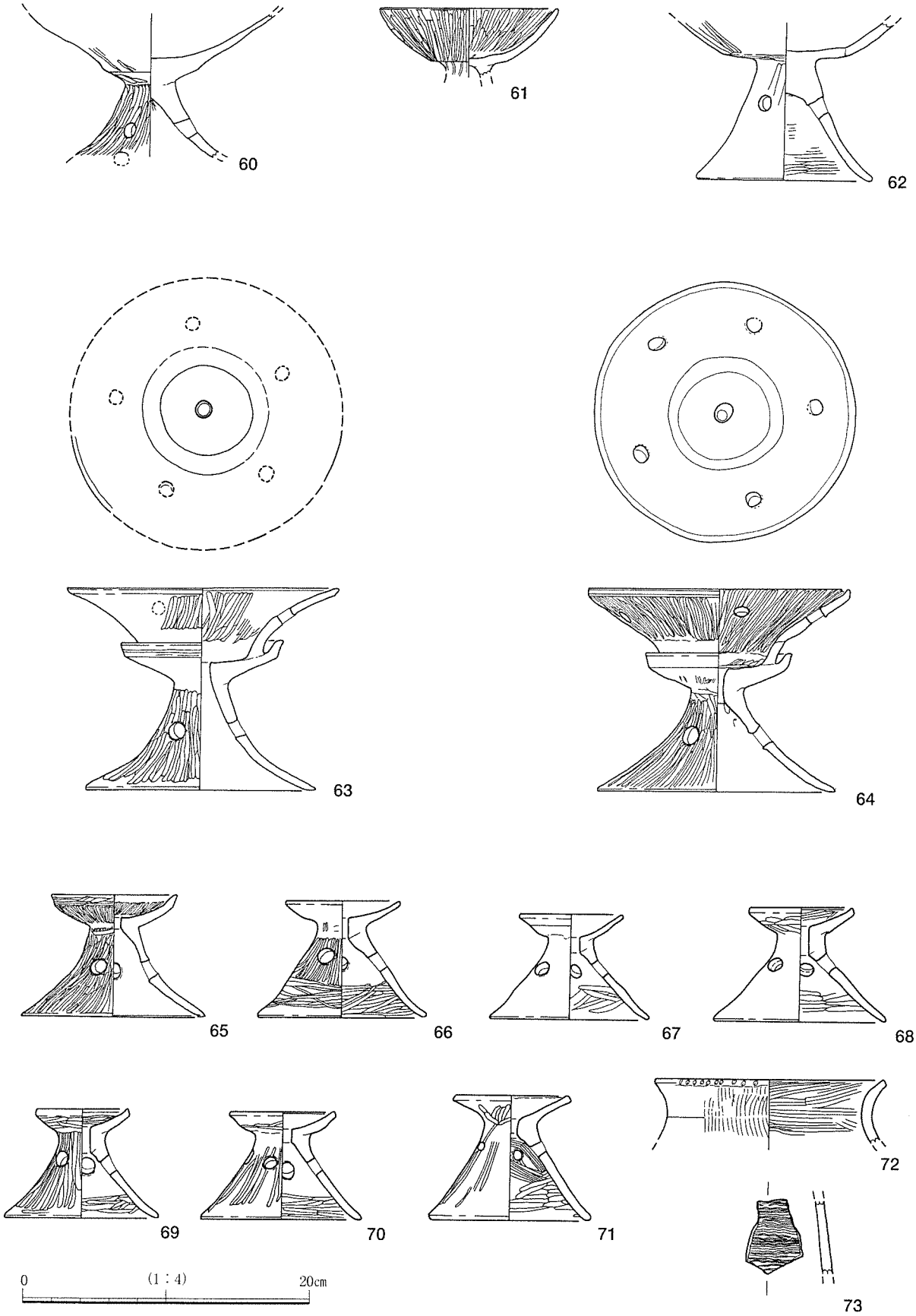
第109図　58号溝出土遺物⑤



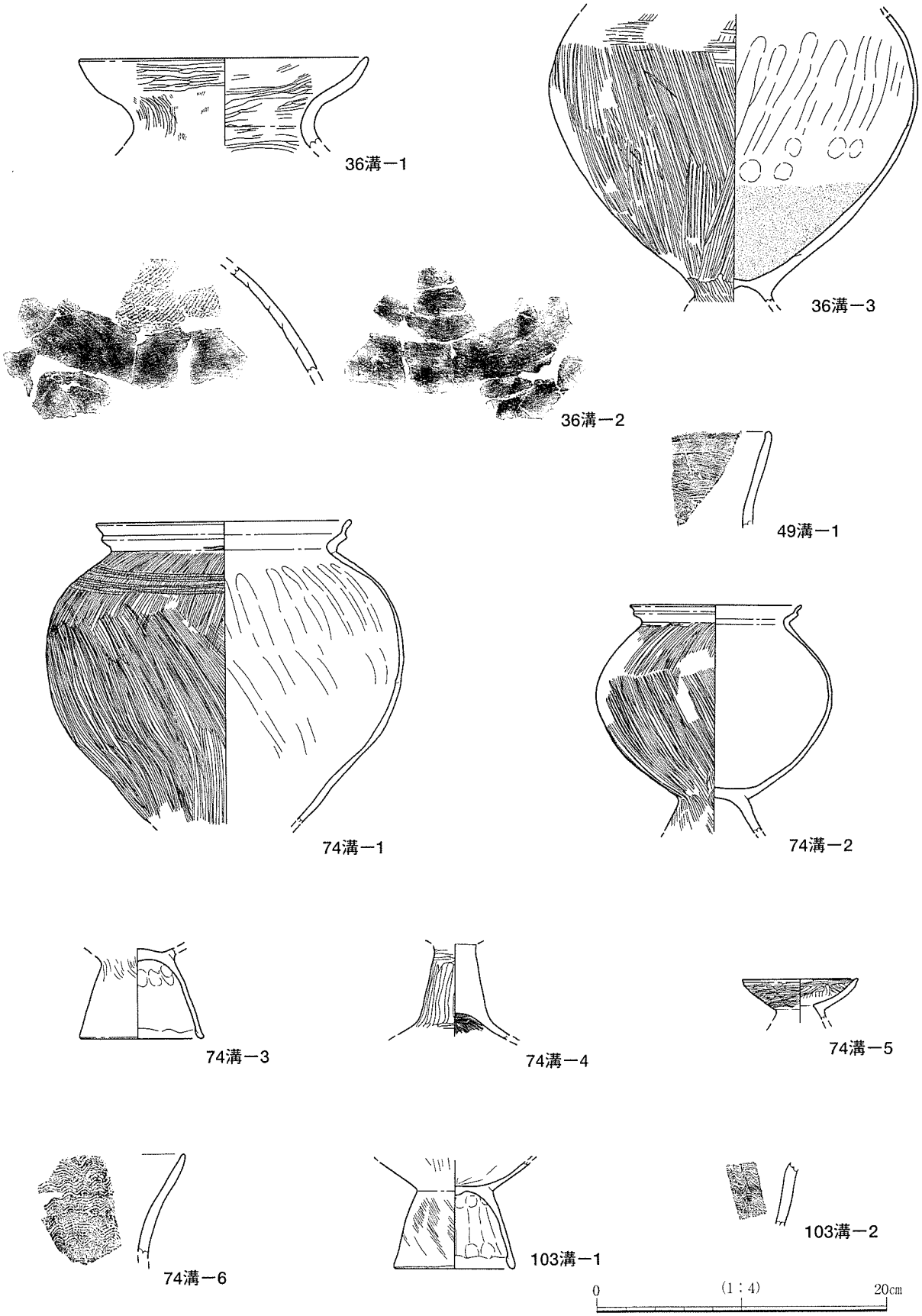
第110図　58号溝出土遺物⑥



第111図　58号溝出土遺物⑦



第112図　58号溝出土遺物⑧



第113図　36号・49号・74号・103号溝出土遺物

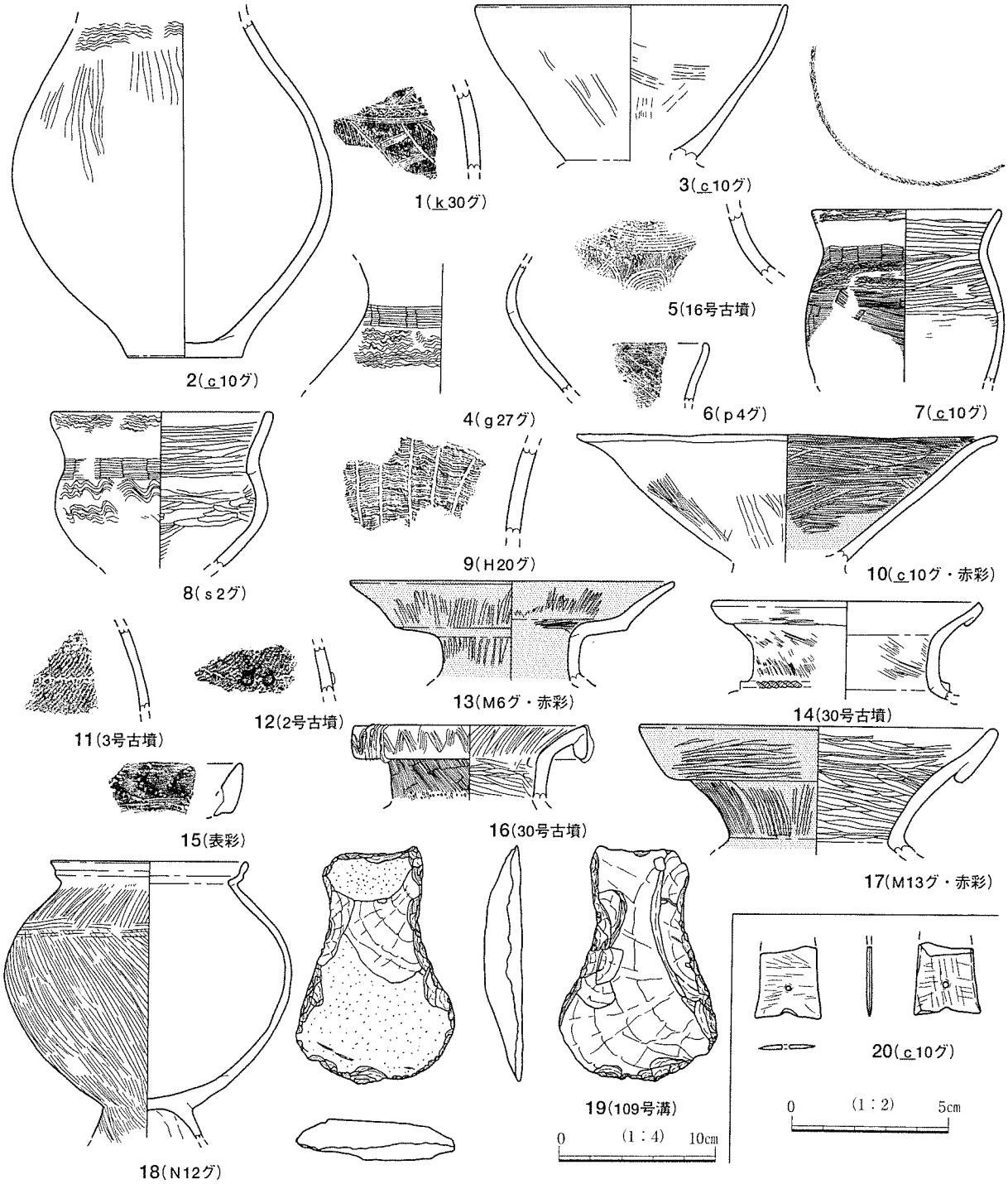
（６）遺構外出土遺物（第114図、ＰＬ67、観察表Ｐ25）

ここでは他の住居跡・古墳・グリッドから出土した弥生時代～古墳時代前期の遺物20点を掲載した。

本遺跡から出土した弥生土器は後期樽式のものが大半であるが、沈線文・結節細縄文が施文される１や櫛歯状工具による並行沈線・連弧文が施文される５など中期とみられる遺物もわずかに存在している。南関東系の土器と思われる。６は、口縁部に斜位の沈線が施されている。11・12は結節縄文が施文され、12には円形浮文が貼り付けられている。

13～17には二重口縁壺を一括した。古墳周溝に流れ込んでいたものが多い。

19は石鏃で、平安時代の109号溝から出土した。20は磨製石鏃で下半に穿孔がある。



第114図　弥生時代・古墳時代（１）遺構外出土遺物

高崎情報団地遺跡

高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第55集

《 本 文 編 》

印　　刷　　平成９年３月21日
発　　行　　平成９年３月25日

編　　集　　山武考古学研究所
千葉県成田市並木町221　　TEL 0476 (24) 0536
発　　行　　高崎市遺跡調査会
群馬県高崎市高松町１番地　TEL 0273 (24) 0400
印　　刷　　㈱文化総合企画
TEL 0476 (93) 0593